

下松市総合計画策定・  
下松市都市計画マスタープラン中間見直し  
のための  
まちづくりアンケート結果  
報告書

令和2年3月

下 松 市

本報告書は、新たな下松市総合計画の策定及び下松市都市計画マスタープランの中間見直しにあたり実施した、アンケート調査の結果をとりまとめたものである。

■まちづくり市民アンケート編（一般市民）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

■まちづくり中学生・高校生アンケート編（市内中学・高校2年生）・・・・ P 1 1 5

## 【目 次】

---

<b>■まちづくり市民アンケート編</b>	.....	<b>1</b>
<b>I. 調査の概要</b>	.....	<b>3</b>
<b>II. 回答者の属性分布</b>	.....	<b>4</b>
(1) 年齢		4
(2) 性別		4
(3) 職業		5
(4) 市内居住歴		6
(5) 居住地区		7
(6) 世帯構成		9
(7) 居住形態		10
(8) 日常交通手段（通勤通学・買物・通院など）		11
<b>III. 調査の結果</b>	.....	<b>13</b>
1. 日常生活での不安	.....	13
2. 下松市の魅力・自慢	.....	16
(1) 下松市の魅力		16
(2) 下松市の自慢・優れた点		21
3. まちづくり施策の満足度・重要度	.....	26
(1) 施策の満足度		26
(2) 施策の重要度		34
4. 人口・少子高齢化社会への対応	.....	40
(1) 人口動向への対応		40
(2) 公共施設のコスト増大への対応		42
(3) 結婚・出産・子育てしやすいまちへの方策		45
(4) 高齢化社会のまちづくりでの重要なこと		49
5. 防災対策	.....	54
6. 産業育成方向	.....	59
7. 笠戸島・米川の振興方向	.....	63
(1) 笠戸島		63
(2) 米川		65
8. 市民参加・協働の意識	.....	67
(1) 市民参加の現状と希望		67
(2) 協働のしくみづくりに重要なこと		72
9. 都市づくり・都市施設整備等の方向	.....	76
(1) 道路の整備方向		76
(2) 公共交通機関の確保や整備方向		81
(3) 都市としての生活や環境面の心配		84
(4) 都市づくりの方向性への評価		87
10. 都市の現状改善状況と今後の改善分野	.....	91
(1) この10年間の改善評価		91
(2) より魅力ある都市への改善分野		95

---

---

11. 下松市への定住意向や愛着	99
(1) 下松市への定住意向	99
(2) 住み続けたい理由	101
(3) 転出希望の理由	104
(4) 下松市への誇りや愛着	105
12. 下松市をより良いまちにしていくためのアイデア（自由意見）	108
IV. 調査結果の総括	113
<b>■まちづくり中学生・高校生アンケート編</b>	<b>115</b>
I. 調査の概要	117
II. 回答者の属性分布	118
(1) 性別	118
(2) 居住地区	118
(3) 主な通学手段	119
III. 調査の結果	121
1. 下松市の良いところ、悪いところ	121
2. 下松市の住みよさ・愛着・定住意向	131
(1) 下松市の住みよさ	131
(2) 下松市への誇り・愛着	133
(3) 下松市への定住意向	135
3. 下松市のためにできること、したいこと	137
4. 都市づくりに必要なこと	140
5. まちづくりの取り組みへのアイデア	142
IV. 調査結果の総括	147
<b>■アンケート調査票</b>	<b>巻末</b>

まちづくり市民アンケート  
まちづくり中学生・高校生アンケート

---

# ■まちづくり市民アンケート編

(一般市民)



## I. 調査の概要

### ◎調査の目的

下松市総合計画（平成 23 年 3 月策定）の計画期間満了に伴い、新たな（仮称）下松市総合計画の策定、及びそれに併せて、下松市都市計画マスタープラン（平成 23 年 3 月策定）の一部改定を行うにあたり、市民参加の一環として、市民の意見や意向を計画に反映させることを目的として、本調査を実施したものである。

### ◎調査の実施方法

・調査対象者	下松市内に在住する 18 歳以上の市民	
・配布数	2,000 人	
・抽出方法	住民基本台帳からの完全無作為抽出	
・配布回収方法	郵送配布・郵送回収（料金受取人払い（回収先は下松市役所、無記名）	
・実施時期	調査票の設計	令和元年 9～10 月
	調査票の配布	令和元年 11 月 5 日
	調査票の回収	令和元年 11 月上旬～下旬（回答期限 11 月 18 日だが、実際は 11 月末まで受付）
	集計・分析	令和元年 12 月～令和 2 年 1 月
	結果の公表	令和 2 年 3 月、広報市「潮騒」に概要公表、併せて本報告書を市ホームページ上で公表

### ◎回収結果

有効回収数	730 票
有効回収率	36.5 %

### ◎留意事項

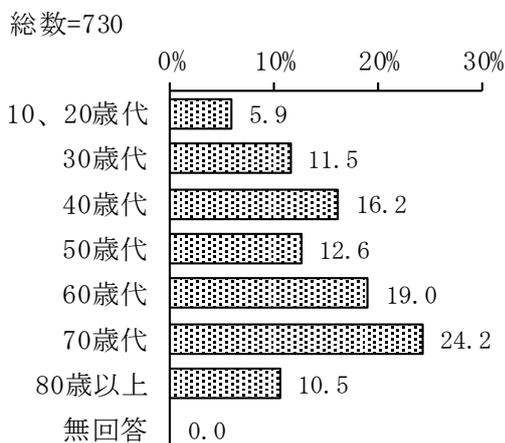
本報告書の内容においては、以下の点に留意されたい。

- ・ 回答の選択肢別構成比（%）は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入して第 1 位まで表示している。従って、各選択肢の表示構成比の合計が 100.0%に一致しない場合がある。
- ・ 複数回答の設問では、回答者数を母数とするため、各選択肢の回答構成比の合計が 100%を超えることになる。
- ・ 属性別等のクロス集計では、サンプル数が少ない属性があるため、その属性での結果が十分な精度を持たないことがあり得る。特に、居住地区別推計において、笠戸島地区、米川地区は有効回答数がそれぞれ 7 票、9 票と少ないため、図表上に表示はするが、参考としての表示である。
- ・ 過去の調査で同様の設問がある場合は、それとの結果比較を示している。ここで、「前回（H26）」は、平成 26 年度実施の下松市総合計画後期基本計画策定のためのまちづくり市民アンケート、「前々回（H21）」は、平成 21 年度実施の下松市総合計画・下松市都市計画マスタープラン策定のためのまちづくり市民アンケートを指す。

## Ⅱ. 回答者の属性分布

■問1 あなたご自身のことをおたずねします。次の項目ごとに該当する番号を1つずつ選んで□の中に記入してください。

### (1) 年齢



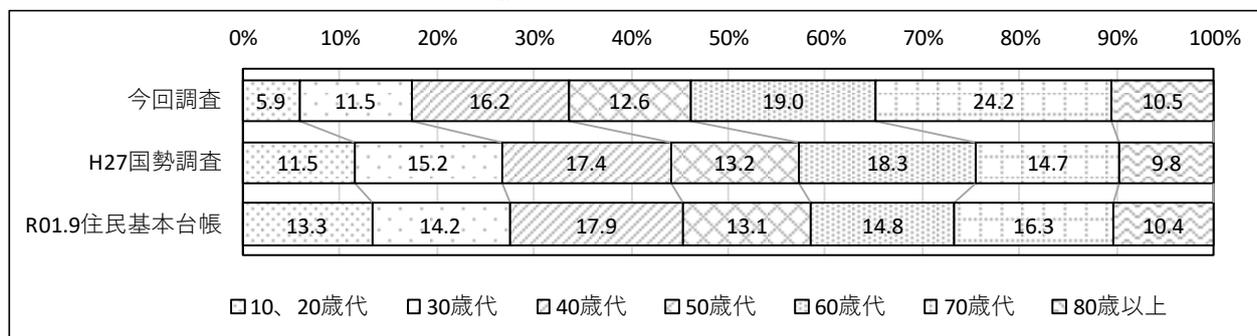
調査対象者の抽出は住民基本台帳からの完全無作為抽出であるが、概して高齢者層では回答率が高く、若年層では低いことにより、年齢別回答数の割合はかなり高齢者層に偏った結果となっている。

令和元年9月末現在の住民基本台帳人口では、18歳以上人口に占める60歳以上の割合は41.5%であるが、今回の回答者の構成では53.7%と半数以上を占め、中でも70歳代が全体の24.2%と1/4近くを占める。

今後10~20年に社会の中核を占める18歳~30歳の回答割合は17.4%にとどまり、全体の結果が高齢者の

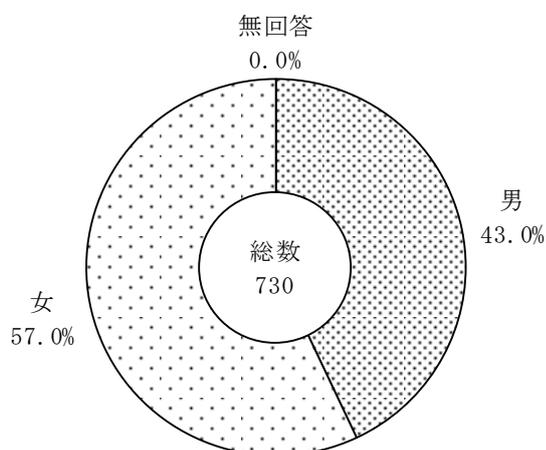
意向を相対的に強く反映したものになっている点に注意して、以下の分析結果をみる必要がある。

市人口との年齢別構成割合の比較（18歳以上での割合）



注) 「10、20歳代」は18~29歳

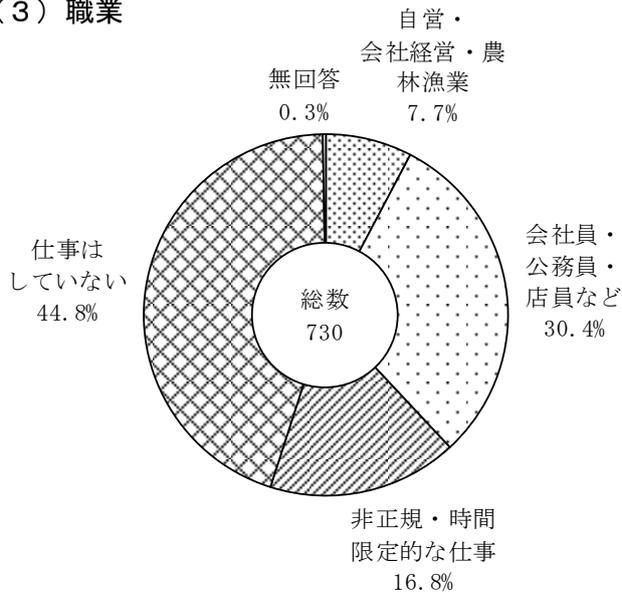
### (2) 性別



回答者のうち女性の割合が57.0%であり、全体の回答結果が、女性の意向が相対的にやや強く反映されたものとなる点にも留意を要する。

前回(H26)調査でも女性の回答者割合は57.7%であり、令和元年9月末現在の住民基本台帳人口における女性比率は51.0%であることから、女性の方が高い回答率であることを示している。

(3) 職業



全体の54.9%が何らかの「仕事をしている」との回答であり、その中では「会社員・公務員・店員など」が最も多く、50歳代以下では全体の5割前後を占めるが、一方で、「非正規・時間限定的な仕事」の割合が前回よりやや増えている。

女性ではこの「非正規・時間限定的な仕事」の割合が22.6%と男性より目立って高い。

高齢者層では「仕事はしていない」の割合が圧倒的に高くなるが、地区別では下松地区、久保・東陽地区で比較的この割合が高く、高齢者の割合が影響していると考えられる。

[選択肢]  
 (仕事を) { している → 1. 自営業者・会社経営者・農林漁業者  
 2. 会社員・公務員・店員など(常勤で雇用されている)  
 3. パート・アルバイト・派遣・非常勤など時間限定的な仕事  
 していない → 4. 仕事はしていない  
 ※1, 2, 3にまたがって兼業している場合は、収入の多い方での回答を求めている。

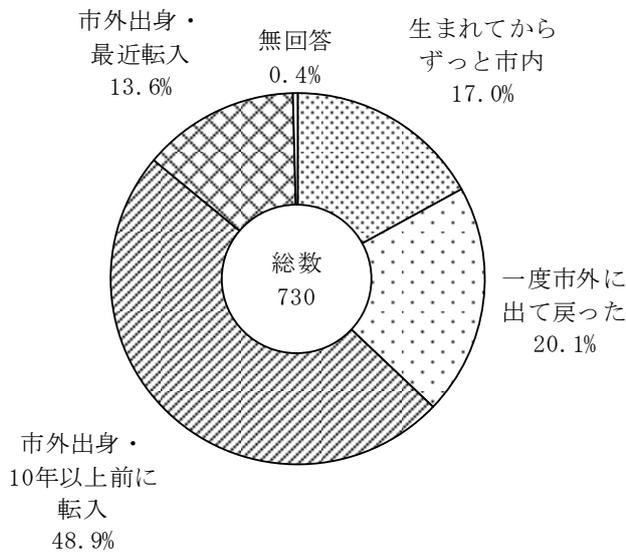
	自営・農林漁業	会社員・公務員・店員など	非正規・時間限定的な仕事	仕事はしていない	無回答
(凡例)					(%)
【年齢別】 全体 (730)	7.7	30.4	16.8	44.8	
10、20歳代 (43)		55.8		16.3	20.9
30歳代 (84)		58.3		21.4	17.9
40歳代 (118)	7.6	55.9		24.6	11.9
50歳代 (92)	9.8	47.8		28.3	14.1
60歳代 (139)	11.5	22.3	17.3	48.9	
70歳代 (177)	7.9	9.6		78.0	
80歳以上 (77)	5.2			90.9	
【性別】					
男 (314)	9.9	44.9	9.2	35.7	
女 (416)	6.0	19.5	22.6	51.7	
【居住地区別】					
下松地区 (201)	7.5	27.4	17.9	47.3	
末武地区 (215)	9.8	32.1	16.3	41.9	
花岡・生野屋地区 (161)	7.5	34.8	16.1	40.4	
久保・東陽地区 (137)	5.1	28.5	16.8	49.6	
笠戸島地区 (7)	14.3	28.6		57.1	
米川地区 (9)	11.1	22.2	11.1	55.6	

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。  
 ※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

【前回・前々回との比較】	営自 ・営 ・農 ・林 ・漁 業 社 経	員会 ・社 ・店 員 ・員 ・公 務 な ど	限非 定の 正 規 な ・時 間 ・仕 事	な仕 事 は し て い	無 回 答	(%)
(凡例)						
(n)						
今回 (730)	7.7	30.4	16.8	44.8		
前回 (H26) (928)	7.4	30.4	14.1	46.7		
前々回 (H21) (1007)	7.9	30.5	16.6	43.1		

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

#### (4) 市内居住歴



##### 【選択肢】

1. 生まれてからずっと下松市に住んでいる
2. 下松市出身で、一度市外に出て再び下松市に戻ってきた
3. 市外出身で、10年以上前に下松市に転入してきた
4. 市外出身で、最近（10年未満）下松市に転入してきた

「生まれてからずっと市内」の割合は17.0%で、前回（H26）、前々回（H21）調査よりも少なくなっている。「一度市外に出て戻った」を含めた市内出身者は37.1%で、市外出身者が62.5%を占めている。ただ、その中でも「10年以上前に転入」が全体の48.9%と半数近くを占めており、転入してきた人が定住化しているとも見られる。

10、20歳代では（「一度市外に出た」も含め）市内出身が約6割を占め、逆に30歳代では「市外出身で最近転入」が54.8%と半数以上であり、この年齢層での人口流入が多いことを示している。

女性の方が市外出身者の割合が高いのは、市内男性との婚姻による流入の影響が含まれると見られ、また、地区別では、花岡・生野屋地区で市内出身の割合が比較的多く、久保地区で「市外出身・10年前以前に転入」の割合が比較的高いといった特徴が見られる。

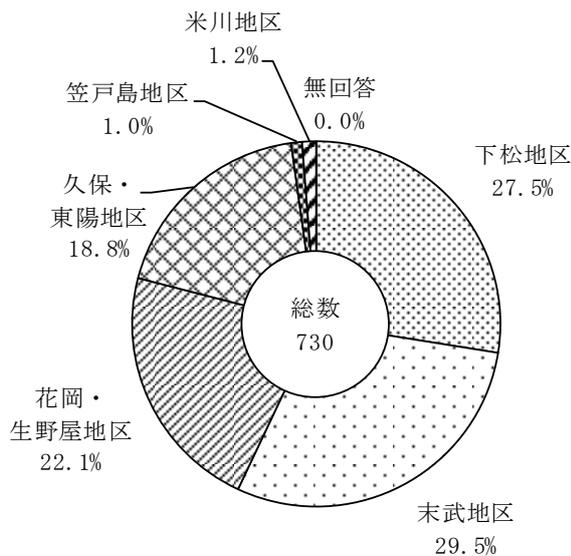
【前回・前々回との比較】	生 つ ま と れ 市 て 内 か ら	て一 戻 つ 市 た 外 に 出	入年 以 外 上 出 前 身 に ・ 転十	近市 転外 入出 身 ・ 最	無 回 答	(%)
(凡例)						
(n)						
今回 (730)	17.0	20.1	48.9	13.6		
前回 (H26) (928)	22.2	19.4	44.2	13.1		
前々回 (H21) (1007)	22.9	19.4	44.4	12.0		

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

		生 ま れ た と こ ろ が 市 内 か ら	一 度 市 外 に 出 て 戻 っ た	市 外 出 身 ・ 十 年 以 上 前 に 転 入	市 外 入 身 ・ 最 近	無 回 答	(%)
(凡例)							
【年齢別】	全体 (n=730)	17.0	20.1	48.9	13.6		
	10、20歳代 (43)	34.9	25.6	9.3	30.2		
	30歳代 (84)	9.5	19.0	16.7	54.8		
	40歳代 (118)	12.7	21.2	46.6	19.5		
	50歳代 (92)	12.0	25.0	56.5	6.5		
	60歳代 (139)	12.9	22.3	61.2			
	70歳代 (177)	21.5	19.8	55.4			
	80歳以上 (77)	24.7	7.8	63.6			
【性別】	男 (314)	21.7	21.0	44.3	13.1		
	女 (416)	13.5	19.5	52.4	13.9		
【居住地区別】	下松地区 (201)	16.9	20.9	46.8	14.4		
	末武地区 (215)	17.2	19.1	43.7	19.5		
	花岡・生野屋地区 (161)	18.6	23.6	44.7	13.0		
	久保・東陽地区 (137)	14.6	14.6	65.7	5.1		
	笠戸島地区 (7)	28.6		71.4			
	米川地区 (9)	33.3		44.4	22.2		

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。  
 ※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

### (5) 居住地区

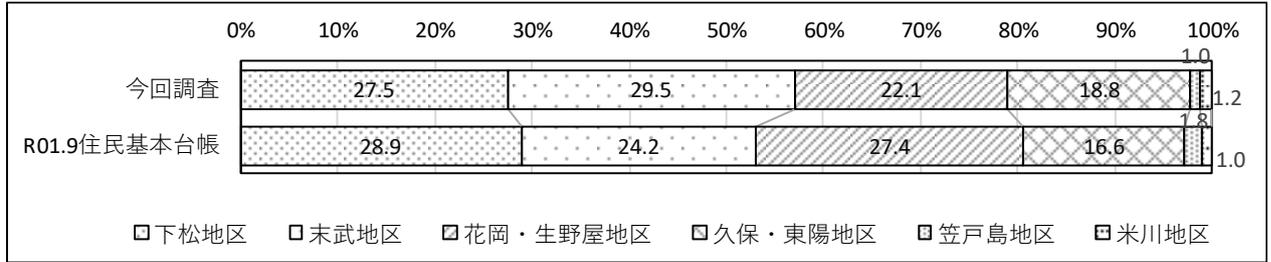


市内6地区区分別の回答者比率は、末武地区が29.5%と最も多く、下松地区、花岡・生野屋地区、久保・東陽地区の順が続いている。笠戸島地区、米川地区は、回答者数がそれぞれ7票、9票と少ない。

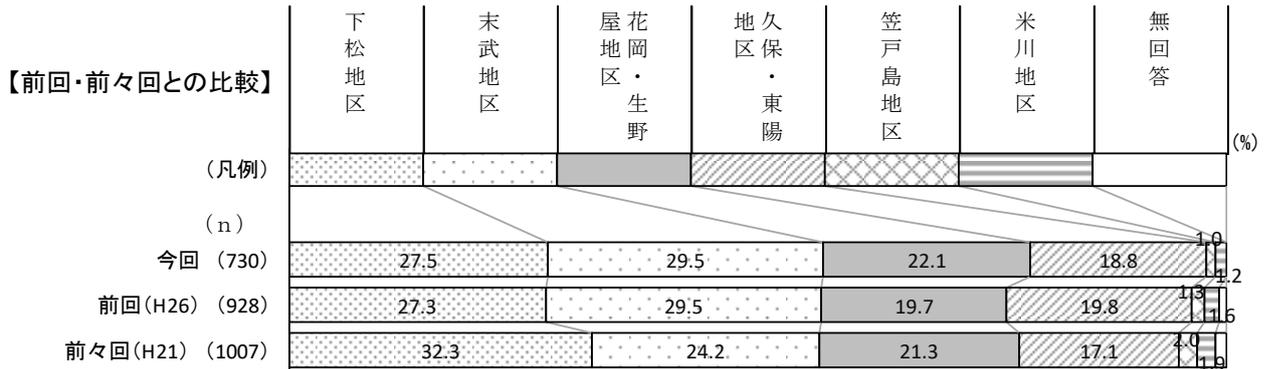
この地区分布は、概ね人口の分布を反映していると言えるが、直近の18歳以上の住民基本台帳人口の分布と比較すると、末武地区の割合が人口分布より高く、花岡・生野屋地区の割合が逆に低い。笠戸島地区の回答割合も人口割合よりも低くなっている。

今回の設問では、公民館区を表示して地区の回答を求めており、末武と花岡・生野屋地区では公民館区（中村公民館）と統計上の範囲の相違や、回答者が自分の地区区分を正確に認識していない可能性等が反映しているとも考えられる。

市人口との居住地区別構成割合の比較（18歳以上の割合）

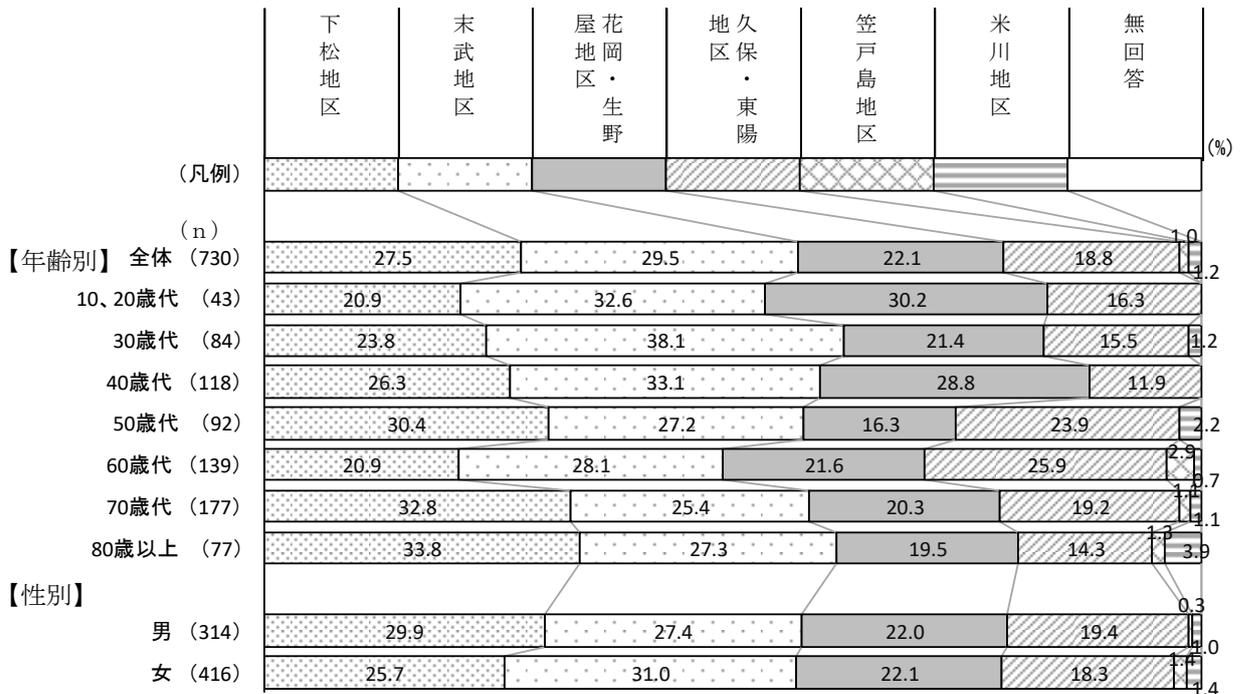


回答者の居住地区分布は前回（H26）調査と類似しているが、花岡・生野屋地区の割合がやや増加し、笠戸島、米川地区の割合がさらに減少しており、近年の人口動向を反映しているとも言える。

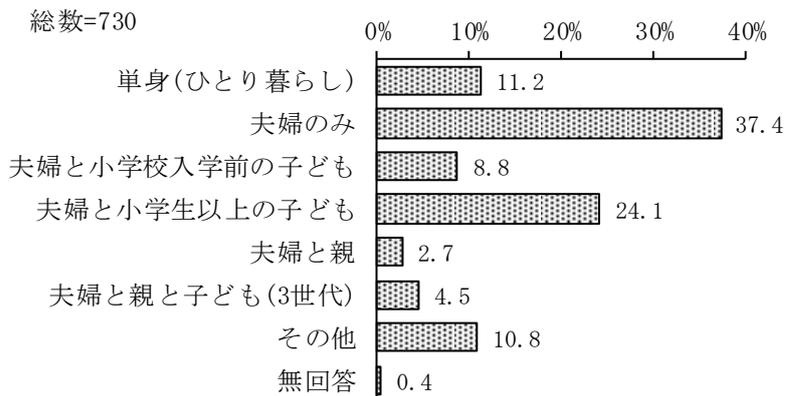


年齢別では、10、20歳代～40歳代で末武、花岡・生野屋地区の割合が高く、特に30歳代では末武地区が38.1%を占めており、前問との対比によっても、特にこの世代が末武地区を中心に多く流入していることの現れとも見られる。

また、性別では、男性で下松地区、女性で末武地区の割合が相対的に高いのが特徴的である。



(6) 世帯構成



世帯構成は、「夫婦のみ」の割合が37.4%と最も多く、この割合は高齢者で特に高くなり、70歳代では53.7%となっている。また、高齢者では「単身」の割合も高まり、高齢者のみ(単身を含む)の世帯の多さを反映している。

笠戸島、米川以外の4地区の中では、下松地区でこの割合が最も高い。

「夫婦と子供(小学生入学前または小学生以上)」の割合は、30歳代、40歳代で特に多く、地区別では久保・東陽地区での高さがやや目立つ。

	し単 身 (ひとり暮らし)	夫婦のみ	前 の 夫婦 と 子 小 学 校 入 学	の 夫 婦 と 小 学 生 以 上	夫 婦 と 親	( 夫 婦 と 親 と 子 ど も )	そ の 他	無 回 答	(%)
(凡例)									
(n)									
【年齢別】 全体 (730)	11.2	37.4	8.8	24.1	2.7	4.5	10.8	0.4	
10、20歳代 (43)	18.6	23.3	14.0	14.0	27.9				
30歳代 (84)	9.5	22.6	41.7	16.7	6.0				
40歳代 (118)	5.1	16.9	11.0	49.2	11.0				
50歳代 (92)	5.4	37.0	40.2	5.4	8.7				
60歳代 (139)	10.1	46.0	22.3	6.5	7.9				
70歳代 (177)	16.4	53.7	12.4	10.2					
80歳以上 (77)	24.7	42.9	10.4	15.6					
【性別】									
男 (314)	10.5	36.3	10.2	24.8	5.4	9.6			
女 (416)	11.8	38.2	7.7	23.6	11.8				
【居住地区別】									
下松地区 (201)	13.4	40.3	8.0	20.4	6.5	10.4			
末武地区 (215)	12.1	34.9	9.8	23.7	5.1	9.8			
花岡・生野屋地区 (161)	9.3	37.3	11.2	23.0		14.9			
久保・東陽地区 (137)	8.0	37.2	6.6	30.7		9.5			
笠戸島地区 (7)	14.3	57.1				28.6			
米川地区 (9)	22.2	22.2		33.3		22.2			

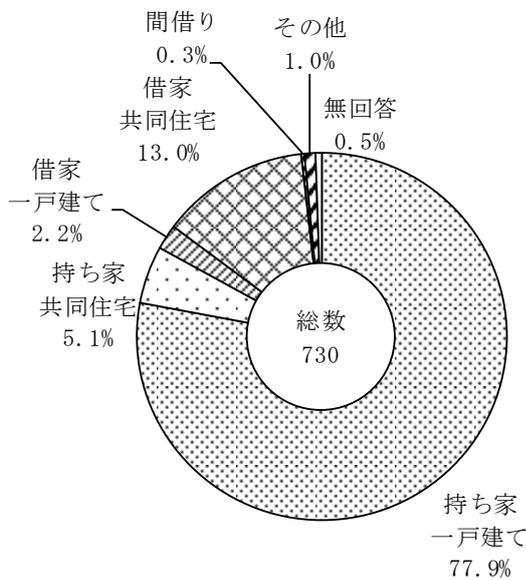
※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

なお、「その他」の回答には、他の選択肢に区分できると思われるものも多いが、ここではそのまま「その他」と扱っている。「その他」の主な回答記述は以下のとおりである。

「その他」の主な記述内容	兄と同居 親と兄弟 自分、両親、弟 母と二人 夫婦、子ども（社会人） 夫婦と兄と兄の子ども 夫婦と成人(独身)の子ども2名 四世代同居
--------------	--

### (7) 住居形態



[選択肢]

1. 持ち家一戸建て
2. 持ち家共同住宅  
(マンション区分所有を含む)
3. 借家一戸建て
4. 借家共同住宅  
(賃貸マンション、アパート等)
5. 間借り
6. その他

住宅の形態は「持ち家一戸建て」が圧倒的に多く、77.9%を占めている。2位は「借家共同住宅」(賃貸のマンションやアパート等)で、13.0%であり、他の形態の割合は少ない。

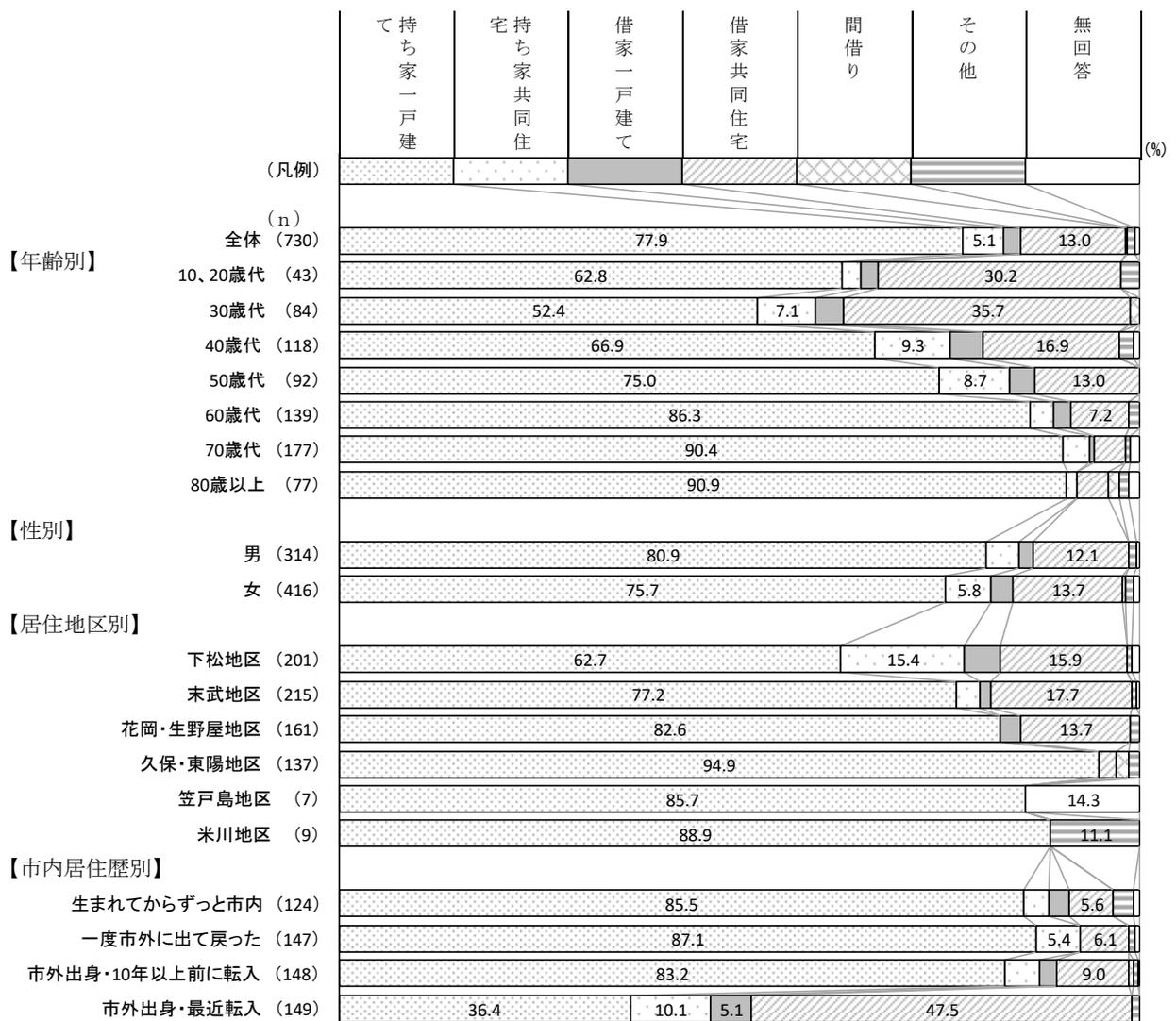
「持ち家一戸建て」の割合は、年齢層が上がるほど高まり、70歳代以上では9割を超える。一方、若年層では「借家共同住宅」の割合の高さが目立ち、30歳代では35.7%と1/3以上を占める。

「持ち家一戸建て」の割合は久保・東陽地区で94.9%と最も高く、「借家共同住宅」の割合は末武地区が最多で、下松地区、花岡・生野屋地区がこれに次ぐ。なお、下松地区では「持ち家共同住宅」の割合が15.4%と高いのが特異であり、下松駅周辺の分譲マンションの存在を裏付けている。

また、市内居住歴において「市外出身で最近転入」の層では住居形態の分布が大きく異なり、「借家共同住宅」の割合が47.5%となっている。転入当初はまず賃貸の共同住宅に住むケースが多いことの現れであろうが、流動性の高さにもつながると考えられる。

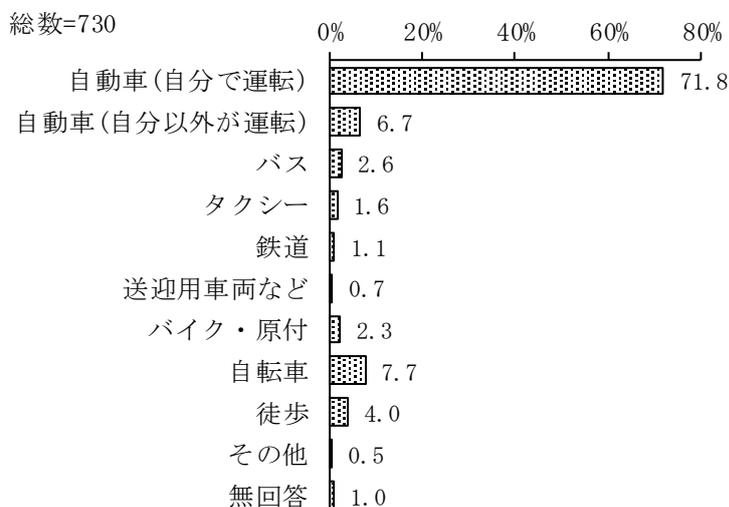
なお、「その他」の回答は5件と少なく、「市営住宅」は「借家共同住宅」に含まれると考えられるが、そのまま「その他」として扱っている。

「その他」の主な記述内容	市営住宅 ケアハウス 持ち家(仕事場と自宅)
--------------	------------------------------



※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。  
 ※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

### (8) 日常交通手段 (通勤通学・買物・通院など)



日常の交通手段は、71.8%と多くが「自動車(自分で運転)」であり、クルマ社会の浸透を裏付けている。それ以外では「自転車」が7.7%あるが、「自動車(自分以外が運転)」が6.7%でこれに次ぎ、自分で運転の自動車と合わせると8割近くが自動車を日常の足にしていることになる。

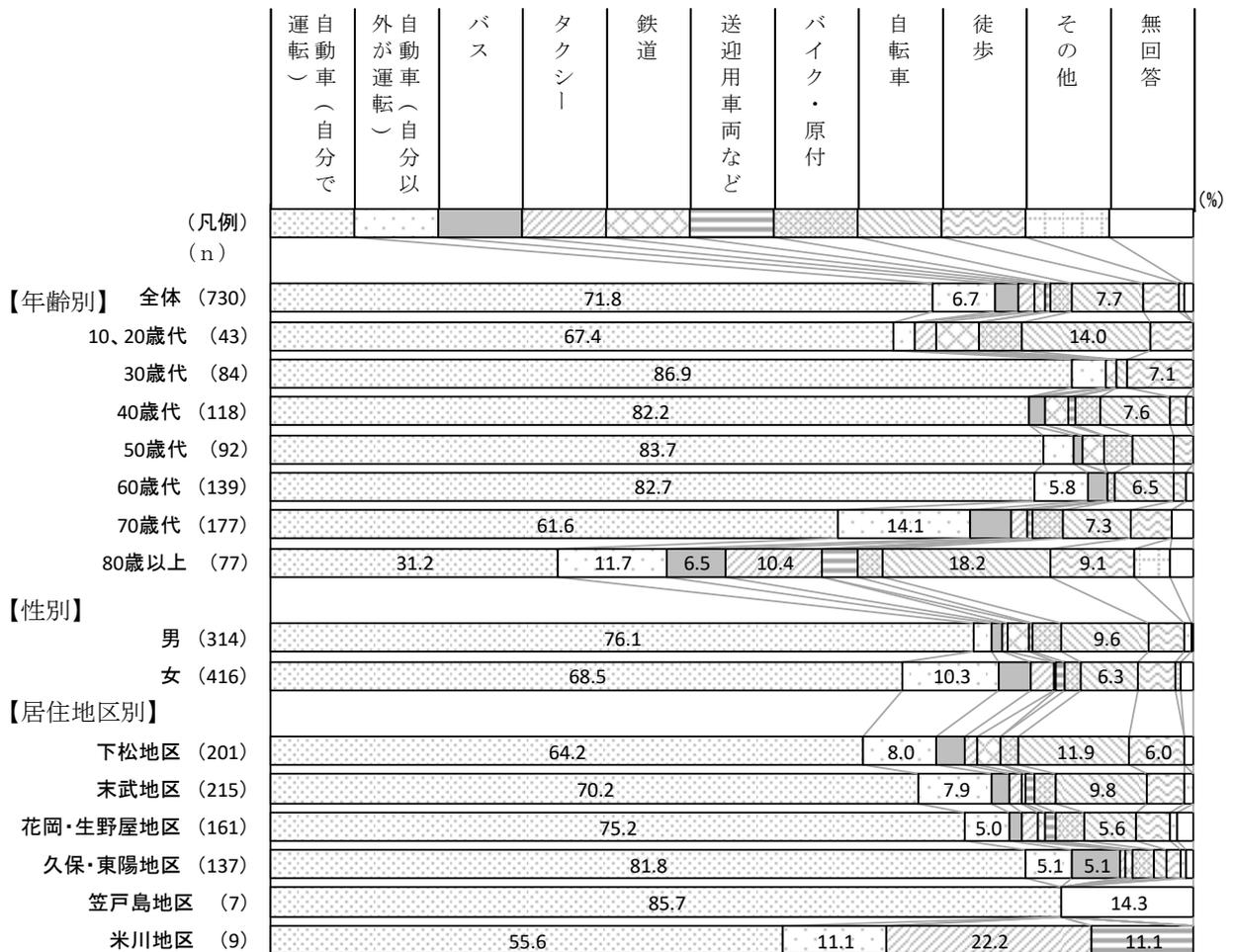
「自動車(自分で運転)」の割合は30歳代~60歳代で特に多く、80%台であるが、70歳台では

61.6%、80歳以上では31.2%に低下する。また、10、20歳台でもこの値は67.4%と比較的低い。

これらの年代層では、「自動車（自分で運転）」の割合の低さに対して、「自転車」や「自動車（自分以外が運転）」あるいは「徒歩」の割合が相対的に高くなっている。10、20歳代では「鉄道」、70歳代以上では「バス」の割合も相対的には高いが、数値としてはそれほどでもない。80歳以上では「タクシー」の割合が1割以上となる。

性別では、「自動車（自分で運転）」の割合が女性で比較的低いが、その分、「自動車（自分以外が運転）」の割合が高くなり、合わせると男女どちらも8割近くが自動車利用となる。

居住地区別では、笠戸島、米川地区を除いた中では、下松地区、末武地区では「自転車」や「徒歩」、「自動車（自分以外が運転）」の割合がやや高く、その分「自動車（自分で運転）」の割合が相対的に低いのが特徴的である。鉄道駅や商業施設等各種施設の立地密度の高さが反映されているとも見られる。



※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。  
 ※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

### Ⅲ. 調査の結果

#### 1. 日常生活での不安

■問2 あなたは、日常生活で次のような面についてどの程度不安を感じていますか。  
 (1)～(6)のそれぞれについて、選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

まず、市民が日常生活で抱えている「不安」の程度について尋ねている。

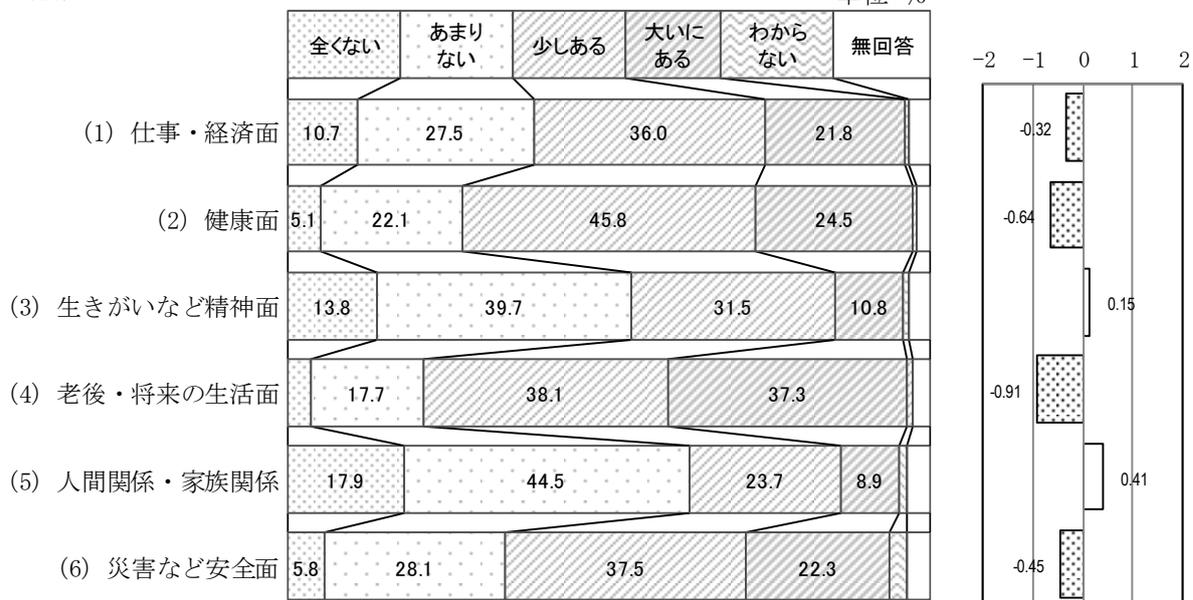
6つの側面から「不安」の程度の回答を求めた結果、不安が「大いに」または「少し」「ある」とする割合が最も高いのは「老後・将来の生活面」の75.4%で、「健康面」が70.3%でこれに次いでいる。本アンケートでは、高齢者の回答者の割合が高いことを考慮する必要があるが、市民生活において、保健・医療・福祉の重要性が高いことの現れとも見られる。

一方、「人間関係・家族関係」や「生きがいなど精神面」では不安が「全くない」、「あまりない」の割合が高く、半数以上を占める。

不安が「全くない」=2点、「あまりない」=1点、「少しある」=-1点、「大いにある」=-2点として、回答数（無回答を除く）で加重平均した値を評価点（マイナスが大きいほど平均的な不安の程度が大きいことを意味する）として算出すると、「老後・将来の生活面」の評価点は-0.91で、平均的には不安が「少しある」という水準になる。逆に、「人間関係・家族関係」の評価点は0.41と最も高い値で、平均的にはそれほど不安は持たれていないということになる。

総数=730

単位：%



注) 「評価点」は、「全くない」=2点、「あまりない」=1点、「少しある」=-1点、「大いにある」=-2点として、回答数（無回答を除く）で加重平均した値

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

	全体	全くない	あまりない	少しある	大いにある	わからない	無回答	評価点
(1) 仕事・経済面	730 100.0	78 10.7	201 27.5	263 36.0	159 21.8	4 0.5	25 3.4	-0.32
(2) 健康面	730 100.0	37 5.1	161 22.1	334 45.8	179 24.5	3 0.4	16 2.2	-0.64
(3) 生きがいなど精神面	730 100.0	101 13.8	290 39.7	230 31.5	79 10.8	5 0.7	25 3.4	0.15
(4) 老後・将来の生活面	730 100.0	25 3.4	129 17.7	278 38.1	272 37.3	6 0.8	20 2.7	-0.91
(5) 人間関係・家族関係	730 100.0	131 17.9	325 44.5	173 23.7	65 8.9	9 1.2	27 3.7	0.41
(6) 災害など安全面	730 100.0	42 5.8	205 28.1	274 37.5	163 22.3	19 2.6	27 3.7	-0.45

評価点を年齢別にみると、「老後・将来の生活面」や「健康面」の不安は、高齢者層よりもむしろ高齢者予備軍とも言える 50 歳代で最も評価点が低い。

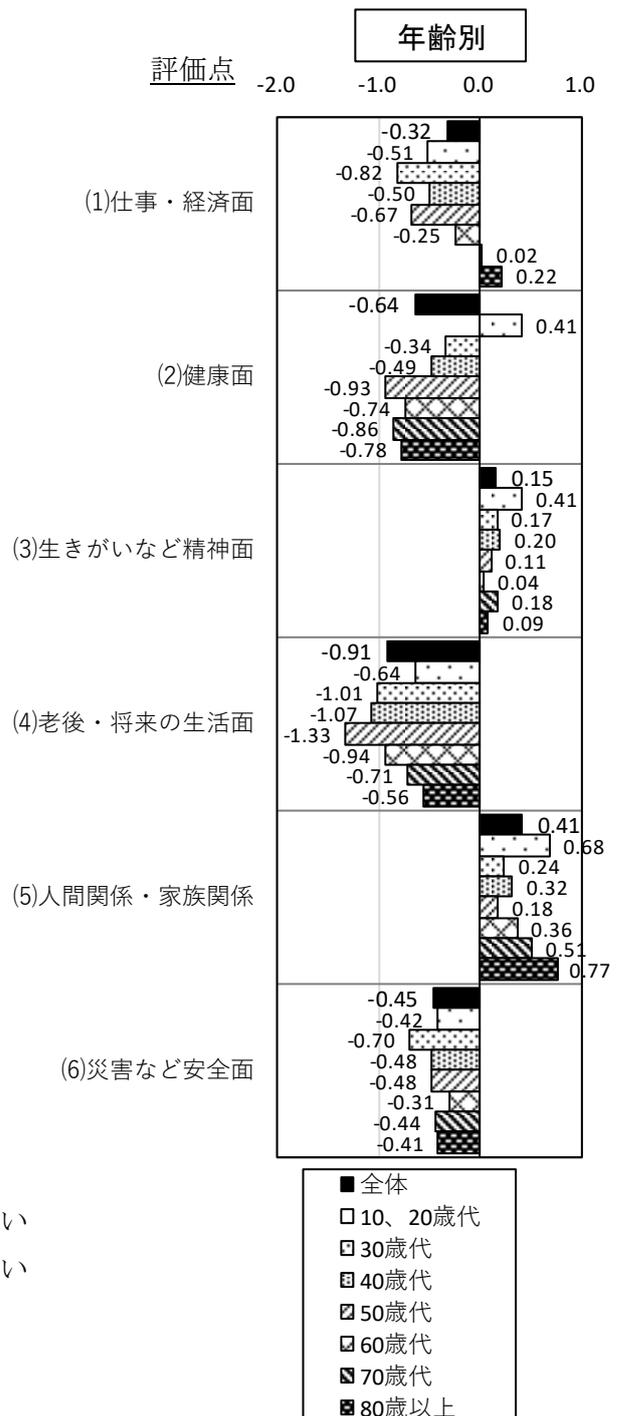
一方、「仕事・経済面」での評価点は、「災害などの安全面」と合わせて 30 歳代で最も低いのが特徴的である。

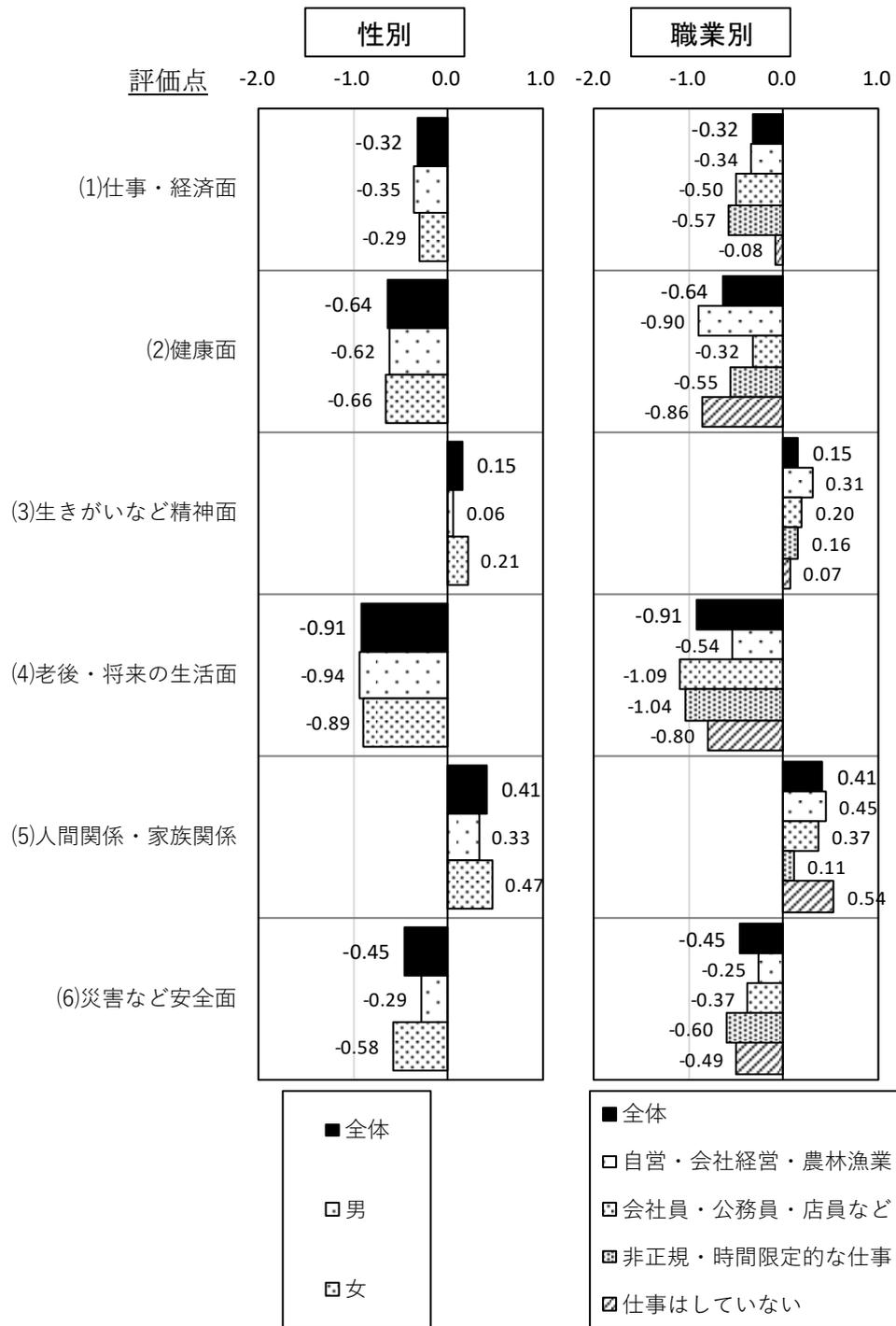
全体に評価点が比較的高い「人間関係・家族関係」では、10、20 歳代と 80 歳代で特に評価点が高い V 字構造となっているほか、「生きがいなど精神面」では全体に若い層ほど評価点が高い結果となっている。

性別では、「災害など安全面」で女性の方が評価点が低いほか、「人間関係・家族関係」や「生きがいなど精神面」では女性の評価点が高いという特徴も見られる。

職業別では、「自営・会社経営・農林漁業」で比較的评价点が高い傾向があるが、唯一「健康面」では最も評価点が低い。また、無職の場合は「健康面」での評価点が低く、「人間関係・家族関係」での評価点は最も高い。

※ 「評価点が高い」＝平均的な不安の程度が小さい  
「評価点が低い」＝平均的な不安の程度が大きい

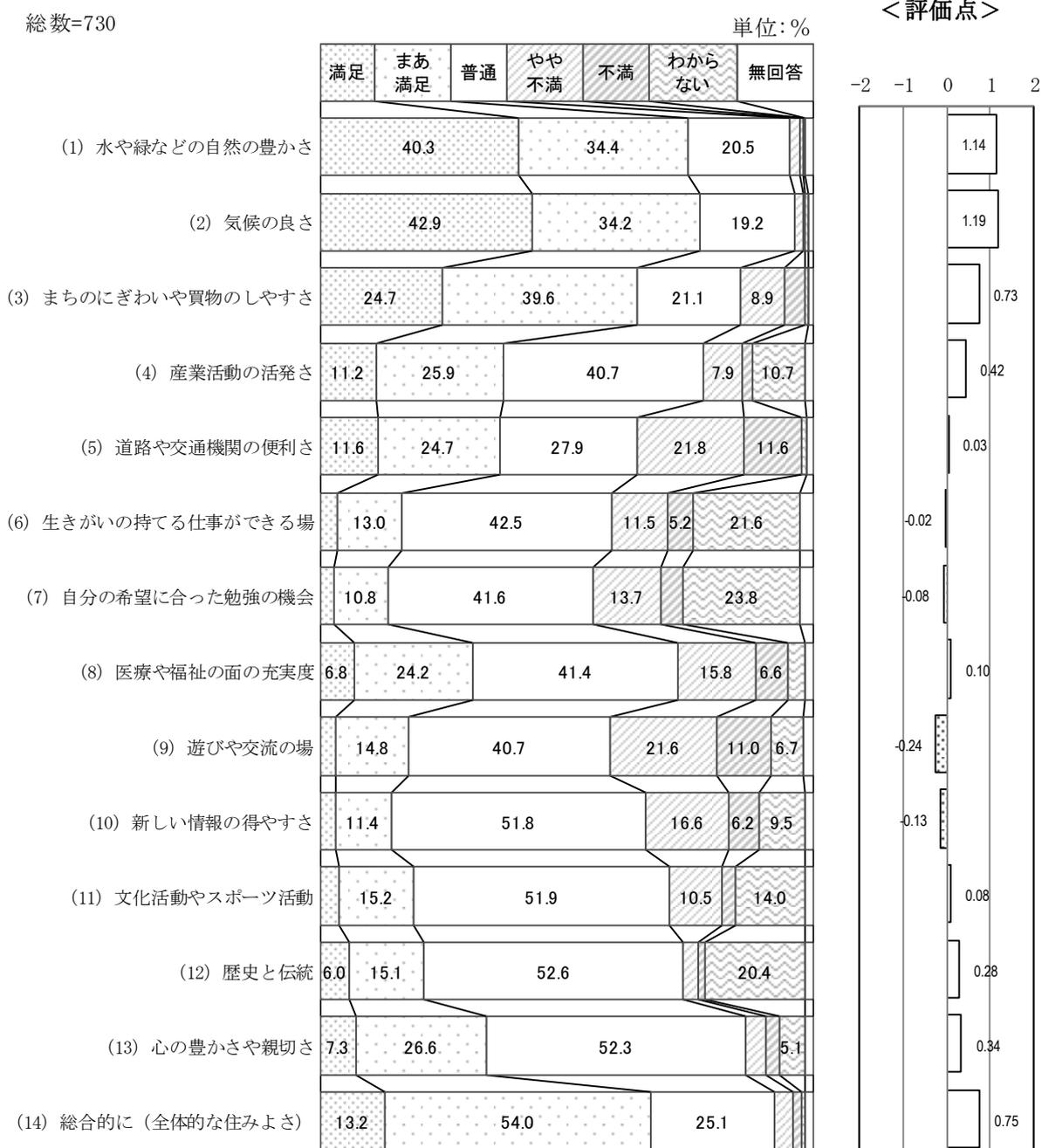




## 2. 下松市の魅力・自慢

### (1) 下松市の魅力

■問3 現在の下松市について、あなたは次の各項目に対してどの程度の魅力、満足を感じますか。右の選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。



注) 「評価点」は、「満足」=2点、「まあ満足」=1点、「普通」=0点、「やや不満」=-1点、「不満」=-2点として、回答数(「わからない」と無回答を除く)で加重平均した値

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

	全体	満足	まあ満足	普通	やや不満	不満	わからない	無回答	評価点
(1) 水や緑などの自然の豊かさ	730 100.0	294 40.3	251 34.4	150 20.5	15 2.1	5 0.7	4 0.5	11 1.5	1.14
(2) 気候の良さ	730 100.0	313 42.9	250 34.2	140 19.2	13 1.8	3 0.4	3 0.4	8 1.1	1.19
(3) まちのにぎわいや買物のしやすさ	730 100.0	180 24.7	289 39.6	154 21.1	65 8.9	29 4.0	5 0.7	8 1.1	0.73
(4) 産業活動の活発さ	730 100.0	82 11.2	189 25.9	297 40.7	58 7.9	13 1.8	78 10.7	13 1.8	0.42
(5) 道路や交通機関の 便利さ	730 100.0	85 11.6	180 24.7	204 27.9	159 21.8	85 11.6	8 1.1	9 1.2	0.03
(6) 生きがいの持てる 仕事ができる場	730 100.0	26 3.6	95 13.0	310 42.5	84 11.5	38 5.2	158 21.6	19 2.6	-0.02
(7) 自分の希望に合った勉 強の機会	730 100.0	21 2.9	79 10.8	304 41.6	100 13.7	33 4.5	174 23.8	19 2.6	-0.08
(8) 医療や福祉の面の 充実度	730 100.0	50 6.8	177 24.2	302 41.4	115 15.8	48 6.6	26 3.6	12 1.6	0.10
(9) 遊びや交流の場	730 100.0	24 3.3	108 14.8	297 40.7	158 21.6	80 11.0	49 6.7	14 1.9	-0.24
(10) 新しい情報の 得やすさ	730 100.0	22 3.0	83 11.4	378 51.8	121 16.6	45 6.2	69 9.5	12 1.6	-0.13
(11) 文化活動や スポーツ活動	730 100.0	28 3.8	111 15.2	379 51.9	77 10.5	20 2.7	102 14.0	13 1.8	0.08
(12) 歴史と伝統	730 100.0	44 6.0	110 15.1	384 52.6	22 3.0	9 1.2	149 20.4	12 1.6	0.28
(13) 心の豊かさや 親切さ	730 100.0	53 7.3	194 26.6	382 52.3	32 4.4	19 2.6	37 5.1	13 1.8	0.34
(14) 総合的に（全体的な住 みよさ）	730 100.0	96 13.2	394 54.0	183 25.1	28 3.8	12 1.6	5 0.7	12 1.6	0.75

注) 「評価点」は、「満足」＝2点、「まあ満足」＝1点、「普通」＝0点、「やや不満」＝－1点、「不満」＝－2点として、回答数（「わからない」と無回答を除く）で加重平均した値

下松市の魅力、満足の程度を 13 の視点及び総合的な住みよさの視点から 5 段階で尋ねている。

ここでも、「満足」＝2点、「まあ満足」＝1点、「普通」＝0点、「やや不満」＝－1点、「不満」＝－2点として、回答数（「わからない」及び無回答を除く）で加重平均した値を評価点（この値が高いほど平均的な満足度が高い）として示しているが、13 の項目のうち最も評価点が高いのは「気候の良さ」であり、「水や緑など自然の豊かさ」がこれに僅差で続いている。

逆に、最も評価点が低いのは「遊びや交流の場」であり、「新しい情報の得やすさ」もこれに次いで低い。

年齢別にみると、全体の評価点が低い「遊びや交流の場」や「新しい情報の得やすさ」では年齢が若い層ほど厳しい評価であるほか、10、20 歳代では「歴史と伝統」、「医療・福祉面」、「心の豊かさ」、「文化・スポーツ」、「勉強の機会」などいくつかの項目で他の年代層よりも評価点が目立って高い状況が見られる。

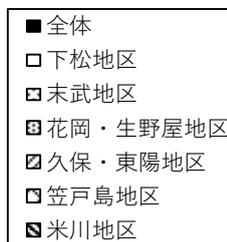
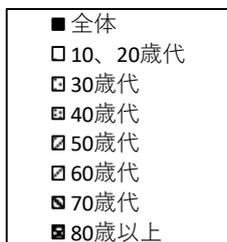
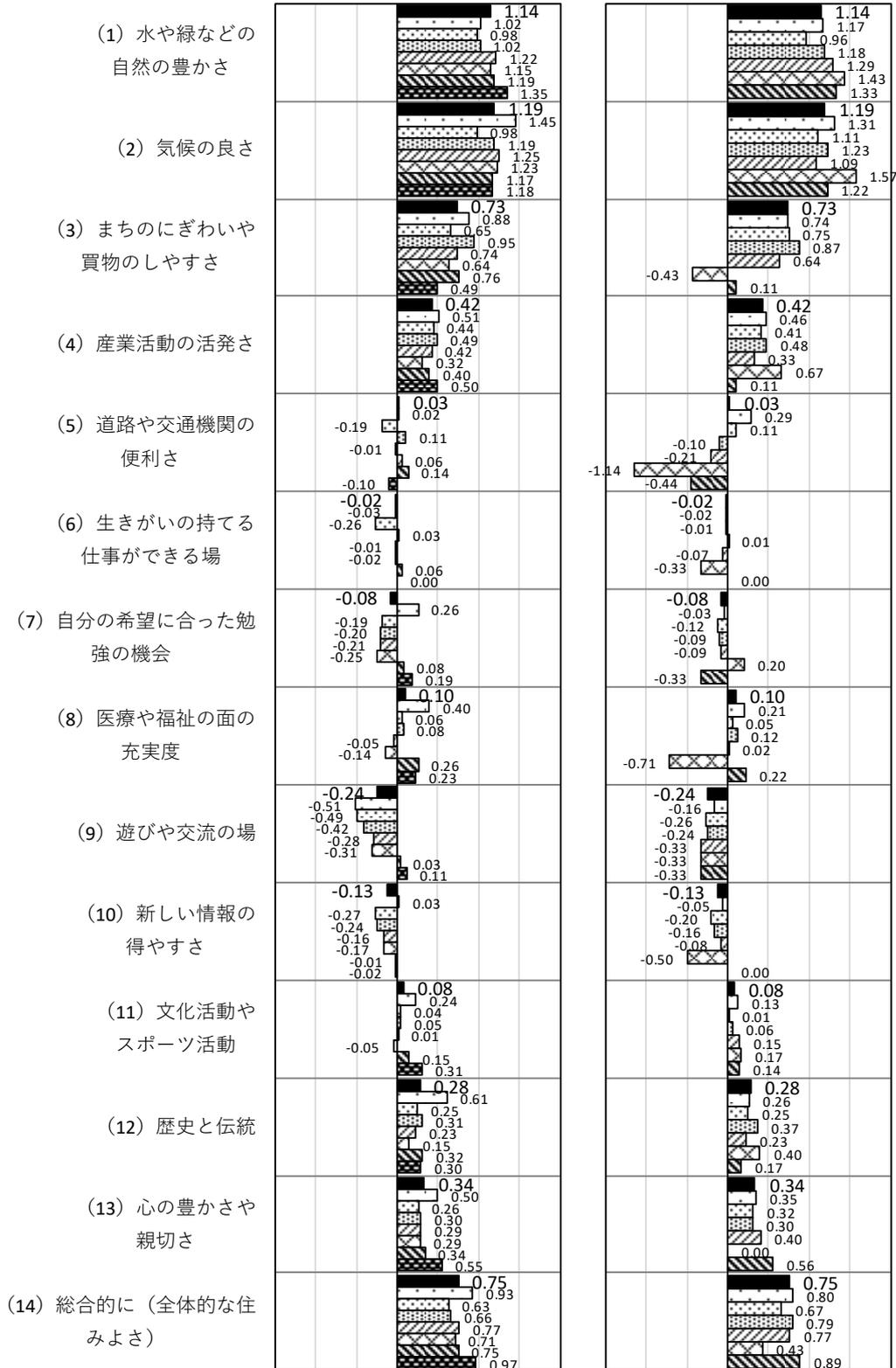
居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、末武地区で「道路・交通の便利さ」や「医療・福祉面」、花岡地区で「歴史と伝統」といった項目で比較的高い評価点となっており、地区の特性を反映していると言える。

また、市外出身で最近転入した層で「遊びや交流の場」や「新しい情報の得やすさ」の評価が目立って低いほか、職業では自営・会社経営・農林漁業者で比較的厳しい評価の項目が多い点などが指摘できる。

年齢別

居住地区別

評価点 -1.5 -1.0 -0.5 0.0 0.5 1.0 1.5 2.0

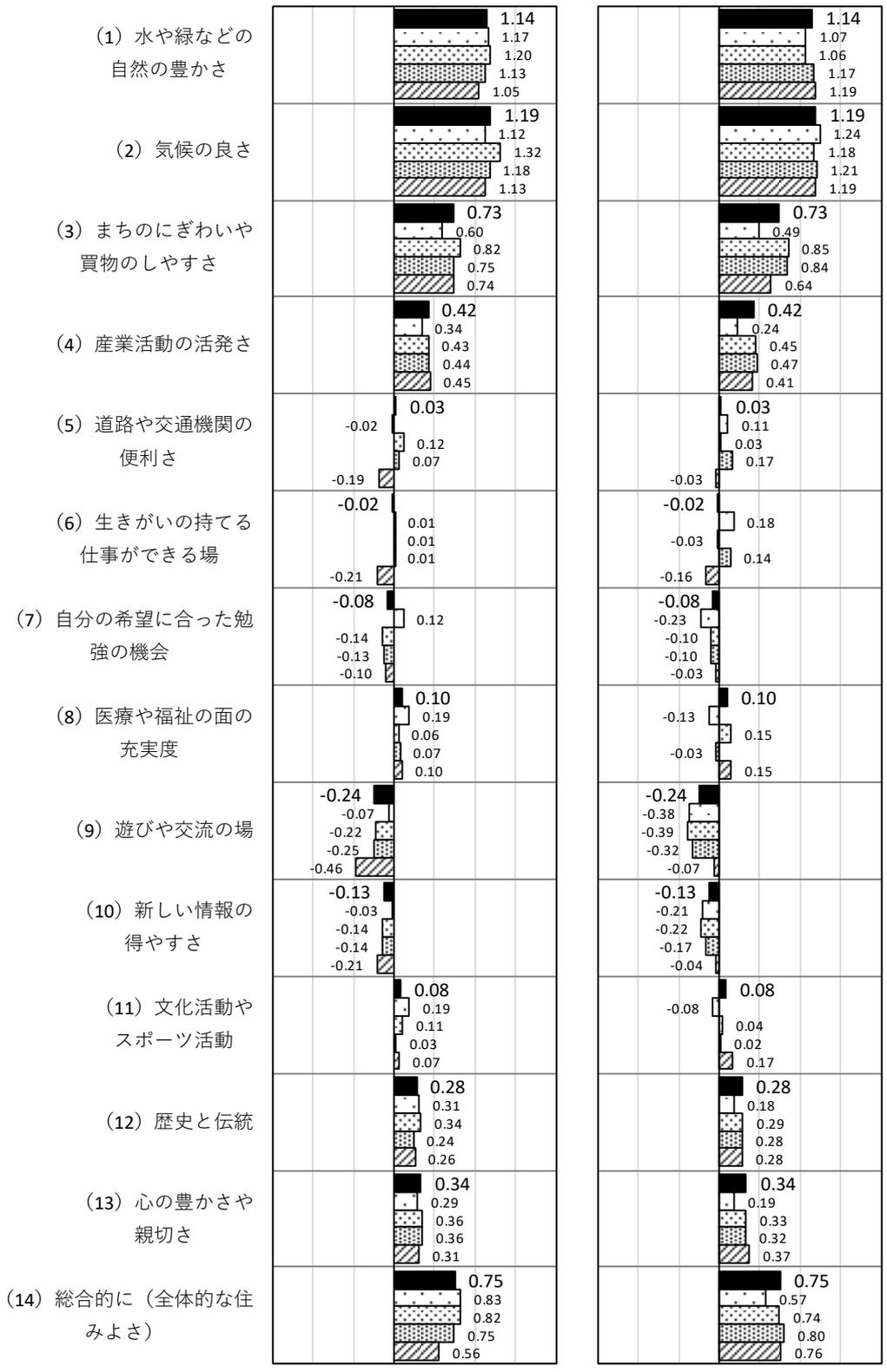


※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

市内居住歴別

職業別

評価点 -1.5 -1.0 -0.5 0.0 0.5 1.0 1.5 2.0



■ 全体  
 □ 生まれてからずっと市内  
 ▣ 一度市外に出て戻った  
 ▤ 市外出身・10年以上前に転入  
 ▥ 市外出身・最近転入

■ 全体  
 □ 自営・会社経営・農林漁業  
 ▣ 会社員・公務員・店員など  
 ▤ 非正規・時間限定的な仕事  
 ▥ 仕事はしていない

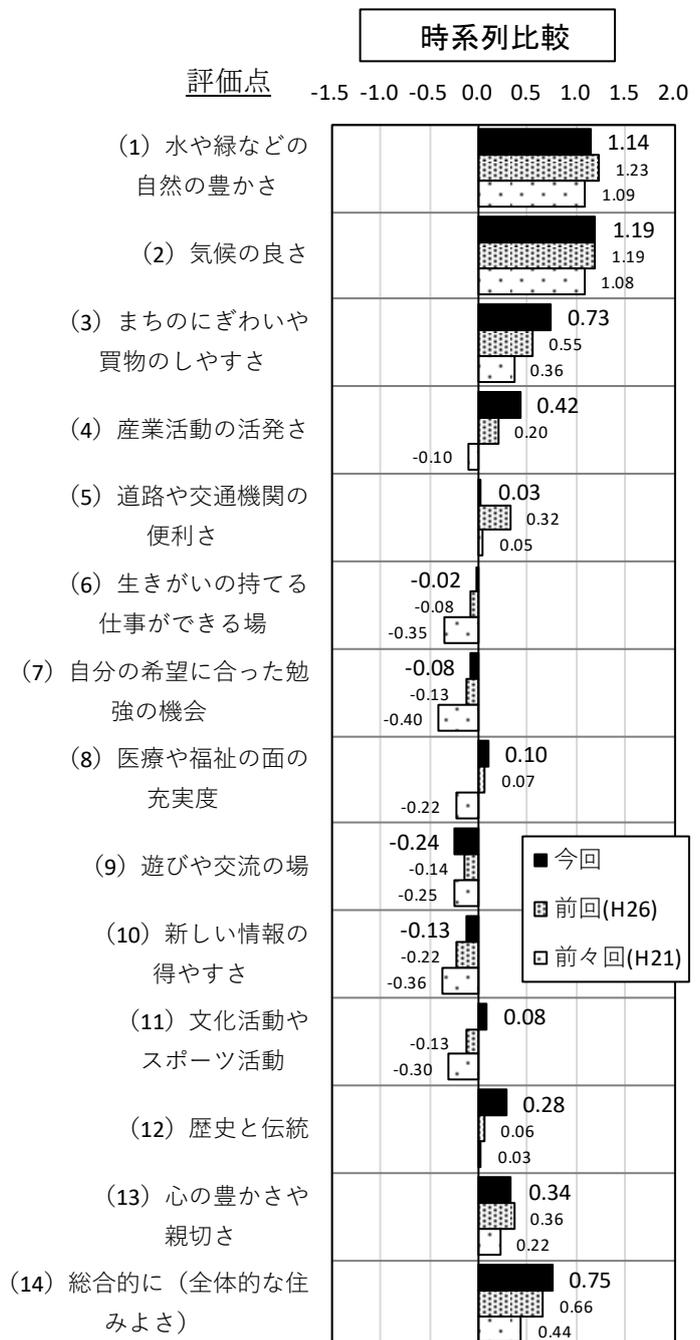
「総合的な満足度（全体的な住みよさ）」の評価点は、全体では0.75で、「満足」と「まあ満足」の合計割合は67.2%と約2/3が肯定的評価である。

年齢別では、年齢層が高いほど評価点が高まるが、10、20歳代だけは70歳代と同水準の高い満足度評価である点が特徴的である。また、市外出身で最近転入した層や、自営・会社経営・農林漁業者では比較的评价が厳しい点も目立つ。

この設問は、過去の同様のアンケート調査でも行っており、時系列でみると、回を追うごとに満足度の評価点が改善の方向に向かっている項目が多い。「まちなぎわいや買物のしやすさ」は商業施設の充実の反映とも見られ、「産業活動の活発さ」や「生きがいの持てる仕事ができる場」の評価点上昇は近年の市内企業の好調な業績の反映とも考えられる。「新しい情報の得やすさ」の上昇はIT社会の浸透で地域間の情報アクセシビリティ格差が縮まっていることの現れとも捉えられるが、「歴史と伝統」なども目立って改善しており、総体として市民の満足度水準は高まる方向に推移していると評価される。

「総合的な満足度（全体的な住みよさ）」の評価点も確実に上昇しており、「住みよさランキング」上位の下松市の魅力が全体的に好意的に受け止められるようになりつつあると考えられる。

注) 項目名の表現は年次によりやや異なるものがある。

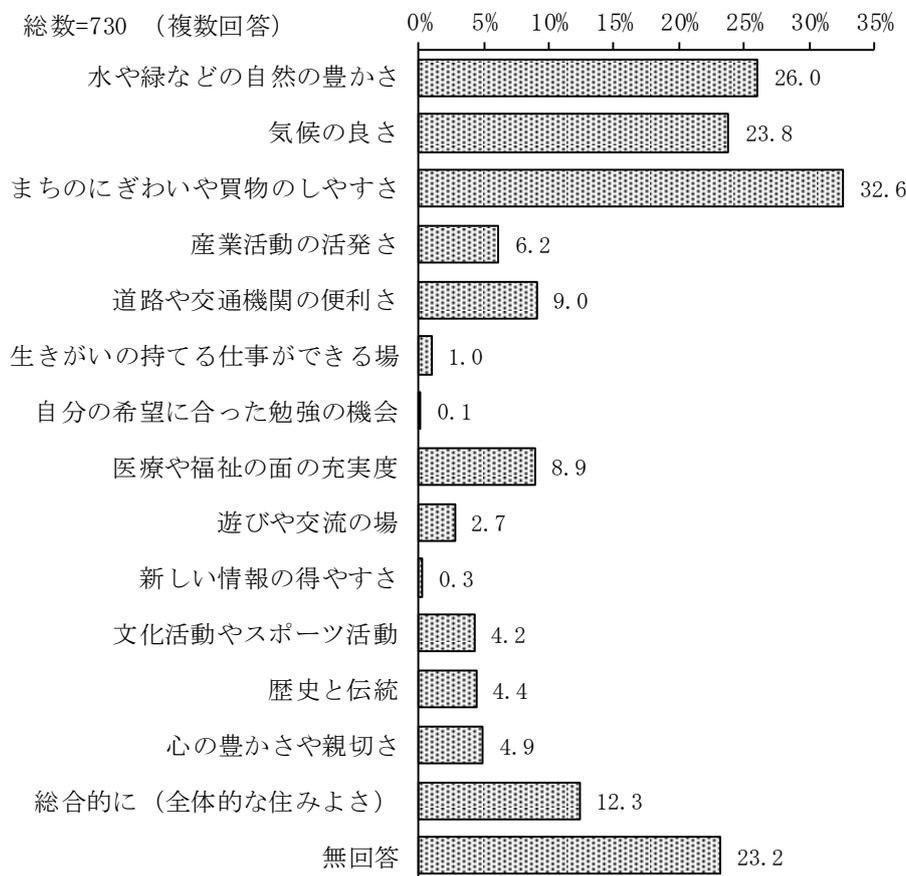


## (2) 下松市の自慢・優れた点

■問4 上の(1)～(14)の中で、下松市に暮らすあなたが自慢できるもの、今後のまちづくりに活かしていくべき優れた点をあげるとしたら、どのようなことですか。(1)～(14)の中から2つまで選んで番号を口の中に記入し、また、具体的な内容を記入してください。

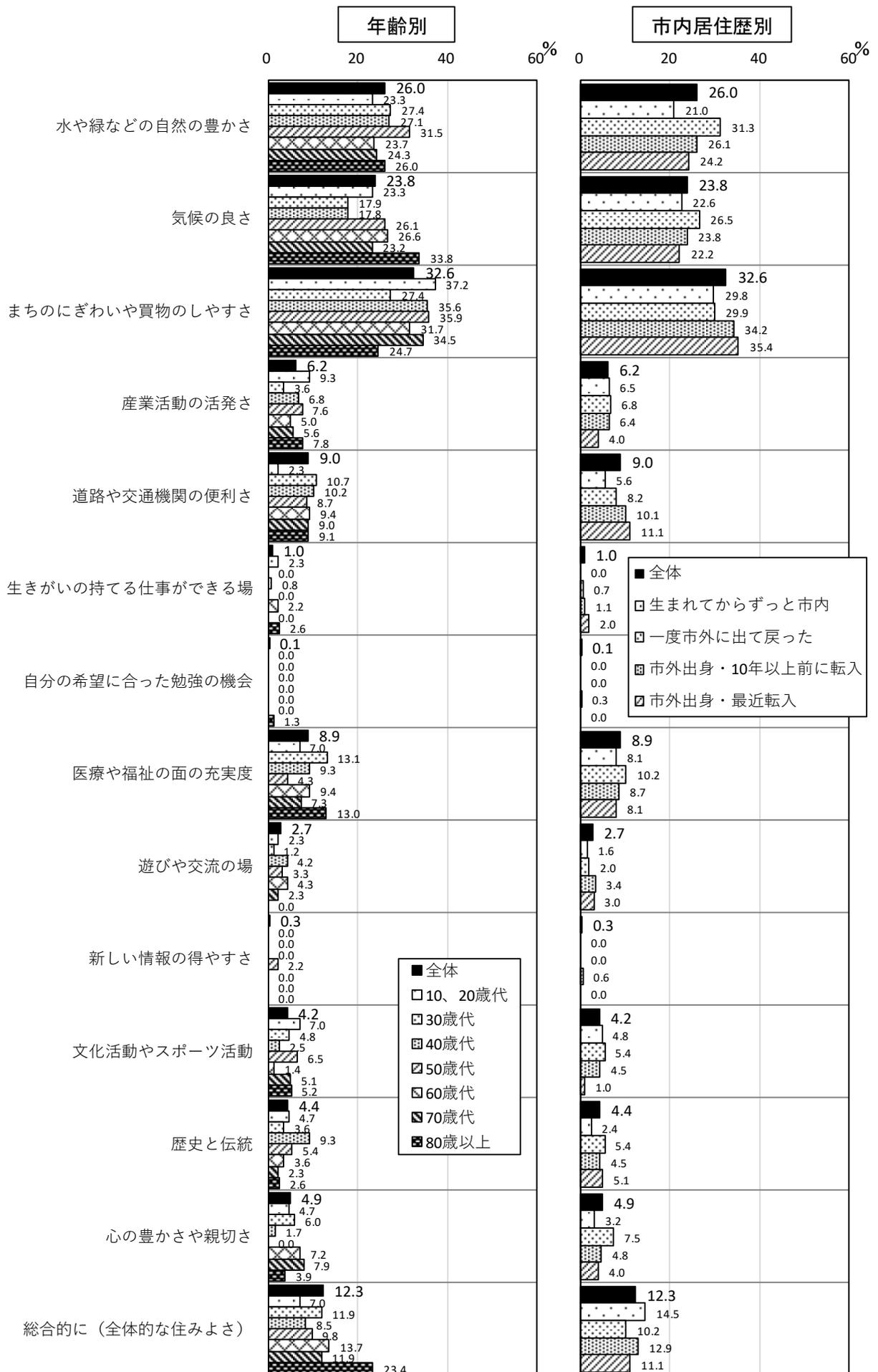
前問の計14項目(「全体的な住みよさ」も含む)を対象に、特に自慢な点、優れた点を選ぶ設問であるが、最も高い回答割合となったのは「まちのにぎわいや買物のしやすさ」で、32.6%の回答者が指摘しており、満足度で1、2位であった「気候の良さ」、「水や緑などの自然の豊かさ」を上回っている。商業集積による利便性の高さが自慢として認識されていると言える。

一方、満足度評価で低位であった「遊びや交流の場」や「新しい情報の得やすさ」、「希望に合った勉強の機会」などは自慢・優れた点としての指摘割合も極端に少ない。



年齢別にみると、項目により傾向は様々であるが、全体で上位の項目のうち「まちのにぎわいや買物のしやすさ」では10、20歳代での指摘割合が最も高いことや、「気候の良さ」では80歳以上、「水や緑など自然の豊かさ」では50歳代での割合が最多であること等が読み取れる。

また、「まちのにぎわいや買物のしやすさ」では市外出身者の指摘割合が比較的高い一方、「気候の良さ」や「水や緑など自然の豊かさ」では市内出身で一度転出し戻った層での評価が比較的高くなっている。



本設問では、選択した項目について、自慢や優れた点としての具体的内容の記述も求めており、多くの回答が寄せられた。その中から、代表的な意見を抽出して以下に示す（原文のまま）。抽出は、できるだけ内容の偏りがないように留意し、類似の回答が多いものを選定している。

（以下の表中で、（ ）内の数値は、当該項目での記述回答の数である（総計 814 件）。）

### 1 水や緑などの自然の豊かさ

（ 146 ）

海と山の自然が生活の場からほど近いところで体感できる。	60 歳代	女	下松
自然を感じながら生活を送ることができていると思うから。	10, 20 歳代	男	末武
身近にふれあえる自然が多いこと。市外から引っ越してきて近くの川でホタルが見られるのはびっくりしました。	50 歳代	女	末武
笠戸島から見る美しい風景・桜。米泉湖の美しいたたずまい。瀬戸内海。下松スポーツ公園の桜・花畑	60 歳代	女	末武
米泉湖の紅葉、瀧口公園は紅葉も素晴らしいが、夏は子供を連れて、水遊びにも最適。笠戸島の自然の美しさ。	50 歳代	女	下松
水がおいしい	50 歳代	男	末武
水道料が他市より安くありがたい	70 歳代	男	下松
山の四季の変化	70 歳代	男	下松
樹木や花などが多く、188号線沿いの植え込みの花を見ると癒されます。	50 歳代	女	末武
公園には四季折々の花や木があり、落ち着いた空間である。	40 歳代	女	末武

### 2 気候の良さ

（ 138 ）

余り暑くもなく寒くもなく過ごしやすい。	70 歳代	女	末武
冬は雪もあまり降らず、梅雨も少ない。夏は緑で涼しく感じる。	70 歳代	女	久保・東陽
温暖で過ごしやすい。	40 歳代	女	下松
晴れた日が多い瀬戸内の温暖な気候	60 歳代	男	下松
夏はそれほど暑くなく、冬も雪も思ったほど降りもせず、四季折々が楽しめる。	50 歳代	女	末武
今まで災害が少なく、日常生活を安心して営めること	40 歳代	女	末武
大きな災害もなく他県であるような水害や土砂崩れなどの心配が余りない。	50 歳代	女	末武
災害などが少なく、道路や川など水害があっても復旧が早く、それも気候が良く、災害が少ないと思える地形だと思えます。	60 歳代	女	久保・東陽
自然災害が少ない。温暖な地、豊かな食材等々	80 歳以上	男	末武
台風の被害や地震の被害も少なく、おだやかな気候の日が多く、自然もたくさん残っていて住みやすいと思います。	50 歳代	女	久保・東陽

### 3 まちのにぎわいや買物のしやすさ

（ 211 ）

買い物で困ることがない。近くにいっつもの大型店、ドラッグストア、コンビニがある。	60 歳代	女	末武
買物は、大手チェーンも多く不便さは感じない。	30 歳代	男	花岡・生野屋
市域面積が小さい。コンパクトな街、スーパー、食事等、車なら5分～10分で行ける	60 歳代	男	久保・東陽
市内の店舗だけで生活に必要なものは一通りそろう点。	30 歳代	男	米川
スーパーや大型商業施設が多く、市内の住民や近隣市外の住民にとって買い物がしやすい。	10, 20 歳代	男	花岡・生野屋
生活に必要なものは車で5分以内のところですべてそろう。今後、贅沢品（ブランド物や高級品）ができれば良いと思う。	10, 20 歳代	男	末武
日常の買物から贈答品まで近隣でできるので、とても便利が良い	40 歳代	女	末武
大型商業施設やスーパー等が多く、買い物には困らない。人口のわりに他市に比べて多いと思う。	60 歳代	女	久保・東陽
大型スーパーが近くにかたまっているために、商品が競争しているように値段が安く手に入る。	40 歳代	男	末武

商業施設が整っており、日常の買い物が便利	70 歳代	男	花岡・生野屋
日々買い物をするスーパーが多くあるので選択の幅が良い	40 歳代	女	花岡・生野屋
ゆめタウンやサンリブなど大きなスーパーがあり、駐車場も広く無料で停められるので便利です。	50 歳代	女	花岡・生野屋
各店舗が駐車場を持ち、買い物がしやすい、次の店舗に行くにも大通りを通らなくても様々な道があること。かつての下松と比べるとファッションに関しても若者向きが増え、明るくなった。	60 歳代	女	笠戸島

4 産業活動の活発さ ( 38 )

以前より活発になった。話題が多くなり、よく耳にする。	70 歳代	女	久保・東陽
日立笠戸工場、笠戸ドック、中国電力、東洋鋼板それぞれ大手企業が産業に取り組んでいる。素晴らしいと思う。	70 歳代	女	下松
ものづくりのまちとして産業活動が活発。より日本中へ世界へ、下松を発信させてほしい。	70 歳代	女	末武
電車や新幹線や高速鉄道を作っている企業があるという事は自慢できると思います。	40 歳代	男	久保・東陽
商業都市なので市民にとってはかなり生活しやすい。買い物するにも選択できる。人の動きを感じる。	60 歳代	女	笠戸島

5 道路や交通機関の便利さ ( 57 )

道路はきれいで通りやすく、電車やバスも本数は少ないが、使いやすい場所にあるのでよいと思う。	30 歳代	女	末武
幹線道路は良く整備されている。ただし、生活道路もさらなる整備を望む	70 歳代	男	下松
空港までは1時間かかるが、高速道路も新幹線も利用しやすい。	60 歳代	女	末武
道路がとてもキレイだと思う。	70 歳代	女	下松
交通機関はバス停までが家から遠いため、もう少し近くにあればよいと思います。	50 歳代	女	末武
高齢にてバスの利用度が多く、病院等への便が少しずつ少なくなり、専用の小型バスができると幸せです。	80 歳以上	女	末武

6 生きがいの持てる仕事ができる場 ( 6 )

個人的に専門職のキャリアを生かした仕事が続けられる場所がある。	60 歳代	女	花岡・生野屋
---------------------------------	-------	---	--------

7 自分の希望に合った勉強の機会 ( 1 )

8 医療や福祉の面の充実度 ( 52 )

次々に市内に病院、福祉施設等開設しており、充実度もますます充実してきています。	60 歳代	男	久保・東陽
医療機関が住まいの近くにあり便利だと思う	70 歳代	男	末武
近くに個人医院があって通院しやすい。関係の諸機関から十分な援助、助言がいただける。	80 歳以上	女	花岡・生野屋
子供の医療費がいらぬのがとても助かります。他の市の人にうらやましがられます。	40 歳代	男	花岡・生野屋
所得制限なしの子供医療費無料は本当にありがたいです。	30 歳代	女	末武
加齢とともに病院に通うことも多くなり、経済的負担、認知症の問題、どう受け入れてもらえるものかなど、とても不安があります。	70 歳代	女	末武

9 遊びや交流の場 ( 19 )

ゆめタウン下松。映画館にフードコート、ショッピング、食事と便利、個人的にはアウトレット期待している。	50 歳代	男	末武
恋路など子供を遊ばせるところがある。	40 歳代	男	下松
映画館が近くにある。健康面の教室等もたくさんあるようですが、どこで何をやっているのかの情報がよくわからない。	60 歳代	女	末武
公共の場でもあり、市民の集う米泉湖、恋路、笠戸など、いつも整理され(草取り)植物など、きれいにされているのはとてもいいことだと思います。	60 歳代	女	花岡・生野屋

10 新しい情報の得やすさ ( 2 )

11 文化活動やスポーツ活動 ( 26 )

公民館活動が活発で特に秋にはきつね嫁入り等の行列では懐かしく昔を思い出させてくれ、ずっと続けてほしい行事である。	80 歳以上	女	花岡・生野屋
人口が少ないので、都会に比べると、市などが企画することに自分が望めば機会を与えられるところ。	50 歳代	女	下松
保健センターの健康増進施設を利用させてもらい、感謝している。	70 歳代	男	末武
スポーツ施設が充実しているので色々なスポーツが出来る。	10, 20 歳代	男	久保・東陽
私の趣味は卓球ですが、高齢者の方々が生涯スポーツとして元気に頑張っておられること。	50 歳代	女	花岡・生野屋
吹奏楽部や地元スポーツ少年団が中国大会や全国大会に出場し、好成績を収めている	10, 20 歳代	男	花岡・生野屋

12 歴史と伝統 ( 23 )

きつねの嫁入り等、歴史を大切にしている。もっとアピールして良い	50 歳代	男	花岡・生野屋
花岡地区の「きつねの嫁入り」や花岡八幡宮など昔から伝わるものを大切にしている地区がたくさんあること。	30 歳代	女	末武
山口県は明治維新に活躍した人物が多く、下松市でも長岡外史さんという人物が後世に残したことは大きいと思いました。きつねの嫁入りなど、そういった伝統も守っていききたい財産ではないかと思う。	10, 20 歳代	女	末武

13 心の豊かさや親切さ ( 27 )

小学生～年配の方、みんなよく挨拶をするまちなだと思いました。やさしい方が多く、この町で子育てをしたいと思った。	30 歳代	女	久保・東陽
親切な方が多い。心が穏やかな方が多いので、自分個人でも親切な気持ちにさせられ、親切をしたくなる。	70 歳代	女	花岡・生野屋
町内会の連絡網や活動がしっかりあり、市がバックアップしていることは実感としてある。	60 歳代	男	花岡・生野屋
近所付き合いが良く、だれにでも挨拶ができる。安心して暮らすことができる。	10, 20 歳代	女	下松
人のつながりが深く、良い意味で田舎的な雰囲気にも包まれている。	60 歳代	男	久保・東陽

14 総合的に(全体的な住みよさ) ( 68 )

気候もよく、交通の便等、最近マンション等も建設され、人口も増加している町からも住みよさがうかがえる。	60 歳代	男	末武
交通の便利さ、自然も豊か、災害も比較的少ない。水道料金も安い。火葬場も近くて安い。	70 歳代	男	下松
商業施設や学校など近くにあるので、総合的に見て過ごしやすい環境であると感じる。	10, 20 歳代	女	下松
買物の便利さ、市内の行政関係の便利さ、若い方、子供たちが多く、住みやすさを感じられている。	60 歳代	男	花岡・生野屋
すぐく住みやすい町だと思いますが、下松市は保育園の待機児童が多いので、働きたくても、一時預かりなどいっぱいではなかなか働けない人が多いと思う。保育園をもっと増やしてほしいです。	10, 20 歳代	女	末武
総合的に街が良い意味でコンパクトなので、車があれば便利だと思う。山があり、海もあるところがとても好きです。	40 歳代	男	花岡・生野屋
水道料金が安かったり、子供の医療費が無料であったり、光や周南へもアクセスが良かったり、ここに住んでよかったと思っています。	40 歳代	女	花岡・生野屋

記述は多岐にわたるが、「気候の良さ」に関して、災害が少ないことを自慢内容にあげる回答が多いのが特に目立った。

### 3. まちづくり施策の満足度・重要度

#### (1) 施策の満足度

■問5 下松市のまちづくり施策について、あなたはどの程度満足していますか。次の分野ごとに、それぞれの「現在の満足度」の程度を1～6の中から1つずつ選んで、番号を○で囲んでください。また、選択した理由としてご意見がありましたら「理由」欄に記入してください。

まちづくり施策の現状における満足度評価を、26の分野ごとに5段階の選択肢から選ぶ形での回答を求めたものである。

比較をしやすいするため、「満足」＝2点、「まあ満足」＝1点、「普通」＝0点、「やや不満」＝－1点、「不満」＝－2点として、回答数（「わからない」及び無回答を除く）で加重平均した値を評価点として示した。評価点がプラスであれば平均的に「満足」の比重が高く、マイナスであれば「不満」の比重が高いと言える。

26項目のうちこの評価点が最も高いのが「上水道の整備や水質の維持」であり、評価点は0.56であり、「満足」と「まあ満足」の合計割合は44.5%となっている。「ごみ収集・処理とリサイクル推進」、「学校教育の充実」がこれに次いでいる。また、「満足」と「まあ満足」の合計割合の高さでみると、「道路・交通網の整備」（36.4%）、「下水道・河川の整備」（30.5%）、「公園・緑地の整備」（29.9%）なども高い満足度水準であると言える。

逆に、最も評価点が低いのは、「鉄道・バスなど公共交通の充実」であり、－0.52という評価点は他の項目と比べその低さが際立っている。「やや不満」と「不満」の合計割合は47.8%と半数近くに達しており、この値も突出している。

このほか、「観光資源の開発や施設の整備」、「雇用の確保や企業誘致」なども評価点が低位であるが、産業分野の項目は「わからない」の割合も相対的に高い点に注意を要する。

年齢別にみると各項目で評価の相違の状況がそれぞれ異なるが、全体で最も厳しい評価である「公共交通の充実」については、年齢が若い層ほど厳しい評価であることが明瞭である。この項目は、性別においては女性の方が男性より厳しい評価となっている。

このほか、「ごみ収集・処理とリサイクル推進」では年齢層が高いほど評価点が高い点、「雇用の確保や企業誘致」では50歳代で最も低い評価点となっている点、スポーツや文化に関する項目では若い層、特に10、20歳代で比較的高い評価点である点などを読み取ることができる。

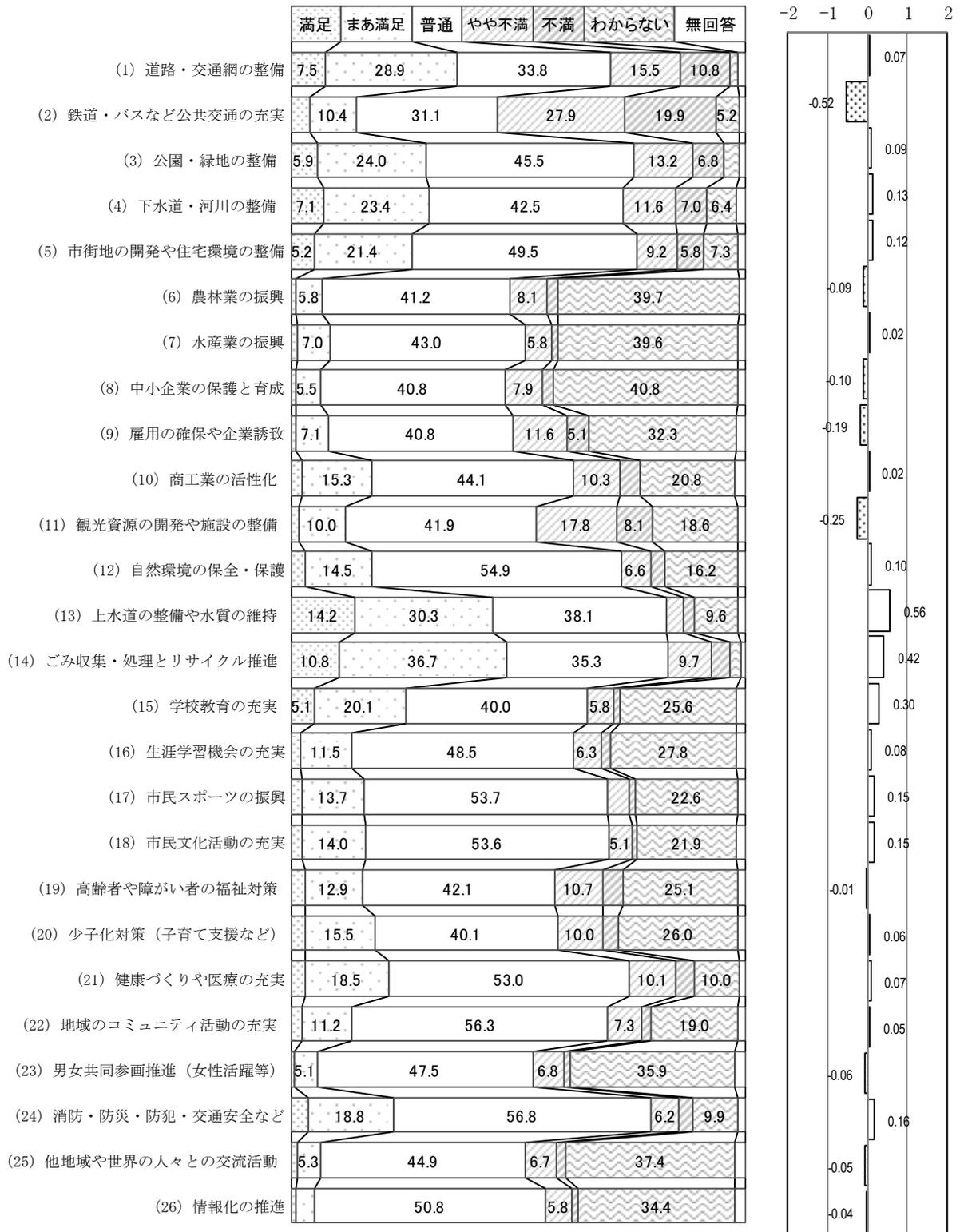
「高齢者や障がい者の福祉対策」では、高齢者予備軍とも言える50歳代での評価点が最も低い一方で、10、20歳代の評価点がプラスで最も高いといった世代間ギャップも見られる。

性別では、文化、スポーツ、少子化対策（子育て支援）、健康・医療に関する項目で女性の方が高い評価点である反面、観光、雇用や農林業、水産業といった産業分野の項目では女性の方が厳しい評価である点も注目される。

総数=730

単位：%

<評価点>



注) 「評価点」は、「満足」＝2点、「まあ満足」＝1点、「普通」＝0点、「やや不満」＝-1点、「不満」＝-2点として、回答数（「わからない」と無回答を除く）で加重平均した値

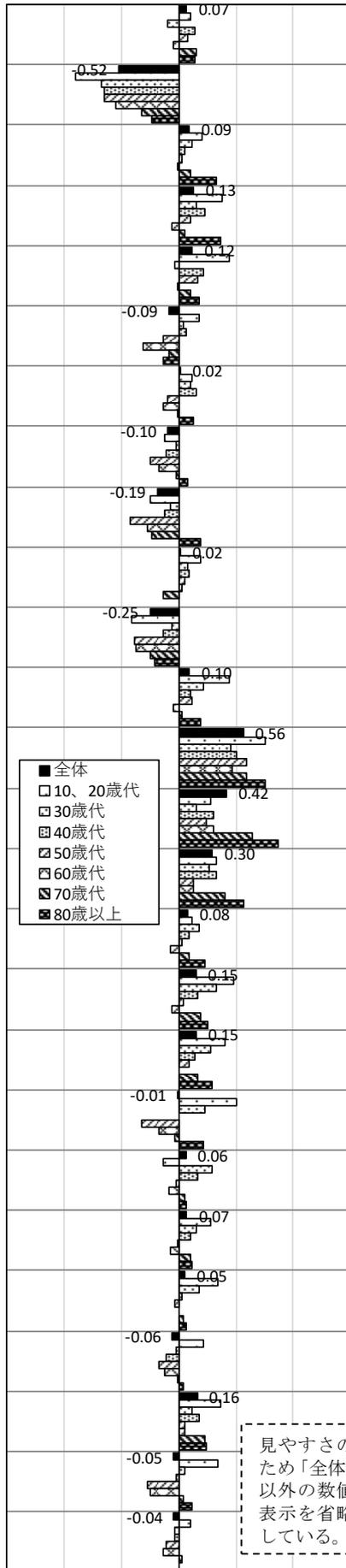
※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

評価点

年齢別

-1.5 -1.0 -0.5 0.0 0.5 1.0 1.5

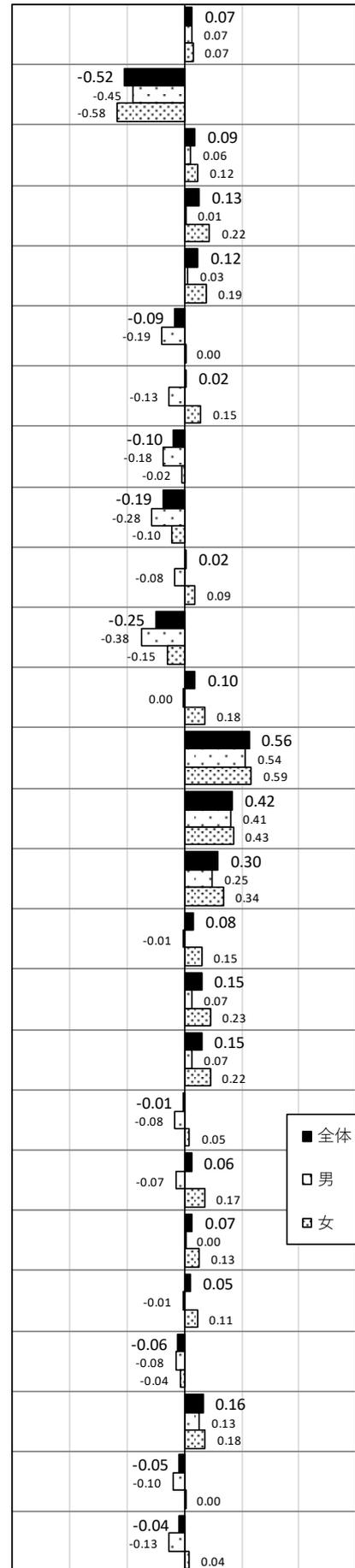
- (1) 道路・交通網の整備
- (2) 鉄道・バスなど公共交通の充実
- (3) 公園・緑地の整備
- (4) 下水道・河川の整備
- (5) 市街地の開発や住宅環境の整備
- (6) 農林業の振興
- (7) 水産業の振興
- (8) 中小企業の保護と育成
- (9) 雇用の確保や企業誘致
- (10) 商工業の活性化
- (11) 観光資源の開発や施設の整備
- (12) 自然環境の保全・保護
- (13) 上水道の整備や水質の維持
- (14) ごみ収集・処理とリサイクル推進
- (15) 学校教育の充実
- (16) 生涯学習機会の充実
- (17) 市民スポーツの振興
- (18) 市民文化活動の充実
- (19) 高齢者や障がい者の福祉対策
- (20) 少子化対策（子育て支援など）
- (21) 健康づくりや医療の充実
- (22) 地域のコミュニティ活動の充実
- (23) 男女共同参画推進（女性活躍等）
- (24) 消防・防災・防犯・交通安全など
- (25) 他地域や世界の人々との交流活動
- (26) 情報化の推進



見やすさのため「全体」以外の数値表示を省略している。

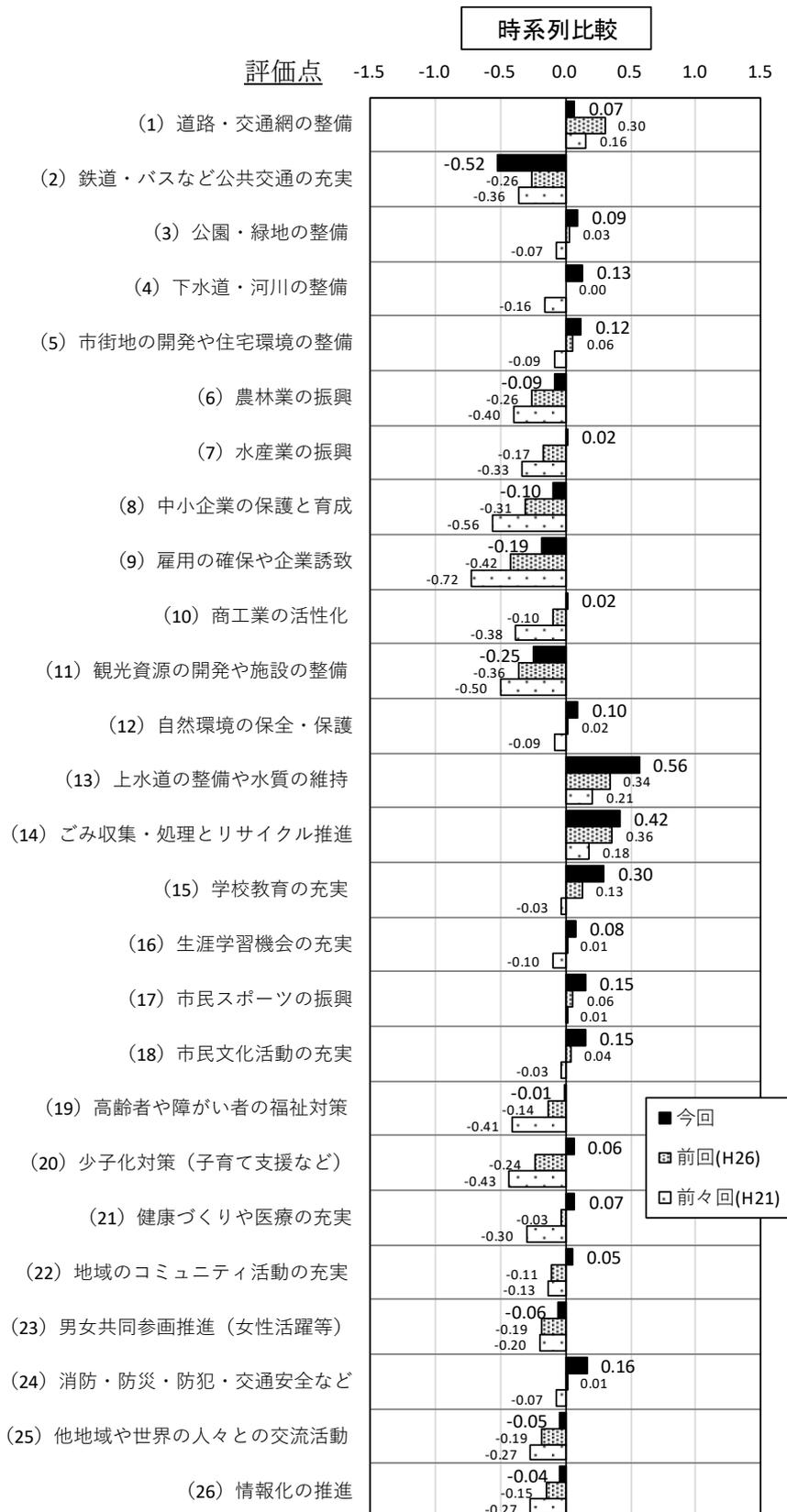
性別

-1.5 -1.0 -0.5 0.0 0.5 1.0 1.5



この設問は、過去のアンケート調査でも同様に行っており、前回（H26）、前々回（H21）と比較すると多くの項目で評価点が上昇傾向（満足度が向上傾向）にあると見られるが、「鉄道・バスなど公共交通の充実」及び「道路・交通網の整備」に関しては、前回から評価点が大きく下落している。

注）項目名の表現は年次によりやや異なるものがある。



本設問では、項目ごとに、満足度の回答に対してその「理由」の記述を求めている。各項目における代表的な記述内容を抽出して以下に示す（原文のまま）。抽出は、できるだけ内容の偏りがないうように留意し、類似の回答があるものを極力選定している。

（以下の表中で、（ ）内の数値は、当該項目での記述回答の数である（総計 1,195 件）。）

満足度	理由・意見記述	年齢	性別	居住地区
-----	---------	----	----	------

### 1 道路・交通網の整備 ( 118 )

満足	市街地はキレイな道が多い。	30 歳代	女	末武
まあ満足	道路整備はよいが、後々草が生えて通行するのに困る（特に歩道）	70 歳代	男	下松
まあ満足	広い道も多く、運転しやすい。住宅街はせまい。	30 歳代	女	末武
普通	東西の道路はよくなっているが、南北の交通が不便	60 歳代	男	下松
普通	路面整備をもっとしてほしい。	60 歳代	女	末武
やや不満	子供が自転車で走行するとき、せまくて危ないところが気になります。	40 歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	白線が消えて危ない。	60 歳代	女	久保・東陽
不満	市街地の整備ばかりでなく、田舎の方の整備を進めてほしい	60 歳代	女	久保・東陽
不満	末武を中心に道が細いうえわかりづらい。混雑・渋滞の程度も大きい。	30 歳代	男	末武
不満	道がせまい。用水路にふたがなく、危ない。	30 歳代	男	末武

### 2 鉄道・バスなど公共交通の充実 ( 172 )

やや不満	岩徳線の本数が少ない。せめて 1 時間に 1 本ないと益々利用者が減ると思う。	40 歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	市街地から離れているので、車の運転ができなくなったら不安。	60 歳代	女	久保・東陽
やや不満	バスの本数が少ない。最終バスの時間が早い。	30 歳代	男	花岡・生野屋
やや不満	本数も少なく、公共交通機関を利用しづらい。	30 歳代	女	末武
不満	下松市内のぐるりんバスなどを、岩徳線の維持と増便を。	60 歳代	男	花岡・生野屋
不満	鉄道もバスも不便なので使えない。	30 歳代	女	末武

### 3 公園・緑地の整備 ( 86 )

満足	よく整備されていると思う。	60 歳代	女	下松
まあ満足	維持管理の必要性重要	60 歳代	男	久保・東陽
普通	公園の整備等をもう少し充実していればよいと感じる。	60 歳代	男	久保・東陽
やや不満	大きな公園は整備が行き届いているが、小さいところはそうでもない。	70 歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	子どもが遊べる公園がもう少しあっても良い。	40 歳代	男	下松
不満	使われてないような公園。あれはてる。雑草が多い	40 歳代	女	花岡・生野屋

### 4 下水道・河川の整備 ( 71 )

まあ満足	下水道は良好。河川はいまいち。	80 歳以上	男	末武
普通	河川の上流は川幅が狭く、オーバーフローの心配がある	60 歳代	男	久保・東陽
やや不満	下松は川が多いので、大雨などで災害が起こらないよう、河川の整備をしてほしい。	40 歳代	女	久保・東陽
不満	下松市はこれらの整備がまだまだ行き届いていないようです。	60 歳代	男	久保・東陽

### 5 市街地の開発や住宅環境の整備 ( 64 )

満足	マンションこれ以上いらない	70 歳代	男	下松
まあ満足	将来、一戸建てを建てたいがもう土地がないと聞く。	30 歳代	女	下松
普通	空き家の処遇、処理、整理、整備(無居住)	70 歳代	女	下松
やや不満	細かい道路しかないところが住宅用に開発されている。	10, 20 歳代	女	花岡・生野屋

不満	道路のないところに無計画に住宅をたてすぎているため、道路がせまくて住んでいて不便と危険がたくさんある。	60歳代	女	末武
----	---	------	---	----

**6 農林業の振興 ( 30 )**

普通	農業には不安。若者があまり従事しない。	80歳以上	女	末武
やや不満	農地や山林の荒廃が目立つ。	50歳代	男	下松
不満	山林は荒れ放題で危険。	60歳代	女	末武

**7 水産業の振興 ( 26 )**

まあ満足	養殖している魚などを活用して海の駅として(笠戸ハイツ跡地)	60歳代	男	花岡・生野屋
普通	笠戸ヒラメの宣伝と観光客向けの見学会等	70歳代	女	下松
やや不満	海が近いのに、魚の流通や値段が高い。悪い。	40歳代	男	末武
不満	海をもっと活用すべき	80歳以上	男	久保・東陽
わからない	何をしていたり何があるのかどの程度のものか全く知らない。	30歳代	男	末武

**8 中小企業の保護と育成 ( 22 )**

やや不満	会社経営をしている中で、特に保護と育成に力を入れているようには感じない。	10, 20歳代	男	末武
不満	若い人の働ける場所の確保	70歳代	女	末武

**9 雇用の確保や企業誘致 ( 33 )**

やや不満	障害者や女性の雇用はもっと増えてよいのでは？と思う。	10, 20歳代	女	末武
不満	企業進出出来る事が望ましい。	50歳代	女	久保・東陽
わからない	市が発展するためには、やはり働く場所が欲しい。やりがいいのある企業誘致を。	70歳代	女	久保・東陽

**10 商工業の活性化 ( 30 )**

まあ満足	大型店がたくさんあり、消費者としてはうれしいが、昔からの小売店がやっていけないのが残念。	60歳代	女	下松
やや不満	食品購入は充実していますが、雑貨など若い人が購入できるといいと思います。	50歳代	女	花岡・生野屋
不満	企業努力によるところが大きく、市がどのような施策をしているのか努力が感じられない	30歳代	男	花岡・生野屋

**11 観光資源の開発や施設の整備 ( 62 )**

まあ満足	笠戸島の観光開発は現状程度でよいと思います。	80歳以上	男	末武
普通	下松は観光開発はあきらめた方がよい(これといった名所もないので開発費ももったいない)	60歳代	男	下松
やや不満	大城だけでなく、笠戸ハイツを活用して集客できる施設に	60歳代	男	花岡・生野屋
やや不満	観光の目玉商品が見当たらない。	70歳代	男	下松
不満	笠戸島が生かされていない。もったいないと思う。	60歳代	女	久保・東陽
不満	下松市の観光資源がない。宿泊施設も少ない。	40歳代	男	花岡・生野屋

**12 自然環境の保全・保護 ( 28 )**

普通	川の草が多い。出水に備えてほしい	80歳以上	女	末武
やや不満	山と海が近いだけ。市街地に緑がない。街路樹も枯れている。	40歳代	男	末武
不満	手入れされていないところが目立つ。	50歳代	男	下松

**13 上水道の整備や水質の維持 ( 34 )**

満足	ダムが2つあり、水不足の心配がなく、水道料金も安いから。	80歳以上	女	末武
まあ満足	水道料金が安く、水もおいしいと思う	30歳代	男	花岡・生野屋
やや不満	大雨が降ると水が泥臭い。	40歳代	男	下松
不満	水がまずい	40歳代	女	花岡・生野屋

14 ごみ収集・処理とリサイクル推進 ( 89 )

満足	分別が細かいが理解できる。住民の意識レベルが低い(高齢者には難しい)	40歳代	女	花岡・生野屋
まあ満足	有害ゴミなどの特殊なゴミの回収日の少なさ(ビン、缶)	40歳代	女	花岡・生野屋
普通	ごみの分別が細かくて、よく分からないことがある	30歳代	女	末武
やや不満	細かい分別に、どこまで意味があるのかわからない。	30歳代	男	末武
不満	分別が多くて驚いた	30歳代	女	久保・東陽

15 学校教育の充実 ( 47 )

普通	小・中学校の数を増やせないか(マンモス校が多いと感じる)	30歳代	男	末武
やや不満	早急に各学校への冷暖房施設への対応を望みます。暑さ寒さがキツイと勉強に身が入らない。	60歳代	男	久保・東陽
不満	校区の変更を行い各学校を平均化(小学校など)	50歳代	男	米川
わからない	一般的な教育をするのではなく、一人一人の個性を伸ばせるような教育の充実を。	70歳代	女	久保・東陽

16 生涯学習機会の充実 ( 23 )

やや不満	何かしようと思った時にどの程度のものがどのようにあるのか情報がない	30歳代	男	末武
わからない	図書館などあまり出かけない	80歳以上	女	花岡・生野屋

17 市民スポーツの振興 ( 20 )

やや不満	スポーツを行う環境整備を充実して欲しい。	40歳代	男	下松
わからない	どのようなスポーツがどこで行われているのかわかりづらい。もう少し情報を発信してほしい。	10, 20歳代	女	末武

18 市民文化活動の充実 ( 18 )

まあ満足	スターピアくだまつでの各種イベントが充実している。	40歳代	男	花岡・生野屋
普通	文化施設の充実が必要	40歳代	男	久保・東陽

19 高齢者や障がい者の福祉対策 ( 35 )

普通	困難かもしれないが、福祉施設を増加したらよいかも。知人で入所したくてもできない方がおられるから。	10, 20歳代	男	久保・東陽
やや不満	高齢者施設が少ないので、施設に入居できない人が多い。	50歳代	女	花岡・生野屋
不満	高齢者がますます増えるのに、果たして生活しやすい環境なのか。	60歳代	女	久保・東陽
わからない	障害で困っているとき、障害年金は受けられません。と一言で言われ路頭に迷った。	10, 20歳代	女	末武

20 少子化対策(子育て支援など) ( 40 )

まあ満足	医療費が6年生まで無料はありがたい。	40歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	希望者を全員保育園に入れるようにしてほしい	60歳代	女	花岡・生野屋
不満	保育園に入りやすくしてほしい。正社員でないと空きがなく、働けない。	40歳代	男	下松

21 健康づくりや医療の充実 ( 35 )

普通	下松に産婦人科がない。光や周南に行っている。救急受付病院がない(周南記念病院は救急受付はできない)	70歳代	男	末武
やや不満	介護予防なる活動があれば、もっと地域で広告してほしい。	10, 20歳代	女	下松
不満	大きい病院があっても専門がないのでよそに行くようになる。	30歳代	男	久保・東陽

22 地域のコミュニティ活動の充実 ( 20 )

やや不満	子供会に入らない人が多いので、活動が前のようにできない	40歳代	女	末武
不満	リーダーは期限付きで交代させるべき、マンネリ化している	70歳代	男	花岡・生野屋

**23 男女共同参画推進(女性活躍等)** ( 17 )

やや不満	まだまだ女性の管理職は少ない	60歳代	女	下松
不満	実際には浸透していないように感じる。男女差はある。	40歳代	女	久保・東陽

**24 消防・防災・防犯・交通安全など** ( 39 )

まあ満足	消防団として活動し充実しているなど実感しています。	10, 20歳代	男	久保・東陽
普通	防災無線を時々しているみたいですが、全然聞こえません(何を言ってるか)	70歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	高潮の際の避難場所をしっかりと決めてほしい。	50歳代	女	久保・東陽
不満	道がせまく消防車が通れないのでは？空き家が多く、防犯に不安。防犯カメラも設置してあるのか不明。	60歳代	男	下松

**25 他地域や世界の人々との交流活動** ( 16 )

やや不満	外国人が多いが、交流ない。交流活動を活発に	60歳代	男	下松
不満	以前は国際交流の集いなどがあったが、今はない。復活を望む。	60歳代	女	下松

**26 情報化の推進** ( 20 )

普通	情報のほとんどをインターネットから取得している。	70歳代	女	末武
やや不満	下松災害メールは、エリアメール化にすべき。	60歳代	男	下松
不満	FreeWi-Fiを増やす。市街地でなく(例)米泉湖等の人が集まる場所	50歳代	男	米川

全体に、「やや不満」、「不満」の内容の記載が多いが、「満足」や「やや満足」であっても、意見や要望に相当する内容を記載する例も目立つ。

## (2) 施策の重要度

■問6 上の(1)～(26)の中で、これからのまちづくりでは、特にどのような分野の施策を進めることが重要だと思いますか。 (1)～(26)の中から5つまで選んで番号を口の中に記入してください。

問5で満足度評価を尋ねた26の施策分野項目に対して、今後重要と思われるもの5つまでの選択を求めたものである。

最も多い回答項目は「高齢者や障がい者の福祉対策」であり、36.3%と1/3以上の回答者が選択している。これに「鉄道・バスなど公共交通の充実」が僅差で続き、以下、「少子化対策（子育て支援など）」、「消防・防災・防犯・交通安全など」、「健康づくりや医療の充実」の順で、ここまでが25%以上である。

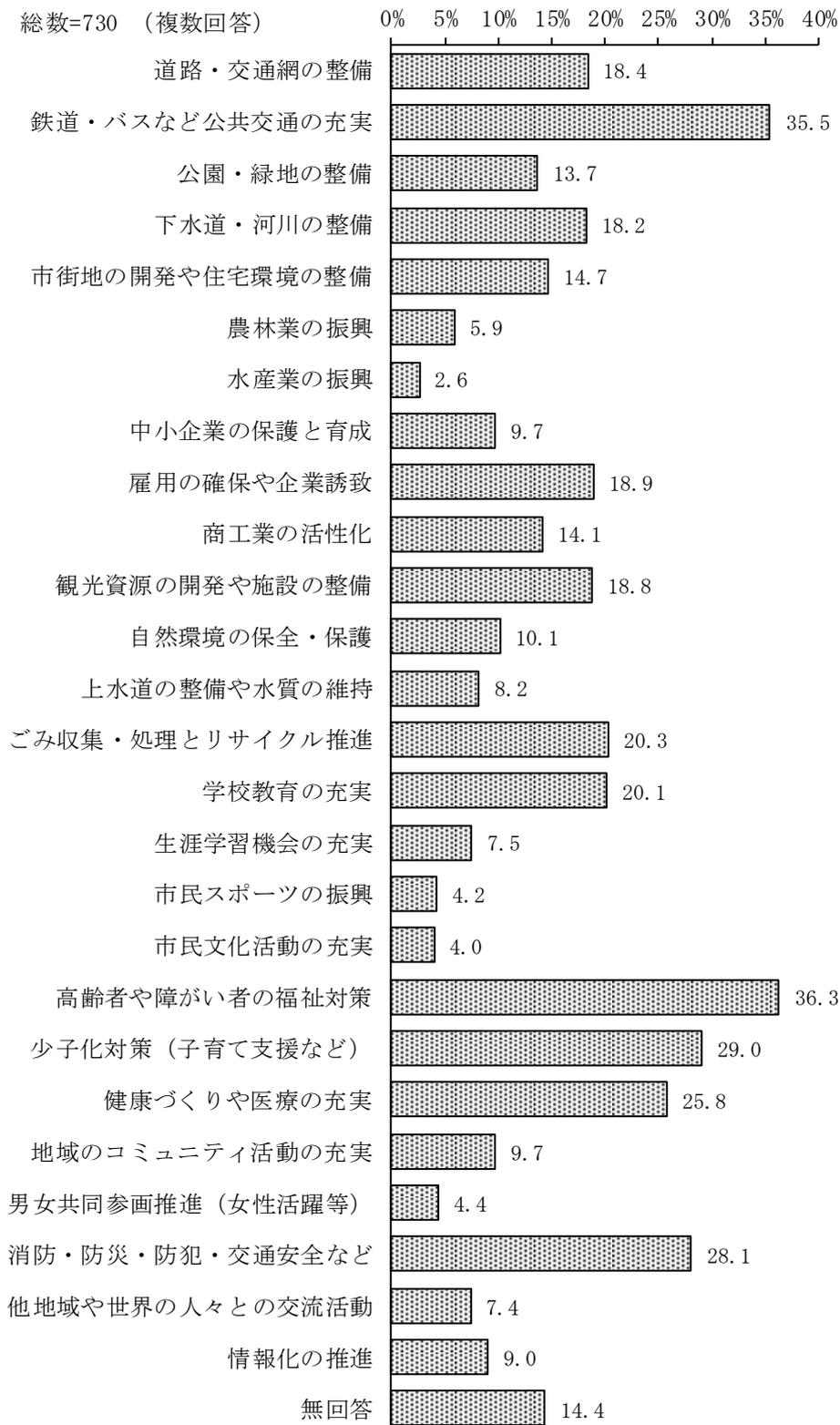
年齢別でみると、全体で2位の「鉄道・バスなど公共交通の充実」は、年齢層が若いほど強く求めており、全体1位の「高齢者や障がい者の福祉対策」は高齢者で相対的に高い割合であるが、10、20歳代でも比較的高い割合を示している。「少子化対策（子育て支援など）」や「学校教育の充実」は、10、20歳代～30歳代での回答割合が相対的に高く、子育て世代の当事者が施策の充実を強く求める部分が大いと考えられる。

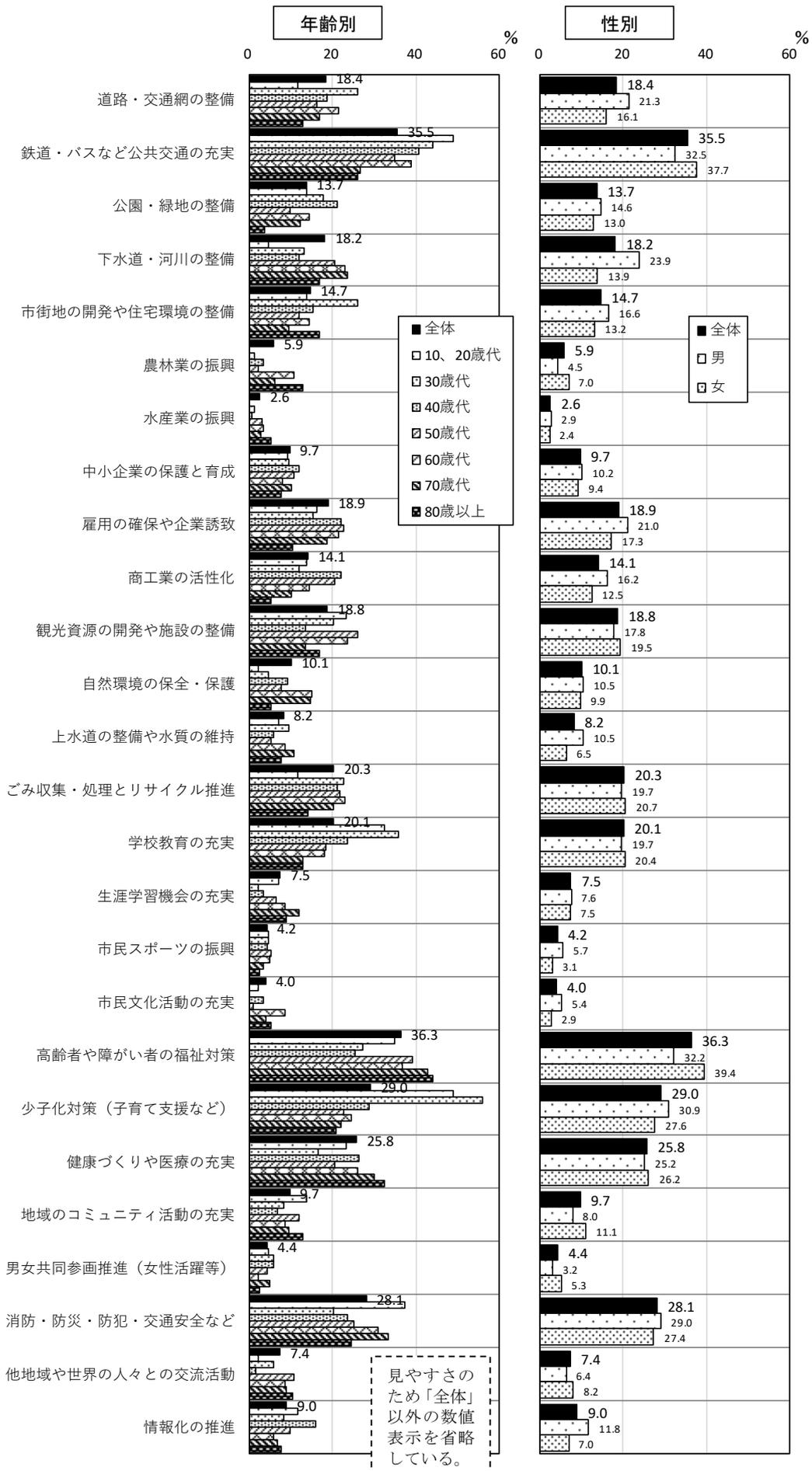
また、「雇用の確保や企業誘致」、「商工業の活性化」といった項目では、現役世代の中心である40～50歳代で最も回答割合が高くなっている。

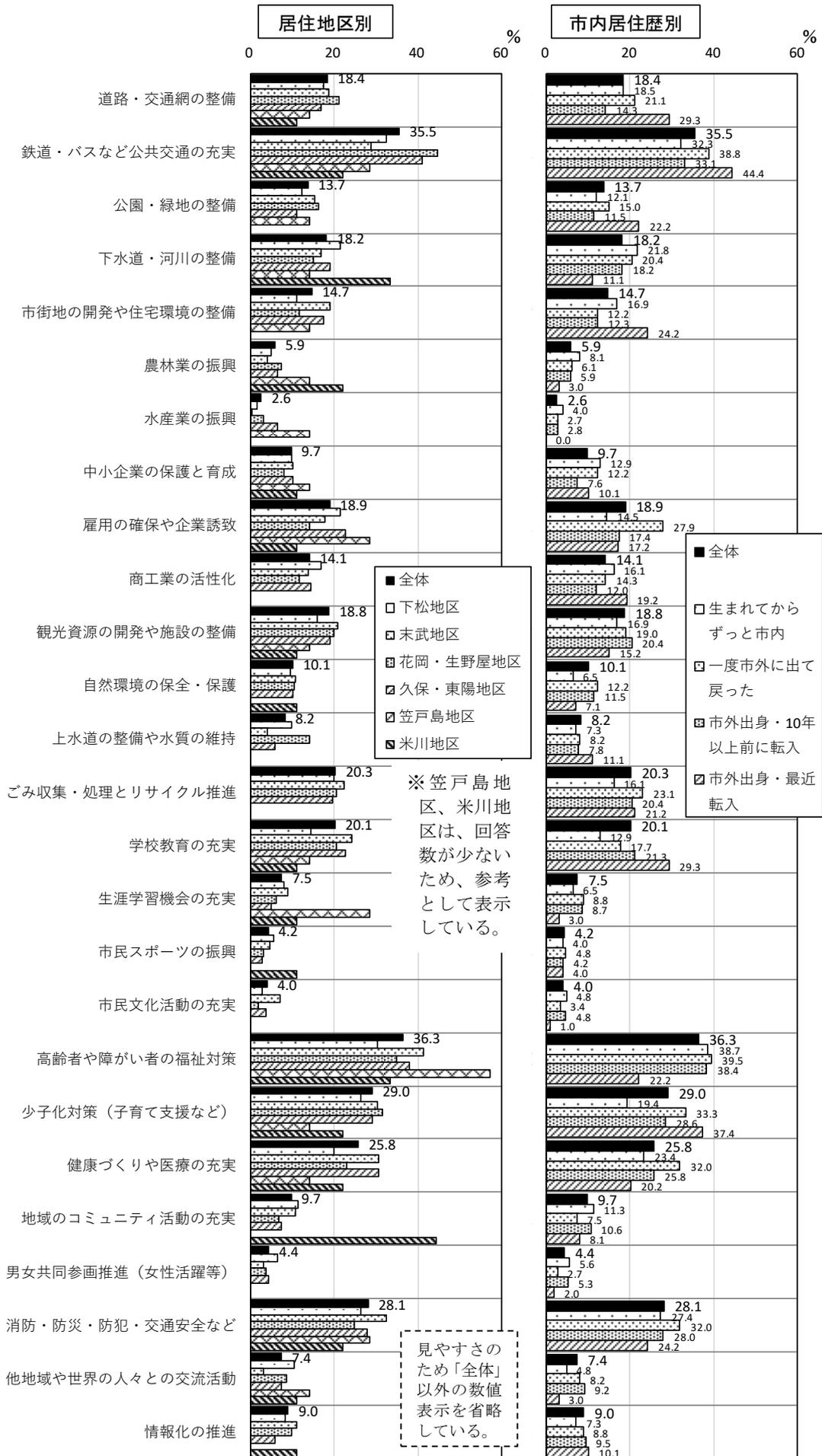
性別では、「道路・交通網の整備」、「下水道・河川の整備」、「市街地の開発や住宅環境の整備」、「雇用の確保や企業誘致」、「商工業の活性化」で男性の方が女性より目立って回答割合が高い一方で、全体で上位の「鉄道・バスなど公共交通の充実」、「高齢者や障がい者の福祉対策」においては女性の方が高い割合を示しており、それぞれ関心分野の相違が現れているとも見られる。

居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、「鉄道・バスなど公共交通の充実」は花岡地区で、「高齢者や障がい者の福祉対策」、「消防・防災・防犯・交通安全など」は末武地区で、「雇用の確保や企業誘致」は久保地区で、それぞれ回答割合が最も高くなっており、各地区の事情を反映している部分も大いと考えられる。

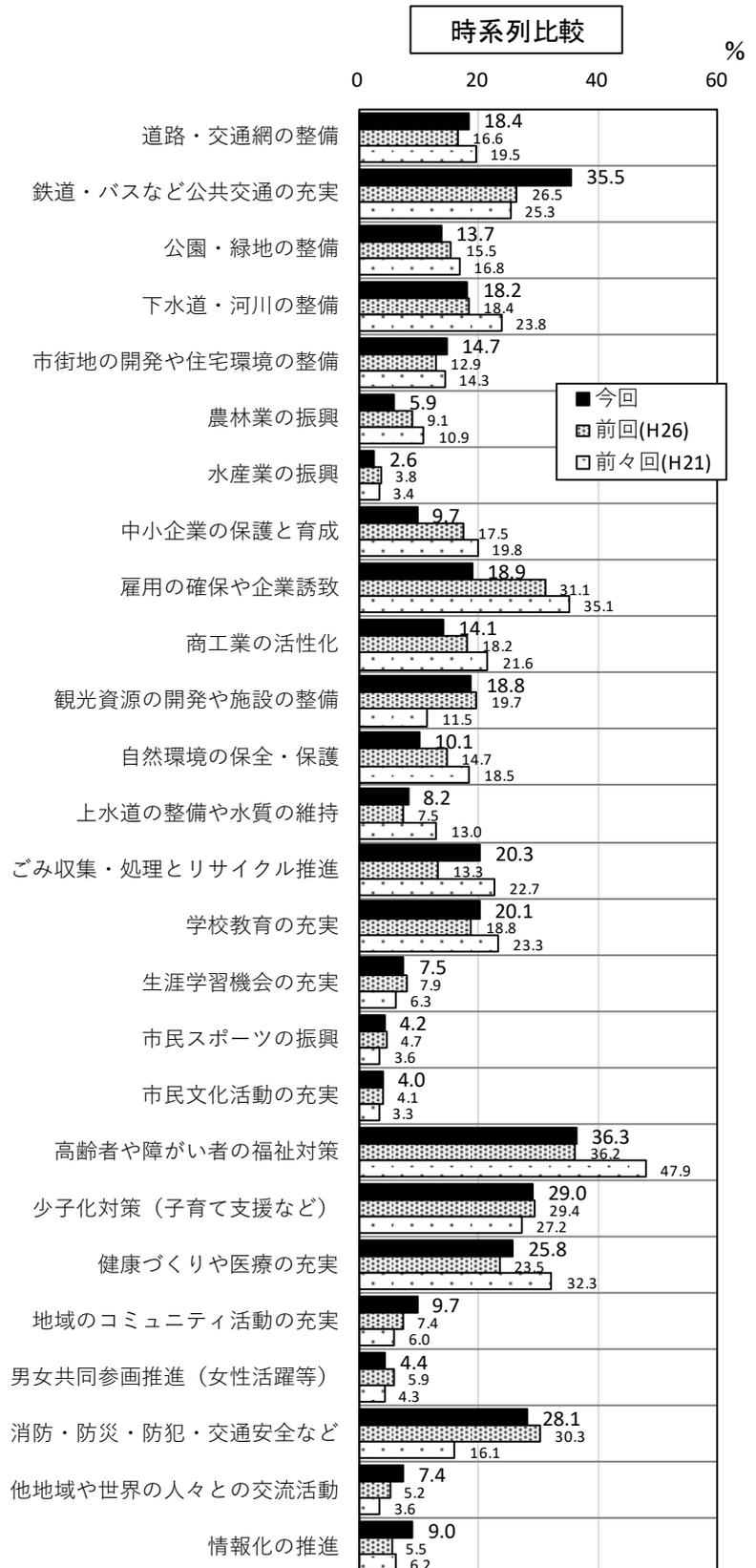
また、道路、公共交通、公園・緑地、市街地、学校教育、少子化対策（子育て支援など）に関する項目で、市外出身・最近転入の層の回答割合がそれぞれ最も高く、この層では比較的若い年齢層が多いこともあり、転入前の他地域との比較で求める部分も強くなっているとも考えられる。







前回（H26）・前々回（H21）の調査結果と比較すると、特に「鉄道・バスなど公共交通の充実」を求める回答割合が今回大きく上昇しており、人口の高齢化の進展とともに、日常生活の「足」に関する不安とそれへの対応を求める意識が急速に強まっているとも考えられる。一方、「雇用の確保や企業誘致」、「中小企業の保護と育成」、「商工業の活性化」の割合はかなり低下しており、近年の市内経済の活況がこれらの分野での不安を打ち消す方向に左右していることの現れとも見られる。



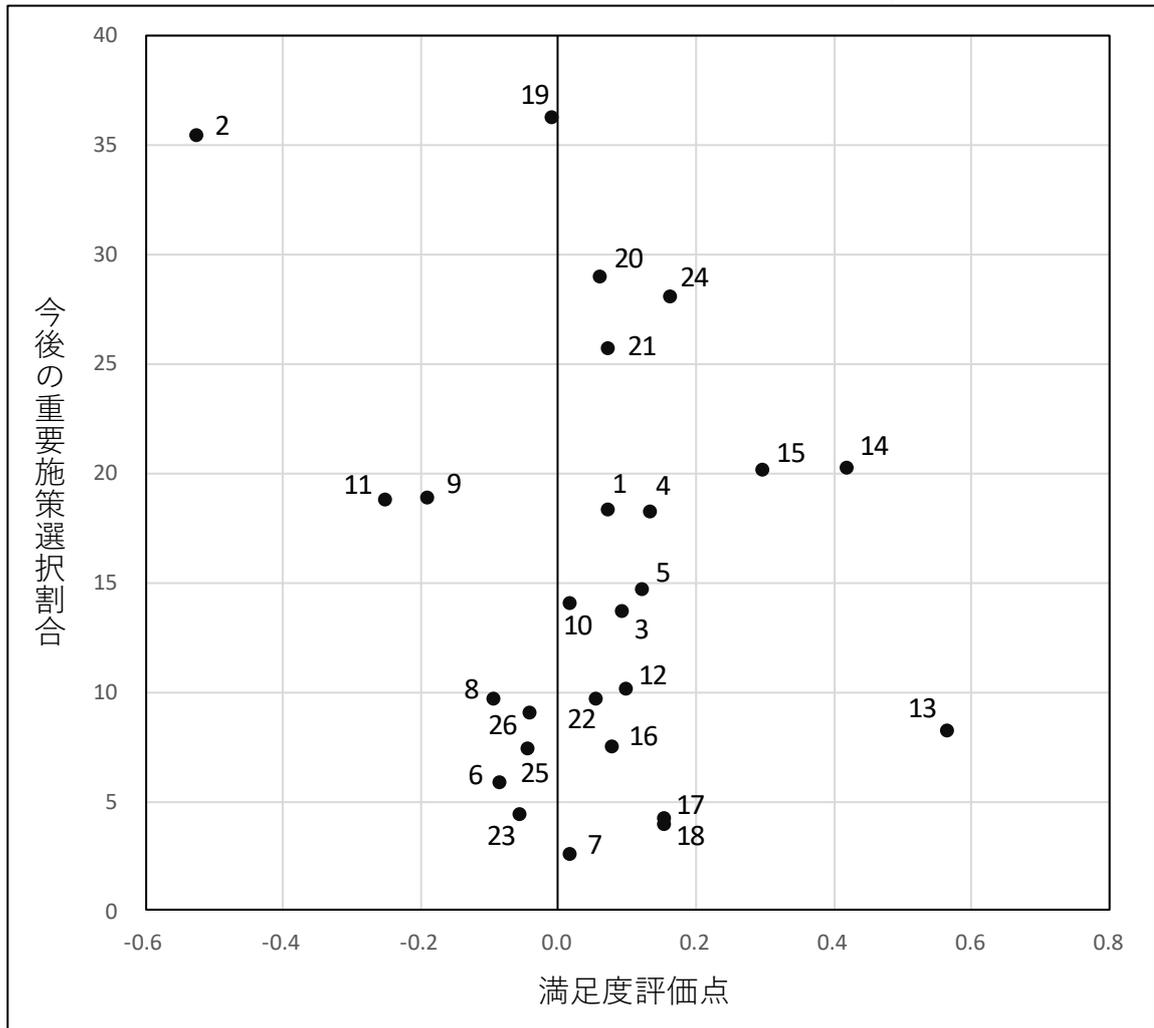
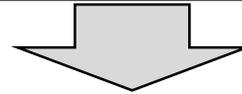
問5における各分野項目の現状における満足度評価点と、本問(問6)における今後重要な施策としての選択割合をクロスさせると、以下の図のようになる。

この図において、特に左上部の項目は、現状での満足度が低く、今後重要な施策との指摘の度合いが強いものであり、施策運営において注力すべき分野であると考えられる。

「鉄道・バスなど公共交通の充実」がその筆頭であり、「高齢者や障がい者の福祉対策」、「観光資源の開発や施設の整備」、「雇用の確保や企業誘致」などもそれに該当すると見られる。

- (1) 道路・交通網の整備
- (2) 鉄道・バスなど公共交通の充実
- (3) 公園・緑地の整備
- (4) 下水道・河川の整備
- (5) 市街地の開発や住宅環境の整備
- (6) 農林業の振興
- (7) 水産業の振興
- (8) 中小企業の保護と育成
- (9) 雇用の確保や企業誘致
- (10) 商工業の活性化
- (11) 観光資源の開発や施設の整備
- (12) 自然環境の保全・保護
- (13) 上水道の整備や水質の維持
- (14) ごみ収集・処理とリサイクル推進
- (15) 学校教育の充実
- (16) 生涯学習機会の充実
- (17) 市民スポーツの振興
- (18) 市民文化活動の充実
- (19) 高齢者や障がい者の福祉対策
- (20) 少子化対策(子育て支援など)
- (21) 健康づくりや医療の充実
- (22) 地域のコミュニティ活動の充実
- (23) 男女共同参画推進(女性活躍等)
- (24) 消防・防災・防犯・交通安全など
- (25) 他地域や世界の人々との交流活動
- (26) 情報化の推進

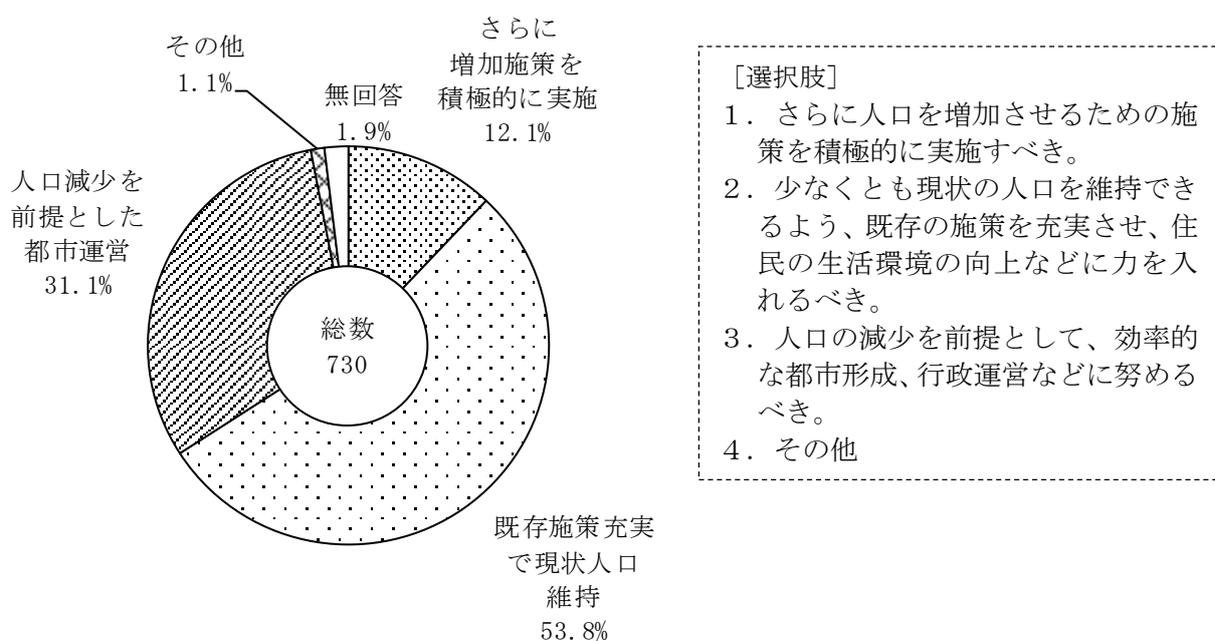
現状の満足度と、今後重要な施策の選択割合の関係図



## 4. 人口・少子高齢化社会への対応

### (1) 人口動向への対応

■問7 これまで下松市は人口増加を続けてきましたが、今後は、山口県全体や国と同様に減少が見込まれます。これに対し、どのように対応していくべきだと思いますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。



人口動向への対応方向としては、現在も続いている増加傾向を背景に、「現状の人口を維持できるよう既存施策の充実」が53.8%と半数以上を占め、これに「さらに人口増加施策を積極的に実施」の12.1%を加えると全体の約2/3を占める。「人口減少を前提とした都市形成、行政運営」を求める割合は31.1%にとどまっている。

下松市以外の県内市町、さらには全国的にも人口減少の流れがあるが、市民の間ではまだ危機感があまり感じられていないとみられることもできる。

<p>「その他」の主な記述内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の有効活用で。</li> <li>・子供を安心して生むことができる環境作り。保育園を増やす。産科がない点。</li> <li>・雇用を増やすべき。仕事がないと人は減ると思う。</li> <li>・山間部でも人が定住できるような資源の活用。公共交通等を整えるべき。</li> <li>・土地や家の値が上がり続けると、住みたくなくなる。その分収入が上がるならよいが、それが無い。</li> <li>・先ず若者が結婚しても経済的に充実し、住居ももう少し安くしたら、若者の生活力の安定が子どもを増やすのに繋がる！！</li> <li>・若い世代にも目を向ける必要がある。学校や就職など。</li> <li>・若い夫婦が子育てできる環境づくり、保育所(家の近く)保育士が不足ならボランティアでの手伝い、働きやすい環境づくりを考える。</li> </ul>
---------------------	---

年齢別には、あまり明確な傾向は読み取れないものの、60歳代、40歳代で「人口減少を前提とした都市運営」の支持割合が比較的高くなっている。

性別では、男性の方が「人口減少を前提とした都市運営」の割合が約4割と高いが、同時に「さらに増加施策を積極的に実施」の割合も女性より高く、両極化の傾向がある。

市内居住歴の相違による回答傾向の違いはあまり見られないが、市外出身者で「さらに増加施策を積極的に実施」の割合が相対的に若干高い。

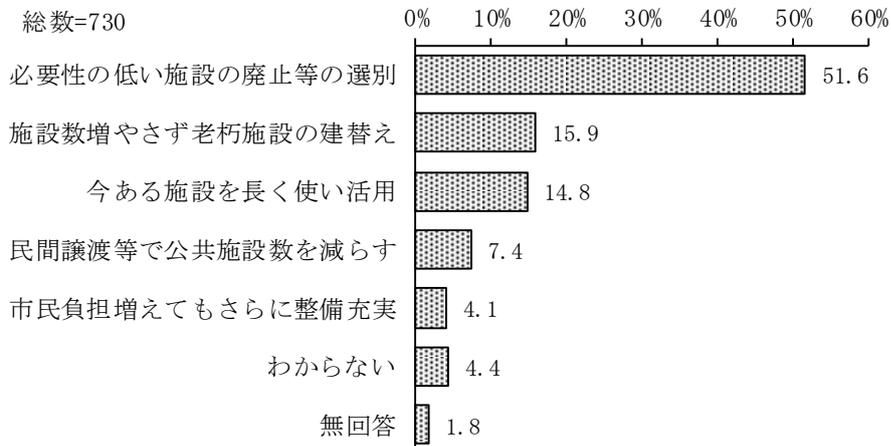
職業別では、自営・会社経営・農林漁業者で「人口減少を前提とした都市運営」の割合が最も高い41.1%となっている。

		実策さ 施をら 積増 的加 に施	持で既 現存 状施 策 人策 口充 維実	運提人 営と口 し減 た少 都を 市前	そ の 他	無 回 答	(%)
【凡例】							
【年齢別】		(n)					
	全体 (730)	12.1	53.8		31.1		
	10、20歳代 (43)	16.3	48.8		32.6		
	30歳代 (84)	11.9	60.7		26.2		
	40歳代 (118)	11.0	48.3		37.3		
	50歳代 (92)	13.0	57.6		27.2		
	60歳代 (139)	7.9	49.6		40.3		
	70歳代 (177)	14.7	54.2		27.1		
	80歳以上 (77)	11.7	59.7		23.4		
【性別】							
	男 (314)	14.3	44.6		38.5		
	女 (416)	10.3	60.8		25.5		
【市内居住経緯別】							
	生まれてからずっと市内 (124)	9.7	53.2		32.3		
	一度市外に出て戻った (147)	11.6	54.4		32.0		
	市外出身・10年以上前に転入 (357)	12.6	54.1		30.5		
	市外出身・最近転入 (99)	14.1	52.5		31.3		
【職業別】							
	自営・会社経営・農林漁業 (56)	12.5	46.4		41.1		
	会社員・公務員・店員など (222)	12.6	50.5		35.6		
	非正規・時間限定的な仕事 (123)	8.1	62.6		26.8		
	仕事はしていない (327)	13.1	54.1		28.1		

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

## (2) 公共施設のコスト増大への対応

■問8 公共施設の老朽化により、維持管理のコストが増大することが予想されますが、市内の公共施設について、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。



### [選択肢]

1. 必要性の高い施設は整備し、必要性が低くなった施設は廃止するなどの選別を進める。
2. 老朽化した施設の建替えを順次行い、施設の数が増やさない。
3. 今ある施設をできるだけ長く使い、活用するように努める。
4. 施設の民間譲渡などにより、公共施設の数減らしていく。
5. 公共施設は必要なので、市民の負担が増えてもさらに整備充実を進める。
6. わからない。

財政制約が高まる一方で、過去に整備した公共施設の老朽化が進み、維持管理コストの増大が予想され、市では公共施設等総合管理計画を策定しているが、これに対する対応方向の考え方としては、「必要性の低い施設の廃止など選別を進める」の支持が最も高く、51.6%を占めている。

また、「老朽化した施設を順次建替え、施設数は増やさない」や「今ある施設をできるだけ長く使い活用」という考え方がそれぞれ15%前後を占めている。

一方、「市民負担が増えてもさらに整備充実を進める」への支持は4.1%と少ない。

年齢別にみると、「必要性の低い施設の廃止など選別を進める」の割合が最も高いのは40歳代で、「老朽化した施設を順次建替え、施設数は増やさない」の割合が最大なのは10、20歳代という相違があり、また、「今ある施設をできるだけ長く使い活用」の割合が80歳以上で最も高い23.4%を示しているのは、長年使い慣れた施設への愛着の現れとも考えられる。

また、男性の方が女性より「必要性の低い施設の廃止など選別を進める」の割合が高いことも注目される。

居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、「必要性の低い施設の廃止など選別を進める」の割合が最も高いのは久保地区、次いで末武地区で、「今ある施設をできるだけ長く使い活用」の割合は花岡・生野屋地区で比較的高い値を示すなどの相違が見られる。

職業別では、無職の回答者で「必要性の低い施設の廃止など選別を進める」の割合が比較的少なく、自営・会社経営・農林漁業者と合わせて「今ある施設をできるだけ長く使い活用」の割合が比較的高いのは、無職の高齢者が多く、上記年齢別傾向が影響するためとも考えられる。

	の施必 選設要 別の性 廃の 止低 等い	建 ず施 替老 え朽 設数 施増 設や のさ	長今 くあ 使う い施 活設 用を	減公 ら共 す施 設譲 数渡 等を	備て 充も も民 実さ ら負 に担 整増 え	わ か ら な い	無 回 答	(%)
(凡例)								
【年齢別】	(n)							
全体 (730)	51.6			15.9	14.8	7.4		
10、20歳代 (43)	53.5			27.9		14.0		
30歳代 (84)	57.1			22.6		9.5	6.0	
40歳代 (118)	61.0			10.2	11.0	9.3		
50歳代 (92)	55.4			17.4	9.8	8.7		
60歳代 (139)	54.7			13.7	13.7	10.1		
70歳代 (177)	45.8			16.9	19.8	5.6	6.2	
80歳以上 (77)	33.8		10.4	23.4	6.5	11.7	11.7	
【性別】								
男 (314)	56.7			12.4	14.0	8.3		
女 (416)	47.8			18.5	15.4	6.7	6.3	
【居住地区別】								
下松地区 (201)	48.8			15.9	15.9	7.0	5.5	
末武地区 (215)	54.4			15.3	12.1	7.0	6.0	
花岡・生野屋地区 (161)	47.8			18.6	17.4	6.8		
久保・東陽地区 (137)	59.9			11.7	12.4	8.8		
笠戸島地区 (7)	14.3	28.6		28.6		28.6		
米川地区 (9)	22.2	33.3		33.3				
【職業別】								
自営・会社経営・農林漁業 (56)	58.9			7.1	19.6	5.4	5.4	
会社員・公務員・店員など (222)	56.8			16.7	9.5	10.8		
非正規・時間限定的な仕事 (123)	56.9			19.5	12.2	5.7		
仕事はしていない (327)	45.0			15.6	18.7	6.1	5.5	6.1

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

■ 選んだ理由及び具体的な施設があれば教えてください。

この問8では、上記回答に対して、「その理由及び具体的施設があれば」と自由な記載も求めている。

これには111人が回答を寄せているが、このうち代表的な意見を以下に抽出して示す（原文のまま）。抽出は、できるだけ内容の偏りがないように留意し、類似の回答があるものを極力選定している。

[代表的な記述意見]

選択肢	「理由等」の記述	年齢	性	居住地区
1	維持管理コストを明確に市民に示すべき。	40歳代	男	末武
1	具体的な施設名がなければ判断できないが、生活に直結するインフラの整備のためには廃止しなければ根本的解決がない。	30歳代	男	末武
1	公民館等は近くに小・中学校があるので、そちらの教室を使用すればよい。	30歳代	女	下松
1	必要性が低い建物を放っておくのは管理の面や維持費の面でも無駄に思った。	40歳代	女	末武
1	老朽化した施設を維持するにはコストがかかるので、取捨選択する必要があるのでは。	50歳代	女	久保・東陽
2	公共施設は必要だと思うので、老朽化したものは建て替えは仕方ないことと思う。が、本当に必要なものにするべきで、数を増やすのは違うと思う。	50歳代	女	下松
2	人口減少が見込まれているのに、施設を増やすのは無駄になるから。	10, 20歳代	男	久保・東陽
3	今あるものを生かしてきていないのに、新しいものをつくる意味がわからない。	30歳代	女	久保・東陽
3	きちんと整備して長く使うことが大事では？新しく作るの古いのを壊すにもお金がかかる。	60歳代	男	久保・東陽
4	民間譲渡で新しいアイデアを取り入れ活用し、雇用を生み出すのもよいのではないのでしょうか。	50歳代	女	花岡・生野屋
4	民間譲渡等コスト削減、企業の方が有効活用できるのでは？	70歳代	男	下松
5	災害時の防災も考慮した避難場所になるしっかりとした公共施設が市内の各地区に必要だと思うので負担はしかたない。	70歳代	女	下松

↑

[選択肢]

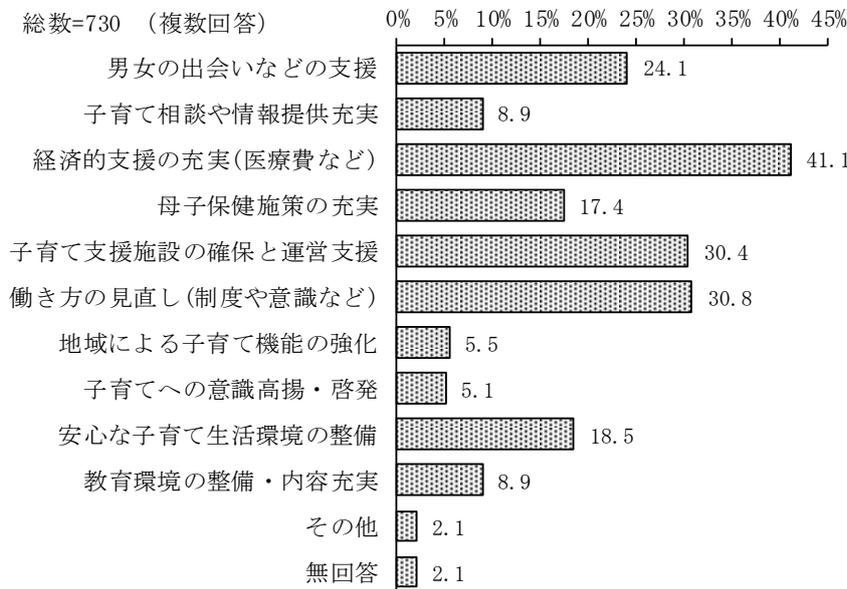
- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. 必要性の低い施設の廃止等の選別 | (理由等回答件数 54件) |
| 2. 施設数増やさず老朽施設の建替え | (理由等回答件数 24件) |
| 3. 今ある施設を長く使い活用    | (理由等回答件数 12件) |
| 4. 民間譲渡等で公共施設数を減らす | (理由等回答件数 11件) |
| 5. 市民負担増えてもさらに整備充実 | (理由等回答件数 9件)  |
| 6. わからない           | (理由等回答件数 2件)  |

左の他に番号未記入で理由等の記述回答があるもの1件  
(総記入件数 113件)

具体的な施設名をあげての指摘は少ないが、回答数としては少なかった「4. 施設の民間譲渡等で公共施設の数減らす」に対応する記載等が比較的目につくところである。

(3) 結婚・出産・子育てしやすいまちへの方策

■問9 将来訪れることが予想される少子化への対策として、市内で結婚・出産・子育てがしやすいまちにするために、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。



[選択肢]

1. 結婚を希望する男女の出会いなどの支援
2. 子育てに関する相談や情報提供の充実
3. 若い世帯、子育て世帯への経済的支援の充実 (医療費など)
4. 安心して妊娠や出産ができる環境づくりなど母子保健施策の充実
5. 保育園や児童の家などの子育て支援施設の適切な確保と運営支援
6. 仕事と子育てを両立できる働き方の見直し推進 (制度や意識など)
7. 子育てサークルの活動支援など地域による子育て機能の強化
8. 地域社会や家庭での子育てに関する意識の高揚・啓発
9. 安全な道路や良好な公園など安心して子育てができる生活環境の整備
10. 学校等の教育環境の整備・内容充実
11. その他

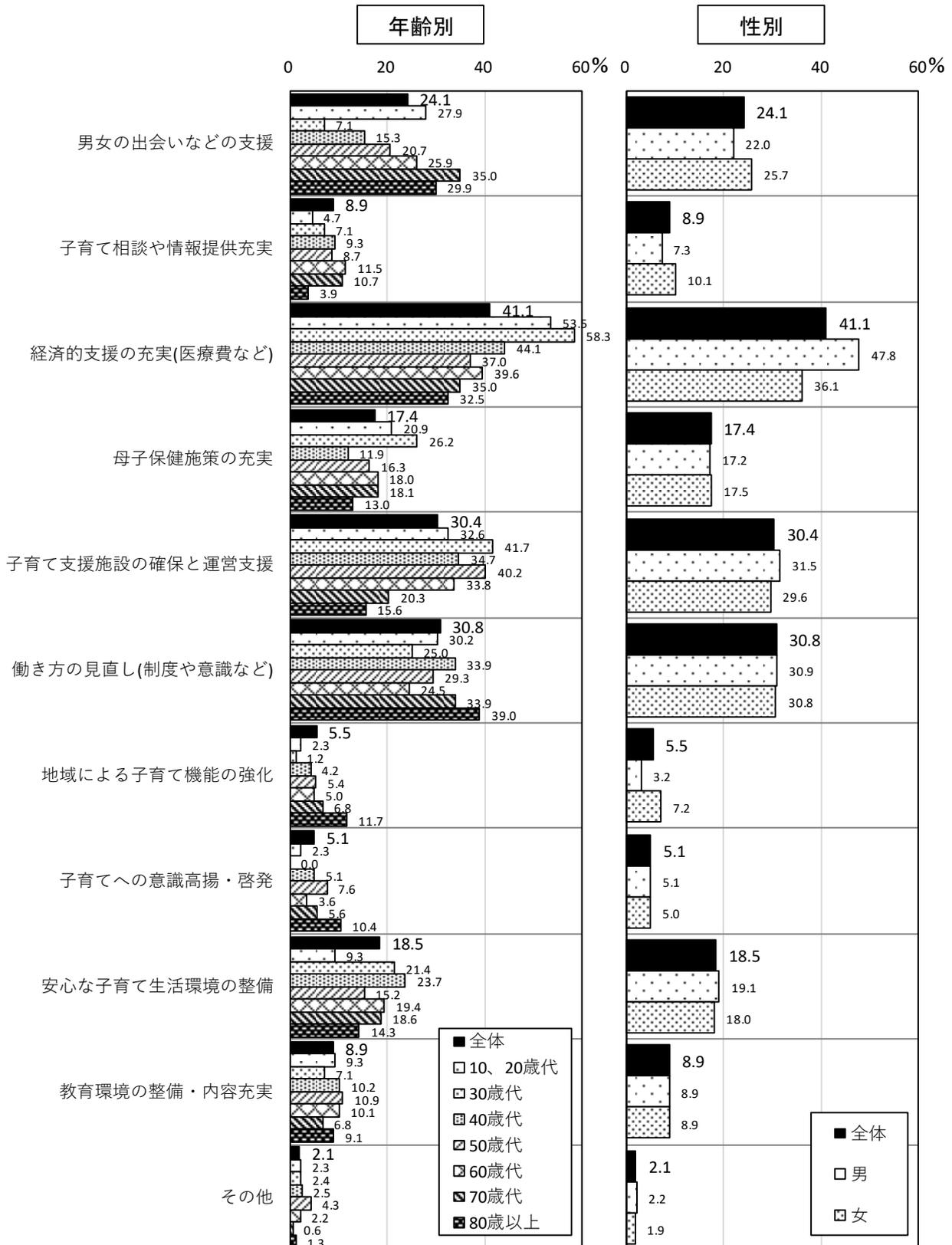
少子化対策として求められることとしては、「経済的支援の充実 (医療費など)」が 41.1%と最も多く、これに、「働き方の見直し推進 (制度や意識など)」、「保育園や児童の家など子育て支援施設の確保と運営支援」が約3割で続いている。また、「男女の出会いなどの支援」も 24.1%と約1/4が求めている。

全体に、仕事と子育ての両立の困難性や経済的負担感が少子化の要因として大きいことの現れとも見られ、その解決を求める意向が強いと言える。

「その他」の主な記述内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した就職先、収入先。</li> <li>・公務員の増による安定した収入の職場作り。</li> <li>・下松市で出産が出来る病院が必要。</li> <li>・市内に産婦人科がなく、遠い場所に身重で通うのはつらい。産婦人科の誘致を！</li> <li>・就労条件の良い中小企業を増やして将来の安心がもてる仕事を持つこと。</li> <li>・妊娠するまでのサポート。</li> <li>・ライフワークバランス (残業を減らし家族との時間を増やす) 人間らしい生活。</li> <li>・若い人に魅力のある街にする。</li> </ul>
--------------	---

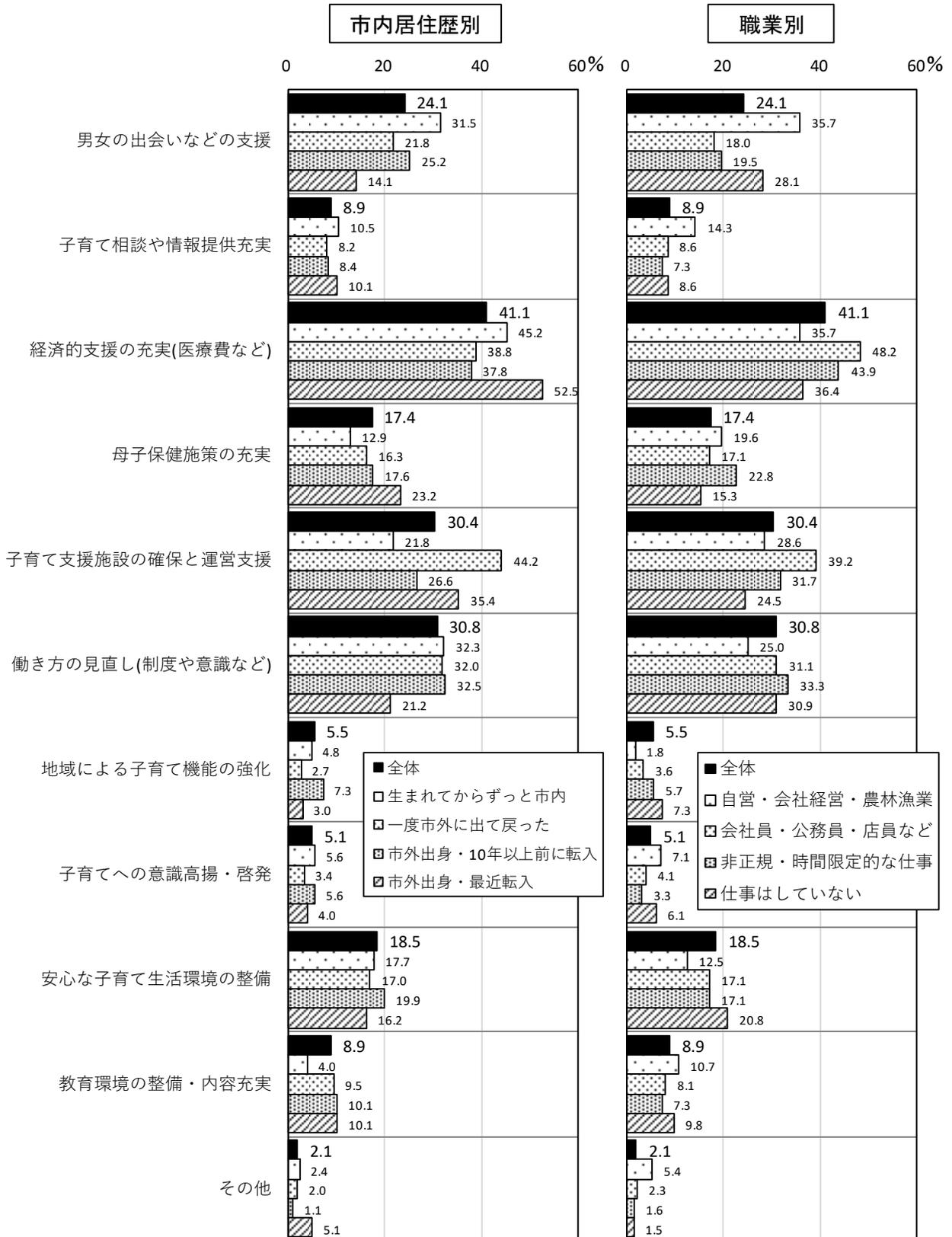
年齢別では、「経済的支援の充実（医療費など）」の割合が、子育ての当事者世代の30歳代、10、20歳代で特に高いが、「働き方の見直し推進（制度や意識など）」、「保育園や児童の家など子育て支援施設の確保と運営支援」は多くの世代が同様の支持を示している。また、「男女の出会いなどの支援」は10、20歳代のほか、高齢者層で高い割合といった特徴もある。

また、「経済的支援の充実（医療費など）」の割合は女性より男性の方が高い。



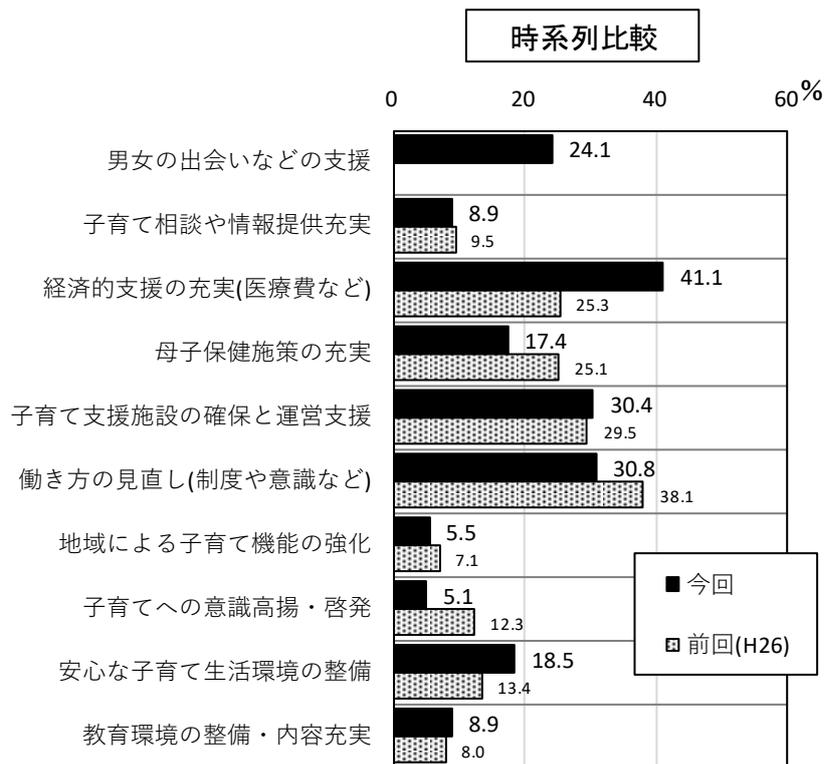
市内居住歴による相違では、「経済的支援の充実（医療費など）」の割合は特に市外出身・最近転入の層で、「子育て支援施設の確保と運営支援」は特に一度市外に出て戻った層で、また「男女の出会いなどの支援」は生まれてからずっと市内の層で比較的高い割合となっている。

職業別では、「経済的支援の充実（医療費など）」や「子育て支援施設の確保と運営支援」は会社員・公務員・店員などが比較的高い割合で、「出会いなどの支援」は自営・会社経営・農林漁業者で高い支持率となっている。



前回（H26）調査においても「今後の子育て支援」に関する設問を設けており、今回とは選択肢の数や表現が異なるため対等な比較はできないが、参考として示すと以下の図のとおりである。なお、「男女の出会いなどの支援」は今回はじめて設けた選択肢であり、前回調査では今回はない選択肢もあった。

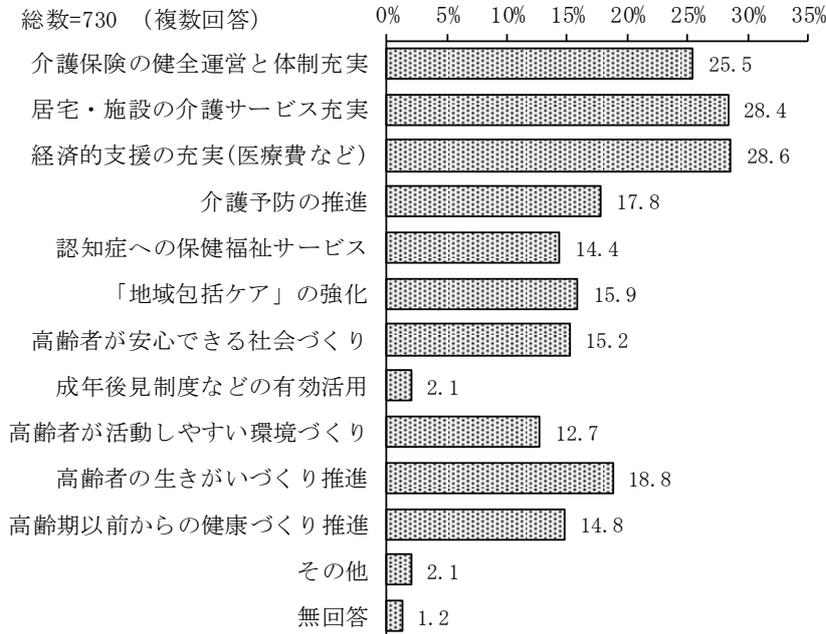
前回と対比して、今回の特徴は、「経済的支援の充実（医療費など）」の割合が目立って高いことで、前回最多であった「働き方の見直し（制度や意識など）」に代わって首位を占めている点である。



※前回と今回では選択肢の数や表現が異なる点に注意されたい。

(4) 高齢化社会のまちづくりでの重要なこと

■問 10 高齢化社会におけるまちづくりで、どのようなことが特に重要となると思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。



[選択肢]

1. 介護保険制度の健全で円滑な運営とその体制の充実
2. 居宅サービスや施設整備など介護サービスの充実
3. 経済的支援の充実 (医療費など)
4. 要介護状態になることを防ぐ介護予防の推進
5. 認知症高齢者に対する保健福祉サービスの提供
6. 高齢者の生活を地域全体で支える「地域包括ケア」の強化
7. 見守りや防犯など高齢者が安心して暮らせる社会づくり
8. 成年後見制度など高齢者の権利を守る仕組みの有効活用
9. 道路や各種施設のバリアフリー化など高齢者が活動しやすい都市環境づくり
10. 高齢者の社会参加などによる生きがいがづくりの推進
11. 高齢になる前からの健康づくりの推進
12. その他

高齢化が進展する中で、高齢化社会におけるまちづくりに必要な施策も多岐にわたり、用意した選択肢の中では、少子化対策と同じく「経済的支援の充実 (医療費など)」が1位、「居宅や施設など介護サービスの充実」が僅差で2位となっているが、「介護保険の健全運営と体制充実」など他の選択肢の多くも一定の支持割合を示している。

年齢別にみると、「居宅や施設など介護サービスの充実」では、介護する側の当事者世代とも思われる50歳代で最も高い値を示しているほか、「経済的支援の充実 (医療費など)」では、これから介護負担が生じると考えられる30歳代を中心に高い割合である点が注目される。

このほか、「高齢期以前からの健康づくりの推進」は年齢が高い層ほど支持割合が高まる傾向が

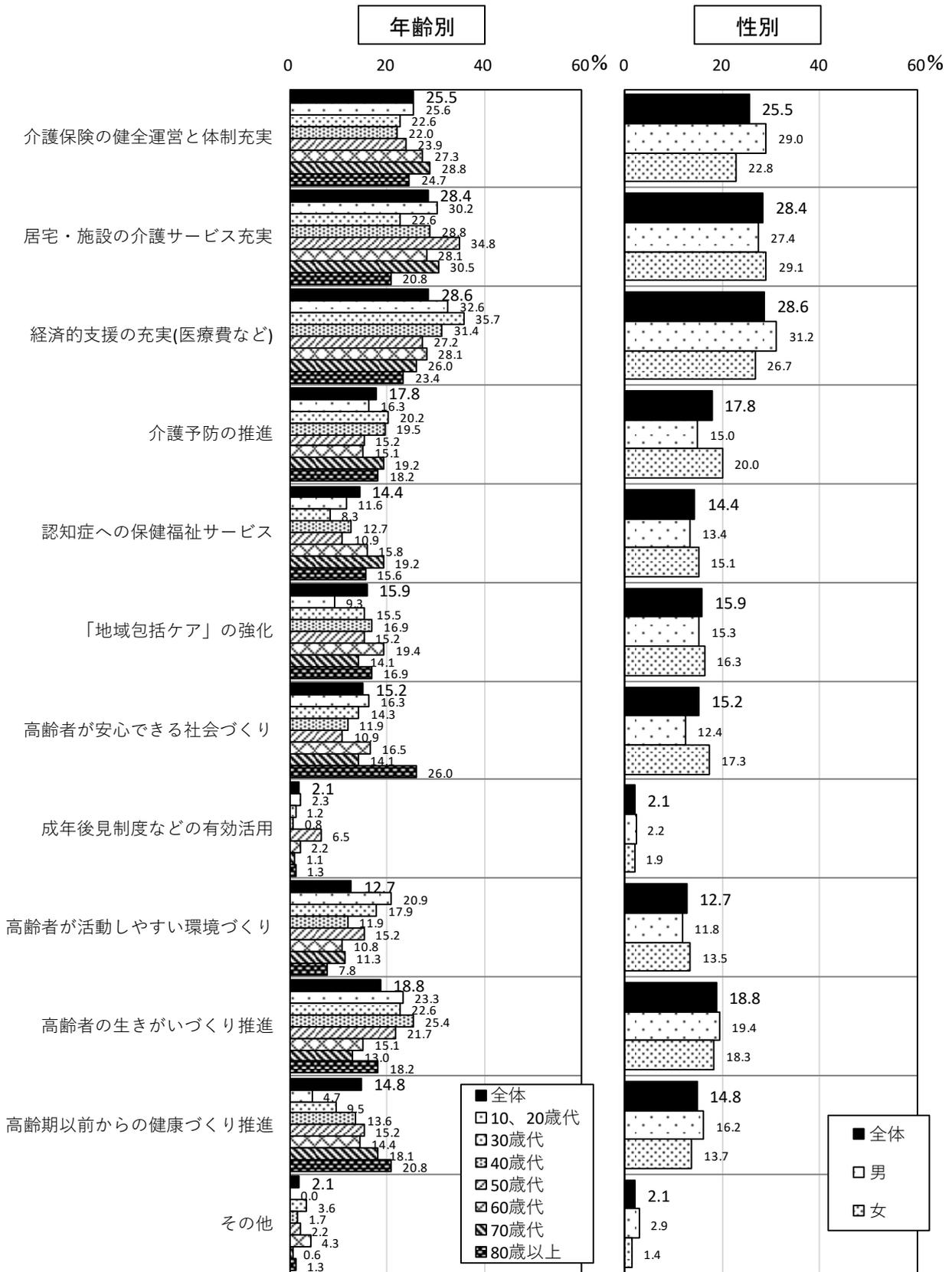
顕著であるほか、「高齢者の生きがいがづくりの推進」は高齢者以外の世代で比較的高い値であること、「高齢者が活動しやすい環境づくり」は年齢層が若いほど高い割合であることなども特徴的である。

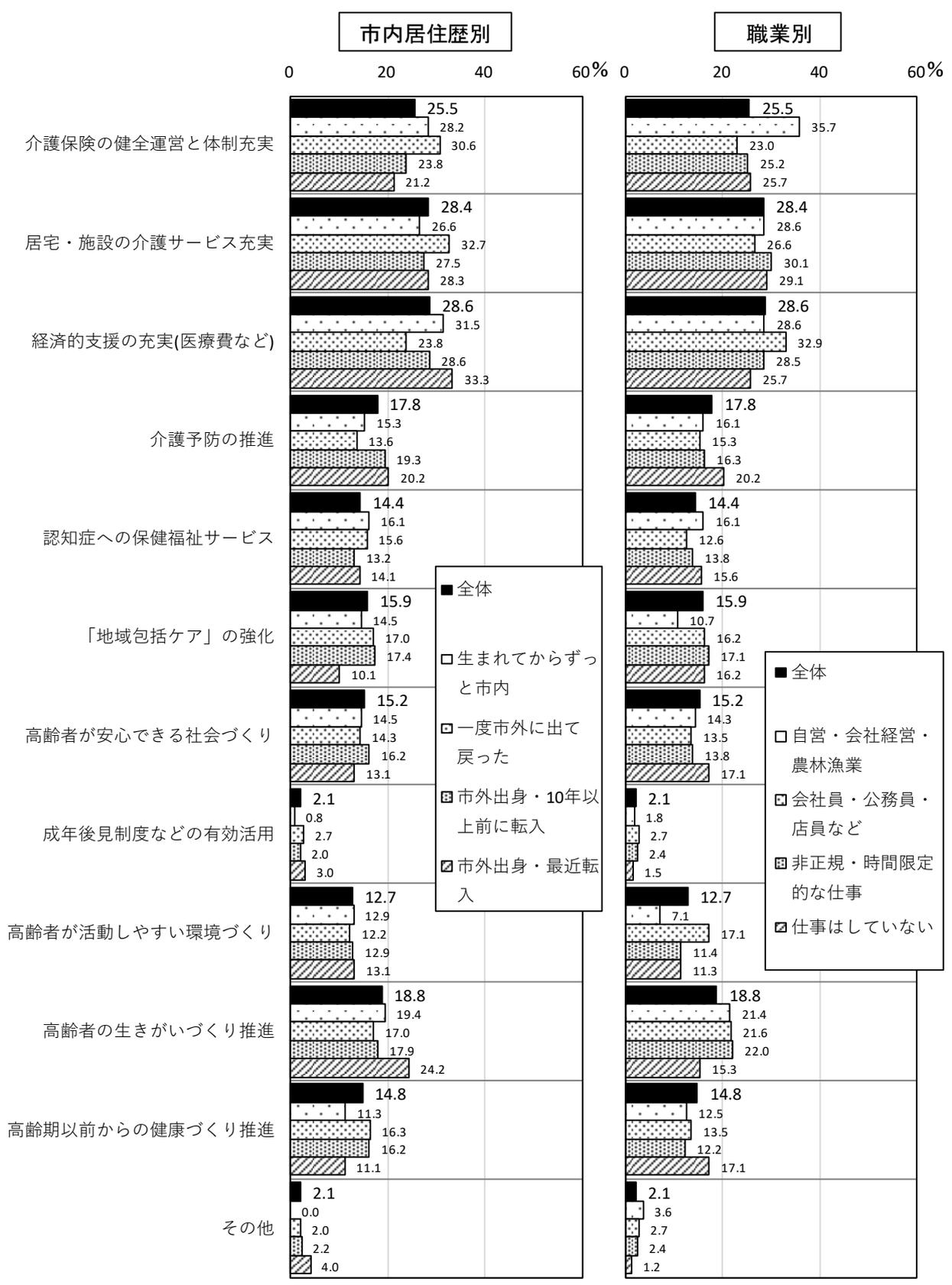
性別では、少子化対策と同じく、「経済的支援の充実（医療費など）」、そして「介護保険の健全運営と体制充実」で男性の方が高い割合を示している。

さらに、「介護保険の健全運営と体制充実」は市内出身者で比較的高い割合であることや、「高齢者の生きがいがづくりの推進」は最近転入の市外出身者で比較的高いが、これは年齢構成との関係もあると考えられる。

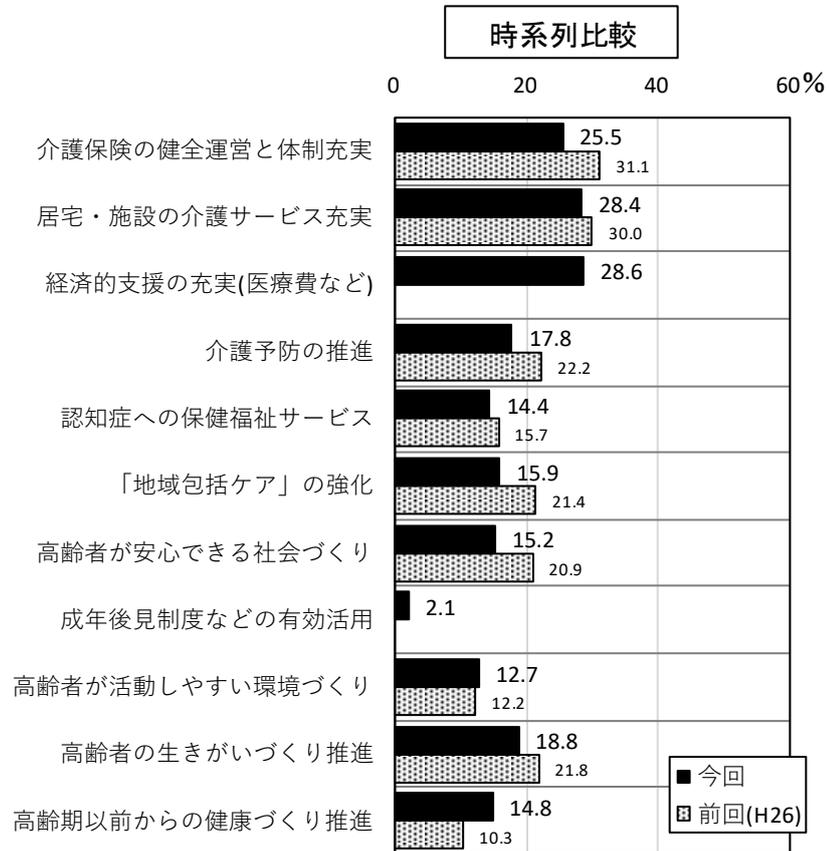
職業別では、「経済的支援の充実（医療費など）」が会社員・公務員・店員などで最も高い割合であるのは少子化対策と共通で、「介護保険の健全運営と体制充実」は自営・会社経営・農林漁業者で特に高い値となっているのが特徴的である。

<p>「その他」 の主な記述 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転免許返納後の交通手段の確保と食糧、日用品購入の支援、東豊井、潮音、星ヶ丘は車がないときついと思う。</li> <li>・往診制度が欲しい。</li> <li>・介護士の給与アップ。</li> <li>・介護する家族のサポート。介護と仕事の両立支援。</li> <li>・介護保険制度や行政の施策に頼らない民間企業も巻き込んだ仕組みづくり。小売店、タクシー会社等での買い物支援やボランティアを活用しての見守りやゴミ捨て支援等。</li> <li>・介護保険を収めても満足なサービスが受けられない。</li> <li>・家族自身が高齢者とともに生活していける環境づくり（施設任せにするなど、他者をあてにしないでよいように）。</li> <li>・交通事故対策（高齢者に特徴的にみられる事故に対する対策）。</li> <li>・認知症やがんは患ったら最後のような誤った印象を持つ人も多い。学校等で実際の例を紹介する等で理解を広げる機会があればと思う。</li> <li>・昼、外食することが多い。市役所をよく利用しますが、周りはお年寄りが多いです。食の重要性を感じます。</li> <li>・まだまだ介護の制度について知らない人が多いと思われる。伝えていく事が大事。</li> </ul>
-------------------------------	---





前回（H26）調査での同様の設問では、今回と選択肢の数や表現が異なるため、対等な比較はしにくいですが、参考までに示すと以下の図のとおりであり、共通の選択肢については概ね類似した支持割合となっている。「経済的支援の充実（医療費など）」は今回新たに設けた選択肢であるが、これが1位となっており、子育てと同じく、高齢者の生活や介護においても経済的な面での負担感や不安が大きいことが明らかになったとも言える。

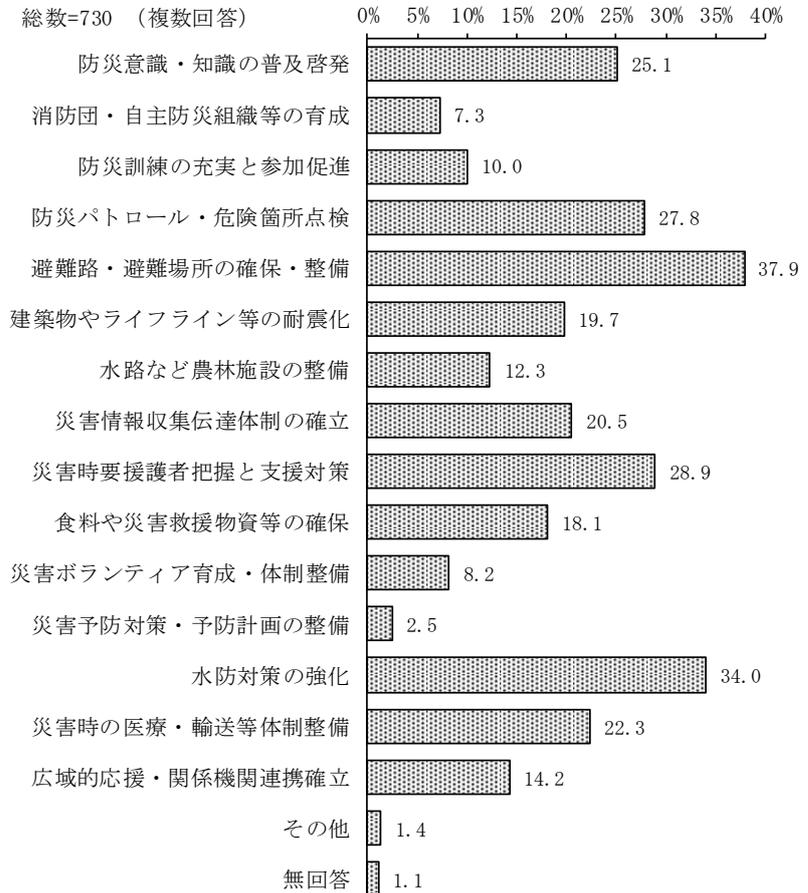


## 5. 防災対策

■問 11 行政や市民、民間事業者などの防災対策として、特にどのようなことを急ぐべきだと思いますか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

必要な防災対策としては、「避難路・避難場所の確保・整備」の回答割合が最も多く、全体の 37.9%と 1 / 3 以上が選択している。また、「河川改修や津波対策など水防対策の強化」もこれに次いでおり、この結果には、平成 30 年 7 月の豪雨災害の経験が反映しているものと考えられる。

このほかでは、「災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策」や「防犯パトロールや危険箇所の点検・対策」、「市民の防災意識向上と防災知識の普及啓発」などが続いており、高齢化が進む中で不安が現れているとも見られる。



### [選択肢]

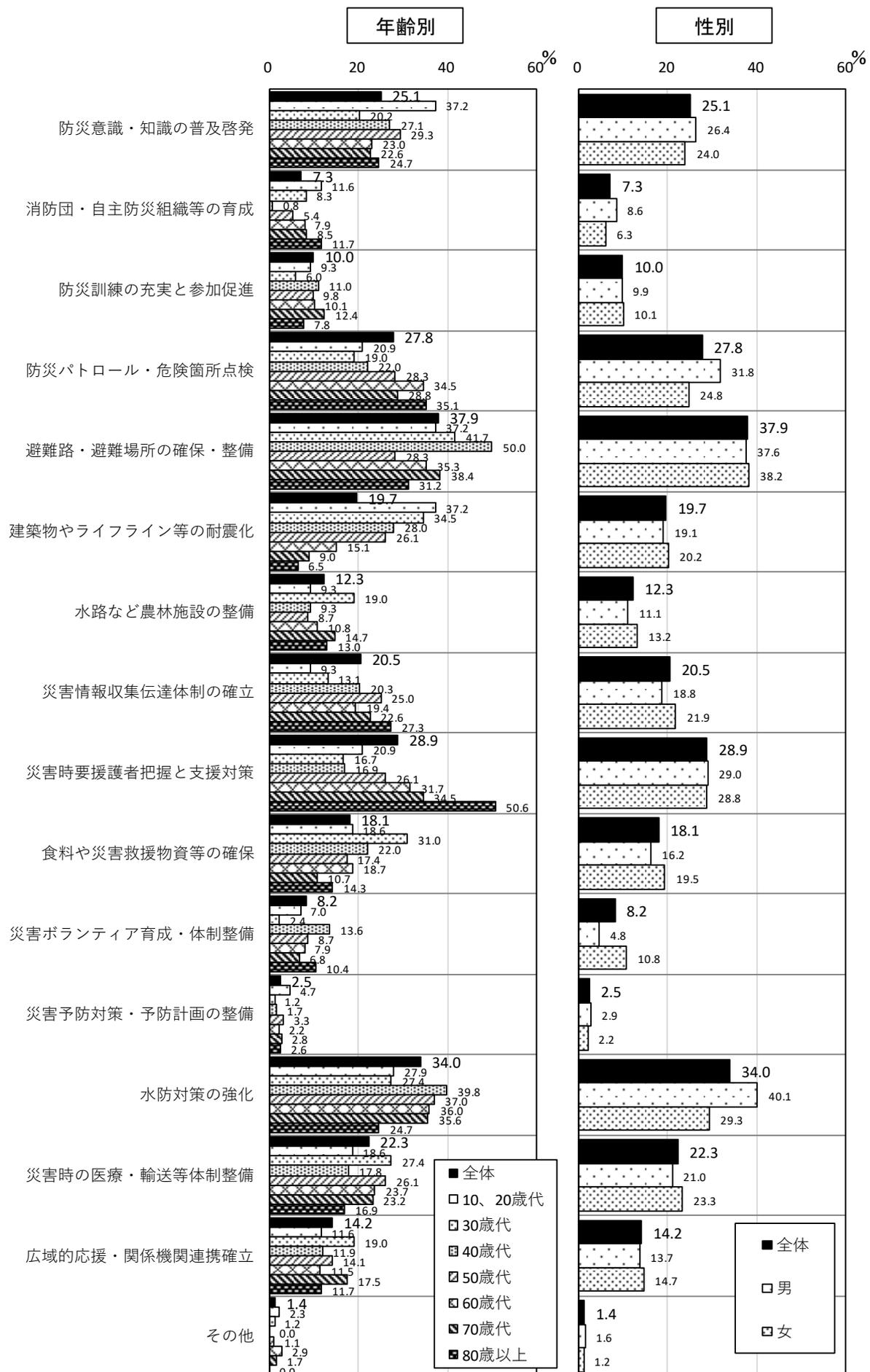
1. 市民の防災意識の向上と防災知識の普及啓発
2. 消防団や自主防災組織などの育成強化
3. 防災訓練の充実と参加の促進
4. 防災パトロールや災害危険箇所の点検、対策
5. 避難路、避難場所の確保と整備
6. 建築物や公共土木施設、ライフライン施設等の耐震化
7. 水路、ため池、堰などの農林施設の整備
8. 災害情報の収集・伝達体制の確立
9. 高齢者や障がい者など災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策の確立
10. 非常時の食料や燃料、災害救助物資等の確保
11. 災害ボランティアの育成と受入体制整備
12. 火災予防対策や企業等における災害予防計画の整備
13. 河川の改修や津波対策などの水防対策の強化
14. 災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制の整備
15. 災害時の広域的な相互応援協力、関係機関との連携体制の確立
16. その他

<p>「その他」 の主な記述 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の自覚を促す。自分は大丈夫だからと動かない人がなくなるケースが多い。</li> <li>・文字ではなく絵や地図で上記の事を市民に伝え直す。</li> <li>・行政内部の教育・訓練と高い意識の維持。</li> <li>・大雨の時等、防災無線が聞こえないし、何を言っているか分からないので、何とかして欲しい。</li> <li>・防災放送が確認できない。何を言っているかわからない。</li> <li>・避難所に行ったら自宅よりも水かさが増していて、また自宅に戻ったという笑い話を聞いた。安全な避難所を作ってもらいたい。</li> <li>・「もう避難済みですよ」の黄色いタオルを配布するのは？併せて講習も。</li> <li>・災害時の救助用機器、車、避難場所のインフラ確保。</li> <li>・57年間ここに住んで、ひどい災害の経験がないのでよくわからない。</li> </ul>
-------------------------------	--

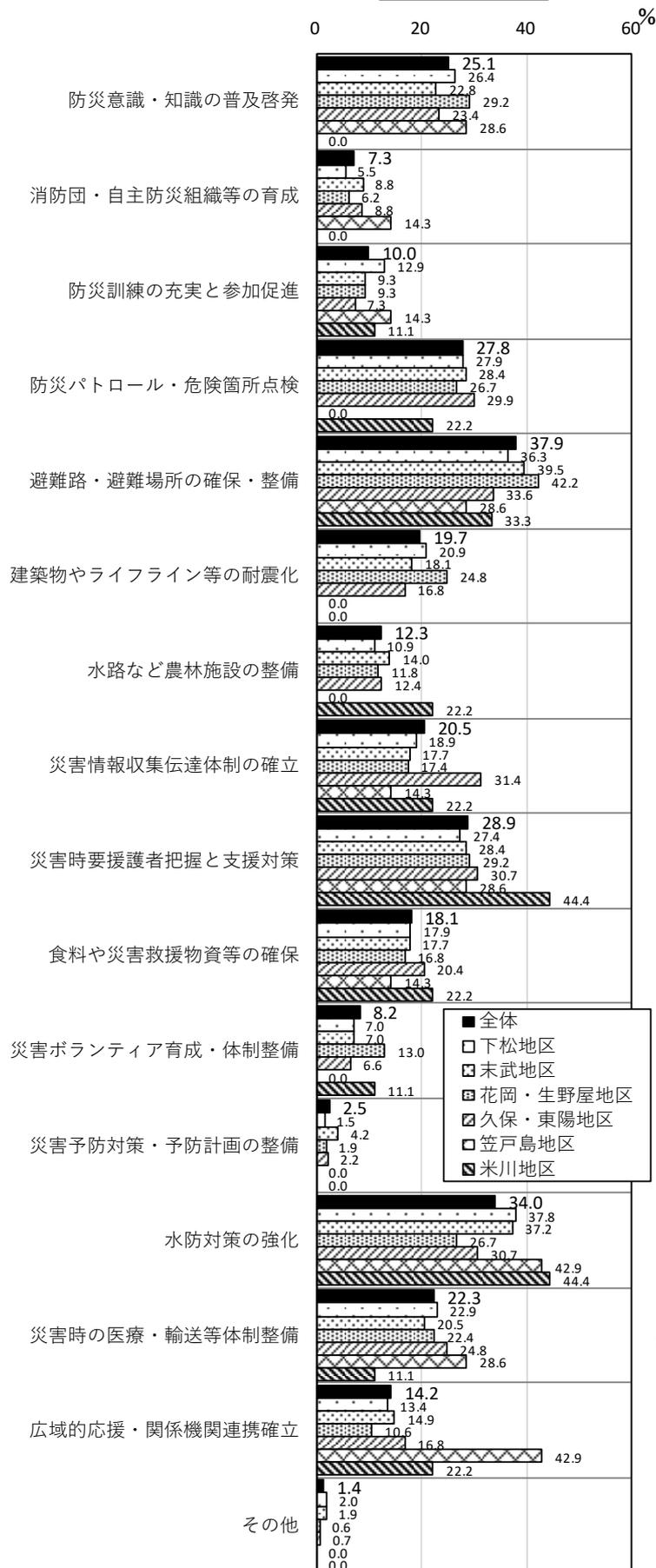
年齢別にみると、全体で上位の「避難路・避難場所の確保・整備」、「水防対策の強化」では特に40歳代での回答割合が高いのが特徴である。また、「災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策」や「防犯パトロールや危険箇所の点検・対策」、「災害情報の収集・伝達体制の確立」では年齢層が高いほど高い割合であるのに対し、「建築物やライフライン施設等の耐震化」は年齢層が若いほど高いという対照的な傾向が見られる。「食料や災害救援物資等の確保」も、子育て世代である30歳代を中心に若い世代で比較的高い割合となっている。

性別では、「水防対策の強化」、「防犯パトロールや危険箇所の点検・対策」で男性の方が回答割合が高いのに対し、「食料や災害救援物資等の確保」、「災害情報の収集・伝達体制の確立」、「災害ボランティア育成・体制整備」等で女性の方が比較的高い割合であるなどの相違が見られる。

居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、「水防対策の強化」が下松、末武地区といった海岸に面し河川下流部に位置する地区で比較的高いことや、「避難路・避難場所の確保・整備」、「建築物やライフライン施設等の耐震化」は花岡・生野屋地区、「災害情報の収集・伝達体制の確立」は久保・東陽地区での割合が最大であるなどの特徴を読み取ることができる。



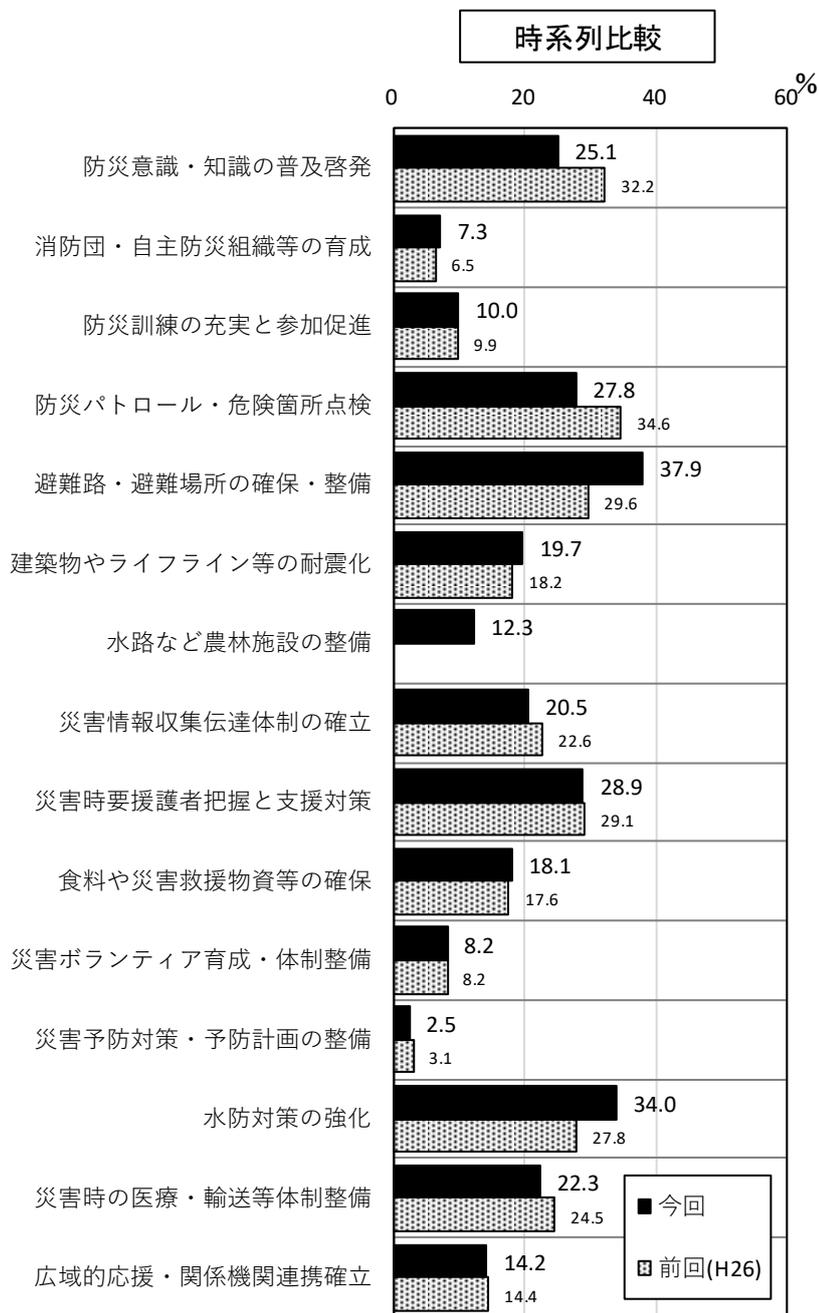
### 居住地区別



※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

防災対策に関しては、前回（H26）調査でも同様の設問を行っている。選択肢の数や表現に異なる部分があるため、完全に対等な比較はできないが、参考までにその対比図を以下に示す。

「防災パトロール・危険箇所の点検」や「市民の防災意識向上と防災知識の普及啓発」といった日常的な行動面の対策の割合は低下しているが、「避難路・避難場所の確保・整備」、「水防対策の強化」の割合が目立って上昇し、今回は最上位及び2位に浮上しているのは、平成30年の豪雨災害の経験が反映されているものと考えられる。



## 6. 産業育成方向

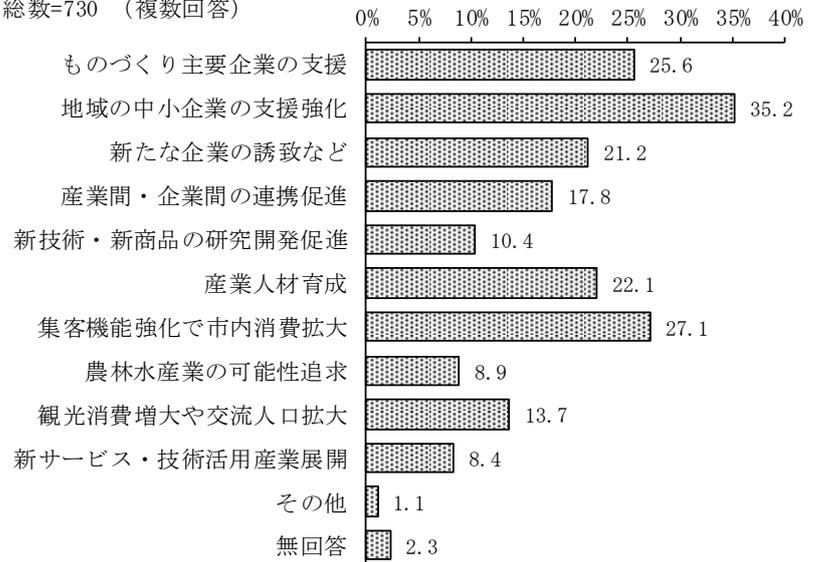
■問 12 下松市の活力を維持し、より高めていくために、市内の産業をどのような方向で育てていくべきだと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

市内の産業育成の方向に関しては、「地域の中小企業の支援等により地場産業の力の強化」への支持が最も多く、35.2%の高率となっている。これに、「商業施設など集客機能の強化で市内消費を拡大」が27.1%、「ものづくり主要企業の支援」が25.6%で続いている。

好調なものづくり(製造業)はさらにその幅を広げること、また商業集積力の魅力をさらに高めることにより、市の経済活力を強化することが求められていると言える。

このほか、「産業に関わる人材育成」や「新たな企業の誘致など」も比較的高い回答割合を示している。

総数=730 (複数回答)

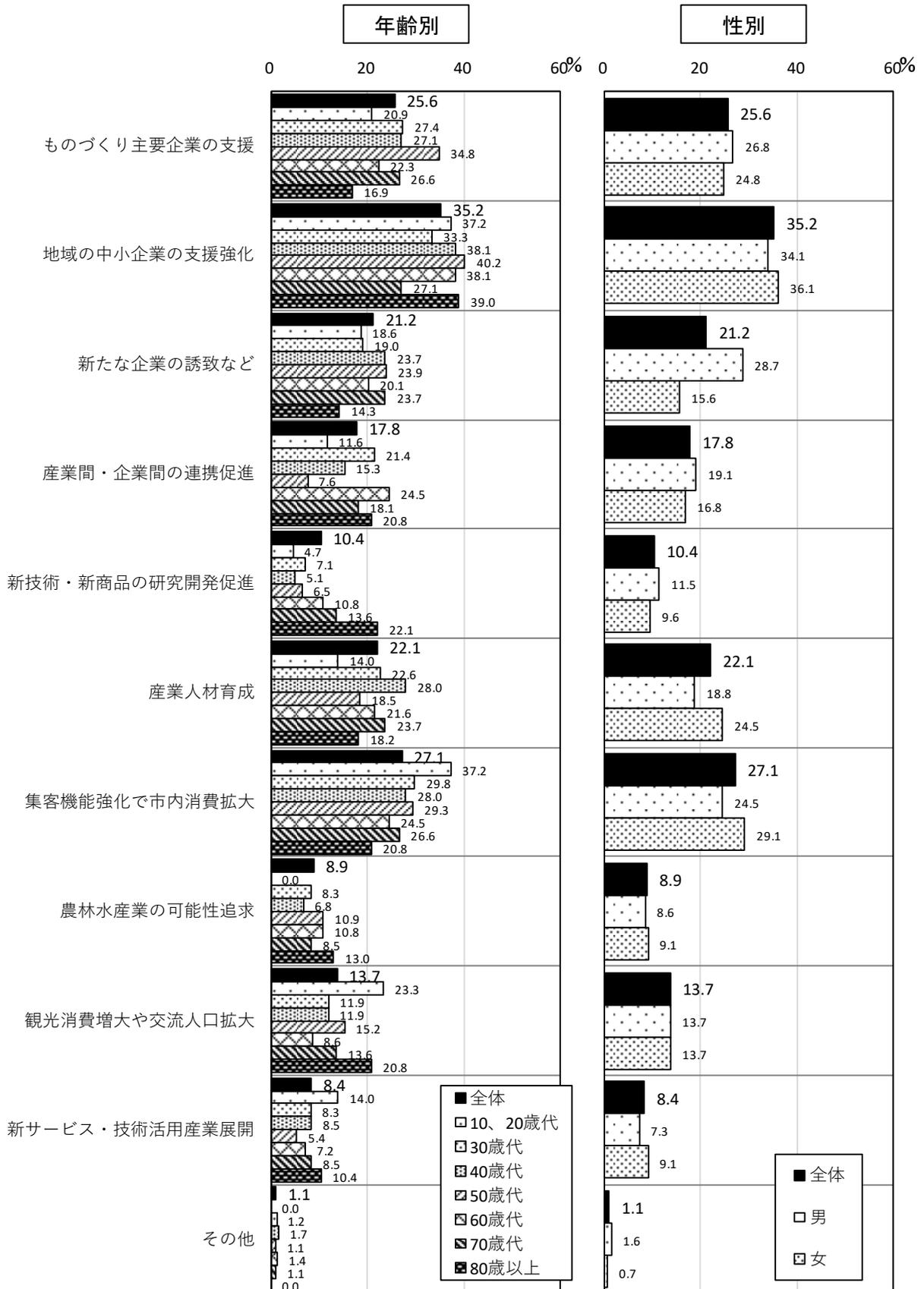


[選択肢]

1. 市内のものづくり主要企業がさらに力を発揮できるよう支援する。
2. 地域の中小企業の経営支援などにより地場産業の力を強化する。
3. 新たな企業の誘致などを積極的に行う。
4. 農業・商業・工業など産業間、企業間の連携を促進し、新しい製品や価値を産み出す。
5. 県内外の高等教育機関などとの連携も含め、新技術・新商品の研究開発を促進する。
6. 産業に関わる人材育成を積極的に行う。
7. 商業施設など人が集まる機能を強化し、市内消費を拡大させる。
8. 農林業、水産業の分野で新しい可能性を追求する。
9. 観光による集客に力を入れ、観光消費の増大や交流人口の拡大を目指す。
10. 新しいサービス・技術を活用した産業展開を促進する。
11. その他

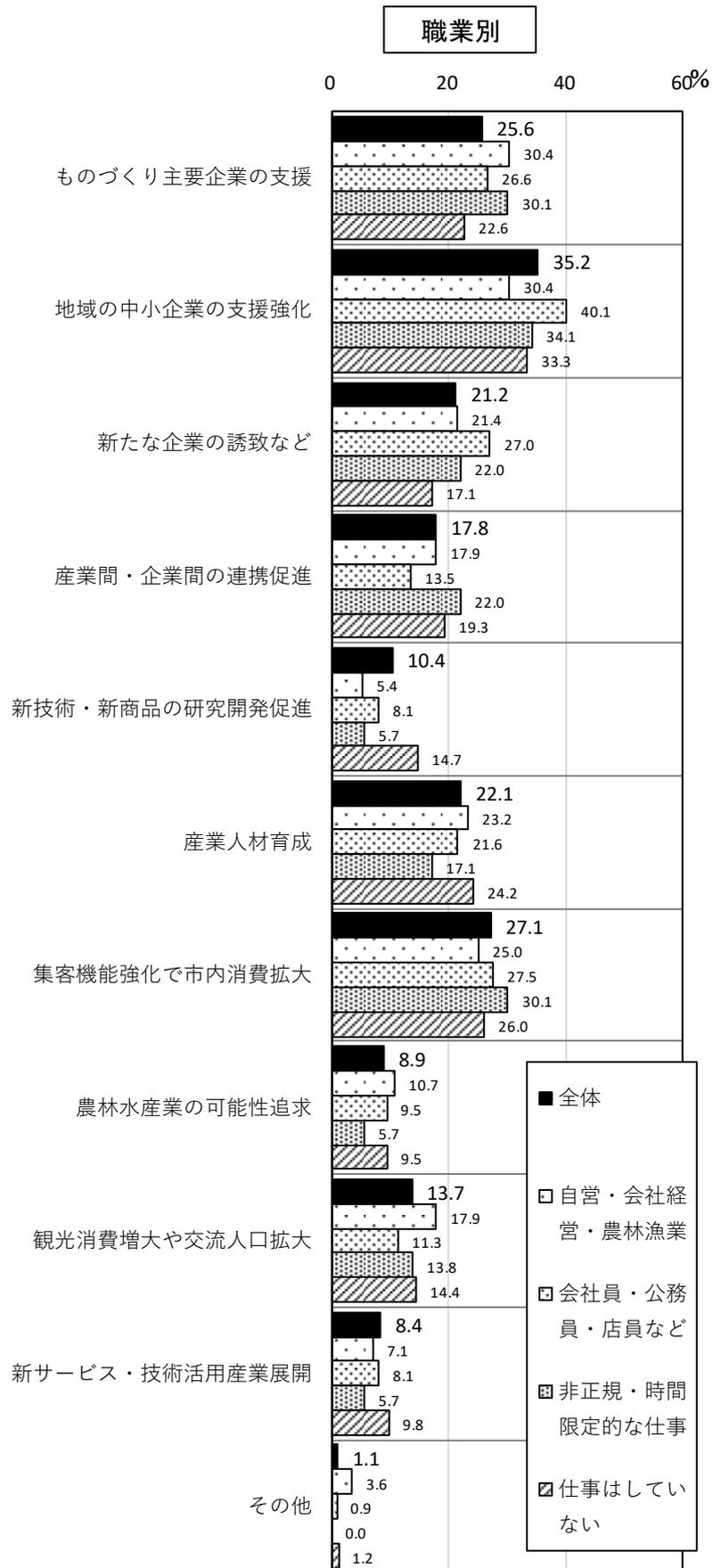
「その他」の主な記述内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護、医療、健康づくりを雇用面で産業としてとらえられるので。</li> <li>・子供たちが下松に残れるような魅力ある産業を小さいうちから見せて就職できるようにする。</li> <li>・雇用条件の見直し。</li> <li>・国の入札には外国企業も入れていた時代に勝ち残り企業を育成するためには、より厳しい環境で切磋琢磨してもらわねばならない。入札にしてもより開かれたものにするしかない。</li> </ul>
--------------	--

「ものづくり主要企業の支援」では現役の中核的世代とも言うべき 50 歳代で最も高い回答割合であるほか、「商業施設など集客機能の強化で市内消費を拡大」では若い年齢層で比較的高い割合であること、また、数は少ないが、「新技術・新商品の研究開発促進」では年齢層が高いほど割合が顕著に高くなること等が年齢別の特徴としてあげられる。



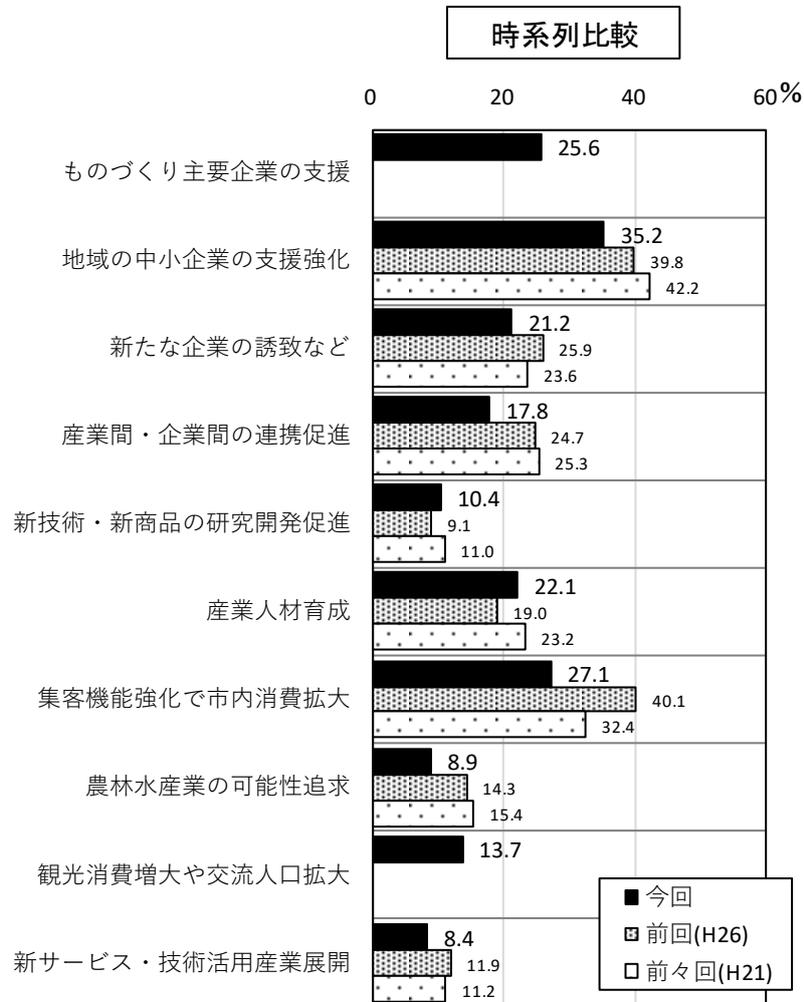
性別では、「新たな企業の誘致など」の割合が男性で目立って高い一方、女性では「商業施設など集客機能の強化で市内消費を拡大」や「産業に関わる人材育成」で男性より高い割合を示している点が注目される。

職業別にみると、「地域の中小企業の支援等により地場産業の力の強化」や「新たな企業の誘致など」は会社員・公務員・店員などで最も高い割合を示しており、一方、「観光消費増大や交流人口拡大」は自営・会社経営・農林漁業者での回答割合が最多であるなどの相違が見られる。



産業育成の方向についても、前回（H26）、前々回（H21）の調査でも同様の設問を行っているが、今回は「ものづくり主要企業の支援」と「観光消費増大や交流人口拡大」の選択肢を新たに追加している。

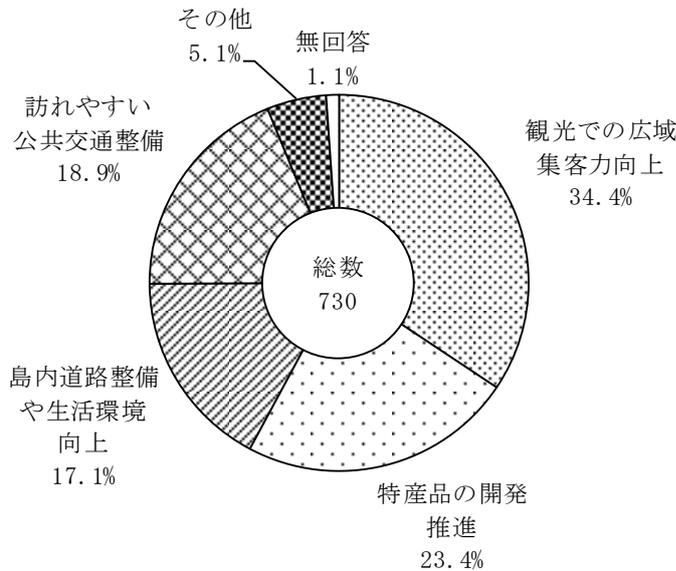
この追加した選択肢に回答が分散したため、他の選択肢では全体に割合が低下しているが、「産業に関わる人材育成」だけはむしろ上昇し、相対的にこれに対する支持割合はやや高まったと見ることもできる。



## 7. 笠戸島・米川の振興方向

■問 13 市の南北に位置する笠戸島や米川地区は、豊かな自然に恵まれています。この環境を有効に利用するために特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中からそれぞれ1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

### (1) 笠戸島



#### [選択肢]

1. 観光PRや既存施設の充実・連携などで、広域的な集客力を向上させる。
2. 笠戸ひらめ・とらふぐや笠戸島レモンなどを活かし、特産品の開発を進める。
3. 島内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を図る。
4. 笠戸島へ訪れやすい公共交通を整備する。
5. その他

笠戸島の振興の方向について、「その他」を含め5つの選択肢を用意したが、「観光で広域的な集客力を向上」が34.4%と最も多くの支持を集めた。2位の「特産品の開発を進める」と合わせて、「笠戸島＝観光」の見かたが浸透していると言えるが、「その他」を除く他の2つの選択肢も一定の割合を示しており、観光面の振興と同時に、生活環境、交通なども含めた総合的な観点からの充実が求められていると言える。

「その他」の主な記述内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大城のサービスがいまいち、リニューアルした時より悪化していると思う。</li> <li>・笠戸島からのクルージング、釣り、島内産業見学など身近な体験ができる島になってほしい。(大企業、日立、TK)の日常見学も含む。</li> <li>・笠戸島全体の雑草など、きれいにするとところから始めてほしい。</li> <li>・笠戸ドックへの支援、雇用の拡大。</li> <li>・家族旅行村の活用、海水浴場との連携。</li> <li>・小型遊覧船で飲食を楽しむ、海の観光。主に市外の人々の観光で、空いているときは下松市民が極安く利用できる。</li> <li>・国立公園なのに整備がされていない。マルシェみたいなのをやってみても良いのではないか。</li> <li>・市民が行かないところに広域的集客力はない。顧客ターゲットを明確にした局所的集客力を向上すること。</li> <li>・食べる場所が少ない。ハイツを改修する。</li> <li>・特産品の開発をまだまだ進め、もっとイベントを増やし、宿泊施設の増設、観光客を増やしていく。</li> <li>・ハイツ跡地に海産物等販売の海の駅。</li> <li>・まず、笠戸島住民の皆さんの意見を聞く。どのような希望を持っておられるか？</li> </ul>
--------------	---

年齢別にみると、「観光で広域的な集客力を向上」がいずれの年齢層でも1位であるが、「特産品の開発を進める」は10、20歳代で、「島内道路整備や生活環境向上」は50歳代で、「訪れやすい公共交通の整備」は70歳代以上の高齢世代で最も高い割合であるなど、世代によって微妙な相違を見せている。

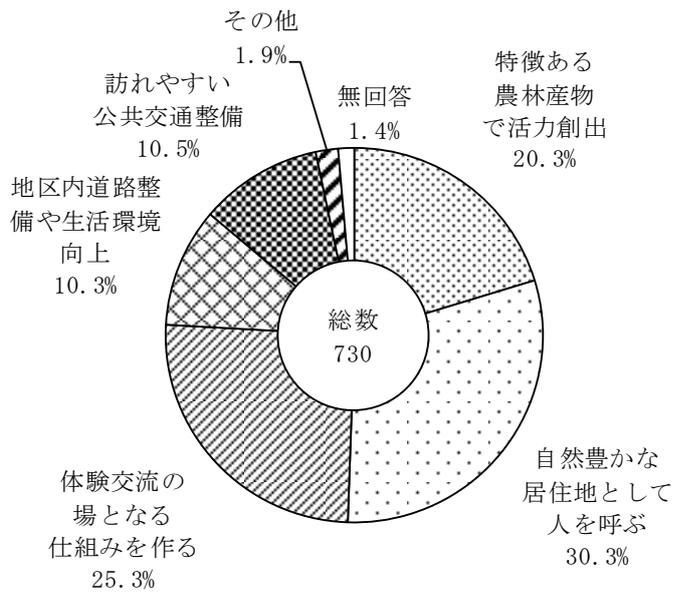
また、「訪れやすい公共交通の整備」は男性より女性の割合が高く、その分、「観光で広域的な集客力を向上」の割合は男性の方が高い結果となっている。

さらに、市内出身だが一度市外に出て戻った層で「特産品の開発を進める」の割合が特に高いほか、職業別において、会社員・公務員・店員などで「特産品の開発を進める」の割合が比較的高く、自営・会社経営・農林漁業者で「島内道路整備や生活環境向上」が、無職の層で「訪れやすい公共交通の整備」の割合がそれぞれ比較的高いといった相違が見られる。

	客観力 向上の 広域集	進特 産品 の 開発 推	生島 内道 路 整 備 や 生 活 環 境 向 上	交訪 通れ やす い 公 共	そ の 他	無 回 答
(凡例)						
(n)						
【年齢別】						
全体 (730)	34.4		23.4	17.1	18.9	5.1
10、20歳代 (43)	30.2		34.9	7.0	18.6	
30歳代 (84)	36.9		23.8	16.7	16.7	6.0
40歳代 (118)	31.4		26.3	15.3	19.5	6.8
50歳代 (92)	39.1		25.0		26.1	6.5
60歳代 (139)	34.5		22.3	23.0	13.7	5.8
70歳代 (177)	32.2		19.8	15.8	25.4	
80歳以上 (77)	37.7		20.8	7.8	29.9	
【性別】						
男 (314)	37.3		22.0	18.8	15.0	6.1
女 (416)	32.2		24.5	15.9	21.9	
【市内居住経緯別】						
生まれてからずっと市内 (124)	29.8		21.0	23.4	21.0	
一度市外に出て戻った (147)	34.7		30.6	17.0	12.9	
市外出身・10年以上前に転入 (357)	35.9		21.8	14.6	21.3	5.6
市外出身・最近転入 (99)	33.3		21.2	19.2	17.2	8.1
【職業別】						
自営・会社経営・農林漁業 (56)	37.5		17.9	23.2	8.9	7.1
会社員・公務員・店員など (222)	34.2		27.0	16.2	16.2	6.3
非正規・時間限定的な仕事 (123)	34.1		23.6	19.5	16.3	5.7
仕事はしていない (327)	34.3		22.0	15.9	23.2	

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

## (2) 米川



### [選択肢]

1. 農林業の活性化に努め、特徴ある農林産物を産み出し、経済的な活力の創出を目指す。
2. 農地付空家などの提供により、山と水に囲まれた自然豊かな居住地域として人を呼び込む。
3. 休耕農地や米川ゆずなどを活かし、自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みを作る。
4. 地区内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を図る。
5. 米川へ訪れやすい公共交通を整備する。
6. その他

人口減少が続く米川地区の振興方向に関しては、「その他」を含め6つの選択肢を用意した中で、「自然豊かな居住地域として人を呼び込む」が30.3%と最も高い支持を集めた。これに、「自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みを作る」が25.3%、「農林業の活性化、特徴ある農林産物で活力を創出」が20.3%で続いており、移住や体験など、自然とのふれあいの場としての活用の見かたが強いと言える。

また、「地区内道路整備や生活環境向上」や「訪れやすい公共交通の整備」もそれぞれ1割強の割合であり、笠戸島と同じく総合的な観点からの振興が望まれているとも見られる。

<p>「その他」の主な記述内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川公園を拡大しキャンプ場にする。</li> <li>・子供が運動できる遊具がそろった公園。</li> <li>・米泉湖周辺のウォーキングコースとサイクリングコース、休憩場所、オートキャンプ場など設置し、PRすれば人気の場所になると思う。</li> <li>・地元の強い協力が必要である。</li> <li>・農地付空家等を活用し米作りを教える。</li> <li>・森のようちえんをひらき、居住者をよびこむ。</li> <li>・米川小学校が今年度で休校となるので、新たにものづくり、イベント等の会場として活用できないか。</li> <li>・米川地区を知りません。PRが必要と思います。</li> <li>・米川で安定した収入が入るようにする。</li> <li>・レストランがない。米泉湖廻りにどうしても人がとどまらず、周南や下松市内に移動する。</li> </ul>
---------------------	---

年齢別にみると、「自然豊かな居住地として人を呼び込む」は40～70歳代という壮年以上の幅広い世代で高く支持されている一方、「自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みを作る」は子育て世代を含む10、20歳代から30歳代で比較的高い割合を示している。「農林業の活性化、特徴ある農林産物で活力を創出」は特に50歳代での回答割合が高い。

性別での目立った相違は見られないが、市内出身で一度市外に出て戻った層で、「自然豊かな居住地として人を呼び込む」や「自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みを作る」の割合が相対的に高い。

また、職業別において、「自然豊かな居住地として人を呼び込む」は自営・会社経営・農林漁業者で、「自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みを作る」は非正規・時間限定的な仕事の層で比較的高い回答割合であるなどの特徴が見られる。

	出産特 物徴 であ 活る 力農 創林	を住自 呼地然 ぶと豊 しか てな 人居	をと体 作な る交 仕流 組の み場	向備地 上や区 生内 活道 環路 境整	共訪 交れ 通や 整す 備い 公	そ の 他	無 回 答	(%)
【年齢別】	(凡例)							
	(n)							
全体	20.3	30.3	25.3	10.3	10.5			
10、20歳代 (43)	18.6	16.3	32.6	18.6	9.3			
30歳代 (84)	19.0	23.8	33.3	13.1	8.3			
40歳代 (118)	16.1	33.1	28.8	9.3	8.5			
50歳代 (92)	29.3	33.7	21.7	9.8				
60歳代 (139)	16.5	31.7	27.3	13.7	7.9			
70歳代 (177)	21.5	32.8	19.8	5.6	15.8			
80歳以上 (77)	22.1	28.6	20.8	9.1	18.2			
【性別】								
男 (314)	22.0	31.5	22.3	10.5	10.2			
女 (416)	19.0	29.3	27.6	10.1	10.8			
【市内居住経緯別】								
生まれてからずっと市内 (124)	19.4	29.0	21.0	10.5	16.1			
一度市外に出て戻った (147)	17.0	34.0	30.6	10.2				
市外出身・10年以上前に転入 (357)	21.6	30.5	24.9	9.2	10.9			
市外出身・最近転入 (99)	22.2	24.2	24.2	14.1	11.1			
【職業別】								
自営・会社経営・農林漁業 (56)	19.6	39.3	19.6	12.5				
会社員・公務員・店員など (222)	23.0	28.4	24.3	13.1	9.0			
非正規・時間限定的な仕事 (123)	14.6	31.7	32.5	10.6	7.3			
仕事はしていない (327)	20.8	29.7	24.5	9.8	12.2			

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

## 8. 市民参加・協働の意識

### (1) 市民参加の現状と希望

■問 14 あなたは、次のような活動に現在どの程度参加していますか。また、今後の程度参加したいと思いますか。次の(1)～(6)について、それぞれの選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

- |                           |
|---------------------------|
| (1) 自治会、隣近所などの活動          |
| (2) 子ども会、PTA、婦人会、老人会などの活動 |
| (3) 教養、趣味、スポーツなどのサークル活動   |
| (4) まちづくり団体や地域おこしなどの地域活動  |
| (5) 福祉、環境、防災、災害復興支援などの活動  |
| (6) 人権、国際交流などの活動          |

＜現在の参加程度＞ 選択肢	
1. 自ら機会を作って積極的に参加している	
2. 機会があればできるだけ参加している	
3. ある程度は参加している	
4. あまり参加していない	
5. 全く参加していない	

＜今後の参加希望＞ 選択肢	
1. 自ら機会を作って積極的に参加したい	
2. 機会があればできるだけ参加したい	
3. ある程度は参加したい	
4. あまり参加したくない	
5. 参加するつもりはない	

	全体	積極的に参加	できるだけ参加	ある程度は参加	あまり参加しない	全く参加しない	無回答
現状の参加程度	(1) 自治会・隣近所の活動 730 100.0	66 9.0	229 31.4	181 24.8	111 15.2	112 15.3	31 4.2
	(2) 子ども会・老人会などの活動 730 100.0	28 3.8	98 13.4	80 11.0	146 20.0	335 45.9	43 5.9
	(3) 趣味などのサークル活動 730 100.0	62 8.5	60 8.2	65 8.9	143 19.6	359 49.2	41 5.6
	(4) まちづくり団体など地域活動 730 100.0	11 1.5	48 6.6	78 10.7	172 23.6	374 51.2	47 6.4
	(5) 福祉・環境・防災などの活動 730 100.0	14 1.9	43 5.9	70 9.6	182 24.9	375 51.4	46 6.3
	(6) 人権・国際交流などの活動 730 100.0	6 0.8	18 2.5	38 5.2	120 16.4	502 68.8	46 6.3
将来の参加希望	(1) 自治会・隣近所の活動 730 100.0	62 8.5	275 37.7	230 31.5	85 11.6	41 5.6	37 5.1
	(2) 子ども会・老人会などの活動 730 100.0	26 3.6	175 24.0	214 29.3	141 19.3	125 17.1	49 6.7
	(3) 趣味などのサークル活動 730 100.0	64 8.8	163 22.3	222 30.4	113 15.5	119 16.3	49 6.7
	(4) まちづくり団体など地域活動 730 100.0	14 1.9	132 18.1	260 35.6	152 20.8	116 15.9	56 7.7
	(5) 福祉・環境・防災などの活動 730 100.0	17 2.3	135 18.5	298 40.8	126 17.3	98 13.4	56 7.7
	(6) 人権・国際交流などの活動 730 100.0	16 2.2	97 13.3	189 25.9	165 22.6	212 29.0	51 7.0

## 現状の参加程度

総数=730

単位:%

	積極的に参加	できるだけ参加	ある程度は参加	あまり参加しない	全く参加しない	無回答
(1) 自治会・隣近所の活動	9.0	31.4	24.8	15.2	15.3	
(2) 子ども会・老人会などの活動	13.4	11.0	20.0	45.9	5.9	
(3) 趣味などのサークル活動	8.5	8.2	8.9	19.6	49.2	5.6
(4) まちづくり団体など地域活動	6.6	10.7	23.6	51.2	6.4	
(5) 福祉・環境・防災などの活動	5.9	9.6	24.9	51.4	6.3	
(6) 人権・国際交流などの活動	5.2	16.4	68.8		6.3	

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

## 将来の参加希望

総数=730

単位:%

	積極的に参加	できるだけ参加	ある程度は参加	あまり参加しない	全く参加しない	無回答
(1) 自治会・隣近所の活動	8.5	37.7	31.5	11.6	5.6	5.1
(2) 子ども会・老人会などの活動	24.0	29.3	19.3	17.1	6.7	
(3) 趣味などのサークル活動	8.8	22.3	30.4	15.5	16.3	6.7
(4) まちづくり団体など地域活動	18.1	35.6	20.8	15.9	7.7	
(5) 福祉・環境・防災などの活動	18.5	40.8	17.3	13.4	7.7	
(6) 人権・国際交流などの活動	13.3	25.9	22.6	29.0	7.0	

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

6種類の地域活動に対し、現状の参加程度と将来の参加希望を尋ねている。

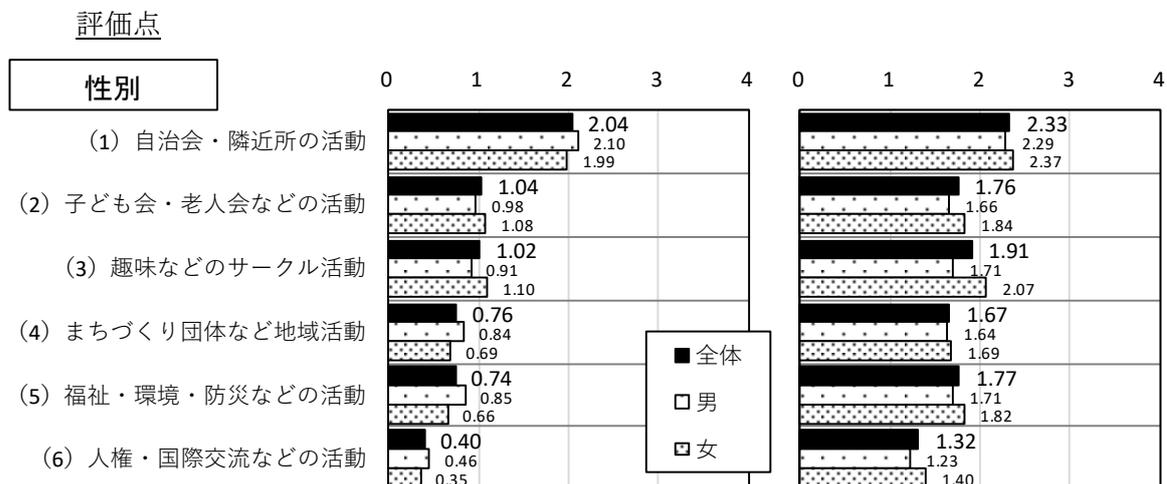
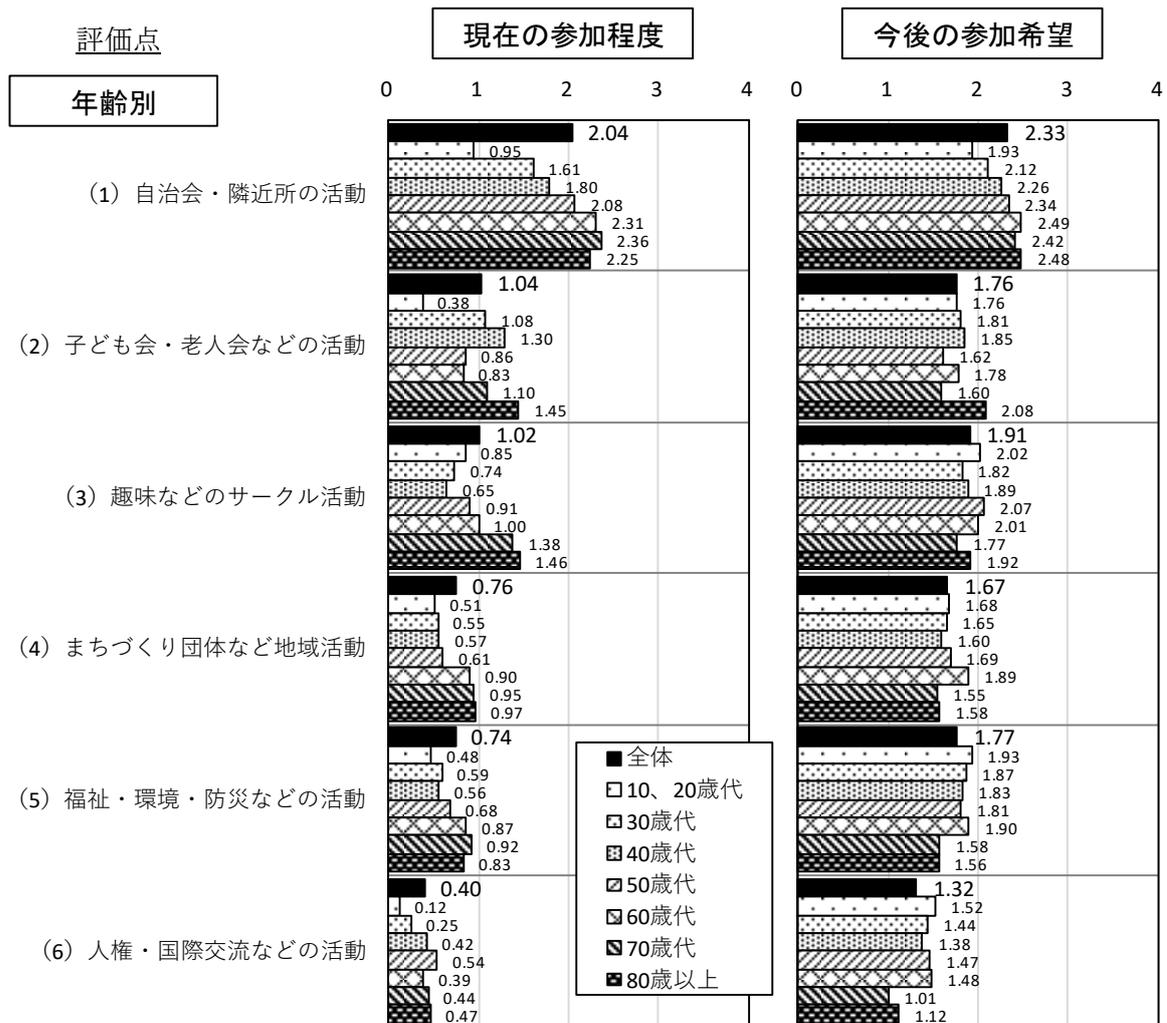
現状の参加程度では、「自治会・隣近所などの活動」は「積極的に」と「できるだけ」を合わせた「参加している」の割合が約4割に達しているが、他の活動では2割程度以下であり、逆に「全く参加していない」が半数程度かそれ以上を占めている。

将来の参加希望では、「積極的に」と「できるだけ」を合わせた「参加したい」の割合が大きく高まり、「自治会・隣近所などの活動」以外の活動では現状の参加程度と比べてその値が2～3倍に増加している。参加の意思はあるが実際には参加できていない状況が見て取れる。

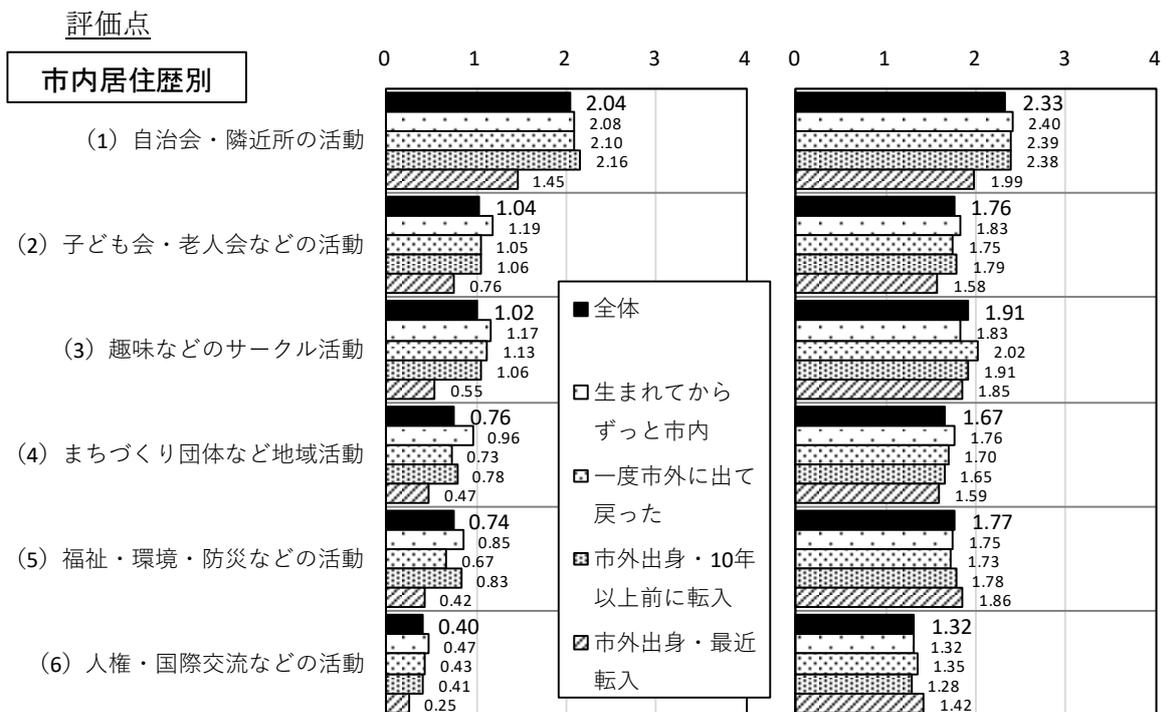
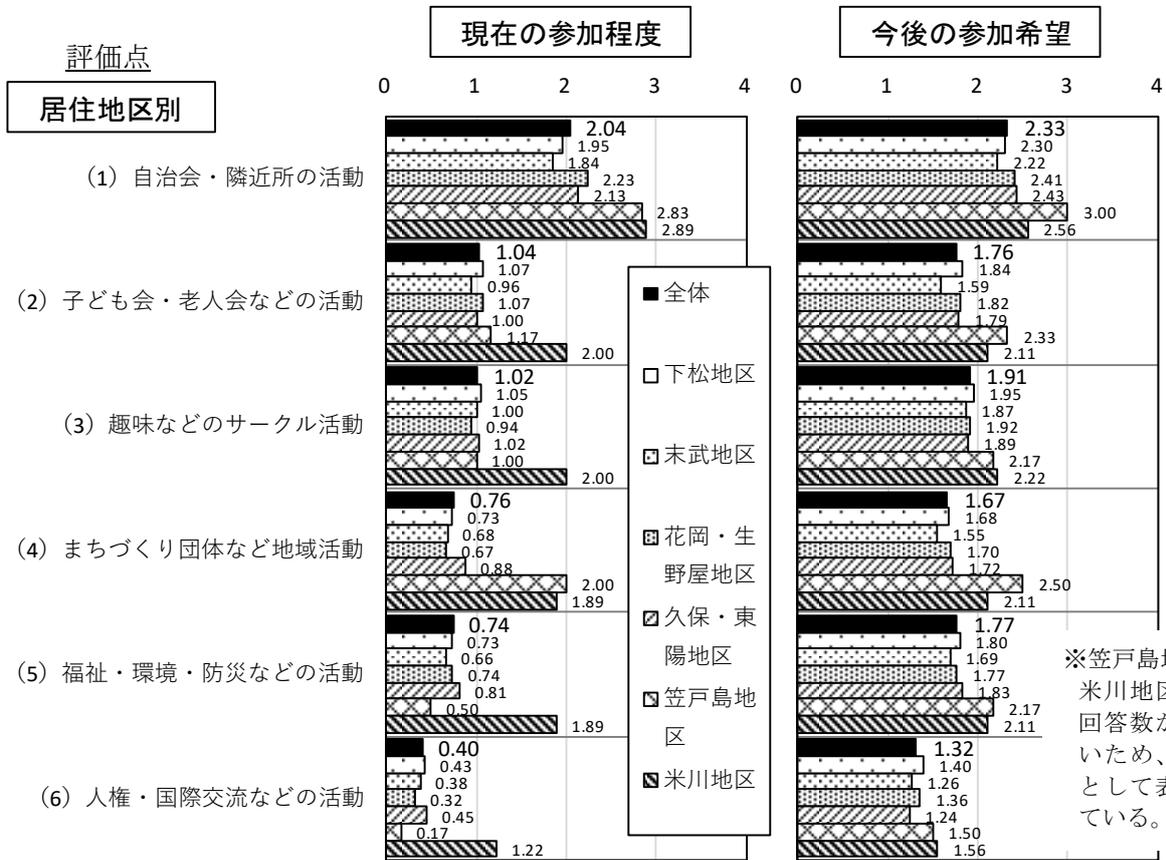
ここで、「積極的に参加」＝4点、「できるだけ参加」＝3点、「ある程度は参加」＝2点、余り参加しない＝1点、「全く参加しない」＝0点として、回答数による加重平均を算出した値を評価点（平均的な参加程度と言える）として、属性別に比較してみる。

各活動とも、年齢が高い層ほど現状の評価点が高まっているが、「子ども会・老人会など」は、子育て世代や高齢世代の評価点が比較的高い傾向を見せている。今後の参加希望の評価点は、年齢層による差があまり見られず、潜在意識としては年齢に関わらず参加意思があるとも見られる。

性別では、大きな差異はないが、全体に女性の方が現状、今後ともに評価点がやや高い。

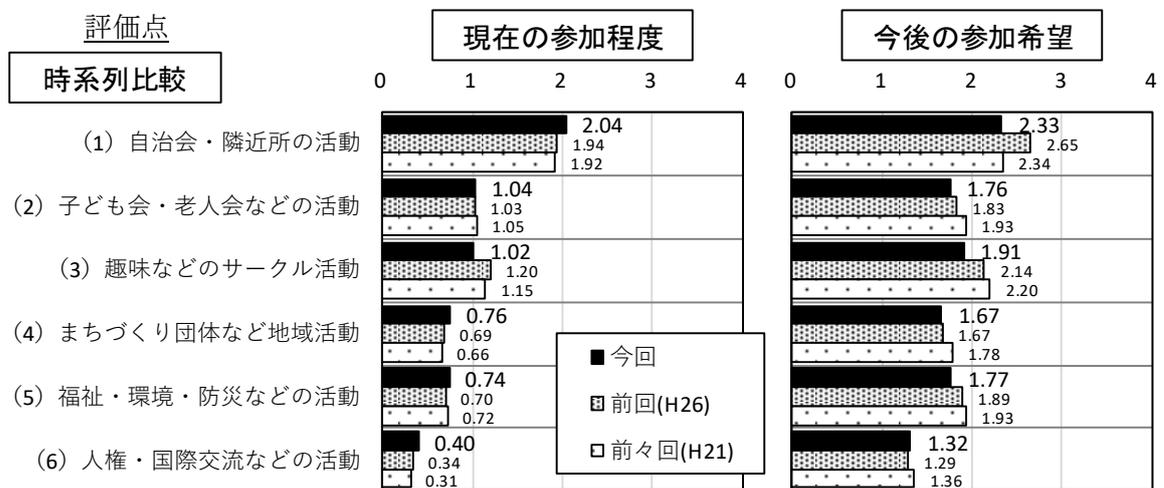


居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、現状の参加程度、今後の参加希望の評価点は、地区による大きな相違は見られない。わずかに、「自治会・隣近所などの活動」などで、花岡・生野屋地区、久保・東陽地区の評価点が相対的に高いことが読み取れる程度である。



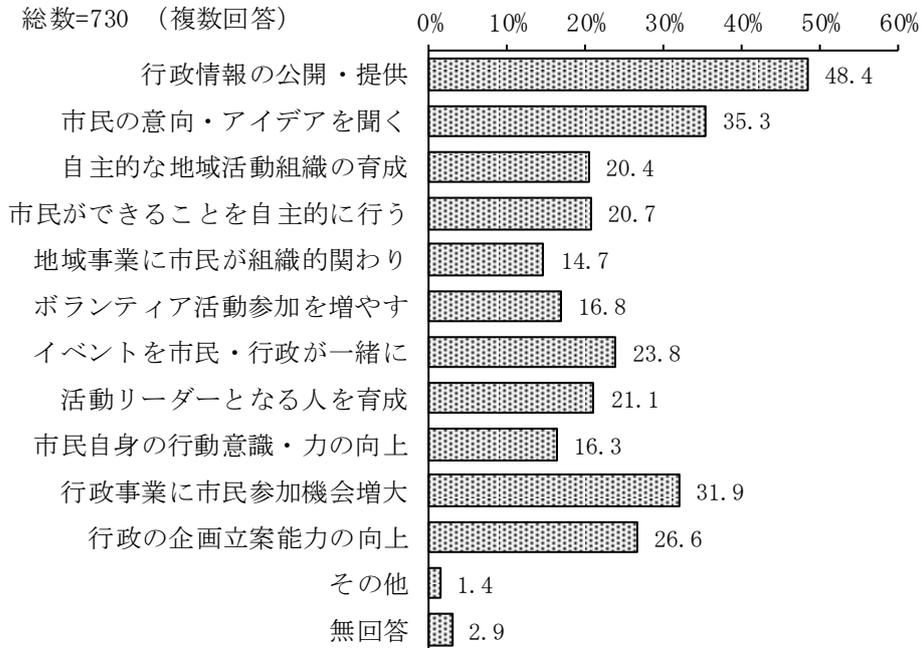
市内居住歴別でみると、市外出身・最近転入の層で、現状の参加程度の評価点は各活動にわたって相対的に低いが目立ち、今後の参加希望の評価点は現状の参加程度より大きく増加するものの、「自治会・隣近所などの活動」、「子ども会・老人会などの活動」ではやはり相対的にやや低い状況である。ただし、それ以外の活動では市内出身者などとほぼ同等の評価点であり、最近転入だからといって地域活動全体に対し消極的なわけではない。現状で自治会など身近な組織活動に馴染んでいない部分や年齢による特性が今後の希望にも反映している結果であり、全体として居住歴による差はほとんどないと言って良いと考えられる。

前回（H26）、前々回（H21）の調査でも同様の設問を行っており、上記と同じ評価点で比較すると、各活動とも大きな変化はないことがわかる。ただし、今後の参加希望に関して、「自治会・隣近所などの活動」をはじめ、評価点がやや低下しており、意識面において市民の間にそれら活動に参加しようとする余裕が乏しくなっているとも考えられる。



(2) 協働のしくみづくりに重要なこと

■問 15 地域のまちづくりは、市民と行政（市や県など）が一緒に考え協力し、役割を分担しあって進めること（＝「協働」）が重要となります。あなたは、より参加しやすい「協働」のしくみを地域で作っていくために、何が重要だと思えますか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。



[選択肢]

1. 行政が持っている情報を市民に積極的に公開、提供すること
2. 市民や市民活動団体などの意見や意向、アイデアなどを行政がよく聞くこと
3. 自治会、子ども会やNPO（民間非営利組織）など自主的な地域活動組織を育てること
4. 道路や公園の清掃や管理など、できることを市民が自主的に行うこと
5. 環境パトロールやリサイクルなどに市民が組織的に関わり取り組むこと
6. 地域の福祉などのボランティア活動への参加を増やし盛り上げること
7. 生涯学習や文化・スポーツなどのイベントを市民と行政が一緒に行うこと
8. 地域でのまちづくりの活動のリーダーとなる人を育てること
9. 市民自身がまちづくりを学び、行動する意識や力を高めること
10. 行政の事業や計画などに市民が参加する機会を増やすこと
11. 行政がまちづくりの施策を企画立案する能力を高め、市民に示すこと
12. その他

まちづくりにおける「協働」のしくみづくりにおいて、どのようなことが重要かを尋ねている。最も高い回答割合となったのは「行政が持つ情報を市民に積極的に公開・提供」で 48.4%と半数近くが指摘しており、2位は「市民等の意見・意向・アイデアを行政がよく聞く」が 35.3%となっている。

「協働」の大前提が市民と行政の情報の共有化であることを、市民も良く理解し、その深化を求めていることがわかる。

また、「行政の事業や計画等への市民参加機会の増大」も 31.9%と比較的高い割合である。

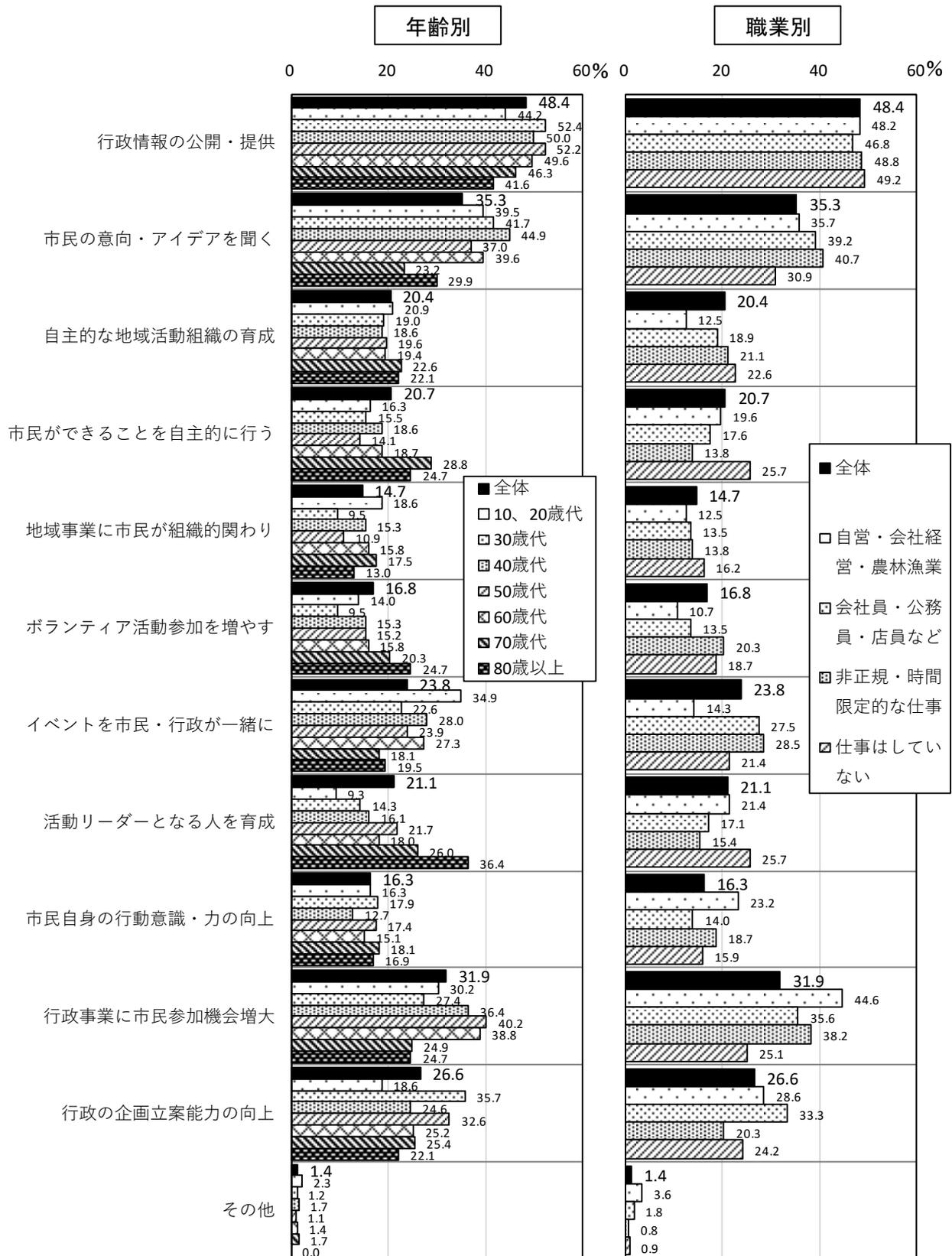
<p>「その他」 の主な記述 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な市民は自ら行動したくなる”しくみ”が重要。”元気になる””収入になる””楽しい””やってみたい”。</li> <li>・大人に話しても無駄。将来を見据え、学校教育に取り込むべき。</li> <li>・市民だけでなく、地場企業にも積極的に参加協力を促す。</li> <li>・市民の代表たる市議会議員にもっと働いてもらうことが重要（報酬にみあう成果が見えない）。</li> <li>・地域の担い手に頼ってきた方々が年を取り、だんだんその力が薄れてきている。若者を育てるか、行政主導でやっていくしかない。</li> <li>・力を借りる事、助けてほしい事をアピールすると解りやすい。</li> <li>・まちづくりがなぜ必要なのか、市民への周知が必要。</li> <li>・老人の知恵、若人の行動力を高め、下松市を良き市へ。</li> </ul>
-------------------------------	---

属性別では、特に年齢別と職業別で興味深い傾向の差を読み取ることができる。

全体で上位の「行政が持つ情報を市民に積極的に公開・提供」や「市民等の意見・意向・アイデアを行政がよく聞く」、「行政の事業や計画等への市民参加機会の増大」といった情報共有等に関する項目への支持は、現役の中核世代というべき 30～50 歳代で特に高く、高齢者層での指摘割合は比較的少ない。

逆に、「市民ができることを自主的に行う」や「まちづくり活動のリーダーとなる人を育てる」、「ボランティア活動への参加を増やす」など、市民自身の行動に関わる項目では高齢者ほど回答割合が高い傾向が顕著である。

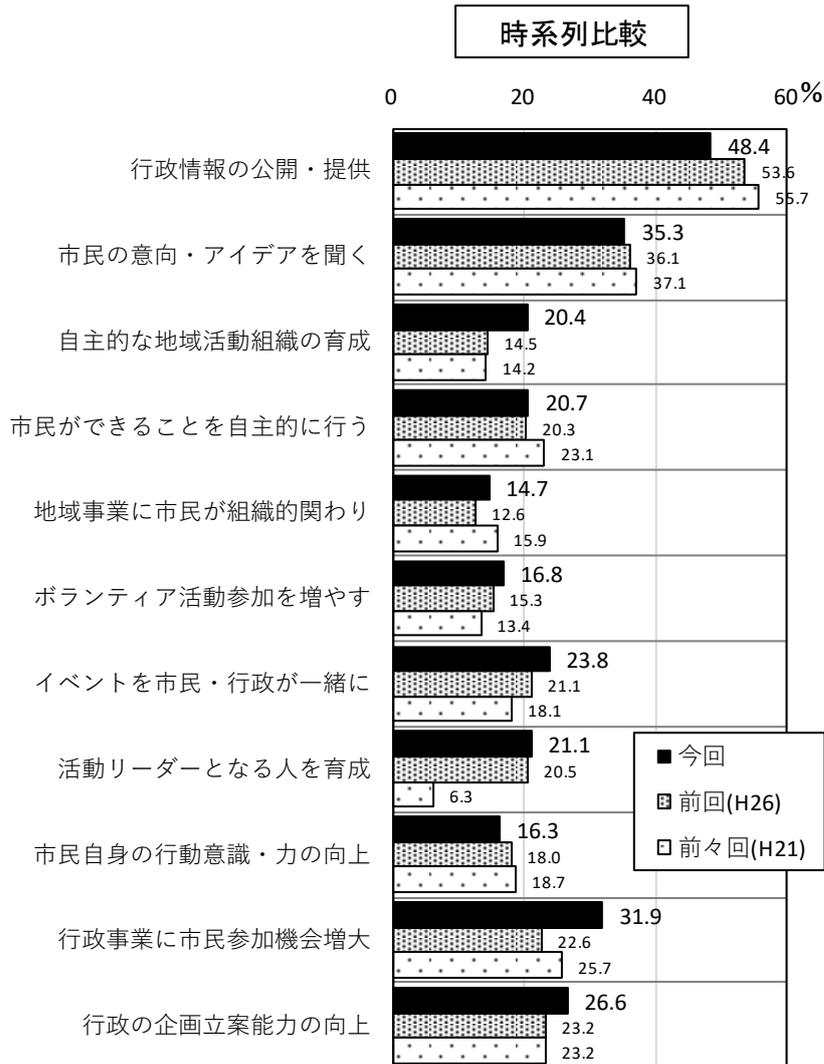
また、自営・会社経営・農林漁業者では「行政の事業や計画等への市民参加機会の増大」を求める割合が相対的に高い一方、会社員・公務員・店員などでは「行政の企画立案能力の向上」を求める割合がやや高いなどの相違がある。無職の回答者では、「市民ができることを自主的に行う」や「まちづくり活動のリーダーとなる人を育てる」の割合が比較的高く、これは無職の人は高齢者に多いことから、年齢別の結果と共通の傾向と見られる。



この設問も、前回（H26）、前々回（H21）とほぼ共通であり、各選択肢の回答割合を比較すると、全体傾向としては類似した状況と見られる。

前回までと比べ、「行政が持つ情報を市民に積極的に公開・提供」の回答割合はやや低下しているが、それでも1位の選択率である。

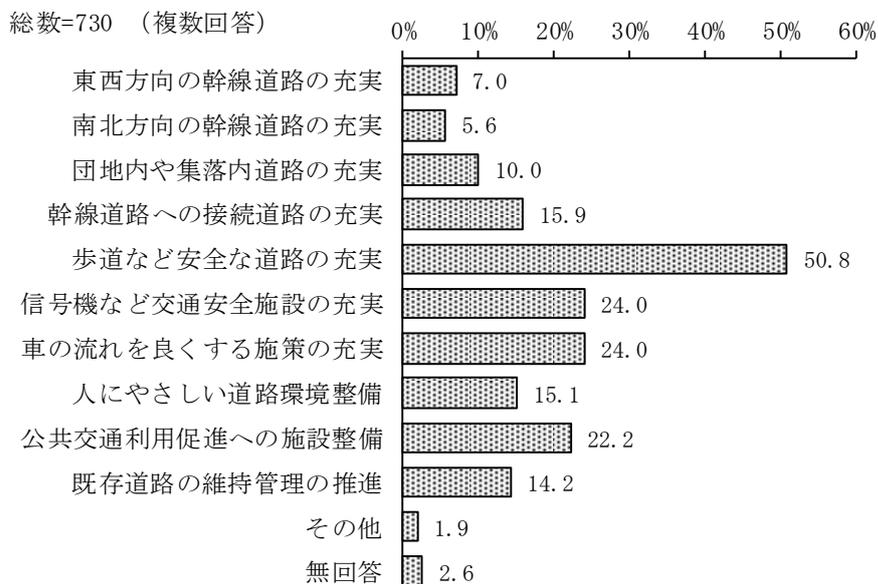
前回から目立って回答割合が上昇したのは、「行政の事業や計画等への市民参加機会の増大」や「自治会など自主的な地域活動組織を育てる」などであり、行政との情報共有の域を超えて、実際の参加行動やその「場」づくりへの意識が少しずつ高まっているように捉えることもできると考えられる。



## 9. 都市づくり・都市施設整備等の方向

### (1) 道路の整備方向

■問 16 市民生活に重要な都市基盤である「道路」について、今後の整備をどのような方向に進めるべきだと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。



#### [選択肢]

1. 市の東西方向の幹線道路の充実
2. 市の南北方向の幹線道路の充実
3. 団地内や集落内の道路の充実
4. 幹線道路と離れた住宅地などを接続する道路の充実
5. 歩道や自転車道といった、誰もが安全に利用しやすい道路の充実
6. 信号機、ガードレール、カーブミラーなど交通安全施設の充実
7. 交差点や道路改良など、自動車の流れを良くする施策の充実
8. 点字ブロックの整備や段差をなくすなど、高齢者や障がい者にやさしい道路環境整備
9. バス路線や駅前広場など公共交通の利用促進につながる駐車場や駐輪場の充実
10. 現在ある道路の維持管理の推進
11. その他

都市施設のうちの「道路」について、今後の整備方向を尋ねている。

最も回答割合が高いのは「歩道など安全に利用しやすい道路の充実」で、50.8%と半数の回答者が指摘している。また、「信号機など交通安全施設の充実」、「交差点や道路改良など車の流れを良くする施策の充実」が各24.0%でこれに続いている。

一方で、東西、南北の「幹線道路の充実」や、「団地内や集落内の道路の充実」の割合はそれぞれ1割以下と少なく、道路施策に関しては、市民の意識が「新設から改良へ」と向いていることが伺える。

また、回答者に、自動車運転に不安が高まる高齢者の比率が高いとは言え、「公共交通の利用促進につながる施設の充実」が22.2%と4位である点が注目される。

<p>「その他」 の主な記述 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量の多いところの4車線化。</li> <li>・横断歩道の薄いところを濃くする等、歩行者に優しい道路整備。</li> <li>・現状の維持管理のみで十分。整備は不必要。</li> <li>・市道は現状程度のメンテで充分。</li> <li>・せっかくの歩道が雑草でおおわれて通りづらくなっている。除草しよう。</li> <li>・側溝に蓋をして欲しい。</li> <li>・生野屋駅の交差点を充実させて欲しい。</li> <li>・大都会じゃないのに歩行者や自転車は数人なのに、歩車分離式信号で（市役所の所）車の渋滞が酷い！！普通の信号機に戻して欲しい。</li> <li>・特に末武地区に至る所に小団地ができていますが、周囲と連結する道路の事は考えてない。周囲の道路との環境を先に計画すべし。</li> <li>・豊井から光方面に向けての道路の充実。</li> <li>・港のまわりの道路の穴、埋めてもまたあいている。</li> </ul>
-------------------------------	---

全体で1位の「歩道など安全に利用しやすい道路の充実」は年齢が高いほどその回答割合が高くなっている反面、2位の「信号機など交通安全施設の充実」、「交差点や道路改良など車の流れを良くする施策の充実」では比較的若い世代ほど選択割合が高いという相違がある。

「公共交通の利用促進につながる施設の充実」はやはり高齢者ほど高い割合となっている。

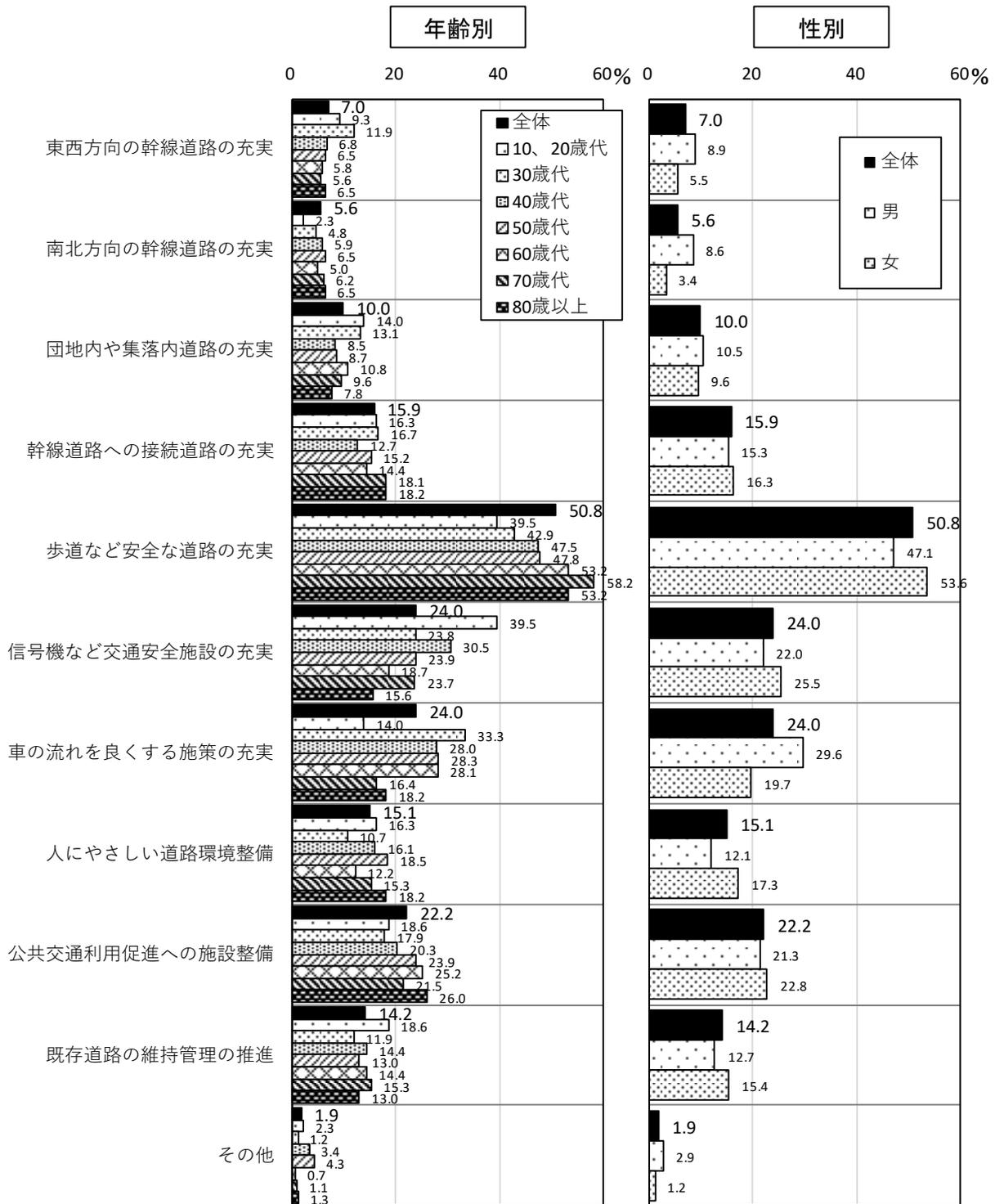
性別では、「歩道など安全に利用しやすい道路の充実」や「信号機など交通安全施設の充実」のほか「人（高齢者や障がい者）にやさしい道路環境整備」などは女性の方が高い割合である一方、「交差点や道路改良など車の流れを良くする施策の充実」は男性の方が高い割合である。また、数は少ないが、東西・南北の「幹線道路の整備」は男性の方が高い割合で求めている。

居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、「歩道など安全に利用しやすい道路の充実」及び「信号機など交通安全施設の充実」は花岡・生野屋地区で最も高い割合を示し、「交差点や道路改良など車の流れを良くする施策の充実」は久保・東陽地区で比較的高い選択率である。各地区の道路事情が反映されているとも考えられる。

「公共交通の利用促進につながる施設の充実」は地区による大きな差は見られず、全地区共通に求められていると言える。

市内居住歴別では、「歩道など安全に利用しやすい道路の充実」及び「信号機など交通安全施設の充実」は市内出身で一度市外に出て戻った層での回答割合が最も高く、「交差点や道路改良など車の流れを良くする施策の充実」は市外出身・最近転入の層での割合が比較的高い。それぞれ、生活経験がある地域との比較で評価している部分が大きいと考えられる。

なお、「公共交通の利用促進につながる施設の充実」は、市外出身で10年以上前に転入した回答者での割合が最多である。

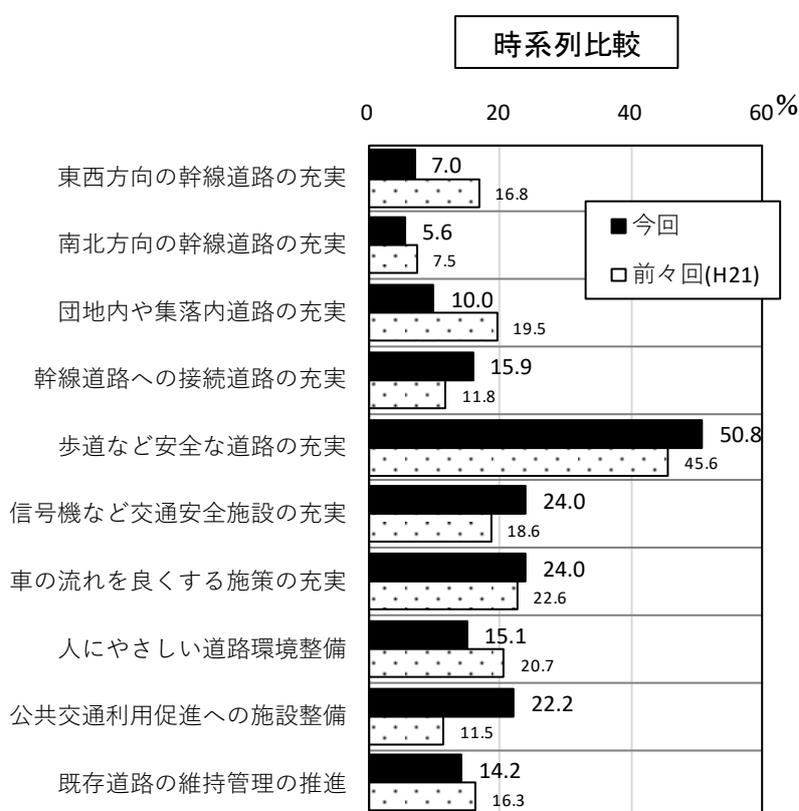




前々回（H21）調査でも同様の調査を行っている。選択肢の表現が異なる部分はあるが、比較した図を以下に示す。

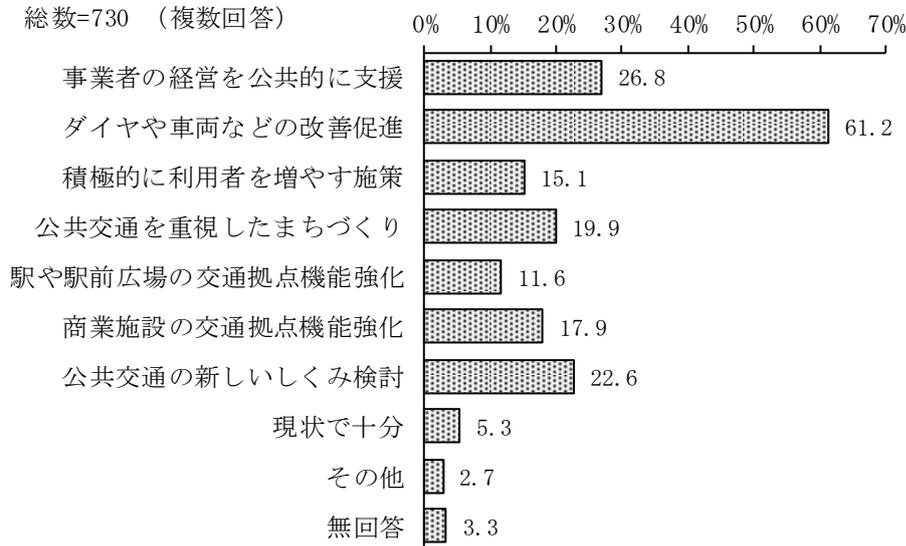
今回1位の「歩道など安全に利用しやすい道路の充実」のほか、「信号機など交通安全施設の充実」、「交差点や道路改良など車の流れを良くする施策の充実」、「公共交通の利用促進につながる施設の充実」といった項目の選択割合は、いずれも10年前から上昇しており、特に「公共交通の利用促進につながる施設の充実」の上昇の程度が大きいのは、運転に不安のある高齢者の割合が増加していることに対応すると考えられる。

一方、東西・南北の「幹線道路の充実」はその割合を大きく減らしており、この10年間の青木線等の都市計画道路の整備等により、道路網の量的拡大はほぼ満足され、質的な充実に市民の関心が向いている（新設から改良へ）ことがここでも現れている。



## (2) 公共交通機関の確保や整備方向

■問 17 バスや鉄道などの公共交通機関について、その確保や整備のためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。



### [選択肢]

1. バスや鉄道の事業者の経営を公共的に支援するなどにより、公共交通サービスの維持、向上を進める。
2. 乗り継ぎしやすい運行ダイヤの設定や車両、停留所の改善など、乗りたくなる魅力ある交通サービスの提供を促進する。
3. 自家用車利用の制限や、バス・鉄道利用の助成など、積極的に公共交通の利用者を増やす施策を進める。
4. バスが走りやすい道路環境整備や、バス路線周辺に各種施設を集積するなど、公共交通を重視したまちづくりを進める。
5. 駅や駅前広場を公共交通の拠点とし、バスターミナルなどの機能を強化する。
6. 大規模商業施設を公共交通の拠点とし、バスターミナルなどの機能を強化する。
7. バスや鉄道に代わる公共交通の新しいしくみを検討する。
8. 公共交通機関の確保や整備などは現状で十分だ。
9. その他

前問で、道路の整備方向として「公共交通の利用促進につながる施設の充実」を求める意識が高まっていることを述べたが、ここでは、その公共交通機関の確保・整備のために必要な取り組みを尋ねている。

回答が集中したのは「運行ダイヤや車両の改善など魅力ある交通サービス提供の促進」で、61.2%の回答率である。他の選択肢は、いずれも1～2割台の選択率であり、総合的に利用利便の向上を求める中でも、特に現行の鉄道・バスのダイヤをはじめとするサービス水準への不満が現れていると言える。

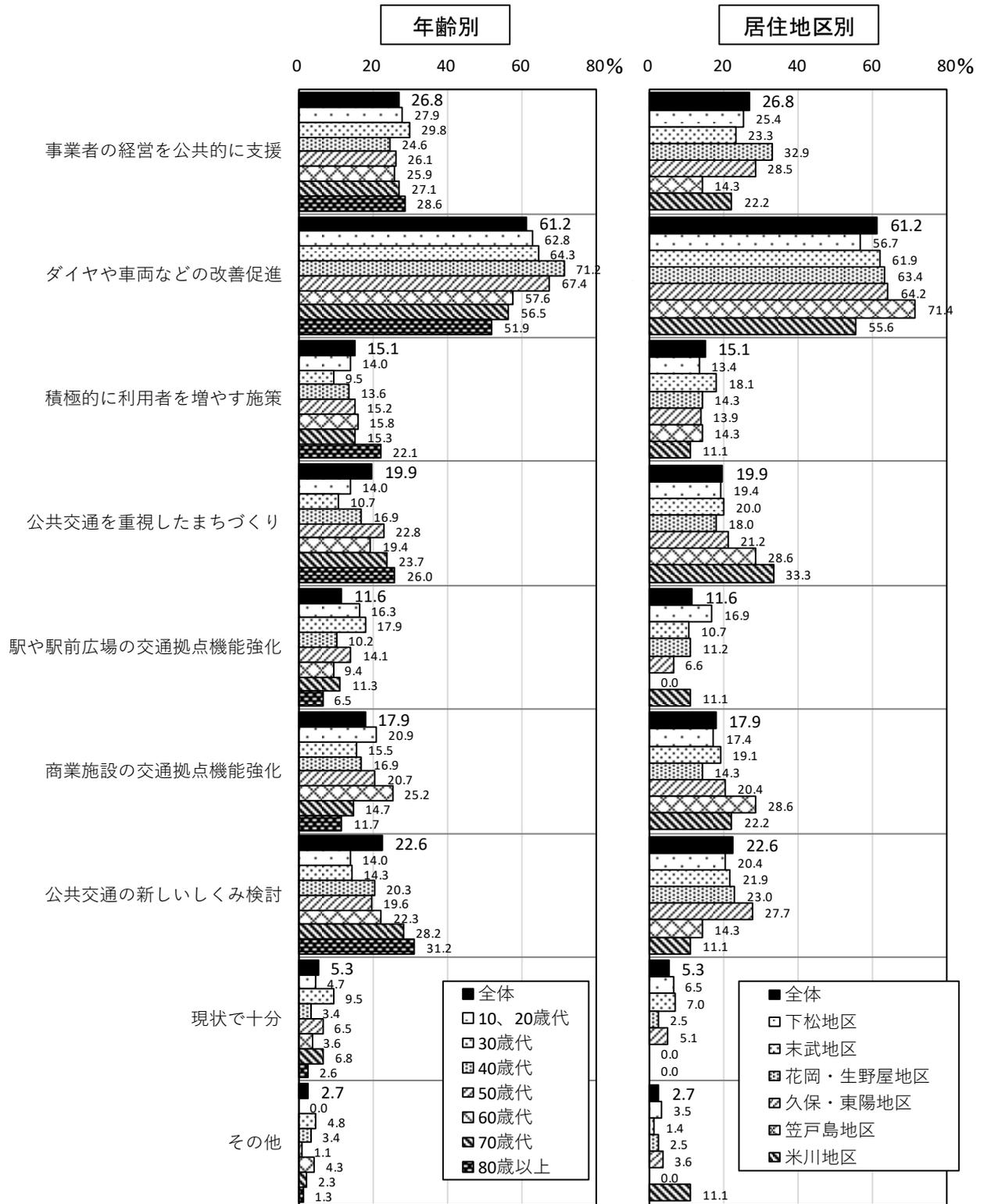
なお、「その他」の記述回答の中で、小型バス、コミュニティバスの導入（市内循環など）を求める声が目立っている。

<p>「その他」 の主な記述 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JRとバスの乗り継ぎが悪く、利用しやすい時間とバスの本数を増やして利用する人を増やしてほしい。</li> <li>・ 駅前駐車場がないと利用しにくい。駅前、周辺に施設（商業）が少ない。</li> <li>・ 高齢者が車の運転をしないように、市の運営でシャトルバスの定期便を運行して頂きたい（米川地区ではやっているようですが）。</li> <li>・ 小型バスにして周遊システムにする。</li> <li>・ コミュニティバスやタクシー利用の充実。</li> <li>・ 高齢者で運転免許を返納した方などに、バスや鉄道の現在の状況や活用方法など、老人会や敬老会などで説明したら良い。</li> <li>・ 高齢者に割引～無料券を公で出してほしい。</li> <li>・ 生活における時間の確保。子供が習い事やスポ少に追われ、つい自家用車に頼る。時間があれば乗りたいと思っている。荷物が大量の時に困る→やはり自家用車がいい。</li> <li>・ 自動運転などの導入のモデルコースになる予算の確保。</li> <li>・ バスに至っては、停留所名だけではそれがどこかわからない。料金も時刻も情報発信が不十分。それが改善されないと使いようがない。</li> <li>・ 松寿苑へ行こうにもタクシーでしか行けない。今はまだいいけど、そういう不便な所への交通機関。</li> <li>・ 交通系電子マネーの導入。</li> </ul>
-------------------------------	---

年齢別にみると、「運行ダイヤや車両の改善など魅力ある交通サービス提供の促進」の割合は各年齢層ともに5割以上を占め首位であり、他の選択肢も年齢の相違による極端な回答率の違いは見られない。

ただし、「バスが走りやすい道路環境整備や、バス路線周辺に各種施設を集積するなど公共交通を重視したまちづくり」や「バスや鉄道に代わる公共交通の新しいしくみを検討」といった項目で、年齢が高いほど指摘割合が高まる点が興味深い。

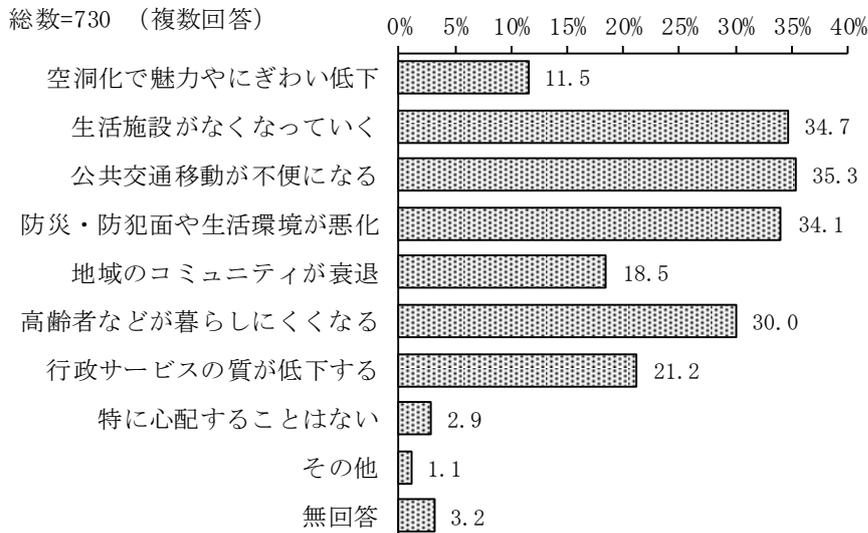
居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）でも、地区による極端な相違は見えにくいですが、「バスや鉄道に代わる公共交通の新しいしくみを検討」の指摘割合が久保・東陽地区で比較的高い点が注目される。



※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

### (3) 都市としての生活や環境面の心配

■問 18 今後の人口減少や少子高齢化の進展の中で、都市としての下松市での生活やその環境を考えた場合、特に心配なことはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。



- [選択肢]
1. 市街地が空洞化し、市の魅力やにぎわいが低下する。
  2. 身近なお店や病院などの生活施設が、利用者の減少等によりなくなっていく。
  3. バス等の本数や路線が削減され、公共交通による移動が不便になる。
  4. 空き家や空き地の増加により、防災・防犯面や生活環境が悪化する。
  5. 地域のコミュニティが衰退し、自治会活動や祭などの担い手がなくなる。
  6. 福祉の担い手の減少やサービスの効率低下で高齢者などが暮らしにくくなる。
  7. 税収の減少などにより、行政サービスの質が低下する。
  8. 特に心配することはない。
  9. その他

人口減少、少子高齢化という社会状況の変化が生活の場としての都市のあり方に及ぼす影響に関する心配な点を尋ねたものである。

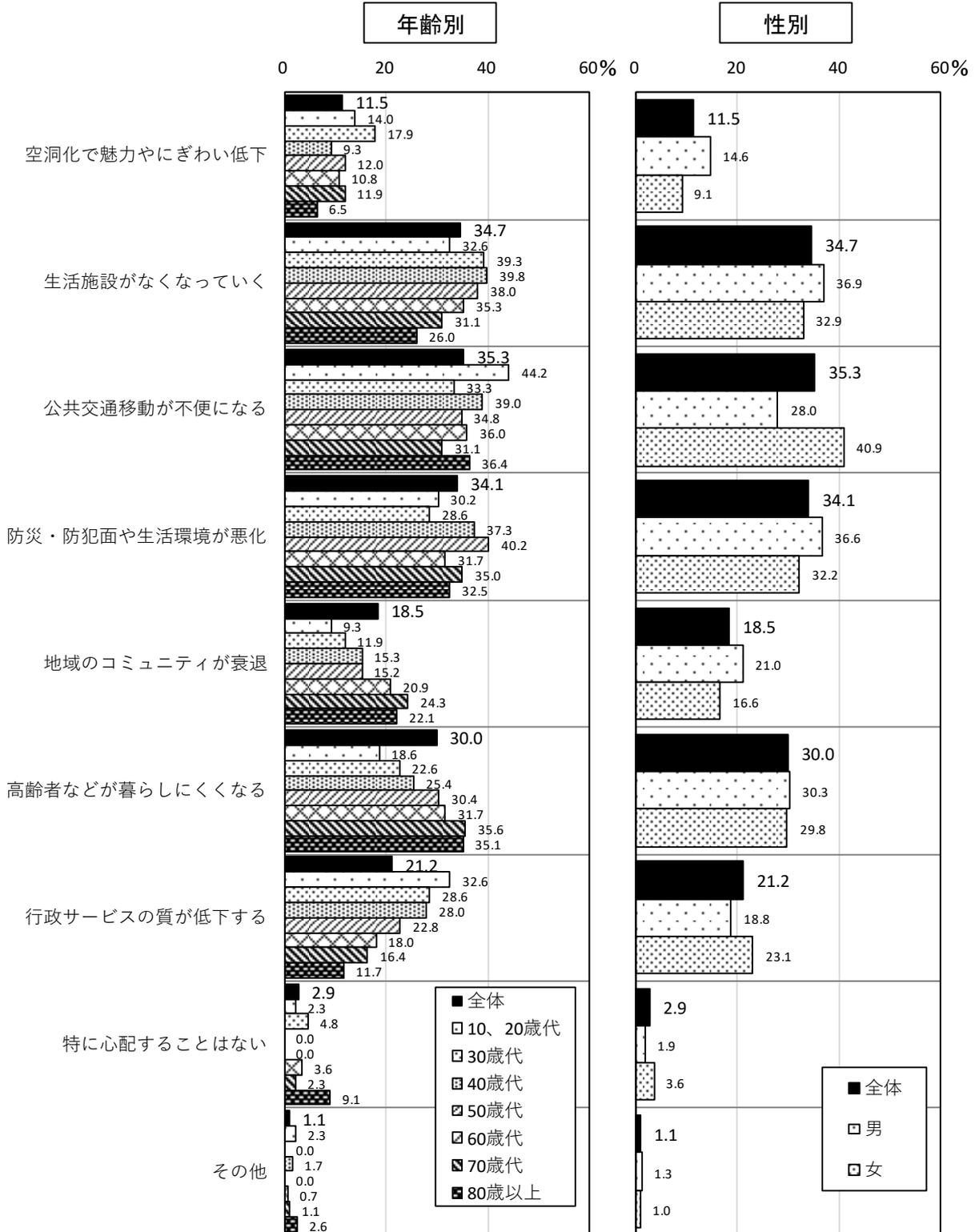
用意した選択肢で特に回答率が突出したものはなく、市民は様々な状況への心配・不安を感じていると言える。特に、公共交通の便、生活施設の身近さ、防災・防犯等の環境面などの面への悪影響が強く懸念されていると見られる。「その他」の記述回答でも「8以外全部心配」との指摘がある。

なお、「市街地が空洞化し、市の魅力やにぎわいが低下する」の割合がやや少ないのは、現状での衰退感が乏しいことから現実味があまり感じられていないためとも考えられる。

「その他」の主な記述内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8以外全部心配。</li> <li>・ 人口減少は心配ないと思う。よりコンパクトな集中的な都市づくり。中心部は都市機能充実させ、郊外は自然保護というような考え方はどうか。</li> <li>・ 駅周辺がマンションと駐車場ばかりになっている。</li> <li>・ 大変道が狭く軽自動車でもギリギリである。これでは都市とは言い難い。</li> <li>・ 平野部以外が過疎化する。</li> <li>・ 町の商店や病院の高齢化で利便性が失われる。不便になる（後継ぎ）。</li> <li>・ 若い世代が減っていき、残った若い世代がどうなるのか。</li> </ul>
--------------	---

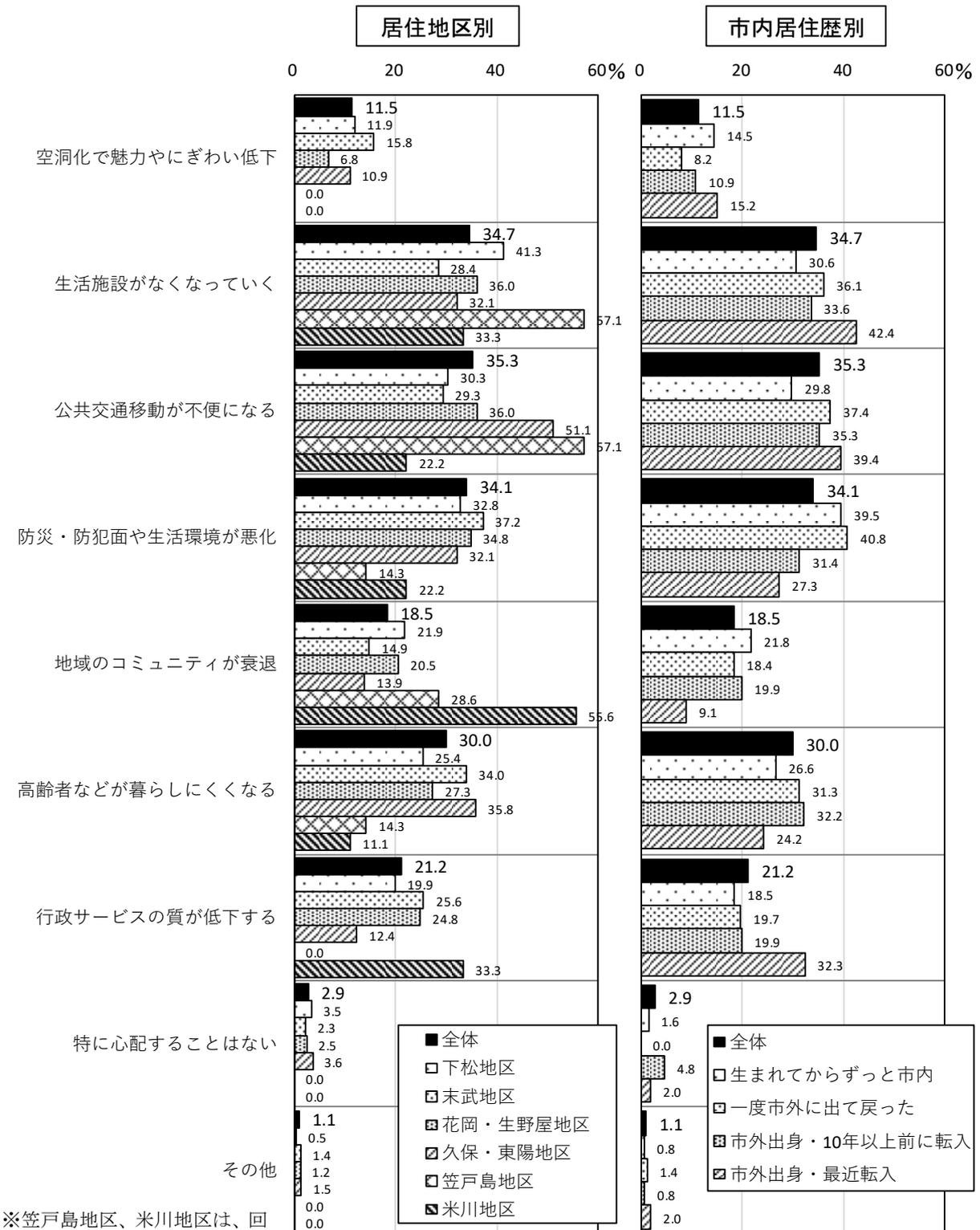
年齢別では、公共交通移動の面や行政サービスの質の低下などは10、20歳代など若い世代で比較的高い割合を示し、「高齢者等が暮らしにくくなる」や「地域コミュニティの衰退」への懸念は年齢が高いほど高い割合となる。

性別でみると、「公共交通移動が不便になる」で女性の割合が高いことなどが目立つ。



居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、「公共交通移動が不便になる」の割合が特に久保・東陽地区で高いことが目立つ。また、「生活施設がなくなっていく」の割合は下松地区で比較的高いなど、地区の状況を反映した微妙な差が現れている。

市内居住歴別では、「防災・防犯や生活環境面の悪化」への心配の指摘率が、市内出身者で比較的高いほか、「生活施設がなくなっていく」や「行政サービスの質の低下」は市外出身・最近転入の層での回答率が高いのが目立つ。



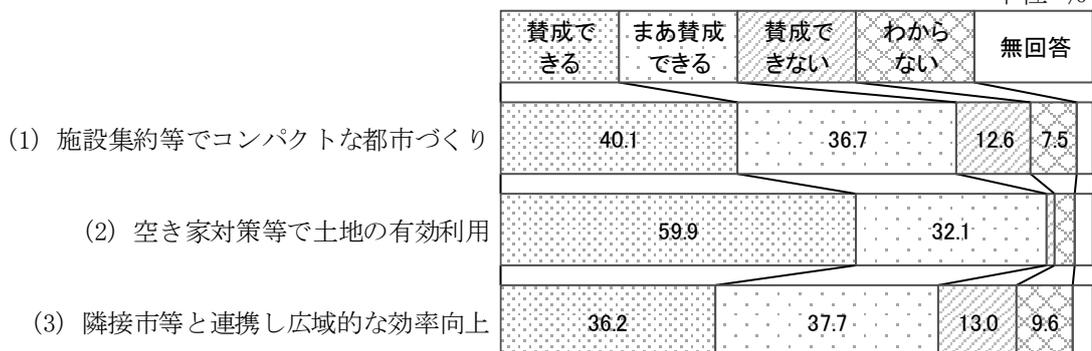
(4) 都市づくりの方向性への評価

■問 19 人口減少時代にも効率的な都市づくりを進めるため、下松市では次のような方向性で検討を進めています。これについてあなたはどのように思いますか。(1)～(3)について、選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

- (1) 市街地の拡大は抑制し、駅周辺、中央線、末武大通線沿いなどに人が集まる施設を集約し、コンパクトな都市づくりを進める。
- (2) 空き家や空き店舗などの有効活用や適切な除却などの対策を進め、土地の有効利用を進める。
- (3) 隣接する周南市や光市などと連携した都市づくりにより、公共施設の集約や相互利用など、広域的な効率の向上を進める。

総数=730

単位:%



※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

	全体	賛成できる	まあ賛成できる	賛成できない	わからない	無回答
(1) 施設集約等でコンパクトな都市づくり	730	293	268	92	55	22
	100.0	40.1	36.7	12.6	7.5	3.0
(2) 空き家対策等で土地の有効利用	730	437	234	10	26	23
	100.0	59.9	32.1	1.4	3.6	3.2
(3) 隣接市等と連携し広域的な効率向上	730	264	275	95	70	26
	100.0	36.2	37.7	13.0	9.6	3.6

都市計画上の大きな課題に対し、市が進めようとしている対応方向への賛否を尋ねている。

駅周辺～中央線～末武大通線沿いなどに都市機能を集約する「コンパクト化」については「賛成できる」と「まあ賛成できる」の合計割合が76.8%を占め、大筋としての賛同が得られていると見られる。

空き家・空き店舗対策として土地の有効利用については、さらにその比率が92.0%に達し、この問題が市民の大きな関心事であり、その解決が強く望まれていることを示している。

隣接市等と広域的に連携し、公共施設の集約や相互利用等を進めることに対しても、同割合が73.9%であり、総体として、都市計画施策の方向性は支持されている部分が多いと判断される。

### 1) コンパクトな都市づくりについて

「施設集約等でコンパクトな都市づくり」については、全体的には3/4以上が賛同の意向を示しているが、年齢別にみると、特に40歳代で、積極的に「賛同できる」の割合が50.8%と半数に達しており、「まあ賛同できる」を加えると84.7%に達する。10、20歳代でもこの合計割合が83.7%で、若い世代にも都市のコンパクト化は理解され、支持されている状況がわかる。一方、「賛成できない」の割合は、全体では12.6%であるが、この割合が最も多いのは60歳代の18.0%である。

性別では、男性の方が、賛成の度合いが若干高い。

居住地区別では、積極的に「賛成できる」の割合が下松地区では48.8%と半数近くであるのに対し、末武、花岡・生野屋、久保・東陽地区の順でこの値が目に見えて低下し、各地区の位置により、コンパクトな都市づくりの捉え方が大きく異なることがわかる。なお、回答数が少ないため精度の確保はしがたいが、笠戸島、米川地区の回答者では「賛成できない」の割合が3～4割台と特に多い。

また、「生まれてからずっと市内」に居住している回答者は、賛同の度合いがやや低いといった特徴も見られる。

		賛成 できる	ま あ 賛 成 で き る	い 賛 成 で き な い	わ か ら な い	無 回 答	(%)
(凡例)							
(n)							
【年齢別】	全体 (730)	40.1		36.7		12.6	7.5
	10、20歳代 (43)	39.5		44.2		7.0	7.0
	30歳代 (84)	41.7		36.9		10.7	8.3
	40歳代 (118)	50.8		33.9		10.2	5.1
	50歳代 (92)	38.0		41.3		12.0	8.7
	60歳代 (139)	35.3		36.0		18.0	6.5
	70歳代 (177)	36.7		39.5		11.3	8.5
	80歳以上 (77)	41.6		26.0		15.6	9.1
【性別】	男 (314)	42.4		38.2		11.5	
	女 (416)	38.5		35.6		13.5	9.9
【居住地区別】	下松地区 (201)	49.8		29.9		10.4	
	末武地区 (215)	41.4		40.9		8.8	5.6
	花岡・生野屋地区 (161)	37.3		40.4		11.8	8.7
	久保・東陽地区 (137)	29.9		36.5		19.7	13.1
	笠戸島地区 (7)	14.3	28.6		42.9		14.3
	米川地区 (9)	22.2		33.3		33.3	
【市内居住歴別】	生まれてからずっと市内 (124)	33.1		39.5		17.7	
	一度市外に出て戻った (147)	43.5		36.1		15.0	5.4
	市外出身・10年以上前に転入 (357)	40.1		35.6		10.4	9.8
	市外出身・最近転入 (99)	43.4		39.4		11.1	6.1

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

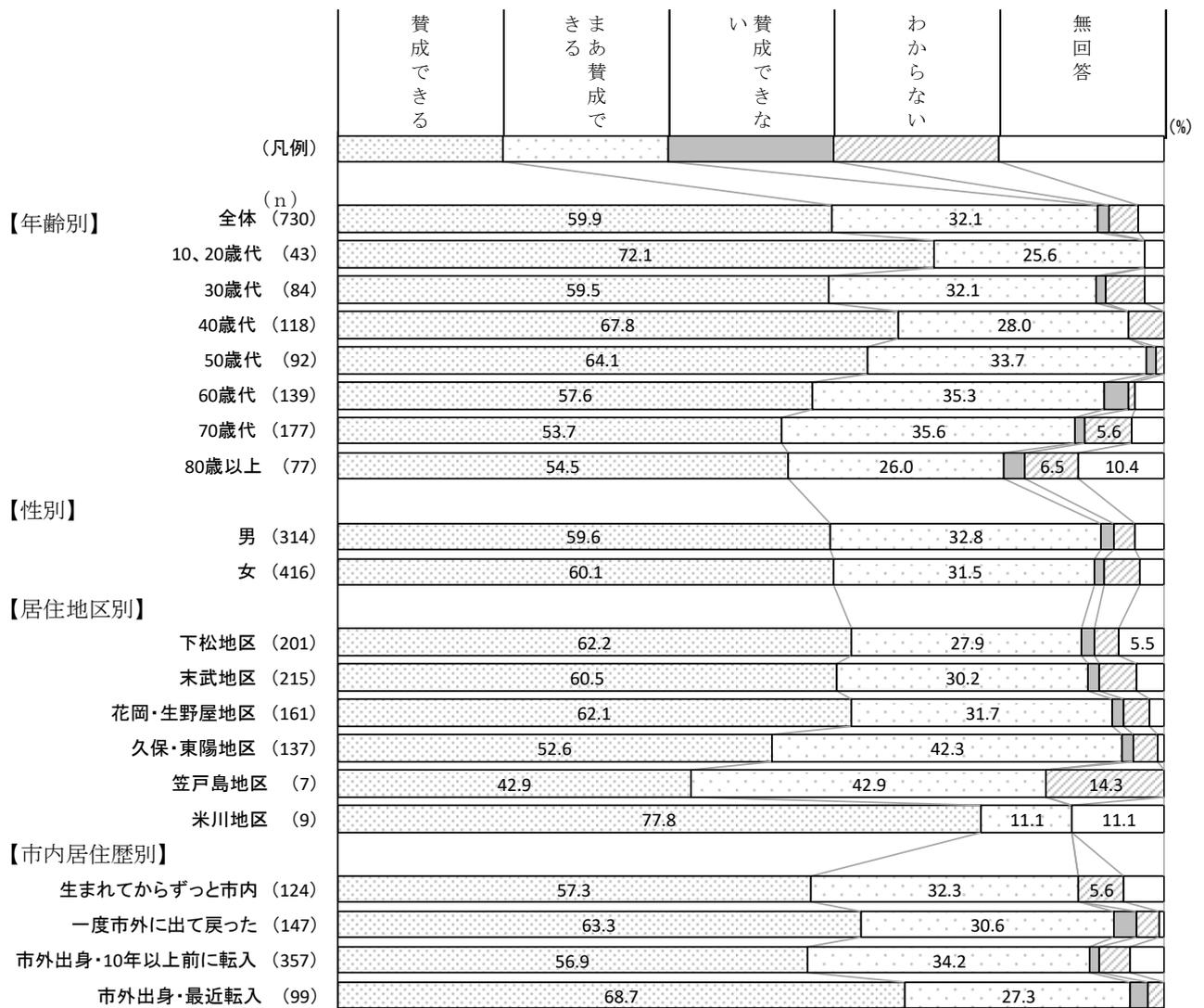
※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

## 2) 空き家対策等について

「空き家対策等で土地の有効利用」については、全体では9割以上が賛同の意向であるが、この傾向は、性別、年齢を問わず概ね共通である。特に、10、20歳代では、積極的に「賛成できる」の割合だけで72.1%に達しており、若い世代にも強く問題視されていると言える。

居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、久保・東陽地区で積極的な「賛成」の割合がやや少ないが、それでも「まあ賛成できる」を加えた割合は最も高く、95.9%に達している。

また、市外出身・最近転入の回答者で、積極的な「賛成」の割合が特に高い。



※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

### 3) 隣接市等と連携した広域的効率向上について

「隣接市等と連携し広域的な効率向上」に関しては、全体では 73.9%と 3 / 4 近くが賛同の意向であるが、特に、10、20 歳代から 50 歳代の現役世代で、「賛成できる」と「まあ賛成できる」の合計割合が 8 割前後以上と、高い割合である。60 歳以上の高齢者ではこの値が低下するが、「わからない」の割合増加があるため、「賛成できない」の割合が目立って多いわけではなく、最多の 60 歳代でも 17.3%である。

性別では男性の方が若干賛同の割合が高い。また、居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では概ね同様の傾向である。

また、市外出身・最近転入の層では特に賛同の割合が高く、積極的に「賛成できる」の割合だけで 54.5%と半数以上を占めている。

	賛成できる	まあ賛成できる	賛成できない	わからない	無回答
(凡例)					
【年齢別】	(n)				
全体 (730)	36.2	37.7	13.0	9.6	
10、20歳代 (43)	44.2	44.2			
30歳代 (84)	41.7	41.7	8.3	6.0	
40歳代 (118)	38.1	40.7	12.7	8.5	
50歳代 (92)	41.3	43.5	9.8	5.4	
60歳代 (139)	35.3	36.7	17.3	7.2	
70歳代 (177)	29.4	36.2	14.7	14.7	5.1
80歳以上 (77)	33.8	23.4	15.6	15.6	11.7
【性別】					
男 (314)	39.5	36.3	14.0	6.4	
女 (416)	33.7	38.7	12.3	12.0	
【居住地区別】					
下松地区 (201)	38.3	33.8	14.4	8.0	5.5
末武地区 (215)	33.0	40.0	12.1	10.7	
花岡・生野屋地区 (161)	39.1	36.0	10.6	12.4	
久保・東陽地区 (137)	35.0	42.3	13.9	7.3	
笠戸島地区 (7)	28.6	57.1		14.3	
米川地区 (9)	33.3	55.6		11.1	
【市内居住歴別】					
生まれてからずっと市内 (124)	32.3	40.3	10.5	11.3	5.6
一度市外に出て戻った (147)	28.6	44.9	15.0	10.9	
市外出身・10年以上前に転入 (357)	35.6	35.0	14.6	10.1	
市外出身・最近転入 (99)	54.5	33.3	8.1		

※ 5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

※ 笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

## 10. 都市の現状改善状況と今後の改善分野

### (1) この10年間の改善評価

■問20 都市計画マスタープランの策定から10年近くが経ちますが、この間に、下松市の都市としての現状はどのように改善されたと感じますか。次の項目ごとに、それぞれの改善の程度を1～6の中から1つずつ選び、番号を○で囲んでください。

都市計画の観点から、都市計画マスタープラン策定後の10年間の改善状況について、18の分野項目ごとに評価を求めている。

5段階（+「わからない」）での評価であるが、「良くなった」＝2点、「まあ良くなった」＝1点、「変わらない」＝0点、「やや悪くなった」＝－1点、「悪くなった」＝－2点として、回答数（「わからない」と無回答を除く）で加重平均した値を評価点として項目間の比較を行う。

最も高い評価点となったのは「大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい」で、評価点は0.67である。以下、「自動車が快適に利用できる道」、「下水道、ごみ・し尿処理など生活環境施設」、「歩行者や自転車が安全に走行できる道」、「身近なお店や病院などの生活施設の充実度」、「公園や緑地、水辺など自然環境の充実度」、「道路・公園や公共施設のバリアフリー化」、「様々な産業の集積とまちの活力」の順で続き、ここまでが評価点0.3以上である。

都市計画マスタープランに沿った幹線街路の整備やそれに伴う沿道型商業施設等の立地、公共下水道の整備推進等が評価された形である。

逆に、最も評価点が低いのは「下松駅周辺の拠点としての魅力やにぎわい」の－0.15で、「鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ」も－0.13で、この2項目がマイナスの評価点である。

下松駅ではエレベーター設置によりバリアフリー化を進めており、その部分は評価されても、周囲の商業機能の希薄化や公共交通利便の悪さの実感が特に助長されたと見られる。

評価点上位の「大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい」や「身近なお店や病院などの生活施設の充実度」などは特に若い世代で改善の評価が高い一方、「下水道、ごみ・し尿処理など生活環境施設」は80歳以上等の高齢者で比較的高い評価点であるなどの特徴が見られる。

性別では男女による大きな傾向の差は見られないが、「良好なまちなみ景観の保全・形成」などは女性の方が評価点が高い。

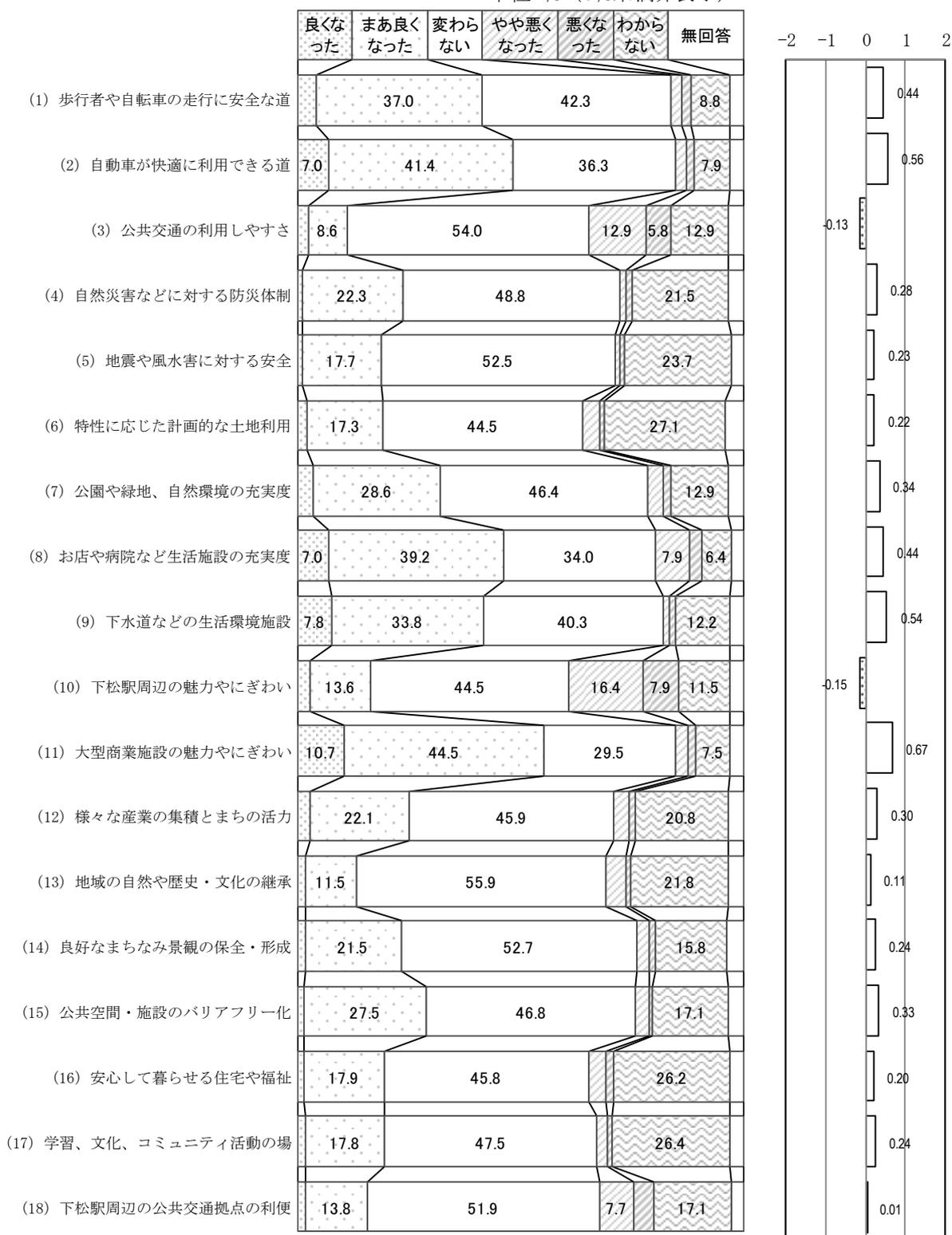
居住地区別では、回答数が少ない笠戸島、米川地区を除いた4地区間では目立った差異はないが、「大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい」や「身近なお店や病院などの生活施設の充実度」は特に末武地区での改善評価度が高く、また、「下水道、ごみ・し尿処理など生活環境施設」は花岡・生野屋地区での評価点が比較的高いなど、商業立地集積や公共下水道整備等が好感を持って受け止められていると言える。逆に、「鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ」は、岩徳線沿線である花岡・生野屋地区、久保・東陽地区での評価点が比較的低い。

また、「下松駅周辺の拠点としての魅力やにぎわい」は「鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ」と合わせて、市内出身で市外に出て戻った層で特に低い評価となっている。

総数=730

単位:% (5%未満非表示)

<評価点>



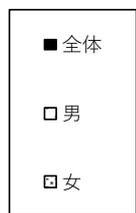
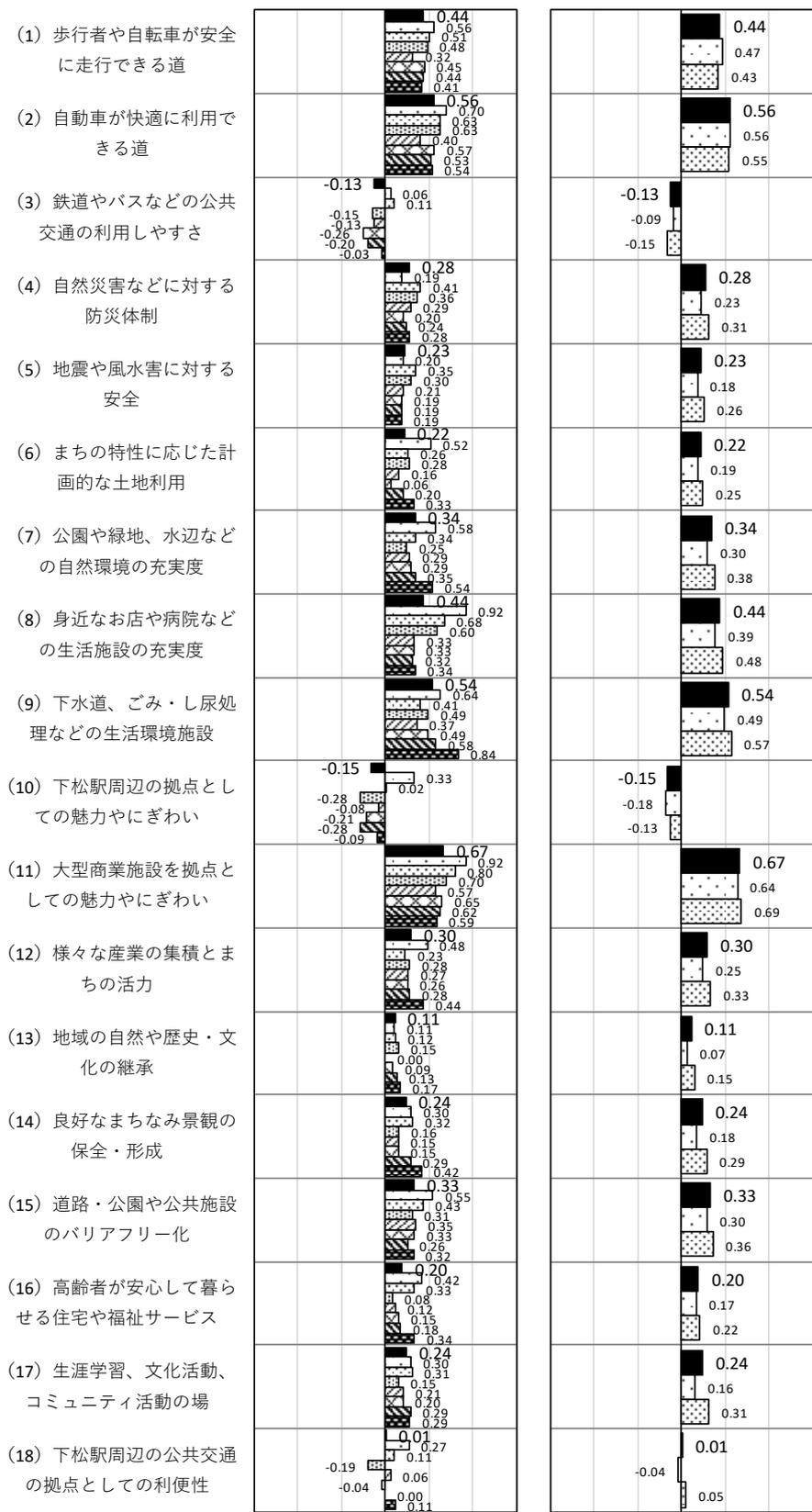
注) 「評価点」は、「良くなった」=2点、「まあ良くなった」=1点、「変わらない」=0点、「やや悪くなった」=-1点、「悪くなった」=-2点として、回答数(「わからない」と無回答を除く)で加重平均した値

注) 項目名を一部短縮して表示している箇所がある。

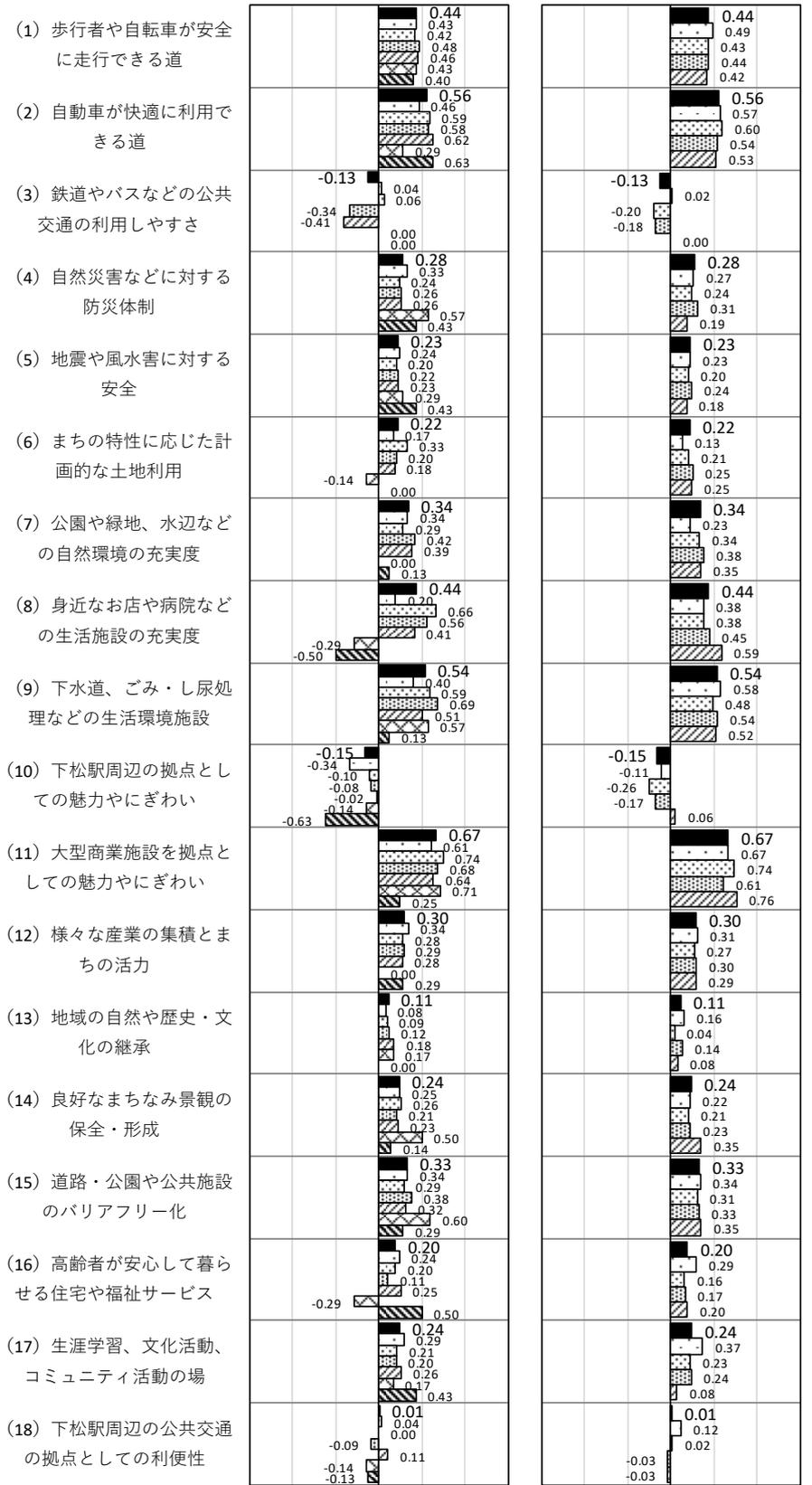
※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

年齢別
性別

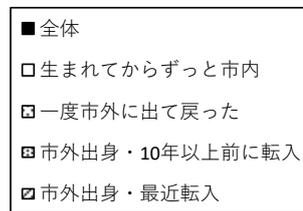
-1.5 -1.0 -0.5 0.0 0.5 1.0 1.5
-1.5 -1.0 -0.5 0.0 0.5 1.0 1.5



居住地区別
市内居住歴別

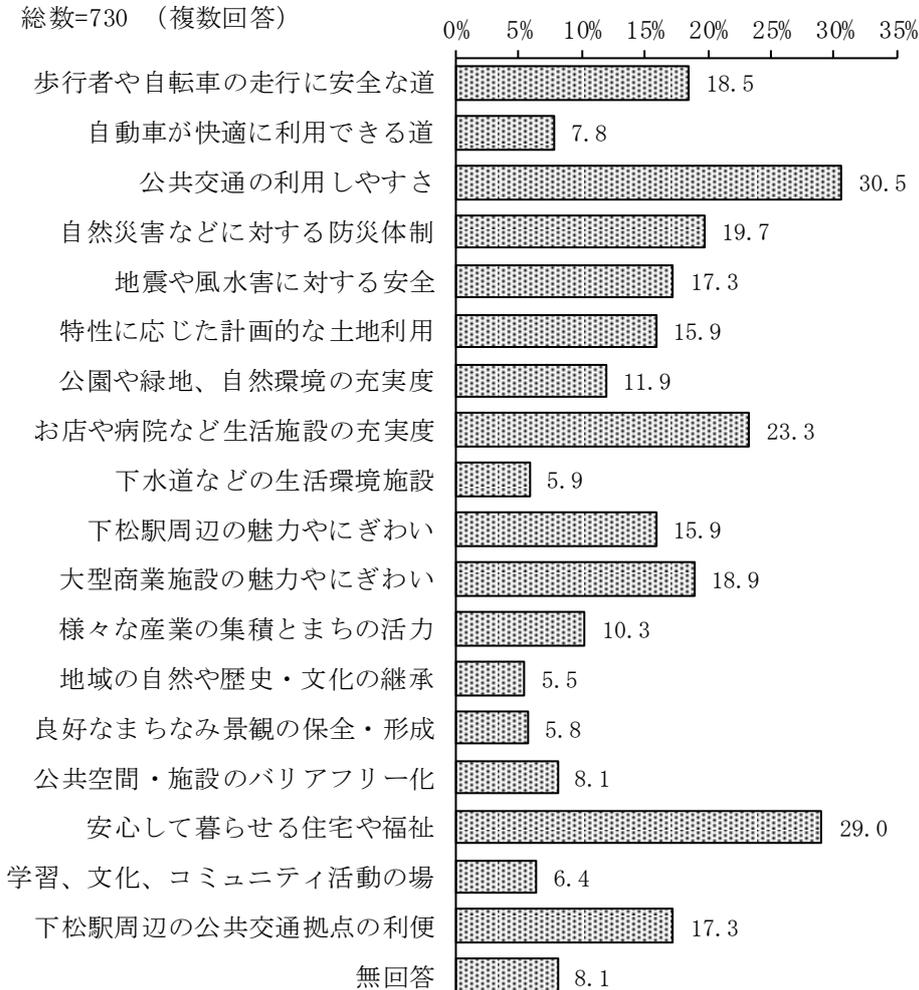


※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。



(2) より魅力ある都市への改善分野

■問 21 上の(1)～(18)の中で、下松市が今後さらに魅力ある都市となるためには、特にどのような分野の改善が重要だと思いますか。(1)～(18)の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。



[選択肢]

1. 歩行者や自転車が安全に走行できる道
2. 自動車が快適に利用できる道
3. 鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ
4. 自然災害などに対する防災体制
5. 地震や風水害に対する安全
6. まちの特性に応じた計画的な土地利用
7. 公園や緑地、水辺などの自然環境の充実度
8. 身近なお店や病院などの生活施設の充実度
9. 下水道、ごみ・し尿処理などの生活環境施設
10. 下松駅周辺の拠点としての魅力やにぎわい
11. 大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい
12. 様々な産業の集積とまちの活力
13. 地域の自然や歴史・文化の継承
14. 良好なまちなみ景観の保全・形成
15. 道路・公園や公共施設のバリアフリー化
16. 高齢者が安心して暮らせる住宅や福祉サービス
17. 生涯学習、文化活動、コミュニティ活動の場
18. 下松駅周辺の公共交通の拠点としての利便性

前問で掲げた 18 の分野項目について、今後さらに改善が必要な分野の選択を求めている。

最も高い割合なのは「鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ」で 30.5%の回答者が指摘しており、「高齢者が安心して暮らせる住宅や福祉サービス」が 29.0%でこれに次いでいる。

そのほか、「身近なお店や病院などの生活施設の充実度」、「自然災害などに対する防災体制」、「大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい」、「歩行者や自転車が安全に走行できる道」などの選択割合が高く、公共交通の利便については前問でこれまでの改善評価が低かったので今後の改善が強く求められていると言えるが、その他の項目では、必ずしもこれまでの改善評価に逆比例した選択となっているわけではない。

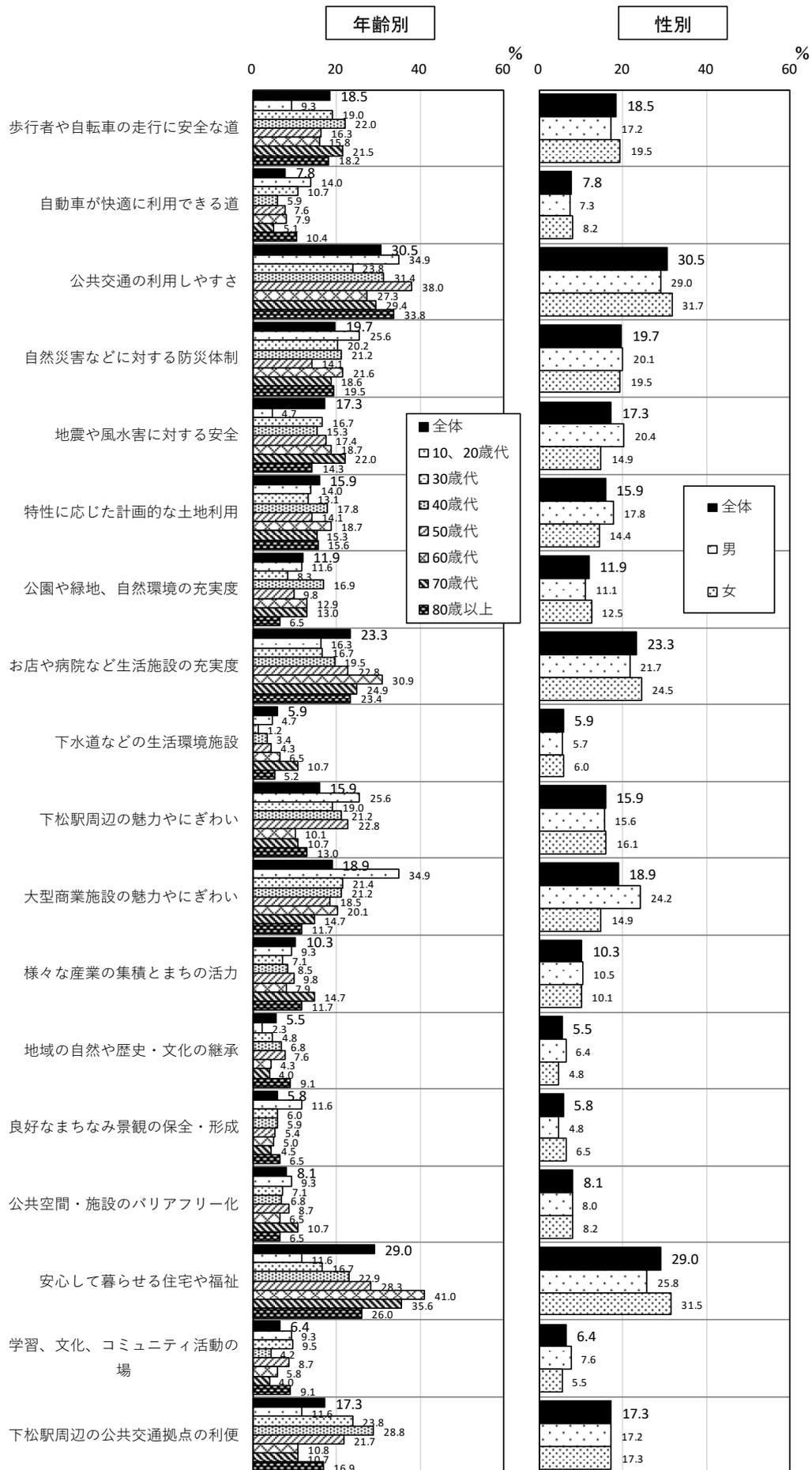
むしろ、高齢化や自然災害への備えなどの見地から、これまで改善されてきた分野でもさらなる改善が求められていると受け止められる。

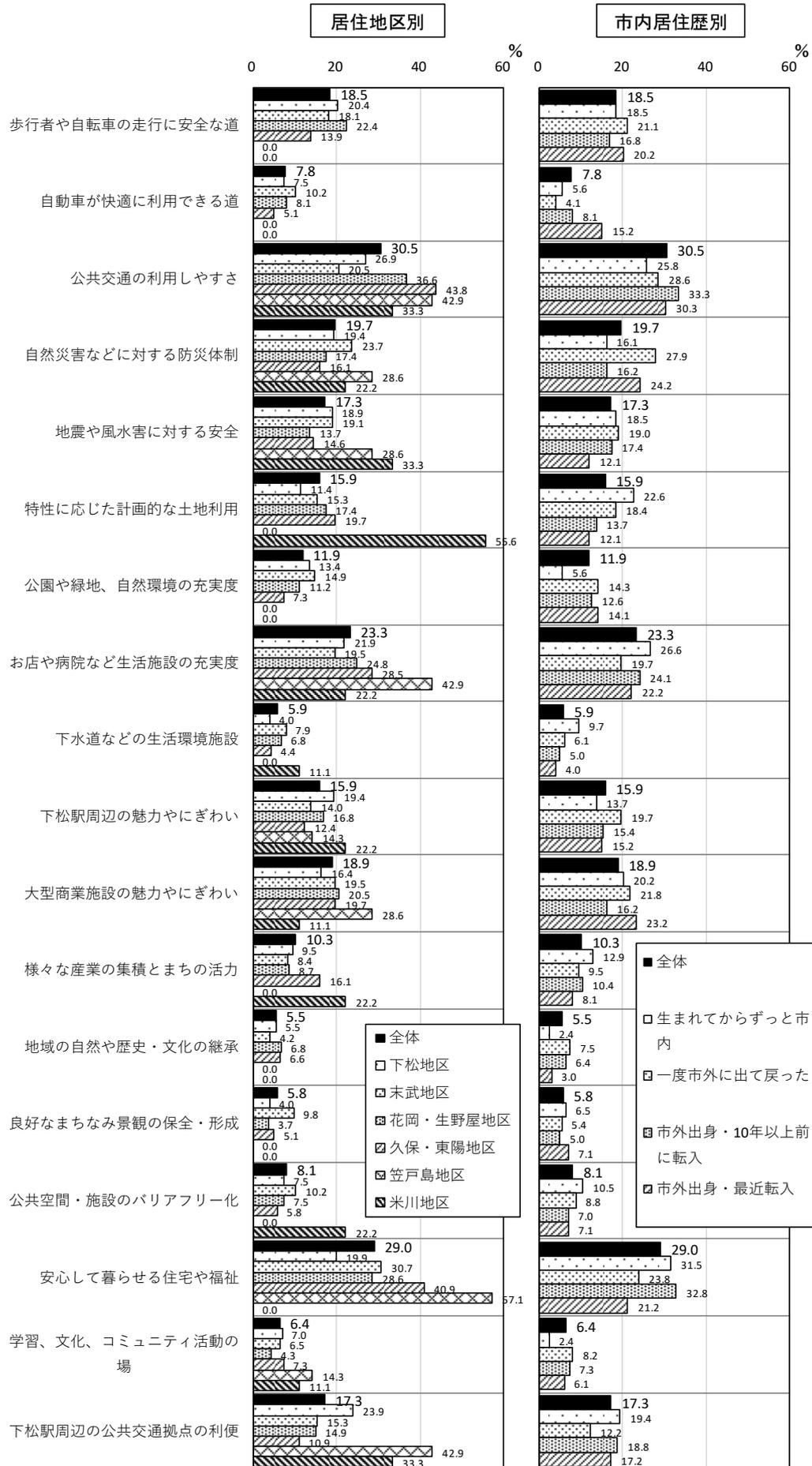
「高齢者が安心して暮らせる住宅や福祉サービス」や「身近なお店や病院などの生活施設の充実度」は、60 歳代など的高齢者層で特に選択割合が高い一方、「大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい」や「下松駅周辺の拠点としての魅力やにぎわい」は若い世代での割合が高いなど、年齢による傾向の差が見られる。

性別では、「高齢者が安心して暮らせる住宅や福祉サービス」の割合が女性の方が高い一方、「大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい」や「地震や風水害に対する安全」では男性の方が高い割合であるといった特徴も見られる。

居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、特に「鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ」は花岡・生野屋地区、久保・東陽地区での選択割合が高いほか、「高齢者が安心して暮らせる住宅や福祉サービス」、「身近なお店や病院などの生活施設の充実度」は久保・東陽地区での割合が比較的高いのが目立つ。「下松駅周辺の公共交通の拠点としての利便性」は特に下松地区での割合が高く、また、「地震や風水害に対する安全」では下松、末武地区での割合が相対的に高いなど、各地区の環境特性に応じた結果も見られる。

市内居住歴別では、「鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ」や「自動車が快適に利用できる道」で、市外出身者が求める割合がやや高いほか、「まちの特性に応じた計画的な土地利用」では市内出身者で比較的高い割合であるなどの相違がある。





※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

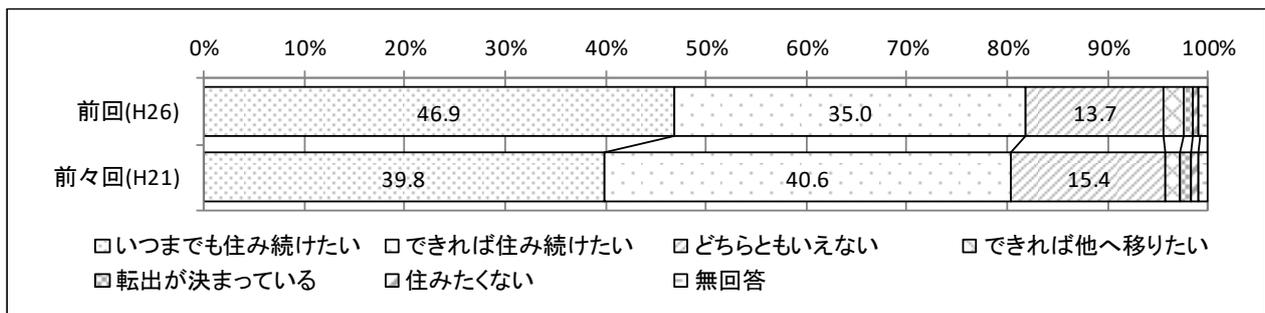
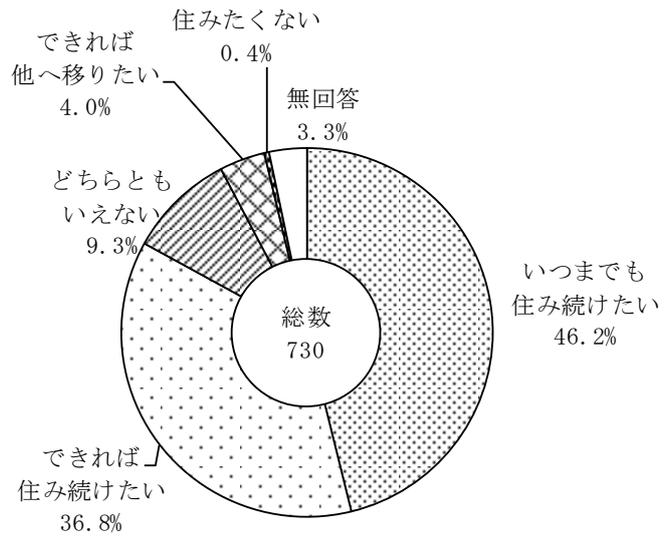
## 11. 下松市への定住意向や愛着

### (1) 下松市への定住意向

■問 22 あなたは、今後も下松市に住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。

下松市への定住意向については、「いつまでも住み続けたい」が46.2%と最も多く、「できれば住み続けたい」を合わせると83.0%となる。多くの市民が市内への定住を望んでいると言える。

同様の設問は過去のアンケートでも実施しており、前回(H26)、前々回(H21)調査とは選択肢の構成が異なるため対等な比較はできないが、「いつまでも住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計割合で比較すると、前々回の80.4%、前回の81.9%に対し、今回は83.0%であるので、徐々にではあるが定住意思を持つ市民の割合は高まっていると言える。



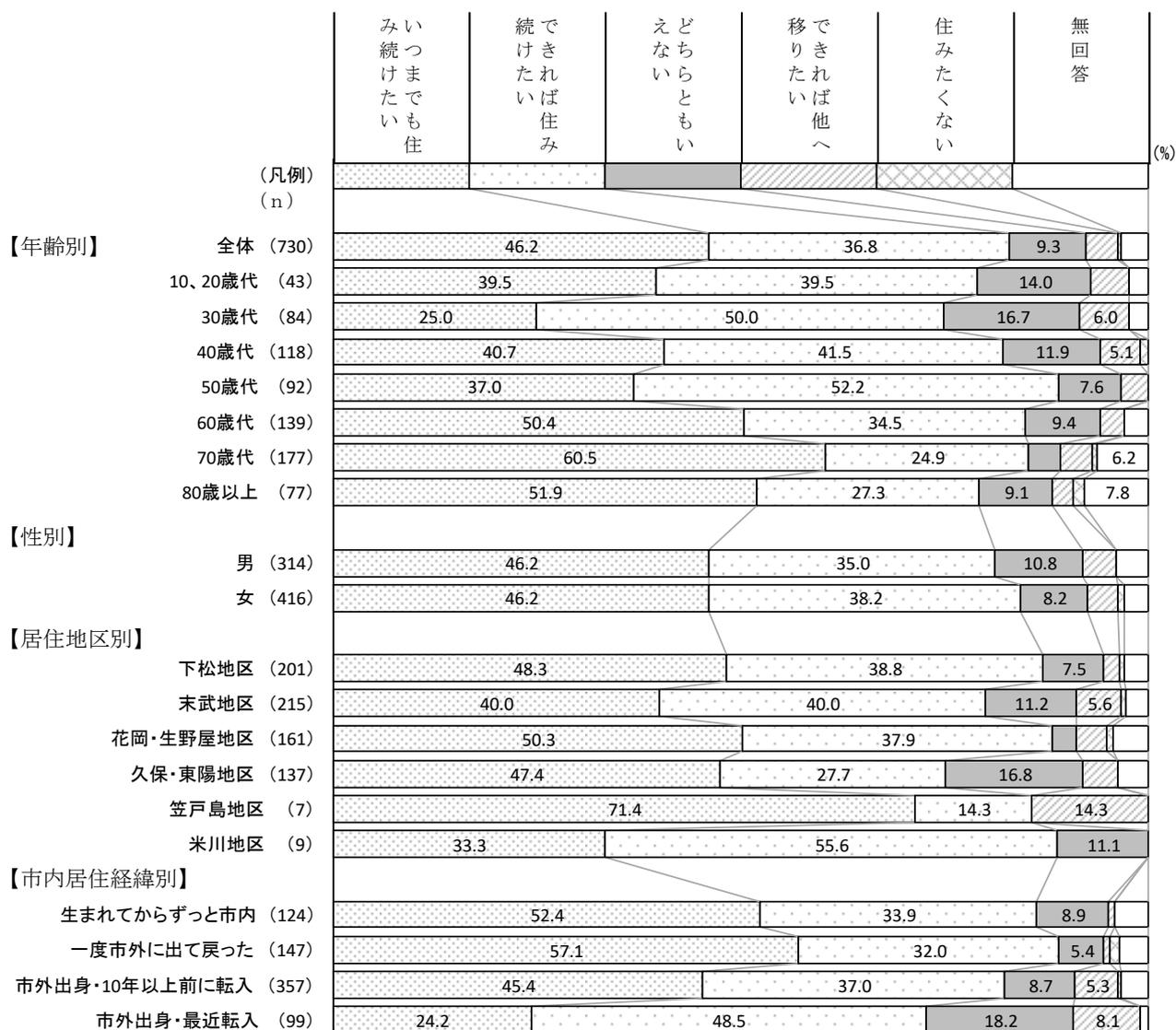
※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

積極的な定住意思とも言える「いつまでも住み続けたい」の割合は、年齢によって大きく異なり、全体は46.2%であるが、30歳代は最も低く25.0%で、これから高齢になるほど概してその割合が高まり、また、10、20歳代でも39.5%であることから、30歳代を底にしたV字状の傾向にあると言える。30歳代は子育ての中心世代でもあるが、転出入が多い世代でもあり、定住意思が持ちにくいとも考えられる。

性別では大きな差が見られない。

居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、末武地区、久保・東陽地区で「住み続けたい」の割合がやや低い。末武地区は転出入の多さ、久保・東陽地区は公共交通機関への不満等が背景にあるとも考えられる。

市内居住歴による定住意向の相違は顕著であり、市外出身者は「住み続けたい」の割合が相対的に低く、特に最近転入した回答者では、「いつまでも住み続けたい」が24.2%にとどまっている。転入してきた人が「ここに住み続けたい」と思えるような魅力の提供が課題と言える。



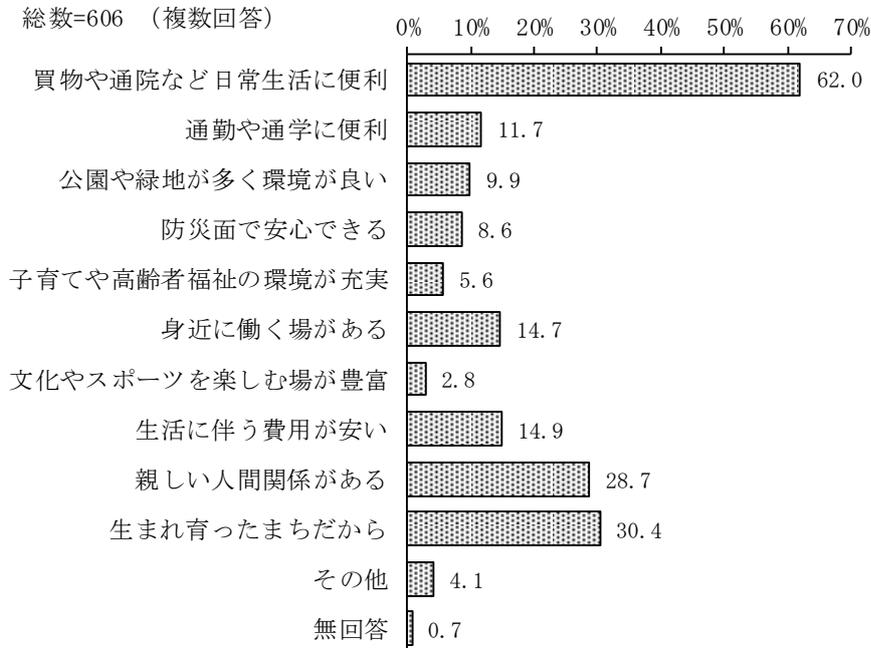
※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

(2) 住み続けたい理由

■問 22-1【問 22 で 1、2 とお答えの方へ】

住み続けたいと思う主な理由はどのようなことですか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。



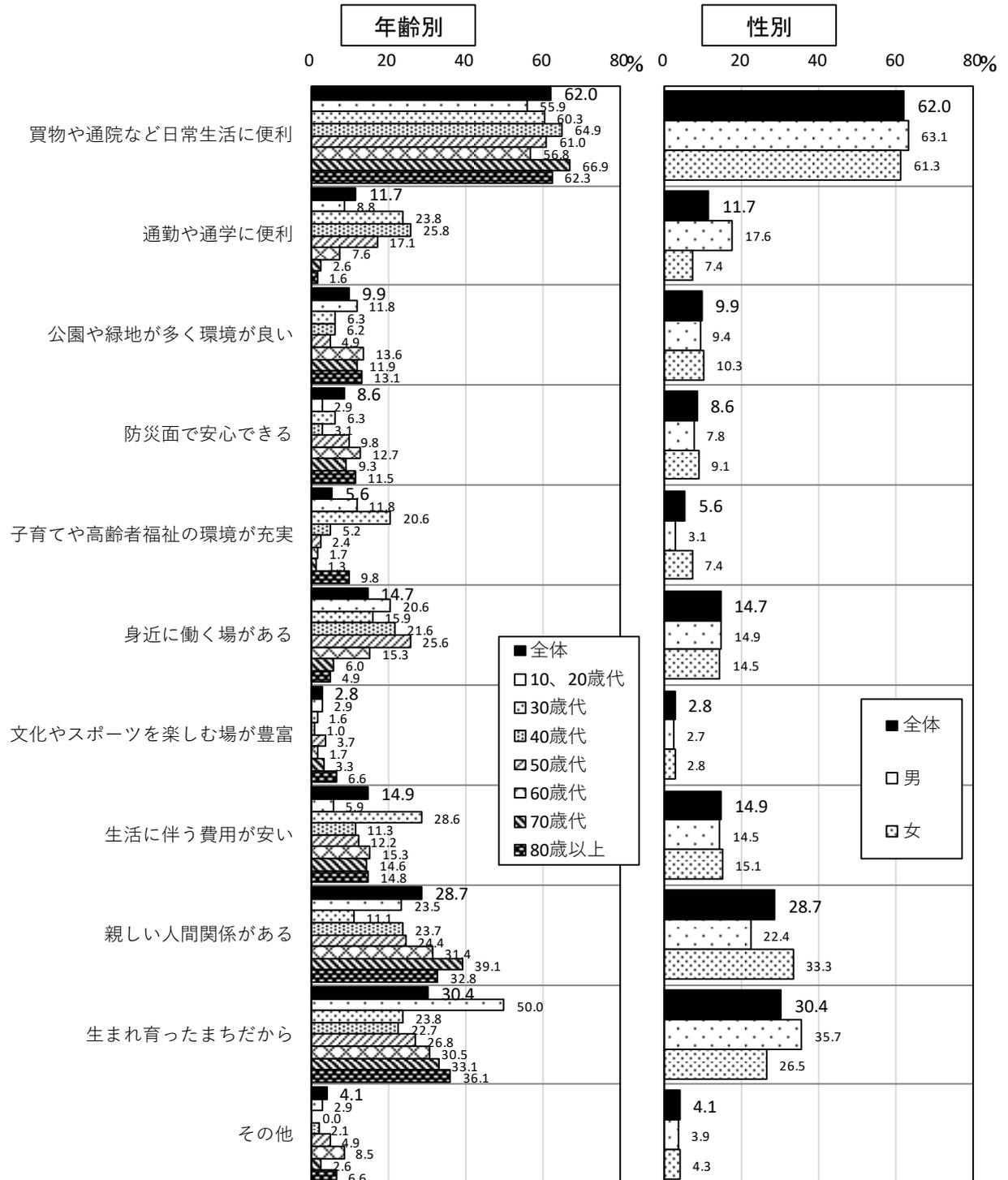
前問で、「いつまでも住み続けたい」、「できれば住み続けたい」と回答した人（全体の 83.0%）に対し、その理由を尋ねている。

最も多い回答は、「買物や通院など日常生活に便利」で、該当者の 62.0%が選択している。商業や都市機能の集積が定住のための魅力条件にもなっていると言える。このほか、「生まれ育ったまちだから」や「親しい人間関係がある」が比較的多く、「その他」の回答の中には「自分の家がある」とするものも目立ち、市内出身者も含め、生活の拠点として根付いている人も多いことを伺わせる。

<p>「その他」の主な記述内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家を買ったから。</li> <li>・持ち家があるため。</li> <li>・自分の家がある。</li> <li>・家族がいるから。</li> <li>・生活基盤地となっている。</li> <li>・慣れているから。</li> <li>・自然災害が少ない。</li> <li>・引っ越しお金もないし災害も少ない地域だから。</li> <li>・温暖な気候。</li> <li>・市政が良い。</li> <li>・優しい人が多く住みやすい。</li> <li>・仕方ない。</li> </ul>
---------------------	--

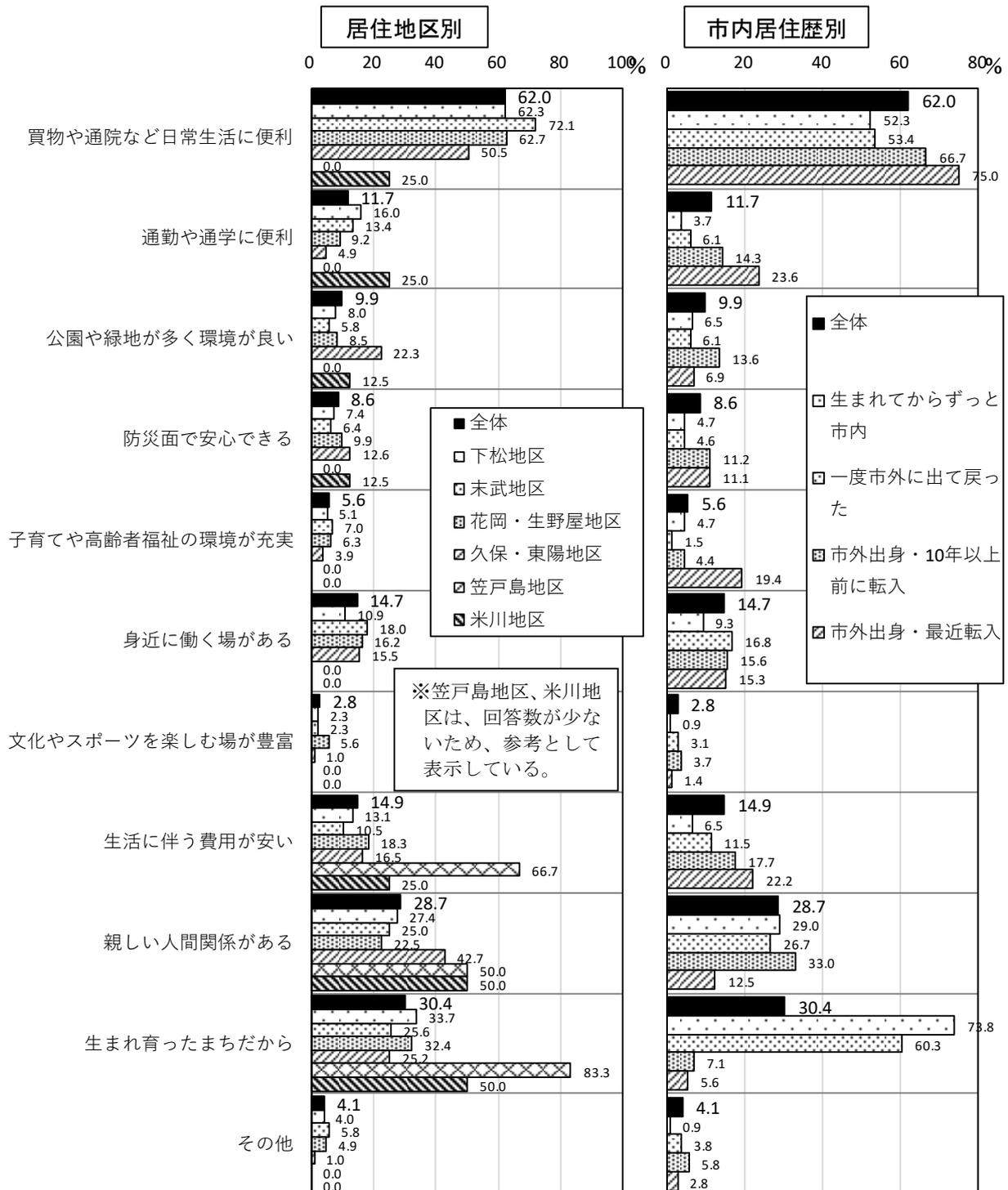
年齢別にみると、「買物や通院など日常生活に便利」は全年齢層で高い割合を占めているほか、「通勤や通学に便利」や「身近に働く場がある」は30～50歳代など現役世代で多く選択されている。「生まれ育ったまちだから」や「親しい人間関係がある」は高齢者ほど割合が高いが、「生まれ育ったまちだから」は10、20歳代で50.0%が選択しており、また同世代では「生活に伴う費用が安い」も比較的高い割合である点も注目される。

性別では、「生まれ育ったまちだから」や「通勤や通学に便利」は男性で、「親しい人間関係がある」は女性で、比較的高い割合という特徴がある。



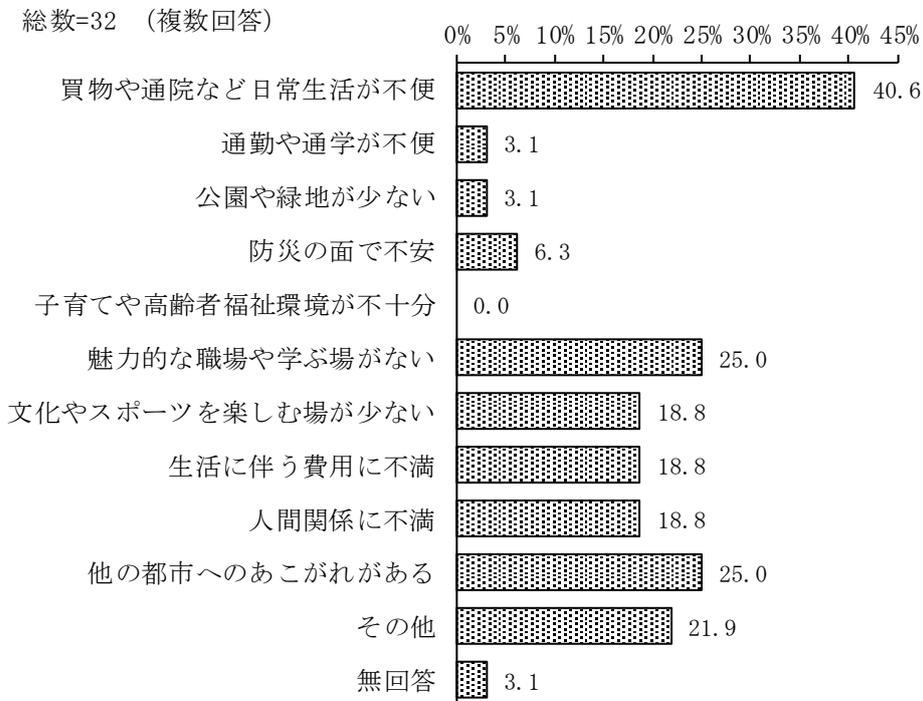
居住地区別（回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く）では、「買物や通院など日常生活に便利」は特に末武地区で高い割合であるほか、数は少ないながら「通勤や通学に便利」が下松地区で比較的多く選択されており、それぞれの地区環境を反映しているとも言える。また、「親しい人間関係がある」や「公園や緑地が多く環境が良い」は久保・東陽地区での割合が比較的高い。

市内居住歴別では、「買物や通院など日常生活に便利」のほか、「通勤や通学に便利」や「生活に伴う費用が安い」が市外出身者で高い値を示しており、これらが転入の動機のひとつでもあると考えられる。逆に、市内出身者は、当然のことながら「生まれ育ったまちだから」が圧倒的に多い。



(3) 転出希望の理由

■問 22-2【問 22 で 4、5 とお答えの方へ】  
他へ移りたい（住みたくない）と思う主な理由はどのようなことですか。  
次の中から 2 つまで選んで番号を口の中に記入してください。



問 22（下松市への定住意思に関する設問）で「できれば他へ移りたい」、「住みたくない」と回答した場合の理由を尋ねている。

該当の回答者数は 32 人と少ないが、「買物や通院など日常生活が不便」が 40.6%と最も多い。

なお、32 人の該当者は、各年齢層に分布しているが、居住地区は末武地区が 13 人と最多で、また 28 人が市外出身者という構成である。

該当者数が少なく、属性別集計は精度を持たないため省略する。

「その他」 の主な記述 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が近くにいない。</li> <li>・県外の娘の家に将来は同居したいので（歳を取って 1 人暮らしはキツイです）。</li> <li>・大病院がない。</li> <li>・転職を考えている。</li> <li>・家賃が高い。</li> <li>・土地、アパート代等の高地価が進んでいる。</li> <li>・見なし道路（二項道路）のため家までに普通車両が入れない。</li> </ul>
----------------------	---

#### (4) 下松市への誇りや愛着

■問 23 あなたは、下松市に誇りや愛着を感じますか。次の中から1つ選んで番号を□の中に記入してください。

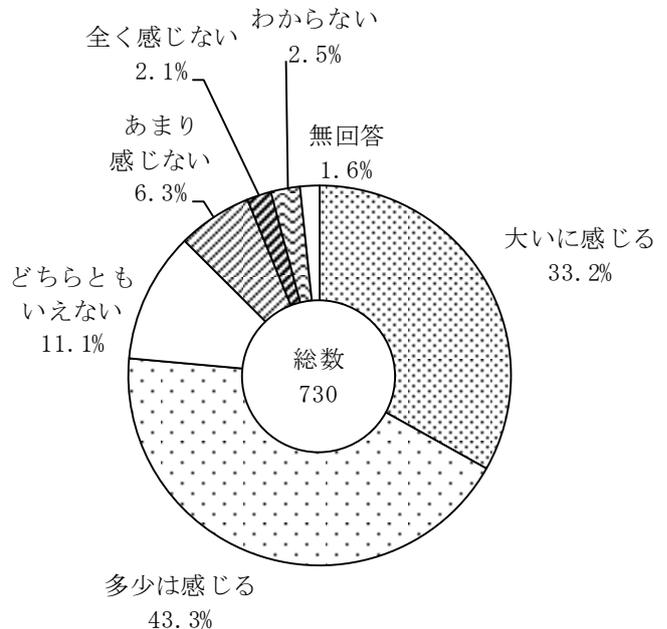
下松市への誇りや愛着の程度を尋ねている。

誇りや愛着を「大いに感じる」が 33.2%、「多少は感じる」が 43.3%であり、合わせると 76.5%と 3/4 を超えている。

一方、「あまり感じない」と「全く感じない」を合わせた割合は 8.4%である。

このアンケートの回答者は高齢者が多いとはいえ、多くの市民が下松市に誇り意識や愛着を感じていると見ることができる。

なお、大いに感じる＝2点、多少は感じる＝1点、どちらともいえない＝0点、あまり感じない＝－1点、全く感じない＝－2点として回答数（わからない、無回答を除く）で加重平均した値を評価点として算出すると 1.03 となり、平均的に「多少感じる」の水準であると言える。

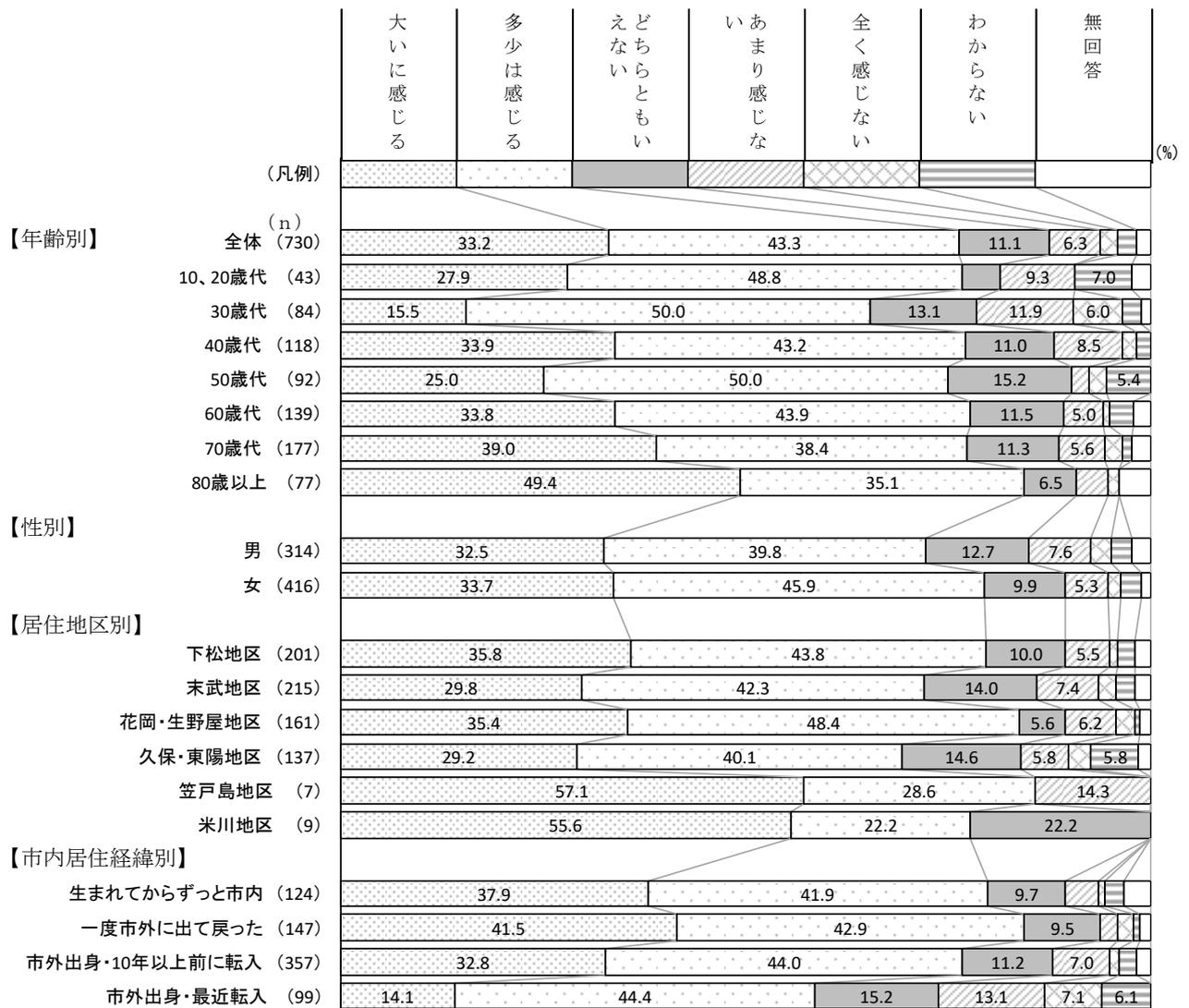


年齢別にみると、「大いに感じる」の割合は 30 歳代で最も低い 15.5%で、これに比較して 10、20 歳代では 33.2%と高く、また高齢者ほどその割合が高まり、80 歳以上では 49.4%に達するという V 字構造である。ただし、「多少は感じる」を合わせた割合は、世代によってそれほどの差があるわけではなく、唯一 30 歳代で合計割合が 65.5%と、全体での割合に比して 10 ポイントほど低い程度である。

性別では、女性の方が「多少は感じる」の割合がやや多い。

居住地区別では、笠戸島、米川地区を除く 4 地区中では、下松、花岡・生野屋地区で「感じる」の割合が比較的高いことがわかる。数は少ないが、笠戸島、米川の両地区では、「大いに感じる」が 5 割を超えており、土地に根ざした生活が営まれていることの現れとも見られる。

市内居住歴別では、市外出身で最近転入した回答者で「大いに感じる」が 14.1%、「多少は感じる」を合わせても 58.5%と低い。同じ市外出身でも 10 年以上前に転入した回答者では、市内出身者に近い構成割合を示しており、市外から転入してきても時間が経てば誇りや愛着も湧いてくると考えることもできる。



※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考として表示している。

## ■ 選んだ理由及び具体的な施設があれば教えてください。

この問 23 では、上記回答の「主な理由」の記述も合わせて求めている。

これに対して、総数で 412 件の回答が寄せられたが、回答番号別に代表的な意見を抽出したものを以下に示す（原文のまま）。抽出は、できるだけ内容の偏りがないように留意し、類似の回答があるものを極力選定している。

誇りや愛着を感じる理由としては、気候風土の良さや買物など生活利便を具体的にあげる回答が目立っている。

[誇り・愛着の回答の「主な理由」] (代表的意見) (総件数 412 件)

《1. 大いに感じる》

( 177 )

生まれ育ったまちが今住み良い街となっている。	80 歳以上	女	下松
大手企業があり、海や山等身近にあるから。	60 歳代	女	久保・東陽
買物等の日常生活に便利で、自然環境が良いこと。	70 歳代	男	久保・東陽
下松の気候や季節が良い。また、生活のしやすさを覚える。下松での生活に満足度が高い。	60 歳代	女	末武
災害が少ないし、緑が多いから。	60 歳代	女	末武
自然豊かで歴史があり、人々が素朴で温かい。保守的な部分もあるが、受容力がある。	60 歳代	女	久保・東陽
周南市と合併しなかったから！！	40 歳代	男	花岡・生野屋
住みよいまちと評価されており(実際住みやすい)。交通の利便性もよく、これからもこの町にいたいと思えるから。	10, 20 歳代	男	花岡・生野屋
他市町村との合併をせず充実した市政が行われ、市民も少しずつ増加していることは、住みよい町ということだと思う。	80 歳以上	女	末武
長年住み慣れた下松は好きです。住みやすい市としてこれからも環境づくりに力をつくして下さい。	60 歳代	男	末武

《2. 多少は感じる》

( 175 )

衣・食・住すべてにおいて整っており、市外から転入した際にもすぐに慣れることができるため。	40 歳代	女	花岡・生野屋
生まれ育ったまちであり、家族がいるから愛着はあります。	40 歳代	女	末武
家族で築きあげた家が有るから。	70 歳代	女	下松
気候風土が良く、下松市の大手企業が今後も発展し、末永く安定した暮らしが続けられるから。	60 歳代	女	末武
県外から引っ越してきて町の住みやすさや、近くに遊べる場所などもあり、子供もすごく楽しんでいる。	10, 20 歳代	女	末武
自然災害が少ないのが一番。親、兄弟も近くにいたので、いざという時お互い助けになる。	60 歳代	女	花岡・生野屋
住み慣れた町なので愛着を感じる。日常生活に不便を感じないし、生活しやすい。	40 歳代	女	末武
長年住んでいるので愛着がある。	40 歳代	女	花岡・生野屋
誇りというのはよくわからないが、三代で住んでいるので、とても愛着はある。	40 歳代	男	末武

《3. どちらともいえない》

( 22 )

下松市出身ではないので、何とも言えない。	40 歳代	女	花岡・生野屋
市外の方からイイネと言われるけど、感じることはない。	70 歳代	男	末武
まだ住んで 4 年ぐらいなので分からない。	50 歳代	女	末武

《4. あまり感じない》

( 23 )

下松市が今後どういう方向に進めようとしているのかわからない。	60 歳代	女	末武
自慢のできる施設や物産品など全国的に有名なものがない。山口県内でも、下松市＝どこ？何もない認識がある。	40 歳代	男	花岡・生野屋
誇りに思えるものがなく、どんなところが誇りと思えるものがあるのかわからない。	60 歳代	女	久保・東陽

《5. 全く感じない》

( 9 )

数年来転居してから経つが、下松で生まれ育った人に郷土への誇りや愛着を感じない。生まれ育ったにも関わらず、土地・歴史に関心がない人が多いため、転居してきた者はなおさらである。	30 歳代	男	末武
特に自慢できる場所がない。遠方から人が来た時に近くで(下松)案内できるような場所がない。	30 歳代	女	末武

《6. わからない》

( 6 )

転居して、間もないから。	60 歳代	男	下松
--------------	-------	---	----

## 12. 下松市をより良いまちにしていくためのアイデア（自由意見）

■問 24 下松市をより良いまちにしていくために、アイデアをお持ちでしたら教えてください。（どんな分野の内容でも結構です。）

アンケートの最後に、自由な意見等の記載を求めているが、今回調査では、「下松市をより良いまちにしていくためのアイデア」という形での設問にしている。

何らかの回答記述を寄せた回答者数は 242 人であった。

この内容を、現行の総合計画の分野分類に準じて、右表のような分野に分類した。

なお、一人で多くの分野にまたがる意見を記載したのもも多く、それらは分野ごとに極力分離して整理した。

この分離による延べ回答件数は 338 件となった。

その分野別の件数内訳は右表のとおりである。

総合計画の大きな 6 分野分類では、「都市建設」に類する内容が多いが、その中でも特に「公共交通」に関する意見の多さが目立っている。鉄道やバスの利用の不便さの訴えや、高齢化に伴い免許返納後等の足の確保の問題等の記載があった。

そのほか、「産業経済」に類する内容の中では、「観光・レクリエーション」分野の記載が多く、笠戸島の観光振興に対する意見等が多く寄せられた。

なお、分類した各分野における代表的な意見を以下に抽出して示す（原文のまま）。抽出は、できるだけ内容の偏りがないように留意し、類似の回答があるものを極力選定している。

（以下の表中で、（ ）内の数値は、当該項目での記述回答の件数である（総計 338 件）。）

[自由回答の分野分類]

■健康福祉	(45)
●医療	6
●高齢者福祉	13
●障害者福祉	3
●子育て支援	19
●その他保健医療福祉全般	4
■生活環境	(46)
●環境美化	7
●墓地	1
●ごみ収集・処理	1
●下水道	1
●防災・治山治水	17
●防犯・交通安全	13
●その他生活環境全般	6
■都市建設	(89)
●市街地・都市構造	18
●道路(整備・維持管理)	18
●公共交通	31
●緑化・みどり	1
●公園	5
●公営住宅	2
●空き家対策	12
●その他都市建設全般	2
■産業経済	(72)
●農林業	4
●工業・ものづくり	1
●商業・サービス業	19
●雇用・勤労者	1
●観光・レクリエーション	39
●その他産業経済全般	8
■教育文化	(16)
●学校教育	4
●生涯学習	1
●文化	3
●スポーツ	5
●多文化共生・国際化	3
■地域経営	(44)
●広報広聴	3
●市民参加・協働	4
●コミュニティ	2
●行財政運営	15
●公共施設	5
●人口問題	7
●シティプロモーション	5
●税金・ふるさと納税	2
●その他地域経営全般	1
■市役所の対応について	6
■下松市・市政全般への意見	6
■その他	4
■アンケートについて	10
計(延べ意見数)	338

[代表的な意見]

■健康福祉 ( 45 )

●医療 ( 6 )

※24時間対応してくれる病院が欲しい。夜中急病は徳山中央病院も対応してくれない時もある為。 ※下松市内で出産が可能な病院がなく、光市や周南市の病院を利用している。	70歳代	男	末武
---	------	---	----

●高齢者福祉 ( 13 )

・老人介護施設が機能的(病院、コンビニ等併設)でコスト面も年金で対応できる施設を市としてもバックアップしていく等。	50歳代	男	下松
高齢者で国民年金をもらっている方はとても収入が少ないと思う…。その方はシルバーセンター等で収入がもらえる様、何か仕事を作ってあげればと思う。無理でしょうか？	60歳代	男	花岡・生野屋

●障害者福祉 ( 3 )

障がいがある人への理解が低いように感じました。市役所の方で病名を知らなくても、障害年金についておたずねしたいのですがと伝えた際、「障害年金は取れないと思いますよ。」の一言で凄く残念だった。インターネットで調べてみると私個人の症状だったらもらえる、と書かれていて、余計に悲しかった。知的、身体、精神と障害も様々ある事をしっかりと理解して欲しい。	10, 20歳代	女	末武
---	----------	---	----

●子育て支援 ( 19 )

・働くママを増やすため、幼稚園・小学生の夏休み・冬休み・春休みのあずかりを充実してほしい。できたらあずかりの給食を出してもらえると本当に助かる(実費でも出します!!)。あずかりの人数も増やしてほしい。・老人ホームとかのお年寄りや園児とかの協働行事とかよいと思う。・子供が増えるとなにか減税されるシステム(これは国ですかね?)。	40歳代	女	久保・東陽
子育てがしやすいよう、子どもの遊ぶ公園をもっと増やしてほしいです。大人も子どもも、楽しめる施設を希望します。	50歳代	女	下松

●その他保健医療福祉全般 ( 4 )

小さい子供達が危なくなく遊べる場所があれば良いかなあー。地域で認知症の人達のケア。家族が気がついてない所もあるので。生活保護の人達の見直し。	50歳代	女	末武
--	------	---	----

■生活環境 ( 46 )

●環境美化 ( 7 )

雑草が多い道路脇などに、車から投げ捨てられたらしきゴミが散乱しているのは、はずかしい。大変な事かもしれませんが、ゴミを捨てなくなるように、道路脇の設置の工夫など考えた方が良くかも。	50歳代	女	久保・東陽
--	------	---	-------

●墓地 ( 1 )

●ごみ収集・処理 ( 1 )

※生ゴミの収集について。月曜日は祭日でお休みですが、夏は収集していますが、夏以外もすべて、収集お願い致します。カラスが来て、荒らして困っています。出来なければ曜日を変更してもらおうと有り難いです。	70歳代	女	下松
--	------	---	----

●下水道 ( 1 )

●防災・治山治水 ( 17 )

大雨の時、近くの川が氾濫しないかとてもハラハラしました。その様な災害に備えて川の氾濫対策を行って欲しい(東京杉並区のように地下貯水施設を設置する等)。安心して住める場所として認識してもらえば、結果として人口減少も抑制出来、さらなる人口増加も期待出来るのではないのでしょうか。	40歳代	女	末武
自然災害が各地で起こり、これまでの想定を上回る規模の物が多かったので、防災に特に力を入れていた方が良いのではと感じています。	10, 20歳代	男	久保・東陽

●防犯・交通安全

( 13 )

・事故多発や危険場所に信号機を設置して欲しいです。・暗いところが多いので、防犯上街灯を多く設置して欲しいです。	40 歳代	女	花岡・生野屋
街灯を増やしてほしい(幹線道路でも歩道が暗いところがあるので)。	50 歳代	女	下松

●その他生活環境全般

( 6 )

・野犬がたくさんいるので、安心して夜歩けないし、公園や笠戸島にも人を案内して行くのにも不安。野犬をいなくして欲しい。	60 歳代	女	末武
--	-------	---	----

■都市建設

( 89 )

●市街地・都市構造

( 18 )

駅周辺や豊井地区や久保地区などにも光を当ててほしい。高齢化が進み、生活の為に施設、店舗が少なく、不便が多いと思う。高齢者が今後も増えて行くので生活しやすい環境作りを進めてほしい。	60 歳代	男	下松
私は、宇部から下関、と転勤で昨年より下松市に引っ越して来ました。夫の実家が下松ということもあり、25 年ほど前の下松市もよく知っています。中心部のみが盛んになり、少しはなれた所ではまだまだ、「ここが同じ下松市?」と思う様な所があります。下松市は他市より小さい都市で、あちこちと自転車で行けるので、とてもうれしく思っています。これからもどんどん町の活性化を期待しています。	50 歳代	女	末武

●道路(整備・維持管理)

( 18 )

・道の不具合を直していただき感謝しているが、ほどなくまた前の状態に戻ってしまうが続いている。工事の方法を見直して根本的にくずれないようにしてほしい(具体的には港のまわり)。その後も定期的にパトロールしてもらえたら年度末に工事が集中しなくてよいのでは、と思う。	50 歳代	男	下松
自転車(お買物用サイズ)が通りやすい歩道にしてもらいたい。段差が激しく危ない。ベビーカーの方も、年配の方も段差がいちいち危ないように思う。	40 歳代	女	末武

●公共交通

( 31 )

・岩徳線沿線に住むと、他の市などへのアクセスの悪さをとても感じるので良くするとより良いまちになるのでは? ・高齢者の事故多発にともない、車なしでも生活しやすい環境の整備を早く進めたほうがよい(市街地の買い物のしやすさ、スーパーなど増やす、バス停の場所、本数を多く増やす)。	40 歳代	女	花岡・生野屋
・公共交通でバスの回数がだんだん少なくなり、不便を感じる。	70 歳代	女	久保・東陽
これから市全体が高齢化に向かい、自家用車を手放した時の交通手段を確保するために、市営のワゴン車程度の車をバスの様に市内を走らせて欲しい。	60 歳代	女	末武

●緑化・みどり

( 1 )

●公園

( 5 )

市の中央部を流れている切戸川について。治水工事が進められているが、体育館付近の河川敷の整備、護岸を考慮しつつ、親水的な公園としてほしい。河川敷は石畳みとし除草作業を少なくし楽しめる様な市の顔となる様にしてほしい。	70 歳代	男	下松
--	-------	---	----

●公営住宅

( 2 )

人口が減少するので市の方で高齢の人と若い人と一緒に住める住宅を作ったらよいと思う。1階立てバリアフリー、花壇、畑	30 歳代	男	久保・東陽
--	-------	---	-------

●空き家対策

( 12 )

・空き家対策 町内に空き家が多く、火災や災害等で付近が不安で早めの対策を強力に推進してほしい。行政が持主の考え方を把握していらっしゃるかどうか。	70 歳代	女	末武
空き屋の環境をよくする。草取りや塀の補修等。火災や台風時の災害防止する為。持主に定期的に指導、巡回する事。	70 歳代	男	下松

●その他都市建設全般

( 2 )

■産業経済 ( 72 )

●農林業 ( 4 )

高齢化が進んで農業をする方が減っているように強く感じます。休耕田が多く親が田を作っていて、その後子どもが田を作られている方は、まれなように感じます。私達 50 代で作られている方はあまり聞きません。家で作るお米は、とても美味しいです。子や孫がせめて自分でお米を作り農業を続けていける魅力のある方法はないでしょうか？ 下松市だけでなく日本で考えていくべき課題です。	50 歳代	女	末武
---	-------	---	----

●工業・ものづくり ( 1 )

●商業・サービス業 ( 19 )

・駅から東は商業施設が乏しい。豊井、笠戸島をケアするためにもスーパーの誘致を望みます。	30 歳代	男	花岡・生野屋
若年層が定住する為、大型店舗だけでなく若者の趣向に合った、小型店舗エリア創出と誘致。	60 歳代	男	久保・東陽

●雇用・勤労者 ( 1 )

●観光・レクリエーション ( 39 )

・県内に道の駅、海の駅が有るのに下松市には無いので、作れば良いと思います。・笠戸島は景観が良いのにそれをアピール出来る観光コースが必要だと思えます。	60 歳代	女	久保・東陽
市民マラソン、自転車大会等、市をあげて開催する。牛骨ラーメン、蕎麦、うどん等の店が多く、麺の街としてアピールする。笠戸島大城近辺に RV パークを作り観光客を誘致。	50 歳代	男	花岡・生野屋
物作りと観光の町にする。・笠戸島の自然を利用した世界の人に来るような町にする。・特産品を生産して販売等する。・栽培漁業センターをミニ水族館的なものを誘致する。・大衆的な食事等、利用できる物を作る(する)。	80 歳以上	男	末武

●その他産業経済全般 ( 8 )

企業誘致を積極的に進めたらどうか。日立関連だけでなく医療機器、IT など。	70 歳代	女	米川
---------------------------------------	-------	---	----

■教育文化 ( 16 )

●学校教育 ( 4 )

学校区の変更(1地区に集中し過ぎることを防ぐ)。	60 歳代	女	花岡・生野屋
--------------------------	-------	---	--------

●生涯学習 ( 1 )

●文化 ( 3 )

●スポーツ ( 5 )

・スポーツ施設の充実 ・スポーツ関連で応援できる。プロもしくはセミプロの誘致。	50 歳代	男	下松
---	-------	---	----

●多文化共生・国際化 ( 3 )

国際交流の場を設けたらいい。東部にはこのような場がないので、設けることで、周南、光方面から人が訪れ、経済効果も期待できると考えられます。	50 歳代	男	久保・東陽
--	-------	---	-------

■地域経営 ( 44 )

●広報広聴 ( 3 )

行政が連携を持って市民の声を聞き、速やかに対応して下さること。	80 歳以上	女	末武
---------------------------------	--------	---	----

●市民参加・協働 ( 4 )

行政に対する関心度の低いことが気になります。特に現役世代の 40 歳～50 歳の活躍を期待しておりますが、納得しがたい状況です。選挙投票率の悪いことは、歯痒い思いです。一方、公民館活動での若人の働きぶり、協力ぶりを見るにつけ頼もしく感じておりますが、次代を任せられる人材を育てる施策が必要だと強く思います。	60 歳代	女	花岡・生野屋
---	-------	---	--------

●コミュニティ

( 2 )

●行財政運営

( 15 )

・税金の使い方を見直してほしい。無駄に時間をかける道路工事、親身になってくれない公務員、お客さんにはあいさつくらいしてほしい。市役所など席に座っているだけの人はいない。市役所に活気がない→税金で暮らせているから甘えがでるのか…そこに市民は不満を持つと思う。	40 歳代	女	下松
少子高齢化や自然災害への対応が今後課題となる中で、住民福祉の向上や災害を意識したインフラ整備を進めていく等、これからも下松市が住みよいまちとしてあり続け、人に住んでもらえるまちづくりを進めていくことが大切だと思います。そのためにも、限りある財源を有効的に活用し、健全な財政基盤の構築及び継続を強く望みます。	10, 20 歳代	男	花岡・生野屋

●公共施設

( 5 )

・公共施設は、派手ではなく、使いやすさ、行ってみたいと思える便利性を追求する。	40 歳代	女	下松
---	-------	---	----

●人口問題

( 7 )

若い人達が学ぶところや働くところがあると人口流出が防げるのでは…と思います。周りの県外に出た人も優良な企業に勤めることが出来るのなら物価や地価も安いので下松に戻りたいという人はたくさんいます。	40 歳代	女	末武
--	-------	---	----

●シティプロモーション

( 5 )

・穏やかで温かい下松だが、特色…という点で、いまひとつと思う。日本のどこからでも「あー、くだまつ」とわかってもらえるよう、アピールすると、もっと生き生き(活き活き)してくるのでは。例えば、ひらめとか星ふるまちとかを、スタイリッシュに新しい感じで商品化したりしてみるとか…(有名なデザイナーやコピーライターに聞いてみるとか)。	60 歳代	女	末武
--	-------	---	----

●税金・ふるさと納税

( 2 )

・ふるさと納税への積極的参加。下松市にふるさと納税したくても品数が少なかったり、サイトが見づらくふるさと納税しにくい。どうせなら地元で納税をしたいと考える人も少なくないはず。	10, 20 歳代	男	花岡・生野屋
---	-----------	---	--------

●その他地域経営全般

( 1 )

■市役所の対応について

( 6 )

・市役所の人の対応が悪い。人によるが、仕事をしていけば良いという感じが伝わる。本当に市をよりよいまちにしたいなら、人の改善は必須だと思う。	40 歳代	男	下松
---	-------	---	----

■下松市・市政全般への意見

( 6 )

質実剛健がものづくりの基本かも知れないが、「まちづくり」となると老若男女、自治会、社会と自然まで見据えた個人から全体の眼が必要で大変な事だと思う。華美にならず、生活づくり、人づくりを基本に考えて欲しい。	60 歳代	男	花岡・生野屋
---	-------	---	--------

■その他

( 4 )

■アンケートについて

( 10 )

別にアイデアありません。質問が多い為(アンケート)、答えるのにあきてしまう。少し少なめに(アンケート)した方が良いアンケートがとれるのではないのでしょうか? 最後にはアンケートに答えるのが嫌になってくる。	70 歳代	男	花岡・生野屋
--	-------	---	--------

## IV. 調査結果の総括

今回の調査結果を総括評価するにあたり、まず、回収率が36.5%に低下していること、回答者の1/4近くが70歳代であるなど高齢者の比重が高い結果であることを留意点として意識する必要がある。高齢者が多いことが、「無職」の割合の高さ(44.8%)にもつながっており、これらへの偏りを是正するため、今後の調査方法に課題を残しているとも言える。(問1)

下松市の魅力要素としては、気候や自然の豊さに対する満足度が高いが、遊びや交流の場、情報の得やすさ等の面での満足度は低い。年齢や地区特性による相違もあるが、全体的な「住みよさ」も含めた満足度は、過去の調査から改善の方向にある。(問3)

下松市での自慢、優れた点として、気候や自然の豊さと、それ以上に商業集積による利便性の高さが強く意識されている。(問4)

まちづくり施策のうち、上水道、ごみ収集処理、学校教育等に関しては平均的満足度が高く、多くの項目で過去の調査から平均的満足度評価が上昇している。(問5) 最近10年間の都市としての改善状況に関しても、大型商業施設を中心とした賑わいや、道路、下水道・ごみ等の施設整備への評価が高い。幹線街路の整備やそれに伴う沿道型商業施設等の立地、公共下水道の整備推進等が評価された形と言える。(問20)

一方、公共交通に関する満足度の評価の低さが際立っており(特に若い世代や女性で)、平均的満足度水準も過去の調査から大きく下落している。今後の施策の重要度の指摘率も「公共交通の充実」が大きく上昇しており、高齢で車を運転できなくなった際の「足」の確保の不安が多く語られ、それへの対応を求める意識が急速に強まっていると言える。(問5、6)

道路整備に関する設問でも「公共交通の利用促進につながる施設の充実」の指摘割合が過去の調査から大きく上昇しており、特に、鉄道・バスのダイヤをはじめとするサービス水準への不満が現れている。コミュニティバスの導入を求める声も目立つ。(問16、17) 最近10年間の都市としての改善状況においても、駅周辺の拠点性、公共交通の利便性はマイナス評価であり、自由回答でも公共交通の不便を訴える声が目立っている。(問20、24) 公共交通の維持・改善は今後の大きな施策課題と言える。

現状の満足度が低く今後の重要度の指摘が多いのは、公共交通のほか、高齢者・障がい者福祉、観光、雇用や企業誘致等の分野であり(問5、6)、今後の都市政策でも、各地区の環境特性に応じた相違もあるが、公共交通の利便性向上と高齢者が安心して暮らせる住宅や福祉サービスが上位である。(問21) これらが今後の施策運営で特に注力すべき部分と言える。

高齢者・障がい者福祉は、施策満足度で高齢者予備軍(50歳代)の評価が比較的厳しく、今後の重要度の割合も最も高くなっており、不安の現れと見られる。(問5、6) また、日常生活においても、老後・将来の生活面、健康面に対する不安が、高齢者予備軍の世代で特に多く見られる。(問2) これらへの対応施策としては、介護サービスや介護保険運営と並んで、「経済的支援の充実」が強く求められ、高齢者の生活や介護における経済的な面での負担感や不安への対応が必要と言える。(問10)

人口動向に対しては、現状人口維持、またはさらに増加策を求める意向が2/3を占め、人口減少を前提とした都市運営の支持率は3割にとどまり、まだ危機感が高まっていないとも見られる。

(問7) この背景には好調な市内経済の動向もあると見られ、ものづくり(製造業)はさらにその幅を広げること、また商業集積力の魅力をさらに高めることにより、市の経済活力を強化することが求められている。(問12)

一方で、今後の施策の重要度として、特に子育ての当事者世代を中心に、少子化対策(子育て支援)や学校教育の充実が強く求められている。(問6)

少子化対策としては、ここでも「経済的支援の充実」を求める割合が最も多く(前回から大きく増加)、また、働き方の見直し推進も高い割合である。仕事と子育ての両立の困難性や経済的負担感が少子化の要因として大きいことの現れと見られる。(問9)

人口減少、少子高齢化のもとでの都市のあり方では、現状では「空洞化」への不安は少ないが、生活施設がなくなる不安が下松地区で高いなど、地区特性も反映して、様々な生活環境面への心配・不安が見られる。(問18)

都市のコンパクト化に対しては、大筋としての賛同は得られている(特に若い世代)。空き家対策は大きな関心事であり、解決が各世代・地区共通に強く望まれている。(問19) 公共施設は、必要性の低い施設の廃止など選別を進める方向を半数以上が支持している。(問8)

道路整備に関しては、「新設から改良へ」と求める部分に変化しており、安全性向上や交通の流れを良くする対策等が強く支持されている。(問16)

防災対策としては避難路・避難場所の確保・整備や水防対策が強く求められ、前回より目立って上昇している。平成30年の豪雨災害の経験の反映とも思われ、高齢者では要援護者対策、情報面の不安も高い。水防対策は特に河川下流域の下松・末武地区で強く求められている。(問11)

また、笠戸島は観光、特産品で振興、米川は移住や体験など、自然とのふれあいの場としての活用を中心に総合的観点からの振興が望まれている。(問13)

全体として、下松市に「住み続けたい」とする回答が83.0%で、定住意思を持つ割合は徐々に高まっている。買物や通院などの生活利便性がその最大の理由であるが、市外出身者の定住意思は比較的弱く、転入してきた人が「ここに住み続けたい」と思えるような魅力の提供が課題である。(問22)

また、転出入が多い30歳代でやや低いものの、下松市への誇りや愛着を3/4以上が何らか「感じ」ており、気候風土の良さや買物など生活利便が主な理由にあげられる。(問23)

市民参加の現状については、全年齢を通じて地域活動への参加意思はあるが、実際には参加できていない状況(特に若い層)は前回から変わっておらず、市民の余裕が乏しくなっていることの現れとも考えられる。(問14)

一方で、「協働」の大前提が市民と行政の情報の共有化であることを市民も良く理解し、その深化を求めている。行政との情報共有の域を超えて、実際の参加行動やその「場」づくりへの意識が少しずつ高まっているようでもあり、市民と行政が知恵と力を出し合いまちづくりを進める態勢を強めていくことが必要である。(問15)

# ■まちづくり中学生・高校生アンケート編

(市内中学・高校2年生)



## I. 調査の概要

### ◎調査の目的

下松市総合計画（平成23年3月策定）の計画期間満了に伴い、新たな（仮称）下松市総合計画の策定、及びそれに併せて、下松市都市計画マスタープラン（平成23年3月策定）の一部改定を行うにあたり、市民参加の一環として、次代を担う若者の意見や意向を計画に反映させることを目的として、本調査を実施したものである。

### ◎調査の実施方法

・調査対象者	下松市内の中学校、高等学校の各2年生 (高等学校では、下松市民以外の生徒も含まれる)		
・配布回収方法	各校に依頼（中学校は教育委員会を通じ） 各校で実施いただいたものを市役所へ直接回収		
・実施時期	調査票の設計	令和元年9～10月	
	調査票の配布	令和元年11月初旬	
	調査票の回収	令和元年11月中～下旬	
	集計・分析	令和元年12月～令和2年1月	

### ◎回収結果

有効回収数	931票			
学校別内訳	中学校	471票 (50.6%)	下松中学校	112票
			末武中学校	282票
			久保中学校	77票
	高等学校	460票 (49.4%)	下松高等学校	192票
			下松工業高等学校	158票
			華陵高等学校	110票

### ◎留意事項

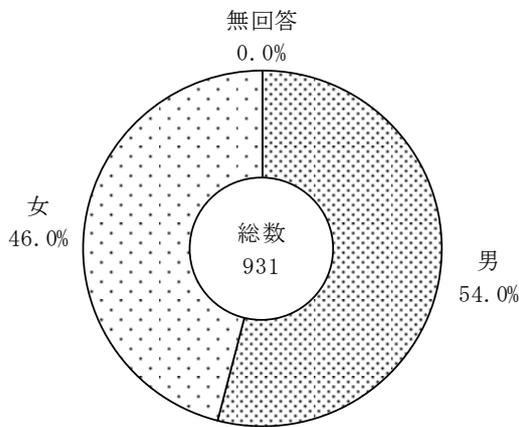
本報告書の内容においては、以下の点に留意されたい。

- ・ 回答の選択肢別構成比（％）は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して第1位まで表示している。従って、各選択肢の表示構成比の合計が100.0%に一致しない場合がある。
- ・ 複数回答の設問では、回答者数を母数とするため、各選択肢の回答構成比の合計が100%を超えることになる。
- ・ 属性別等のクロス集計では、サンプル数が少ない属性があるため、その属性での結果が十分な精度を持たないことがあり得る。特に、居住地区別推計において、笠戸島地区、米川地区は有効回答数がそれぞれ6票、8票と少ないため、図表上に表示はするが、参考としての表示である。
- ・ 平成21年度実施の下松市総合計画・下松市都市計画マスタープラン策定時にも同様の調査を実施しており、それとの結果比較を示す場合がある。そこでは、その調査を「前回（H21）調査」と表示している。

## Ⅱ. 回答者の属性分布

### 問1 あなた自身のことについて

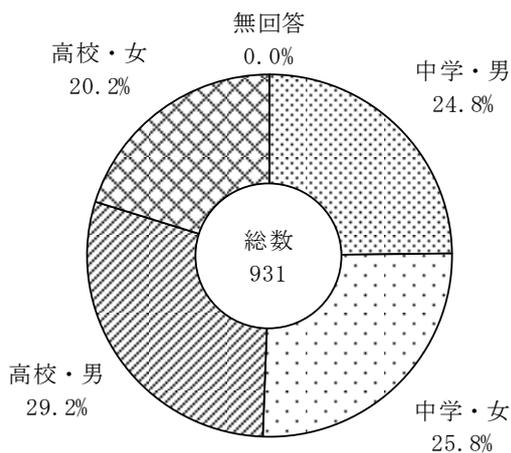
#### (1) 性別



項目名	集計値	構成比 (%)
全体	931	100.0
男	503	54.0
女	428	46.0
無回答	-	-

調査対象は市内の中学・高校の2年生であるが、性別分布は男性の方がやや多い結果となっている。

#### [中高・性別]

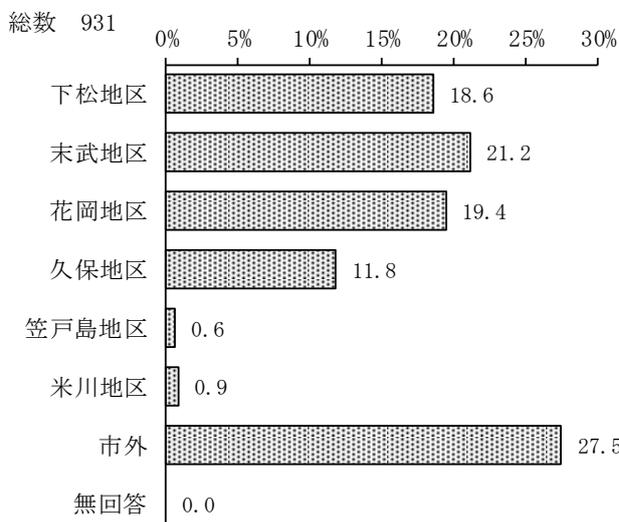


項目名	集計値	構成比 (%)
全体	931	100.0
中学・男	231	24.8
中学・女	240	25.8
高校・男	272	29.2
高校・女	188	20.2
無回答	-	-

中学・高校の別と男女別を掛け合わせ、4分類とした。中学では女性がやや多いが、高校では男性の方が多くなっている。

以後の各設問では、この4分類を属性のひとつとしてクロス集計に用いる。

#### (2) 居住地区



項目名	集計値	構成比 (%)
全体	931	100.0
下松地区	173	18.6
末武地区	197	21.2
花岡地区	181	19.4
久保地区	110	11.8
笠戸島地区	6	0.6
米川地区	8	0.9
市外	256	27.5
無回答	-	-

「市外」の記入内訳	集計値
周南市	135
光市	51
田布施町	5
柳井市	2
岩国市	17
防府市	2
(記載計)	212

居住地区の分布は、市内では末武地区が最も多く、花岡、下松、久保地区の順である。

高校生では半数強が市外の居住者である。

笠戸島、米川地区はそれぞれ6人、8人と少ないが、対象学年のほぼ全数調査であることを踏まえ、以後の居住地区別集計では数値を明示する。

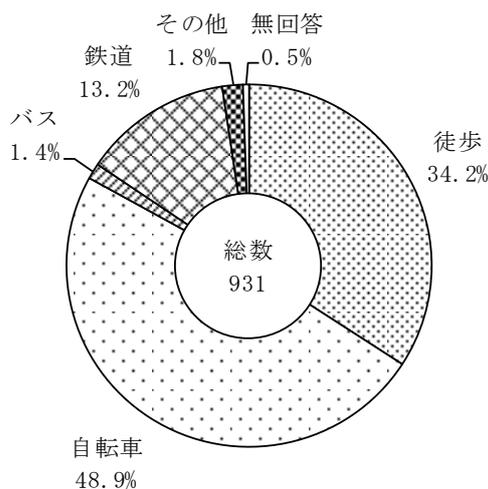
なお、市内の地区区分と小学校区の対応関係は次表のとおりである。

[居住地区と小学校区の対応]

地区名	小学校区
下松	下松・豊井
末武	公集・中村
花岡	花岡
久保	久保・東陽
笠戸島	下松
米川	米川

(注：小学校区は令和元年度現在)

### (3) 主な通学手段



項目名	集計値	構成比 (%)
全体	931	100.0
徒歩	318	34.2
自転車	455	48.9
バス	13	1.4
鉄道	123	13.2
その他	17	1.8
無回答	5	0.5

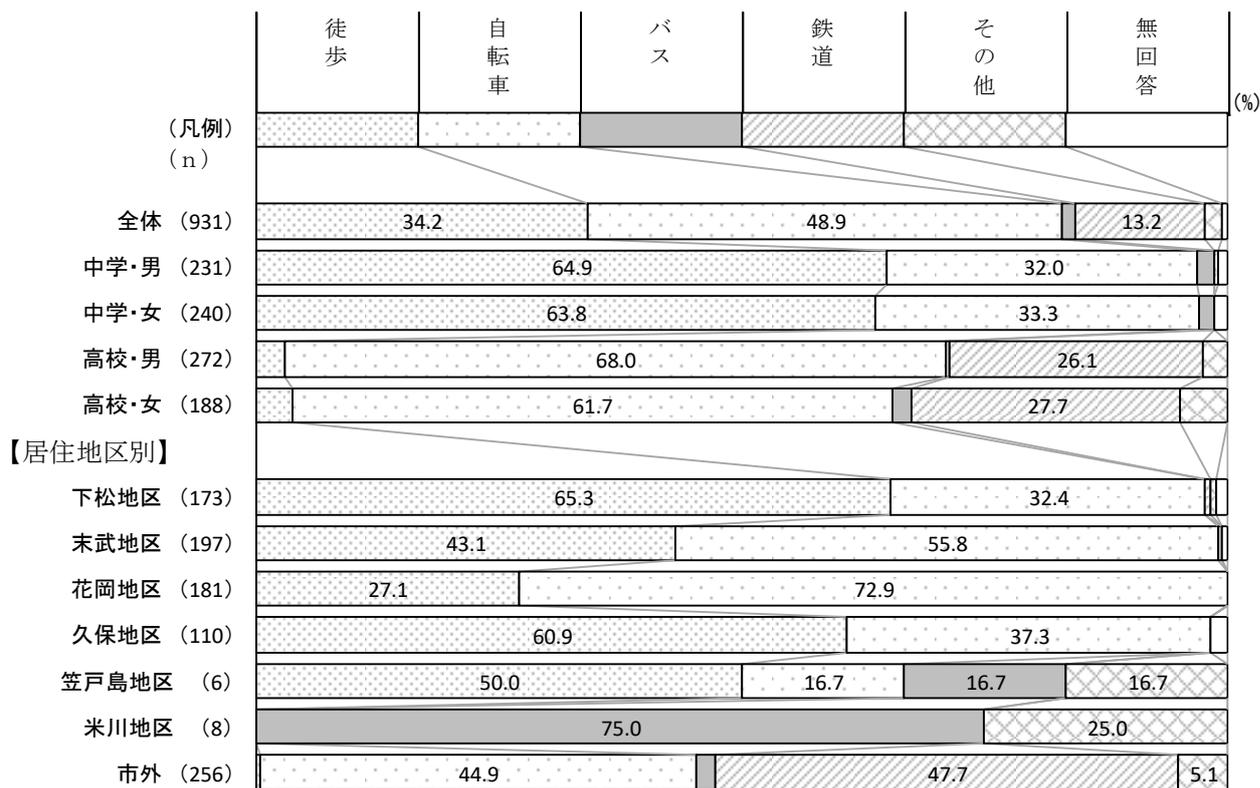
「その他」の主な記述内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の送迎</li> <li>・車</li> <li>・車から自転車</li> <li>・自転車→電車</li> <li>・バイク</li> </ul>

通学の主な手段は、全体では自転車が約半数近くの48.9%、徒歩が34.2%である。

中学生では徒歩が約2/3を占め、残りの多くが自転車であるが、高校生では自転車が約2/3を占め、残りの多くが鉄道である。

居住地区別では、下松地区と久保地区は徒歩が6割以上と多いが、花岡地区、末武地区の居住者は自転車の方が多い。笠戸島在住の6人のうち半数が「徒歩」であり、米川地区在住の8人のうち6人はバスである。

市外在住者（高校生）の通学手段は、「鉄道」が半数近くを占め、残りの大半が「自転車」である。



※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。  
 ※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ない点に注意されたい。

### Ⅲ. 調査の結果

#### 1. 下松市の良いところ、悪いところ

問2 下松市の良いところ(好きな点)、悪いところ(良くしたい点)は何ですか。次の中からそれぞれ3つずつ選んで番号を下の口の中に記入し、その良いまたは悪いと思う内容も簡単に記入してください。

- |             |                   |                       |
|-------------|-------------------|-----------------------|
| 1. 海や山の自然   | 7. まちの緑・公園        | 13. 環境へのやさしさ・エコ       |
| 2. 交通の便     | 8. 人情・人のつながり      | 14. 公共施設(図書館・体育館など)   |
| 3. 広さ(市の面積) | 9. 教育内容・学校環境      | 15. 店舗(大型店、レジャー施設を含む) |
| 4. 産業・働く場所  | 10. 安全(防災・防犯など)   | 16. 情報ネットワーク          |
| 5. まちのにぎわい  | 11. 安心(医療・福祉など)   | 17. その他               |
| 6. 歴史・文化    | 12. 清潔さ(ごみ・下水道など) |                       |

項目名 【3つまでの複数回答】	【良いところ】 (好きな点)		【悪いところ】 (良くしたい点)	
	集計値	構成比 (%)	集計値	構成比 (%)
全体	931	100.0	931	100.0
海や山の自然	431	46.3	78	8.4
交通の便	131	14.1	354	38.0
広さ(市の面積)	74	7.9	100	10.7
産業・働く場所	110	11.8	43	4.6
まちのにぎわい	180	19.3	208	22.3
歴史・文化	152	16.3	89	9.6
まちの緑・公園	191	20.5	212	22.8
人情・人のつながり	185	19.9	86	9.2
教育内容・学校環境	67	7.2	111	11.9
安全(防災・防犯など)	202	21.7	241	25.9
安心(医療・福祉など)	103	11.1	40	4.3
清潔さ(ごみ・下水道など)	165	17.7	347	37.3
環境へのやさしさ・エコ	55	5.9	88	9.5
公共施設(図書館・体育館など)	255	27.4	161	17.3
店舗(大型店、レジャー施設含む)	333	35.8	263	28.2
情報ネットワーク	10	1.1	71	7.6
その他	10	1.1	59	6.3
無回答	23	2.5	29	3.1

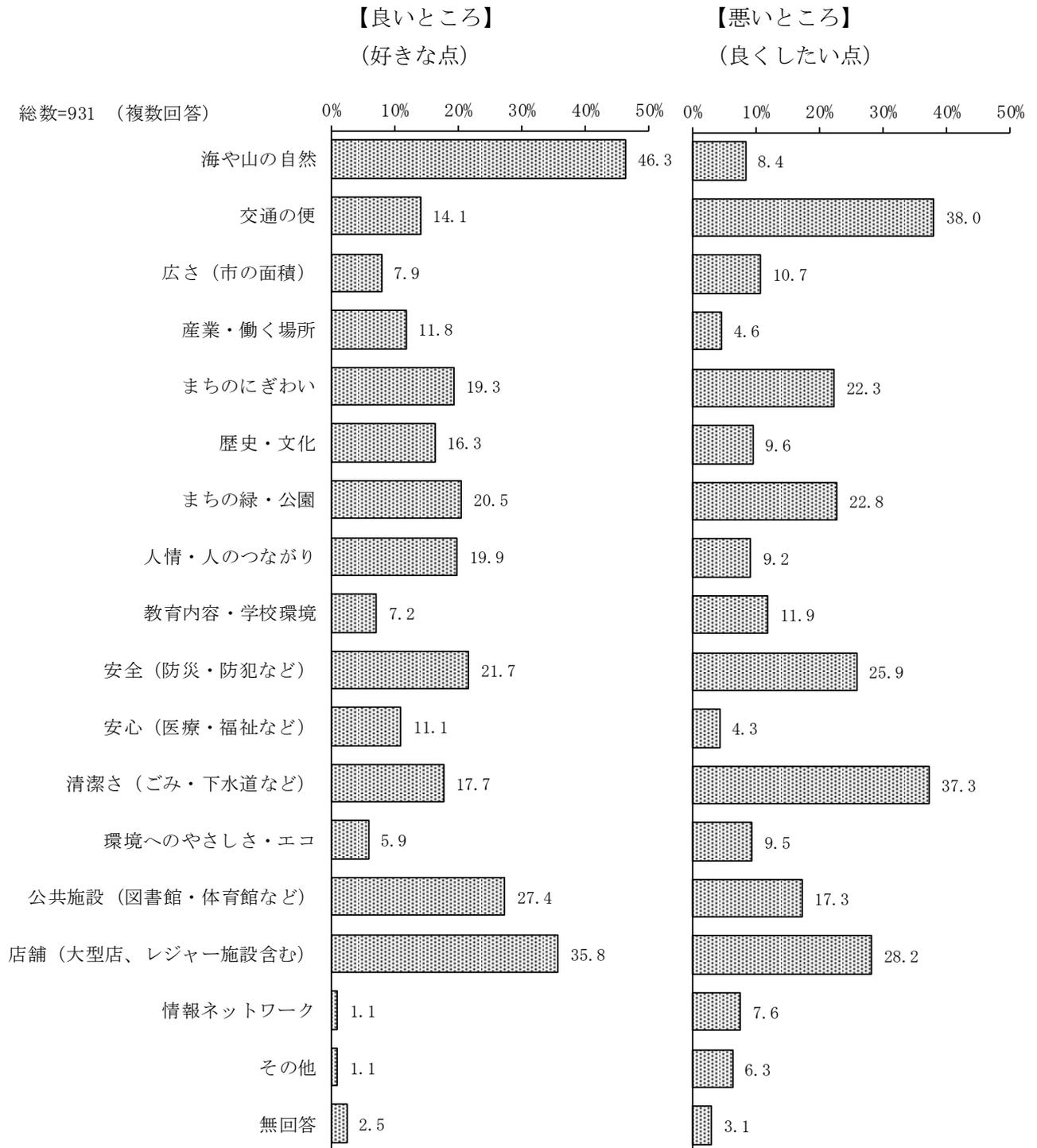
中学・高校生の視点からみた下松市の良いところ(好きな点)、悪いところ(良くしたい点)を尋ねている。

17の選択肢の中で、「良いところ(好きな点)」として最も多いのは「海や山の自然」で、46.3%が選択しており、これに「店舗(大型店・レジャー施設を含む)」、「公共施設(図書館・体育館など)」の順で続いている。

一方、「悪いところ(良くしたい点)」では「交通の便」が最多で38.0%が選択し、これに「清潔さ(ごみ・下水道など)」が僅差で続き、さらに「店舗(大型店・レジャー施設を含む)」、「安全(防災・防犯など)」、「まちの緑・公園」、「まちのにぎわい」が続く。

両者を対比させてみると、「良いところ(好きな点)」としての選択率が低い項目が「悪いところ(良くしたい点)」で高い選択率であるというわけでは必ずしもない。「店舗(大型店・レジャー施設を含む)」

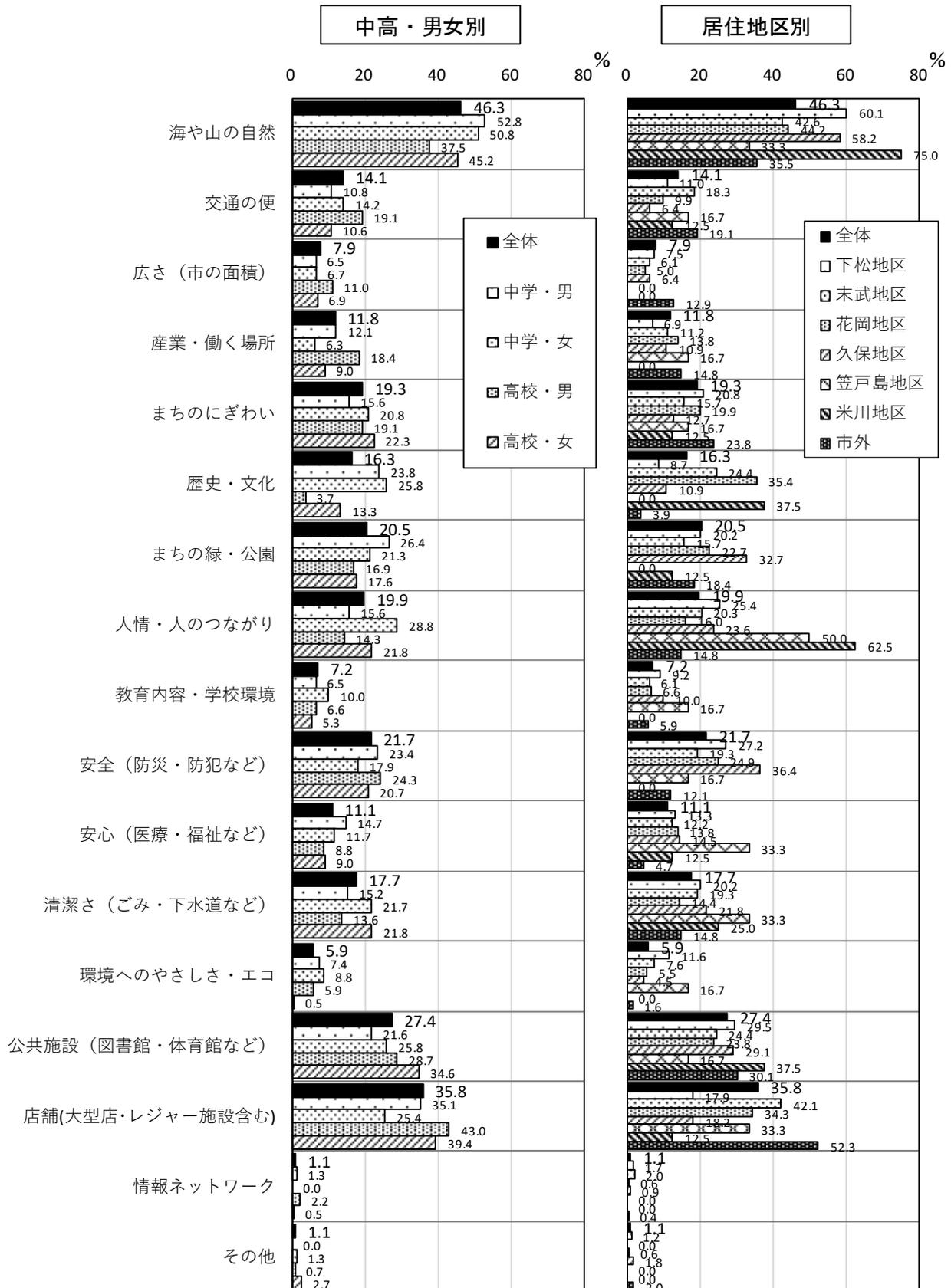
設を含む)」は両方で上位であるほか、「安全（防災・防犯など）」、「まちの緑・公園」といった項目も双方で選択率が比較的高い。これらの項目は、個人の価値観等により評価が分かれる場合が多いと考えられる。



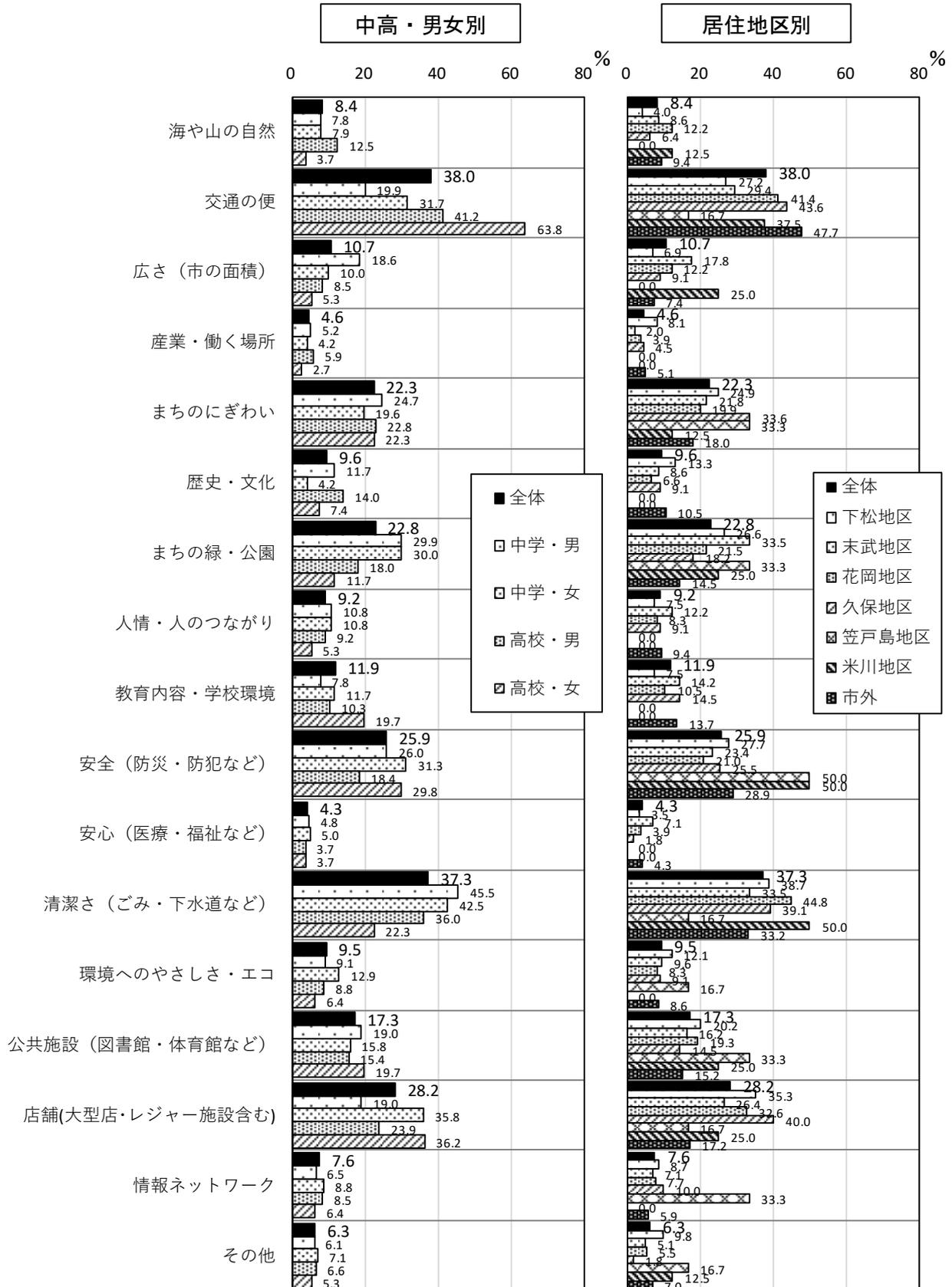
「良いところ (好きな点)」は、中学・高校生の別、性別により異なる面もあり、「店舗 (大型店・レジャー施設を含む)」や「公共施設 (図書館・体育館など)」は高校生の方が選択率が高い一方、「海や山の自然」や「歴史・文化」などは中学生の方が高い割合である。高校生には市外居住者が半数含まれる点も影響していると考えられる。

また、「人情・人のつながり」や「清潔さ（ごみ・下水道など）」は女性の方が好感を持つ割合が高いこともわかる。

居住地区別では明確な相違を読み取りにくいですが、数は少ないものの、米川、笠戸島地区での「人情・人のつながり」の突出度合いなどが目立っている。



「悪いところ(良くしたい点)」では、「交通の便」の指摘割合が高校生の方が目立って高いほか、「清潔さ(ごみ・下水道など)」や「まちの緑・公園」では中学生の方が高い選択率である。また、「店舗(大型店・レジャー施設を含む)」や「安全(防災・防犯など)」では女性の方が高い割合を示している点も注目される。



また、「悪いところ（良くしたい点）」の居住地区別の相違も明確には捉えにくいですが、やはり数は少ないものの、笠戸島、米川地区で「安全（防災・防犯など）」をあげる割合が突出している点が目立つ。

これらと同様の設問を前回（H21）調査でも実施している。選択肢が一部異なる（前回は18の選択肢）が、共通部分について割合を比較すると、類似した傾向であると言える。

ただし、「良いところ（好きな点）」として、「安全（防災・防犯など）」や「清潔さ（ごみ・下水道など）」、「産業・働く場所」、「公共施設（図書館・体育館など）」などの割合が目立って増えている一方、「悪いところ（良くしたい点）」としても、「安全（防災・防犯など）」のほか、「交通の便」、「店舗（大型店・レジャー施設を含む）」、「まちのにぎわい」などが目立って比率を高めており、近年の経済動向や都市形成動向などが反映されているとも見られる。

「安全（防災・防犯など）」や「まちの緑・公園」など双方で割合を高めている項目もあり、それらに関心が高まっていると同時に評価も分かれたものと考えられる。



本設問では、選択した項目についての「良いまたは悪いと思う内容」の記述も求めており、「良いところ（好きな点）」として延べ2,366件、「悪いところ（良くしたい点）」として延べ2,360件の回答が寄せられた。

このうち、各選択肢について代表的な意見を抽出して以下に示す（原文のまま）。抽出は、できるだけ内容の偏りがないように留意し、類似の回答があるものを極力選定している。

（以下の表中で、（ ）内の数値は、当該項目での記述回答の数である。）

【**良いところ（好きな点）**】（代表的意見）（総数 延べ2,366件）

<b>1 海や山の自然</b>	(381)
海や山に囲まれていて非常に自然がたくさん場所で成長できてよかったと思う	中学・男
海や山の自然が豊かで海産物が美味しい点	中学・女
笠戸島まで行くのは不便だけど景色はきれいだと思う	高校・女
自然が身近にある、空気が澄んでいる	中学・男
登下校できれいな山、川を見ることができ清々しい気持ちになる	高校・男
緑が多い。うぐいすやカワセミをよく見かける	中学・女
山がきれいで紅葉を見るのが楽しい	高校・女
<b>2 交通の便</b>	(106)
大きな道路がいくつもあり、高速や新幹線乗り場も近い	中学・女
公共交通機関だけでたいの場所に行ける	高校・男
バスと電車があって移動に困らない	高校・女
<b>3 広さ(市の面積)</b>	(60)
ちょうどいい広さで楽に移動ができる	中学・女
広すぎず、狭すぎず自転車移動できる場所で快適	高校・男
広すぎないため隅々まで知ることができる	高校・男
<b>4 産業・働く場所</b>	(98)
下松市には鋼鉄や日立など大手企業やその関連会社があって働く場所があると思う	高校・女
工業が栄えている。工場が多い	中学・女
地元企業が活発だから	高校・男
新幹線(日立)は下松の誇り	中学・女
<b>5 まちのにぎわい</b>	(166)
過疎化が進む中で人口が増えているから	高校・女
商業施設が充実していて休日出かけると人がたくさんいる	中学・女
地域の祭りのときなどにたくさんの人が来ていて、よくにぎわっていると思うから	中学・女
<b>6 歴史・文化</b>	(140)
きつねの嫁入りなど歴史のある文化があってよい	高校・女
花岡八幡宮などの歴史ある建造物が今も残っている	中学・男
星ふる町の伝説や長岡外史など、歴史がある	中学・男
歴史を大事にしていると思う	中学・男
<b>7 まちの緑・公園</b>	(174)
街路樹が多く身近に自然を感じることができる	高校・男
下松市にはたくさんの緑があり公園ものびのびとしていると思ったから	中学・女
公園がたくさんあり、子供たちのにぎやかな声が聞こえていいと思う	高校・女
公園の緑や川沿いにある緑などを保っている	中学・男
スポーツ公園などに行くと緑が豊かな中のびのびと運動できるので良いと思います	中学・男
緑が多く自然がたくさんあっていい	中学・男
<b>8 人情・人のつながり</b>	(166)
あいさつをすると自然と地域の人が話しかけてくれる	中学・女

	お祭りなどが多くて人のつながりができていてよいと思う	中学・男
	近所付き合いがよいと思うし協力的だと思う	高校・女
	地域の人のとのかかわりが深く、心あたったかい人たちがばかりだ	高校・女
	地域の祭りが多く年配の方とも関わるところ	高校・女
	ボランティア活動などたくさんの人々が協力合っている	中学・女
<b>9 教育内容・学校環境</b>		(60)
	学校が多くて色々な活動ができるところがよい	中学・女
	学校はとでも過ごしやすい。問題も少ない	高校・男
	とてもよく学習の環境が整っていると思う	中学・男
<b>10 安全(防災・防犯など)</b>		(180)
	大きな災害が少ないが対策はきちんとされている	高校・女
	訓練などを積極的に行っているから	中学・女
	災害が少なく事故や犯罪もあまり起きない	中学・女
	地域のボランティアの方々が毎日朝早くから横断歩道の安全を見守ってくれている	中学・女
	避難訓練などをよくやっているから。とても防災に対する意識が強い	中学・男
<b>11 安心(医療・福祉など)</b>		(95)
	大きな病院もあり何かあっても安心	高校・女
	小学生まで医療費がかからないのがよい	中学・男
	病院が多いからすぐに行くことができる	中学・男
	福祉施設が多くある	高校・女
<b>12 清潔さ(ごみ・下水道など)</b>		(152)
	落ちている(捨てられている)ゴミがあまりないところ	中学・女
	下松市は全体的にゴミのポイ捨てが少なくいいと思います	中学・女
	ゴミなどあまり落ちていなくて清潔だと思う	高校・女
	清掃活動が多い	中学・男
	水がきれい	中学・女
<b>13 環境へのやさしさ・エコ</b>		(44)
	環境への優しさがあるから	中学・男
	ゴミの分別が細かくされている	中学・女
	リサイクル専用のゴミ箱があり地球環境がもっと良くなる	中学・女
<b>14 公共施設(図書館・体育館など)</b>		(229)
	大きな図書館や恋路などのスポーツに親しむことができる施設がある	中学・男
	公共施設がきれいに整備されており、使いやすくないと思う	中学・女
	スポーツでの試合会場で使える体育館がある	高校・女
	図書館などはきれいでとても充実していると思う	高校・女
	図書館や体育館などが充実している	高校・男
	勉強できるところがたくさんある	高校・女
<b>15 店舗(大型店、レジャー施設含む)</b>		(300)
	遊ぶところがたくさんある	中学・女
	いろんなお店があり買い物や遊びに行ったりするのに良いところ	中学・女
	映画館やショッピングモール、プールなど休日に遊びに行けるところが多いと思う	高校・女
	大型店が多くて一気に物が買える	中学・男
	買い物があつたらすぐ買いに行くことができる	中学・男
	サンリブやゆめタウンなど大型ショッピングセンターがいくつかあるので買い物に困らない	高校・女
	他市からも人がたくさん来るような場所があつてよい	中学・女
	友達や家族と買い物とかできる場所	中学・女
	ゆめタウンやサンリブなどたくさん店があつて買い物できる	高校・女
<b>16 情報ネットワーク</b>		(5)
	情報ネットワークで調べられてとても便利	中学・男

## 17 その他

(10)

人口が増えているところ	高校・女
-------------	------

## 【悪いところ（良くしたい点）】（代表的意見）（総数 延べ2,360件）

## 1 海や山の自然

(71)

海にゴミなどが捨てられており、汚い	中学・男
海岸沿いは工場があり遊びに行けない	高校・男
ゴミを捨てる人がいる	中学・男
自然が少ない	高校・女

## 2 交通の便

(327)

学校の近くの交通の便が悪い。バスが少ない	高校・女
岩徳線とバスの本数が少ない	高校・女
車がないと移動が大変	中学・女
交通のルールを守っていない人がいる	中学・男
狭い道が多いから改善してほしい	中学・女
電車、バスの本数が少ない	高校・女
電車の本数が少ない。バスの最終が5時半くらいなので遅くしてほしい	高校・女
バスや電車の便がもっと増えるとよいと思う	高校・女
道がガタガタのところがある	高校・男
道が狭くて危ないところがある	高校・男
もう少しバスの回数を増やしたり、バス停をつくってほしい	中学・男

## 3 広さ(市の面積)

(92)

市の面積が他市に比べ狭い	中学・女
小さいと思う。少し移動すればすぐ他市になる	中学・男
もう少し広いともっと発展すると思う	中学・男

## 4 産業・働く場所

(36)

コンピューター系の仕事はあまり聞かない気がする	中学・男
自分の好きな仕事の下松にはないから。人気の職業があまりないから	中学・男
働く場所が少ない気がする	高校・男

## 5 まちのにぎわい

(190)

あまりにぎわっているようには見えない	中学・男
活気がない	高校・男
静かでもう少し元気でよい	中学・男
にぎわいがあまりない	中学・男
にぎわっているところもあるし、そうでないところもある。差が激しい	中学・男
人が少なくて町でも都会に比べたらにぎやかさがあまりない	中学・女
祭りはあるけどもっと多くの人に参加してほしい	中学・男

## 6 歴史・文化

(77)

あまり知られていない文化、歴史が多い	中学・女
何の歴史や文化があるかわからない	中学・男
歴史や文化を知る人が少ないと思うので、もっと広めた方がよい	中学・女

## 7 まちの緑・公園

(203)

草が生い茂っていてもそのまま、遊具も古くて危険な公園などがある	中学・男
公園があまり整備されていない	中学・女
公園が狭い、少ない	中学・男
公園はあるがあまり使われていない印象を受ける	高校・男
町の緑や公園が少なくなっている	中学・男

	野犬が多く安心して利用することができない	高校・女
8	人情・人のつながり	(81)
	あいさつをしても返してもらえない時がある	中学・女
	あまり人情、人のつながりとかがない気がする	中学・女
	地域の方と関わるのが少ない	高校・女
	人と人とのつながりが少ないと思う。コミュニケーションをとれるような場をつくってほしい	中学・男
9	教育内容・学校環境	(102)
	いじめを放置しているのではないかと思う時がある	中学・男
	エアコンがついていない小、中学校がある	高校・女
	学校の立地場所が悪い	高校・女
	進学校なら模試や考査に向けてみんなが勉強するような取り組みをしてほしい	高校・女
	もっと下松市について考える時間をつくるべきと思う	中学・女
10	安全(防災・防犯など)	(237)
	街灯などが少ないため夜が怖い	中学・女
	最近交通事故が多発している	中学・男
	自転車で学校に行くとき車と当たりそうな箇所がある	高校・男
	犯罪が増えてきている気がする	高校・女
	不審者が出ることもあるから不安	中学・女
	野犬が多い	高校・女
	山からの土砂崩れが心配	中学・男
11	安心(医療・福祉など)	(35)
	市内で出産できるような医療設備の充実	高校・女
	病院が少ない	高校・男
12	清潔さ(ごみ・下水道など)	(321)
	川が汚いところがあった	高校・女
	公共のトイレなどはあまりきれいではなく、清潔さがないと思う	中学・女
	ゴミが捨てられているのをよく見かける	中学・男
	ポイ捨てする人が多い	中学・男
	道によくゴミが落ちていると思うから	中学・女
	よく道端にタバコやペットボトルがたくさん落ちていたり、地下道が汚くなっている	中学・女
13	環境へのやさしさ・エコ	(80)
	エコなどの活動をしているところをあまり見かけない	中学・女
	環境問題への取り組みを聞いたことがない	中学・女
	ゴミが散らかっている	高校・男
	もっと環境を大事にしていきたい	中学・男
	リサイクルなどがどこにあるかわからない。したくてもできないにつながる	高校・男
14	公共施設(図書館・体育館など)	(148)
	あんまり公共施設を見たことがない	中学・男
	体育館が少ない	高校・男
	図書館(公民館)の勉強スペースが少ししかない	高校・女
	図書館を増やしたらいいと思う	中学・女
	もっとみんなが気軽に利用できるような公共施設があるとよい	中学・男
15	店舗(大型店、レジャー施設含む)	(244)
	遊ぶことのできる場所が少ない	中学・女
	大型店が少なくて面白くない	中学・男
	大型店の中の店が充実したらもっと良いと思う	高校・女
	ショッピングセンター内に若者向けの店が少ない	高校・女
	店が近くにあまりなく、ほしい商品がなかったりする時がある	中学・女
	もっと若い人にうける店をつくってほしい。同じ店舗が近くにありすぎる	中学・女
	レジャー施設などをもっと増やしてほしい	中学・女

## 16 情報ネットワーク

(59)

Wi-Fi がつながりにくいところがある	高校・女
市の情報が学生になかなか入ってこない	高校・女
もっと下松を SNS 上でアピールしたらよいと思う	高校・女

## 17 その他

(57)

近辺より荒い運転者が多い。信号がないところがある	高校・男
道路工事をよくやっている。歩道がガタガタのときがある	高校・男
野良の犬、猫がとても多い	中学・女

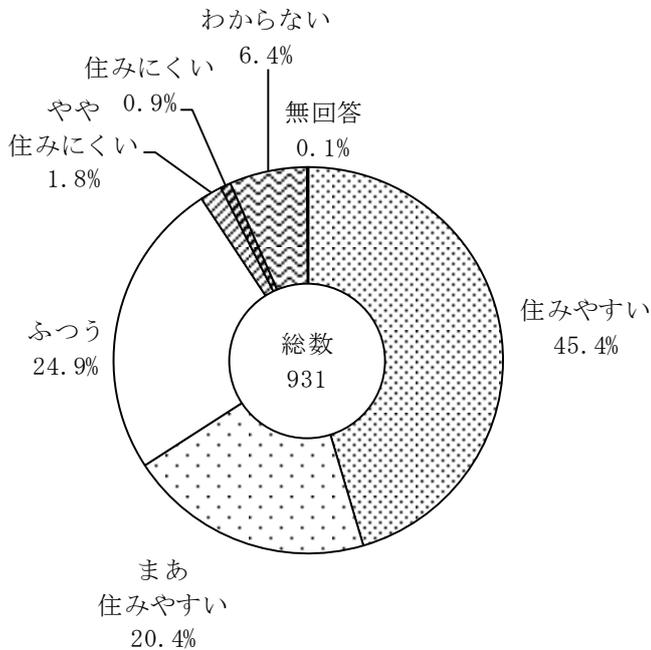
回答件数の多い選択肢項目の中では、「良いところ」として、海山の自然の美しさ、大型店の充実度、図書館の環境などを指摘する声が多いのが目立ち、また、「悪いところ」としては、鉄道やバスの利用利便の悪さや、ごみのポイ捨てやそれによる海などの汚れ、店舗構成への不満などの声が目立つところである。

回答件数で、「良いところ」、「悪いところ」の双方で多かった項目では、その内容記述も、両面からの記載が目立っている。

## 2. 下松市の住みよさ・愛着・定住意向

### (1) 下松市の住みよさ

問3 下松市全体を考えた場合、あなたは住みやすいまちだと思いますか。次の中から1つだけ選んで番号を口の中に記入してください。



下松市の住みよさを尋ねている。全体としては、「住みやすい」が45.4%であり、「まあ住みやすい」を合わせると65.8%と2/3近くを占めている。「やや住みにくい」、「住みにくい」は合わせて2.7%にとどまっている。

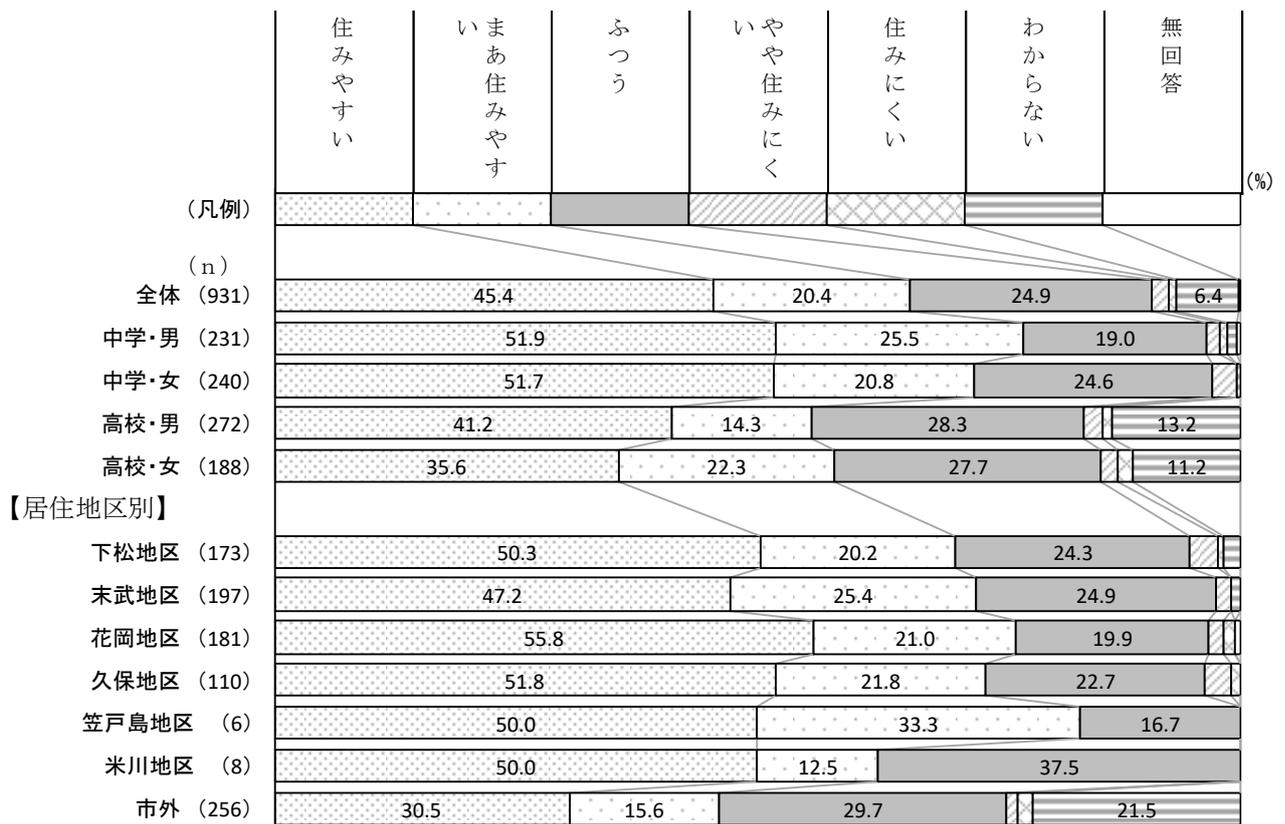
この設問は、前回(H21)調査でも同様に実施しており、その結果との対比では、「住みやすい」の割合が大幅に上昇していることがわかる。中高生世代の市に対する総合的な評価が大きく改善の方向に変化してきたことを示している。

「住みやすい」の割合、あるいは「まあ住みやすい」を加えた割合は、高校生よりも中学生の方が明らかに高い。これは、居住地区別の集計において、市外居住の高校生の同割合が際立って低いことが影響していると見られる。

#### 【前回との比較】

	住みやすい	すまいあ 住みや	ふつう	く いや 住みに	住 みに くい	わ から ない	無 回 答	(%)
(凡例)								
(n)								
今回(931)	45.4	20.4	24.9	6.4				
前回(H21)(882)	26.3	34.8	29.3					

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。



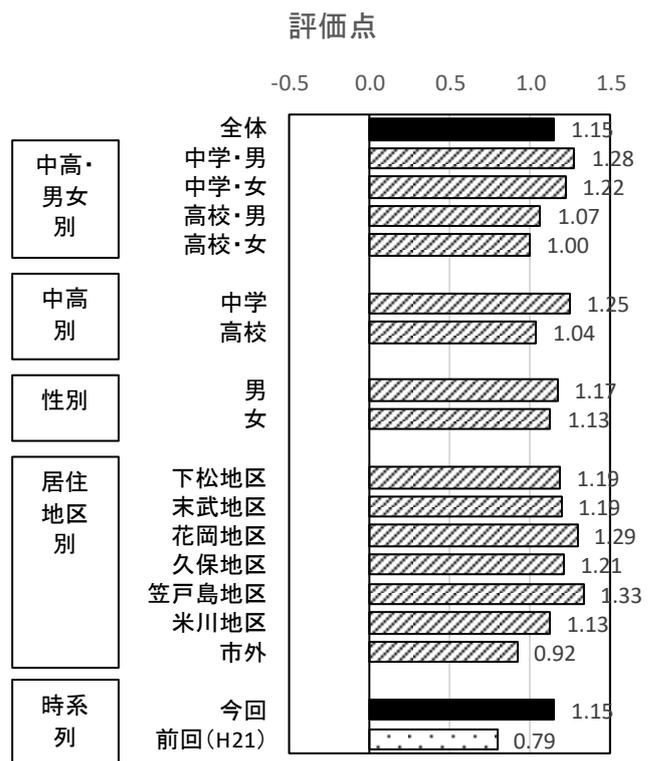
※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。  
 ※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ない点に注意されたい。

ここで、「住みやすい」=2点、「まあ住みやすい」=1点、「ふつう」=0点、「やや住みにくい」=-1点、「住みにくい」=-2点として、回答数（「わからない」と無回答を除く）で加重平均した値を評価点として算出すると、全体では1.15となり、平均的に「まあ住みやすい」以上の水準で評価されていると言える。

この評価点での属性別の相対評価を右図に示すが、高校生よりも中学生、女性より男性の方が平均的な住みよさ評価が高いこと、前回調査よりも大幅に住みよさ評価が上昇したことなどが説明できる。

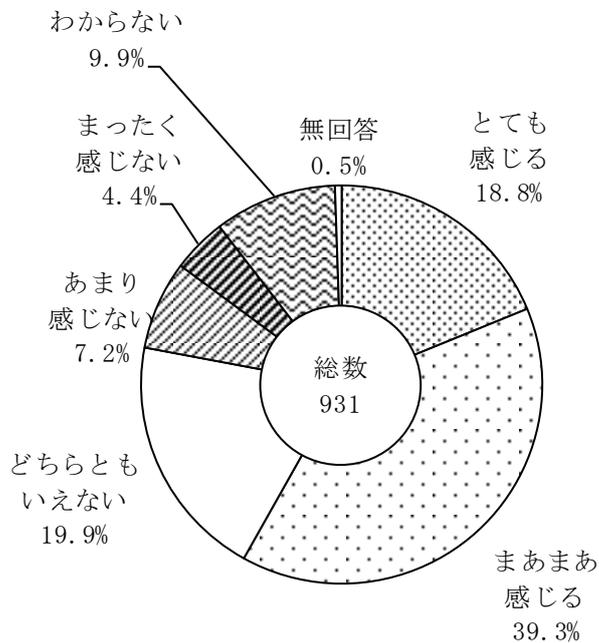
なお、一般市民アンケートで、「総合的（全体的）な住みよさ」の満足度の評価点が0.75であったことと対比すると、中学・高校生の評価はかなり高いとも言える。

注)「評価点」は、「住みやすい」=2点、「まあ住みやすい」=1点、「ふつう」=0点、「やや住みにくい」=-1点、「住みにくい」=-2点として、回答数（「わからない」と無回答を除く）で加重平均した値



## (2) 下松市への誇り・愛着

問4 あなたは、下松市に誇りや愛着を感じますか。次の中から1つだけ選んで番号を口の中に記入してください。



一般市民と同様に、下松市への誇りや愛着を感じる程度を尋ねている。

「とても感じる」が18.8%、「まあまあ感じる」が39.3%で、合わせると58.1%と半数以上が誇り、愛着を感じていることになる。「あまり感じない」と「まったく感じない」を合わせた割合は11.6%である。

前問の「住みやすさ」の評価と同様に、中学生の方が高校生よりも「感じる」割合が顕著に高く、中学・高校ともに女性の方が「まあまあ」を合わせた「感じる」割合が男性よりも高い。

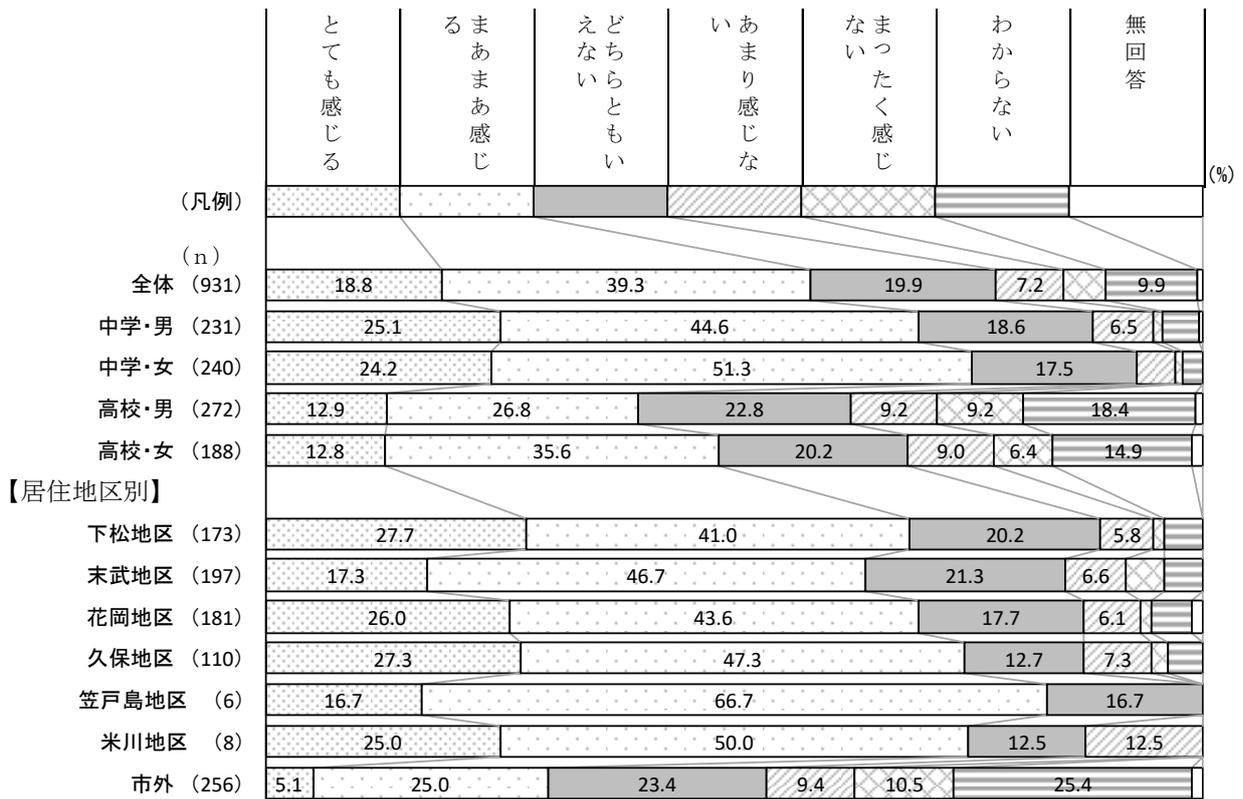
高校生のうち約半数の市外在住者は「まあまあ」も合わせた「感じる」割合が30.1%と低いが、これが高校生の「感じる」割合を中学生よりも低くする要因となっている。

ただし、市外在住の高校生も「わからない」が25.4%いることを考えると、約3割が下松市に誇りや愛着を感じていることは注目に値すると考えられる。

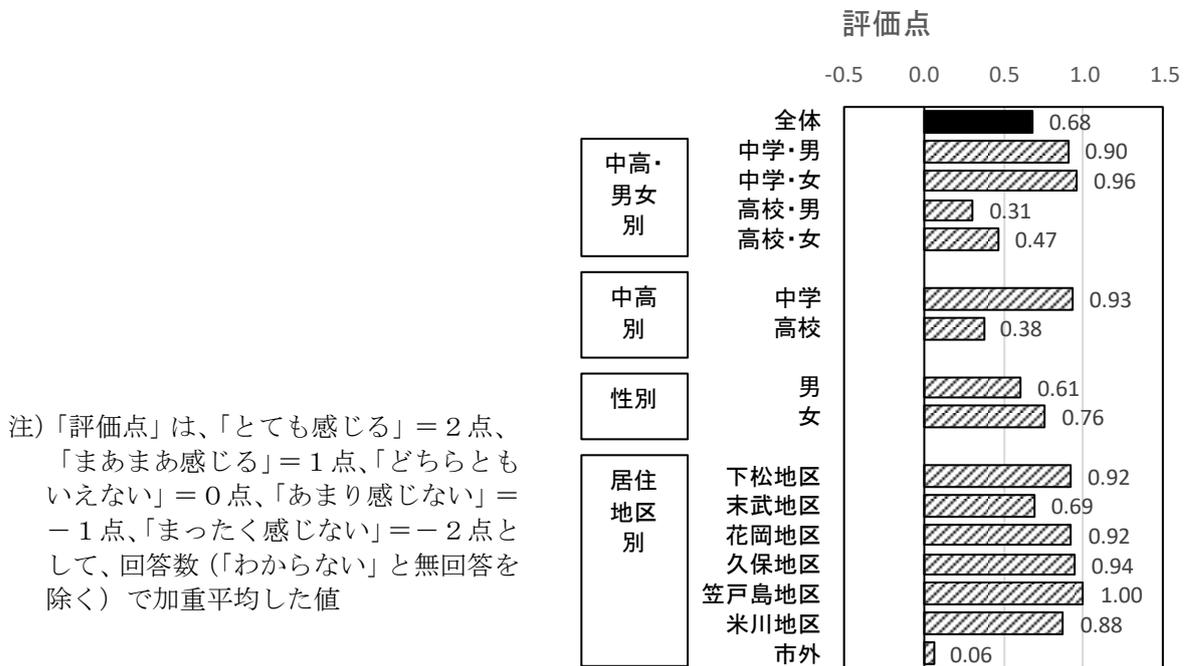
ここでも、「とても感じる」=2点、「まあまあ感じる」=1点、「どちらともいえない」=0点、「あまり感じない」=-1点、「感じない」=-2点として、回答数（「わからない」と無回答を除く）で加重平均した値を評価点として算出すると、全体では0.68となり、平均的にはやや感じられる程度と言える。

前問と同様に、高校生より中学生、男性より女性の評価点が高いことや、居住地区が市外である場合のほか、市内でも末武地区でやや評価点が低いこと等を読み取ることができる。

なお、この評価点は、一般市民アンケートの同設問では1.03であった。中学・高校生の回答結果は、これに比べると、市外在住者を除いても厳しい評価となっている。

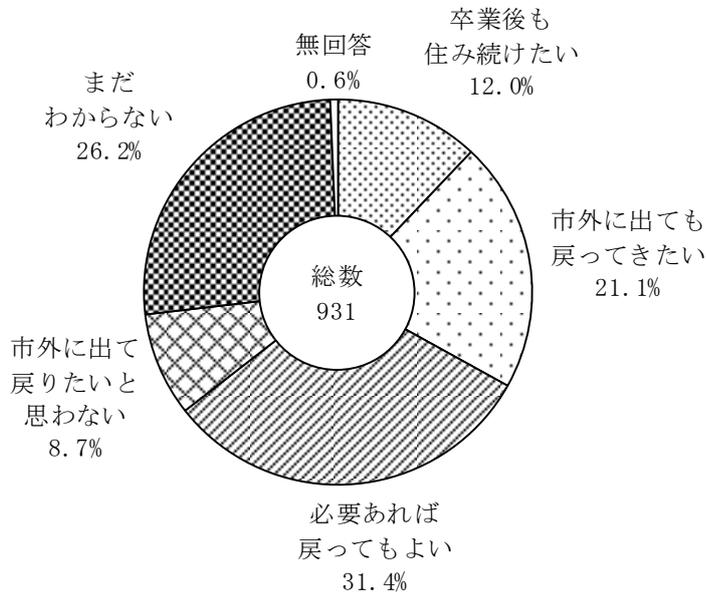


※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。  
 ※笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ない点に注意されたい。



(3) 下松市への定住意向

問5 あなたは将来も下松市に住みたいと思いますか（市外に住んでいる人は、下松市を今住んでいる市と考えてください）。次の中から1つだけ選んで番号を口の中に記入してください。

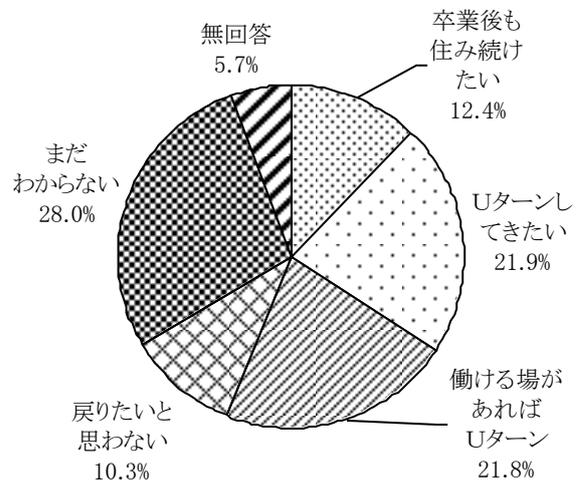


- [選択肢]
1. 中学校・高校卒業後も、そのまま市内に住み続けたい。
  2. 進学または就職で市外に出ても、その後ぜひ戻ってきたい。
  3. 進学または就職で市外に出ても、もし必要があれば戻ってきてもよい。
  4. 進学または就職で市外に出て、その後戻りたいとは思わない。
  5. まだわからない。

将来の人口動向に直結する、中学・高校生の卒業後の市内への居留意向については、「卒業後も住み続けたい」が12.0%、「進学や就職で市外に出てもその後戻ってきたい」が21.1%で、合わせると33.1%が市内定住または還流の意向を示している。

前回（H21）調査でも、選択肢の表現が異なるが同様の設問を行っており、上記両者に相当する選択肢の合計割合は34.3%であったことから、今回も、定住または還流の意向を持つ割合はほとんど変化していないと見ることができる。なお、前回は「働ける場があれば」の表現が今回は「もし必要があれば」となっているが、「戻ってきてもよい」とする回答は、21.8%から31.4%に上昇しており、市内経済の好調ぶり等が中学・高校生の意識に作用している面もあるかと考えられる。

[前回（H21）調査での同趣旨設問の結果]（n=882）



なお、「卒業後も住みたい」とする明確な定住意向の割合は中学生男子で19.0%と特に高いほか、「市外に出てもその後戻ってきたい」とする積極的還流意向と合わせた割合は、中学生の方が高校生よりもかなり高く、4割以上に達する。

中学生から高校生になると、自らの進路への意思が具体化するに伴い、その実現の場として市内を選択する割合が減少するということの現れとも考えられる。

また、高校生女子では「卒業後も住みたい」という明確な定住意向の割合が極端に少なく、「必要あれば戻ってもよい」という消極的な還流意向の割合が44.1%と高いのが特徴的である。

(凡例) (n)	卒業後も住みたい	市外に出ても戻ってきたい	必要であれば戻ってもよい	市外に出ても戻りたい	まだわからない	無回答	(%)
全体 (931)	12.0	21.1	31.4	8.7	26.2		
中学・男 (231)	19.0	24.2	22.1		30.3		
中学・女 (240)	13.3	30.8	31.3	5.4	19.2		
高校・男 (272)	12.9	14.0	30.5	11.0	30.1		
高校・女 (188)	14.9		44.1	15.4	24.5		

※5%未満の数値は、見やすさのため表示を省略している。

この設問では、「4. 進学または就職で市外に出て、その後戻りたいとは思わない」との回答者に、その「理由」の記述も求めている。43件の記述回答が寄せられたが、その中で代表的なものを示すと以下のとおりである。

自分の望む進路の実現の場を市外に求める内容が多い。

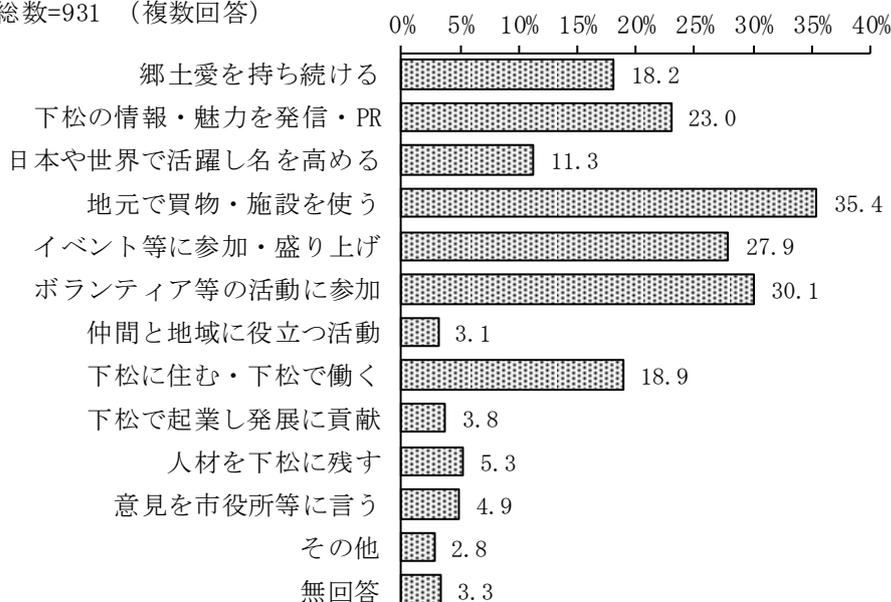
[市外に出て戻りたいと思わない「理由」] (代表的意見) (総数 43件)

田舎は面白くないから。自然がたくさんあってのびのびと暮らすのもよいが私は都会に住みたいから。	中学・女
海外に住んでみたいから。	高校・男
交通の便が不便で大きい商業施設がないから。専門学校等が充実していないから。	高校・女
自分の価値観や存在意義を確かめたいため。	高校・男
外の世界を見たい。生まれてからずっとこの狭い地域の中で生き続けるのは嫌だ。	高校・男
就きたい職業がないため。	高校・男
まず下松市民ではないし県外に就職している人なものを見て知りたいから。	高校・男

### 3. 下松市のためにできること、したいこと

問6 将来の下松市をより良いまちにしていけるため、今、そして将来（将来下松市を離れても）あなた自身ができること、したいことはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで番号を下の口の中に記入し、具体的な考えがある場合は記入してください。

総数=931（複数回答）



#### [選択肢]

1. ふるさと納税などの制度等を利用し、郷土愛を持ち続ける。
2. SNSなどで下松の情報、魅力を発信、PRする。
3. 日本や世界で活躍し、下松の名を高める。
4. できるだけ地元で買物をしたり、施設を使う。
5. 地域のイベントなどに参加して盛り上げる。
6. ボランティアなど地域の活動に参加する。
7. 仲間を集めて一緒に地域に役立つ活動をする。
8. 下松に住む、下松で働く。
9. 下松で新しい事業を起こし、市の発展に貢献する。
10. 後輩の指導や子育てなどで人材を下松に残す。
11. 自分の意見を市役所などに言って改善を求める。
12. その他

中学・高校生の立場で（将来も含めて）下松市にどのような貢献ができるかを尋ねている。

最も多い回答は「できるだけ地元で買物をしたり施設を使う」で、全体の35.4%が選択している。これに、「ボランティアなど地域の活動に参加する」、「地域のイベントなどに参加して盛り上げる」が3割前後で続き、この3つで上位グループを構成している。また、「SNSなどで下松の情報、魅力を発信、PRする」も23.0%で比較的高い割合である。

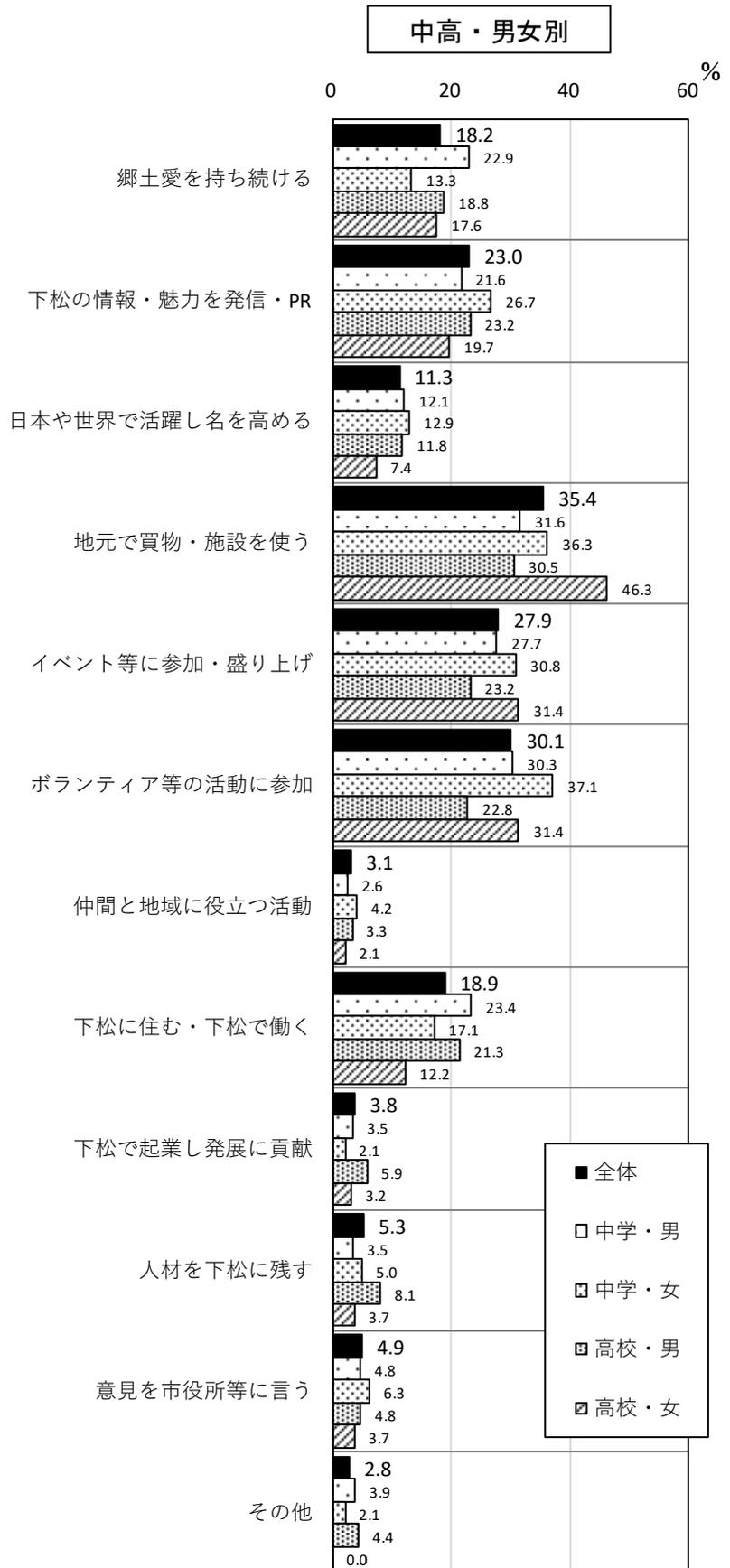
中高・男女別にみると、「できるだけ地元で買物をしたり施設を使う」や「ボランティアなど地域の活動に参加する」は女性の方が割合が高く、一方、「下松に住む、下松で働く」や「ふるさと納税などの制度等を利用し、郷土愛を持ち続ける」の割合は男性の方が高いといった特徴が見られる。

なお、本設問では、選択した項目に対して、具体的な考えがある場合にその内容の記述も求めている。

延べ 338 件の記述回答が寄せられたが、このうち、各選択肢での代表的な意見を抽出して以下に示す（原文のまま）。抽出は、できるだけ内容の偏りがないように留意し、類似の回答があるものを極力選定している。

（以下の表中で、（ ）内の数値は、当該項目での記述回答の数である。）

情報発信について、具体的ツールをあげての回答が目立った。

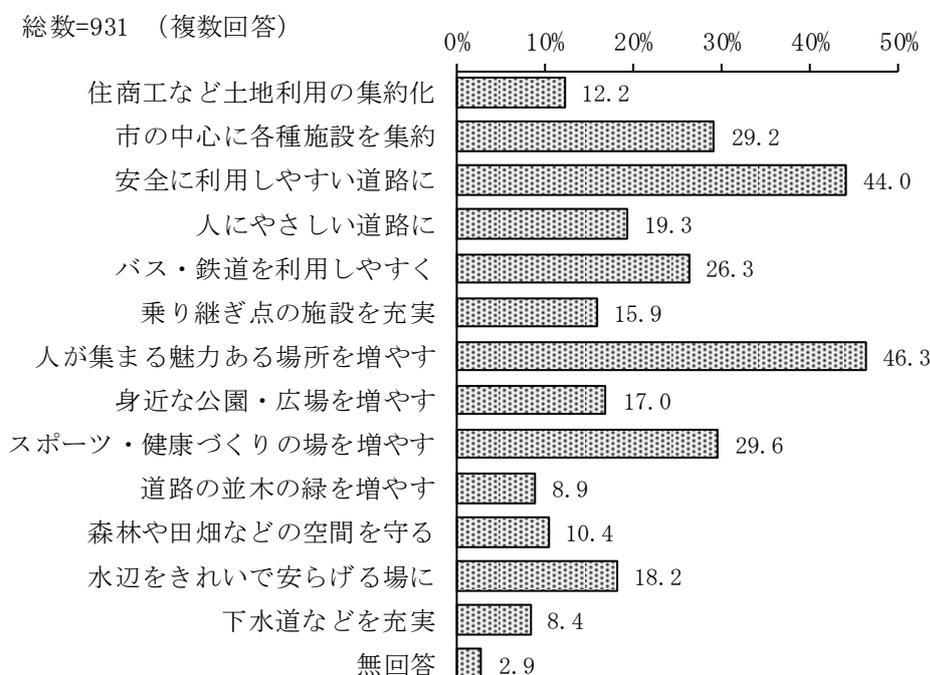


[下松市への貢献の具体的内容記述] (代表的意見) (総数 延べ 338 件)

1	郷土愛を持ち続ける	(18)
	自分が住んでいたところは大切な場所だしふるさとだから	中学・女
	遠くにいてもふるさとの応援ができるから	中学・男
2	下松の情報・魅力を発信・PR	(52)
	SNS や下松の情報など魅力的に伝えた方がよいと思う。理由は誰かが絶対見るからです	中学・女
	YouTube など到下松市の良いところなどをアップする	高校・男
	インスタグラムなどに下松市で遊んだ時の様子を載せる	高校・女
	下松の魅力をみんなに知ってもらいたいから	中学・女
	山口県の中でも下松市の魅力はあまり知られていないから今話題の SNS で若い人から魅力を知ってもらいたい	中学・男
3	日本や世界で活躍し名を高める	(21)
	オリンピックで金メダルをとる	中学・女
	自分が有名人になる	高校・男
	世界で活躍して恩返ししたい	中学・男
4	地元で買物・施設を使う	(45)
	給食でたくさんの下松産の食材を食べてきたので、大人になってからも下松市産の食材を食べて「地産地消」できるようにしたい	中学・女
	下松市内の施設を使用することで施設の廃止を防げる	高校・男
	食べ物だったら地元のもが一番安全でおいしいと思うのでたくさん地元のものを買いたい	中学・男
5	イベント等に参加・盛り上げ	(61)
	自分の地域のイベントに帰省などで帰ってきた時に積極的に参加したい	高校・女
	少しでも多く参加することで町などを活性化することができると思う	中学・女
	伝統的なものを守り続けていくことができる	高校・男
6	ボランティア等の活動に参加	(68)
	学校で募集されるボランティアに参加するようにする	中学・女
	下松のことをもっと知り人とのつながりを増やすため	中学・女
	自分たちがしてもらったように僕もボランティアで地域に役立ちたい	中学・男
	人との協力で人が助かったり、動物が助かったりするの、ずっと不安がなくなるから	中学・男
	ボランティアに参加すれば自分自身が下松の魅力に気付けると思う	中学・女
7	仲間と地域に役立つ活動	(7)
	小中学校の同級生と下松市のボランティアをしたい	高校・女
8	下松に住む・下松で働く	(30)
	今考えている自分の夢は下松市周辺で就職することです。下松を盛り上げる人材のひとりになりたいです	中学・女
	下松に住んだり働いたりして、友達などに下松市の良さを広めていきたい	中学・女
	自分が住んでいる市で貢献したいから	中学・女
9	下松で起業し発展に貢献	(5)
	下松市に必要なことを調べそれに関する事業を起こす	中学・男
10	人材を下松に残す	(6)
	未来にも下松市の伝統をつないでもらいたいから	中学・女
11	意見を市役所等と言う	(11)
	自分の意見によって市が少しでも変わるなら言う	中学・女
	より良い町づくりをするために意見をきちんとという	中学・女
12	その他	(14)
	下松市には都会にはいない絶滅危惧種の虫や魚がいるのでそれを何かに活かしたい	中学・男
	もし県外に出て新しい友達などが増えたら「下松市いいよ」とPRする	中学・女

#### 4. 都市づくりに必要なこと

問7 下松市をもっと住みやすいまちにしていくために、都市づくり（土地の使い方や道路や公園、川など）についてはどんなことが必要ですか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。



[選択肢]

1. 住宅や商店、工場など、それぞれを一定のエリアの中に集中させる。
2. 下松駅周辺や末武大通り沿いなどの市の中心に、いろいろな施設を集約する。
3. 歩道や自転車道、街路灯（防犯灯）の充実など、安全に利用しやすい道路にする。
4. 点字ブロックの設置や段差をなくすなど、人にやさしい道路にする。
5. バスや鉄道の運行をもっと利用しやすくし、利用者を増やす。
6. バスのターミナルや駅など、乗り継ぎ点となる施設を充実させる。
7. 人が集まり楽しく過ごせる魅力ある場所（商店や施設など）を増やす。
8. 気軽に使える身近な公園・広場を増やす。
9. スポーツや健康づくりができるような公園・施設を増やす。
10. 日よけとなる道路の並木の緑を増やす。
11. 森林や田畑などの緑の空間を守る。
12. 川や海岸をきれいにし、水辺で安らげるようにする。
13. まちの環境をきれいにするため、下水道などを充実させる。

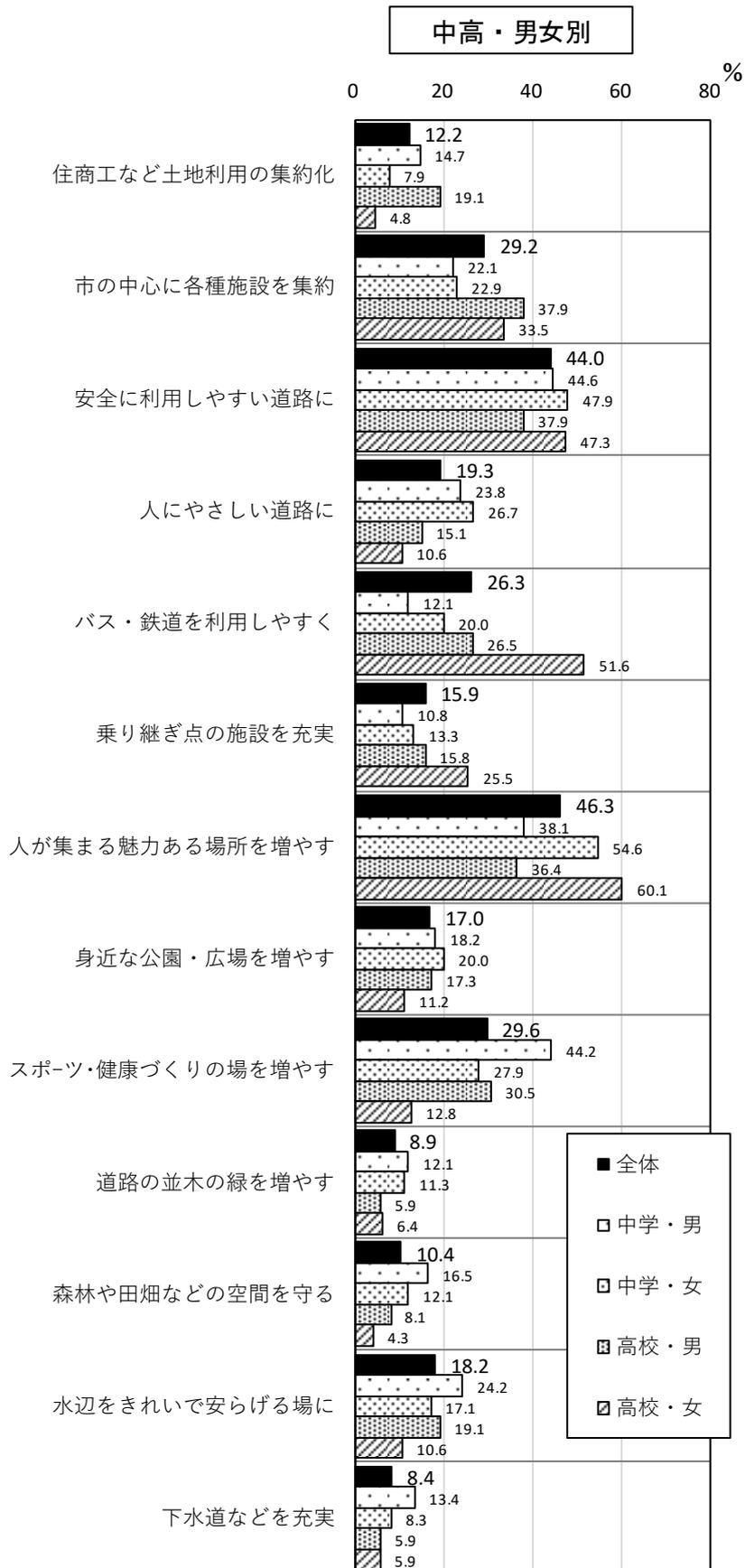
主に都市計画的な見地から、13の選択肢を用意し、今後の都市づくりに必要と思われることの選択を求めている。

多くの回答を集めたのは「人が集まり楽しく過ごせる魅力ある場所（商店や施設など）を増やす」（46.3%）や「歩道や自転車道、街路灯の充実など、安全に利用しやすい道路にする」（44.0%）で、「スポーツや健康づくりができるような公園・施設を増やす」のほか、「市の中心にいろいろな施設を集約する」という都市のコンパクト化につながる項目も多くの支持を集めている。また、「バスや鉄道の運行をもっと利用しやすくし、利用者を増やす」も26.3%と比較的高い割合である。

「人が集まり楽しく過ごせる魅力ある場所（商店や施設など）を増やす」は女性の方が高い割合である一方、「歩道や自転車道、街路灯の充実など、安全に利用しやすい道路に」や「水辺をきれいで安らげる場に」は男性（特に中学生）の方が比較的高い割合である。

「市の中心にいろいろな施設を集約」は中学生より高校生の方が高い支持率であり、「バスや鉄道を利用しやすく」も同様（特に女性）である。一方、「点字ブロックの設置や段差をなくすなど、人にやさしい道路に」では中学生の方が割合が高いなどの相違が見られる。

公共交通の利用しやすさや各種生活施設の充実、一般市民アンケートでも多くの回答率を集めた部分であり、中学・高校生でも同様な意識が持たれているとも言える。



## 5. まちづくりの取り組みへのアイデア

問8 もし、あなたが下松市長になったら、下松市をより良いまちにしてい  
 ために、どのような取り組みをしますか。 アイデアがあれば、自由に記入して  
ください。 (どんな内容でも構いません。)

アンケートの最後に、まちづくりに対する自由な意見記述を求めているが、ここでは、より建設  
 的な意見を求めるため、「もし下松市長になったらどのような取り組みをするか」という尋ね方を  
 している。

498 件の回答記述が寄せられたが、回答内容は多岐にわたり、これを一般市民アンケートにおけ  
 る自由記述設問（問 24=より良いまちにするためのアイデア）での整理方法に準じた方法で分類  
 整理した。

各分類の回答数は以下のとおりである。ただし、ここでは、一般市民アンケートの問 24 のよう  
 に、複数の分野にまたがった記述回答の分割は行っていない。その場合はその中で主要と思われる  
 分野分類に配分しているため、分類後も他の分野の内容が混在していることになり、ここでの分類  
 別の回答数は目安として捉えられたい。

	分類分野	回答数		分類分野	回答数
●	高齢者・障害者福祉	3	●	学習の場	2
●	バリアフリー	4	●	文化	2
●	子育て支援	6	●	スポーツ	25
●	環境美化	41	●	多文化共生・国際化	5
●	ごみ収集・処理	2	●	情報化	3
●	防犯・交通安全・安心	31	●	広報・広聴	16
●	生活環境全般	11	●	市民参加・協働	9
●	市街地・都市構造	9	●	行政運営・財政	7
●	道路（整備・維持管理）	14	●	シティプロモーション	15
●	公共交通	20	●	情報発信	13
●	自然・みどり	25	●	人の交流	7
●	公園	19	●	各種施設（公・民）	42
●	空き家・住宅	2	●	イベント・祭	27
●	駅やその周辺	11	●	人の心・意識	9
●	商業・サービス業	52	●	良いまちに（総合的に）	39
●	雇用・労働	3	●	取り組み姿勢	3
●	観光・レジャー	10	●	その他	2
●	学校教育	9		総数	498

この中では、様々な分野の充実を求める内容を包括的に記載しているため個別分野に分類が困  
 難なものも多く含まれ、それらは「各種施設（公・民）」や「良いまちに（総合的に）」などに整理  
 している。

個別分野の内容では、商業環境に関するものや、環境美化に関するものなどの記載の多さが目立  
 った。

[まちづくりの取り組みへのアイデア] (代表的な意見) (総数 498 件)

● 高齢者・障害者福祉	(3)
障がい者の人が移動をもっと簡単にできるようにするため、広い歩道をつくり、点字ブロック、エレベーターを増やす。子どものために公共トイレをもっと増やす	中学・女
● バリアフリー	(4)
下松は子どもも多いけれど、その分高齢者も多いからバリアフリーにあった施設をつくる。どちらにも住みやすい環境をつくる	中学・女
● 子育て支援	(6)
0歳から5歳までしか使えない公園をつくる(理由)以前、公園で小さい子が遊んでいるときに中学生が来て、小さい子が帰っていったかわいそうだったから	中学・男
● 環境美化	(41)
海辺のゴミ拾いをボランティアの人を募集して行う。たくさんイベントを増やして下松市の魅力をアピールする。公園に木を増やして休憩できる場所を増やす	中学・女
ゴミ拾いなどを市内の人たちでやったり、みんなで協力して自然を大切に、ゴミは自分で持ち帰ったりできるように、しっかり呼びかけなどをたくさんする	中学・男
山や海などにゴミが散らかっていて汚いので、みんなできれいにする日をつくる。意見箱などをつくり、みんなの意見を取り入れる	中学・男
● ごみ収集・処理	(2)
ゴミの分別を簡単に	高校・男
● 防犯・交通安全・安心	(31)
街灯を増やし夜でも安全な町をつくる。自然を大切に作る整備をする	中学・男
誰もが住んでよかったと、実感できるように交通面などもっと改善して信号なども歩行者に優しくない所もあるので、高齢者などは特にゆっくり歩くのもう少しゆっくりな信号などを改善していく	中学・男
私はまず安心、安全に暮らせるように不審者が来ない町にしたいです。なので、街路灯などで夜でも人影くらいは見えるようにしたいです	中学・女
● 生活環境全般	(11)
ベンチや明かり、日陰を増やし高齢者が安心して生活できる町づくりをする。緑をなくして都市化を進めるのではなくちゃんと緑を残して豊かにする	中学・男
野犬をもう少し減らすために野良犬へのえさやりをもう少し厳しくする。捨て犬を増やさないうがスターをつくる。野犬をもっと積極的に保護するよう呼びかける	高校・女
● 市街地・都市構造	(9)
市の中心に主要な施設を集め、よりアクセスをしやすく	高校・男
使われない土地を公園や広場や施設、遊園地にする。下松市全体のイベントをつくる。大きい祭りを開く。アスレチック場などつくる。下松市といえばこれ！といえるものをつくる	中学・男
● 道路(整備・維持管理)	(14)
亀裂の入った道路やでこぼこな道路をきれいにする	高校・女
まずは道路整備をします。下松市の道路は段差が多く自転車が通りにくい。通行量をより多く安全なものにするためにしたいと思います。次に下松市は商店や施設が他市に比べ少ないように感じます。駅周辺からでもいいと思うので少しずつ開発していったら、もっと人が来やすくなると思いました	高校・女
● 公共交通	(20)
鉄道の本数を増やす。電車の本数が少なくて困っている人がたくさんいるのに耳を傾けていないのはおかしい	高校・女
病院などに行くバスを増やしたり、バスを待つところをもっと快適に過ごせるようなところをつくらせて、バスの利用を多くする。街灯を増やし安全に通れるようにしたい	中学・女
● 自然・みどり	(25)
下松市は都会というより自然で田舎というイメージが強いので、自然環境を整えたらいいと思う。例えば、ビルなどを建てずに、もっと自然に優しい町づくりをします	中学・男

自然を生かした建物をつくることをしたい。自然と人間は切っても切れない関係だし助け助けられていかないといけないと思います	高校・男
歩道の端に木を植えて日陰をできるだけたくさんつくる。学校などでは緑のカーテンを設置することや野菜、花などを植えてもらって緑豊かなまちにする	中学・女
● 公園	(19)
健康づくりができる施設、公園を増やす	中学・女
スポーツやボールを使う遊びができる公園をつくりたい	中学・男
● 空き家・住宅	(2)
空き家の取り壊し、新しい家屋の建築	高校・女
● 駅やその周辺	(11)
駅をきれいにしないと人は集まらない。駅周辺で祭り、店を増やす	高校・男
下松駅を大きくしてもっと人が集まる所にします。車の渋滞を減らすために道路を一車線増やします	高校・男
● 商業・サービス業	(52)
大型ショッピングセンターを増やしたり、レジャー施設を増やしたりして町をにぎやかにする	中学・女
高齢者を大切にすることは大事だが若者が増えればもっと活気づくと思うので、ネットカフェやコンビニ等の施設があるとよい	中学・女
自然もたくさんあって私は好きだけど、モールかサンリブかに行くしかないので電車を使うけど、来る電車も少ないので、もっと若い人からお年寄りまで行けるような店をつくる	中学・女
● 雇用・労働	(3)
皆、働きすぎだと思うので1週間に1回ほど家族と一緒に過ごせるように休みを設ける	中学・女
● 観光・レジャー	(10)
下松駅周辺にホテルが少ない。観光地になるような市の象徴になるような物を建設しホテルを増やし観光客を増やす	高校・男
市のシンボル観光名所をつくる	高校・男
● 学校教育	(9)
下松にある学校の教育のやり方を変える	高校・男
市内の学校で交換留学をし考えの幅を広げる	高校・男
● 学習の場	(2)
夜まで安心、安全に勉強できる場所をつくる	高校・女
● 文化	(2)
音楽のあふれる町がよい。絵があつたり文学の町はあるが、なかなか音楽の町というのは日本には少ないから	高校・男
● スポーツ	(25)
スポーツが盛んな町にするため公園、施設を増やす。小学校のグラウンドにバスケットボールのリングを設置。借りやすい体育館にする(気軽に利用しやすくする)	高校・女
スポーツや運動に親んでもらえるよう、公園にアスレチックを置いたり、障がい者でもスポーツができる施設(車いすテニス、バスケットボールなど)を設置する。もちろん自然は守る	中学・女
若い人がもっと下松に興味を持てるように遊べる施設を増やすべきだと思う。今人気のeスポーツなどが行える場所を設けて、定期的にそこで大会など行えばいいと思う	高校・女
● 多文化共生・国際化	(5)
もし下松市長になったら海外と交流できる場所をつくりたい。今からは英語が必要になってくると聞いたことがあるので自然に外国の方と交流できるようになったり、下松市から世界へ行くことができれば、下松はもっと愛される市になると思うから	中学・男
● 情報化	(3)
都会の電波とつながって放送されないアニメ見たい。選挙は大事	中学・女

● 広報・広聴	(16)
市民の意見からいろいろな改善点を見つけ、それをどんどん直してみんなが楽しく笑顔で過ごせるような町づくりをする(意見 BOX)	中学・男
とりあえずほかの町や県に下松市をPRします。また私は市内をウロウロしたいです。「市長」という上の立場ではなく、なるべく皆平等に接し絆を深めていきたいです。このようなことを通して誰でも気軽に話しかけられ市民の声にこやかに答えられるような市長になりたいと思います	中学・女
● 市民参加・協働	(9)
ボランティア活動を増やして幅広い世代が交流できるようにして仲を深める	高校・男
● 行政運営・財政	(7)
自分で下松市内を回り悪いところは改善するようにする。住民に聞いてみる	中学・男
若い人の意欲を増やす政策→これからの下松を支えるのは若い人だから	高校・男
● シティプロモーション	(15)
下松市ブランドというブランドをつくりたい。理由はこの久保にある代々引き継いできた伝統を下松市に伝えたいし、こんな下松市民になってほしいという考えをブランドとすると、わかりやすいし覚えやすいと思うから	中学・男
他の市や県にはないような流行りのものやお店、イベントなどを下松に取り入れたり、ライブ会場など(ドームやスタジアム)をつくってライブをしてもらう	中学・女
● 情報発信	(13)
下松市PR動画を流して全国の人に伝える活動を行うことです。まだ下松市のことをあまり知らない人もいると思うので、パンフレットやインターネットなどでも下松市の紹介をしたらいいと思います。そのようにして観光に訪れる人もまた来たいと思えるような風になっていけばいいと思います	中学・女
少しの人にでも知られるようネットに教えたり、たくさんの投稿をする。(Twitter など)いろいろなアプリを利用する。CMなどもする	中学・男
● 人の交流	(7)
● 各種施設(公・民)	(42)
いろんな施設を建てる。ドックランを10個くらいつくり、川をきれいにして泳げるようにする。コンビニを100m以内の範囲でたくさんつくる。学校をきれいにする。無料バスをつくる。お年寄りサポートバスみたいなものをつくる	中学・男
いろんな人が集まり楽しく過ごせる魅力ある場所を増やしたいです。スポーツをみんなが進んでできるような場所もあればいいです。後は町を今よりもきれいにする	中学・男
全世代が気持ちよく住める下松市にできたら他の市町村から人が来て活気のある下松市になると思います。みんなが楽しめる商業施設などを増やしたらいいと思う。スポーツができるところが限られているのでできるところを増やしてほしいです	中学・男
どんな人でも気軽に立ち寄れるような施設をいろいろなところにつくり、イベント事などの時だけ町がにぎわうのではなく、平日や休日などでも町にたくさんの人が遊びに来て、町を明るくにぎやかにしたい	中学・女
若い人が喜ぶような施設を増やして人が集まるようにする。でも、町のきれいさや住みやすさは維持する	中学・女
● イベント・祭	(27)
色々な祭りや行事の活動を活発にしたり、できるだけ多くの人に参加や、ボランティア活動に参加してもらうために、祭りの魅力などをもっとPRする	中学・女
スターピアに若い人向けのアーティストを多く呼ぶ	高校・女
地域のイベントを増やして人と人との関係をよくしたいです	中学・女
● 人の心・意識	(9)
下松市長だったら下松はいい町であると言われるように、まずは気持ちの良い挨拶をする。笑顔ですると相手も笑顔になり勇気づけられると思うから。また礼儀正しくし、ルールを守って過ごす	中学・女
● 良いまちに(総合的に)	(39)
いろんな人に優しい町づくりを心掛け、いろんな人が住みやすいと思えるような町をつくりたいです。また交通の便を増やして、いろんな人がいろんなところに自由に行けるようにしたいです	中学・女

自然や環境を生かしたまちづくりなど「下松市」としての発展を目指す。今のままだと住みやすい町ではあるが、下松市を選択する決定的な他市町村との違いがあまりない	高校・男
道路を広くする。下松駅をもっと大きくしてもっと利用しやすくさせる。子育てがしやすいようにするためマンションやアパートをつくったり、親子で参加できるイベントを増やす	中学・男
みんなが下松に住みたいと思うような、安全、安心させるような町にする。楽しく良い施設をつくる	中学・男

● **取り組み姿勢**

(3)

ただひたすらきれいごとを並べるのではなく、大きな目標を掲げるよりも小さい目標をコツコツと頑張っていきたい	中学・女
--	------

## IV. 調査結果の総括

中高生アンケートは、市内の中学・高校2年生を対象に実施したものであるが、高校生は半数強が市外居住者である点に注意する必要がある。通学手段は、半数近くが自転車で、残りの多くが徒歩であり、高校生は鉄道での市外からの通学も多い。(問1)

中学・高校生の目からみた下松市の「良いところ(好きな点)」は、「海や山の自然」のほか、「店舗(大型店・レジャー施設を含む)」、「公共施設(図書館・体育館など)」が多く、「悪いところ(良くしたい点)」では「交通の便」が最多で、次いで「清潔さ(ごみ、下水道など)」、「店舗(大型店・レジャー施設を含む)」、「安全(防災・防犯など)」、「まちの緑・公園」、「まちのにぎわい」などが多い。大型店を含む商業環境は、良い、悪いの両面から捉えられている。

「良いところ」として、安全性、清潔さ、産業や雇用、公共施設等の割合は前回より増加している一方、「悪いところ」としても、安全性のほか、交通の便、大型店を含む商業環境、にぎわいといった要素の割合が増加している。近年の経済動向や都市形成動向などの反映とも見られるが、安全性や緑・公園など双方で割合を高めている項目もあり、それらに関心が高まっていると同時に評価も分かれたものと考えられる。

具体的な記載では、海山の自然の美しさ、大型店の充実度、図書館の環境などが「良いところ」として多く指摘される一方、「悪いところ」としては、鉄道やバスの利用利便の悪さのほか、ごみのポイ捨てやそれによる海などの汚れ、店舗構成への不満などが目立っている。(問2)

今後の都市づくりに必要なこととしては、人が集まる魅力ある商店や施設等の充実や、道路環境の安全性向上、スポーツの場の充実などが多く求められているほか、公共交通の利便性の向上も比較的高い割合である。都市のコンパクト化につなげる方向に対しても多くの支持が得られている。(問7)

下松市の住みよさは、「住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせて2/3近くを占め、前回調査より大きく上昇し、また平均的評価水準は一般市民アンケートでの水準よりも高い。市外在住者が多い高校生よりも中学生の方が住みよさの平均的評価は高いという面もある。(問3)

一方で、下松市への誇りや愛着は、半数以上(58.1%)が「とても」または「まあまあ」感じているが、平均的な水準は一般市民アンケートでの水準よりも低い。(問4)

卒業後の市内への定住に関しては、全体の約1/3が市内定住または還流の意向を示しているが、前回調査から大きな変化は見られない。ただし、「もし必要があれば戻ってきてもよい」とする回答が3割強あり、市内経済の好調ぶり等が中学・高校生の意識に作用している面もあるかと考えられる。「戻りたいとは思わない」が8.7%ほどあるが、その主な理由として、自分の望む進路の実現の場を市外に求めるという内容の記載が多い。(問5)

中学・高校生として、将来も含め、下松市に貢献できる内容としては、地元での買物や施設利用のほか、ボランティアなど地域活動への参加、イベントの参加・盛り上げ等が上位であるが、SNSなどの媒体を利用した下松の情報発信・PRも多くなっている。(問6)

「もし市長になったら」との仮定のもとでの取り組みアイデアが、他分野にわたり記述されたが、

商業環境に関するものや、環境美化に関するものなどの記載の多さが目立った。(問8)

# ■アンケート調査票



下松市の明日を考える

# まちづくり市民アンケート



下松市公式マスコットキャラクター  
「くだまる」

## ご協力をお願い

日ごろから市政へのご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

下松市では、様々な社会経済の変動の中、住みよいまちづくりと市勢の発展が図られるよう、各分野で計画的な取り組みを進めています。その中でも最も基本となる「下松市総合計画」（平成 23 年 3 月策定）の計画期間が令和 2 年度に満了することから、その成果の総括をしつつ、新たな総合計画の策定を行うこととし、併せて、都市整備の基本である「下松市都市計画マスタープラン」（平成 23 年 3 月策定）も中間見直しを行うこととしました。

両計画の策定・見直しにあたり、市民参加の一環として、市民の皆様のご意見やお考えを計画に反映するため、市民アンケート調査を行います。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年 11 月

下松市長 國井 益雄

### ★総合計画とは

生活環境や福祉、教育、産業など様々な分野における市の取り組みの基本的方針を定める総合的な計画で、10 年間（中間の 5 年ごとに見直し）を計画期間とするものです。

※現在の計画 → [下松市ホームページ](#) > [市政情報](#) > [計画・施策](#) > [総合計画](#)

### ★都市計画マスタープランとは

土地利用や道路、公園、下水道など主に都市整備に関する方針を定める、おおむね 20 年を期間とする計画で、平成 23 年度に策定しましたが、今回中間の見直しを行うものです。

※現在の計画 → [下松市ホームページ](#) > [くらし・手続き](#) > [都市整備](#) > [下松市都市計画マスタープラン](#)

このアンケートは、市内在住の 18 歳以上の方から 2,000 人を無作為に選び、回答をお願いするものです。回答は無記名で、ご記入の内容は統計的に処理しますので、個人の情報が特定されることはありません。

## ご記入にあたってのお願い

- 必ず郵送の宛て名の方が、ご自身のお考えでお答えください。
- アンケートは無記名です。お名前の記入の必要はありません。
- 回答は、黒または青のボールペンで記入してください。
- 訂正する場合は、二重線で消して書き直してください。
- 設問によって、該当の番号を口の中に記入するものと、番号を○で囲むものがあります。各設問の指示に従ってお答えください。選択肢の「その他」を選んだ場合は、( ) の中にその内容を簡単に記入してください。

※回答例 →

2

1 2 3 4 5 6

- 記入されたアンケートは、**11月18日(月)まで**に、同封の返信用封筒に入れて返送してください。切手を貼る必要はありません。

◆お問い合わせ先： 下松市役所 企画財政部 企画財政課 (担当：井上、守政)  
電話 45-1811 (直通)

※無作為抽出のタイミングの関係上、転出等された方に調査のお願いが届く場合があります。申し訳ありませんが、その場合は破棄されて結構です。



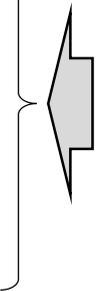


- (7) あなた（とご家族）がお住まいの住宅は？ ----->
- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1. 持ち家一戸建て                   | 4. 借家共同住宅<br>(賃貸マンション、アパート等) |
| 2. 持ち家共同住宅<br>(マンション区分所有を含む) | 5. 間借り                       |
| 3. 借家一戸建て                    | 6. その他 ( _____ )             |

- (8) あなたの日常生活（通勤通学、買物、通院など）での主な交通手段は？  
(最も多く使う手段をお答えください) ----->
- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. 自家用車（自分で運転）       | 6. 送迎用車両など        |
| 2. 自家用車（自分以外の家族等が運転） | 7. バイク・原付         |
| 3. バス                | 8. 自転車            |
| 4. タクシー              | 9. 徒歩             |
| 5. 鉄道                | 10. その他 ( _____ ) |

■問2 あなたは、日常生活で次のような面についてどの程度不安を感じていますか。  
(1)～(6)のそれぞれについて、選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

((1)から(6)のすべてにお答えください)

(1) 仕事・経済面の不安 . . . . .	<input type="text"/>	}  {	<不安の程度> 選択肢 1. 全くない 2. あまりない 3. 少しある 4. 大いにある 5. わからない
(2) 健康面の不安 . . . . .	<input type="text"/>		
(3) 生きがいなど精神面の不安 . . .	<input type="text"/>		
(4) 老後・将来の生活面の不安 . . .	<input type="text"/>		
(5) 人間関係・家族関係の不安 . . .	<input type="text"/>		
(6) 災害など安全面の不安 . . . . .	<input type="text"/>		

■問3 現在の下松市について、あなたは次の各項目に対してどの程度の魅力、満足を感じますか。右の選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

((1)から(14)のすべてにお答えください)

(1) 水や緑などの自然の豊かさ . . . . .	<input type="text"/>	<満足<u>の程度</u>> <u>選択肢</u> 1. 満足 2. まあ満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満 6. わからない
(2) 気候の良さ . . . . .	<input type="text"/>	
(3) まちのにぎわいや買物のしやすさ . . .	<input type="text"/>	
(4) 産業活動の活発さ . . . . .	<input type="text"/>	
(5) 道路や交通機関の便利さ . . . . .	<input type="text"/>	
(6) 生きがいの持てる仕事ができる場 . . .	<input type="text"/>	
(7) 自分の希望に合った勉強の機会 . . . .	<input type="text"/>	
(8) 医療や福祉の面の充実度 . . . . .	<input type="text"/>	
(9) 遊びや交流の場 . . . . .	<input type="text"/>	
(10) 新しい情報の得やすさ . . . . .	<input type="text"/>	
(11) 文化活動やスポーツ活動 . . . . .	<input type="text"/>	
(12) 歴史と伝統 . . . . .	<input type="text"/>	
(13) 心の豊かさや親切さ . . . . .	<input type="text"/>	
(14) 総合的に (全体的な下松市の住みよさ)	<input type="text"/>	

■問4 上の(1)～(14)の中で、下松市に暮らすあなたが自慢できるもの、今後のまちづくりに活かしていくべき優れた点をあげるとしたら、どのようなことですか。(1)～(14)の中から2つまで選んで番号を口の中に記入し、また、具体的な内容を記入してください。

(番号↓)	(具体的な内容)
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

■問5 下松市のまちづくり施策について、あなたはどの程度満足していますか。次の分野ごとに、それぞれの「現在の満足度」の程度を1～6の中から1つずつ選んで、番号を○で囲んでください。また、選択した理由としてご意見がありましたら「理由」欄に記入してください。

		現在の満足度						理由 (ご意見があれば、各分野の欄にご記入ください) ↓
		1 満足	2 まあ満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	6 わからない	
((1)～(26)のすべてにお答えください)								
(1)	道路・交通網の整備	1	2	3	4	5	6	⇒
(2)	鉄道・バスなど公共交通の充実	1	2	3	4	5	6	⇒
(3)	公園・緑地の整備	1	2	3	4	5	6	⇒
(4)	下水道・河川の整備	1	2	3	4	5	6	⇒
(5)	市街地の開発や住宅環境の整備	1	2	3	4	5	6	⇒
(6)	農林業の振興	1	2	3	4	5	6	⇒
(7)	水産業の振興	1	2	3	4	5	6	⇒
(8)	中小企業の保護と育成	1	2	3	4	5	6	⇒
(9)	雇用の確保や企業誘致	1	2	3	4	5	6	⇒
(10)	商工業の活性化	1	2	3	4	5	6	⇒
(11)	観光資源の開発や施設の整備	1	2	3	4	5	6	⇒
(12)	自然環境の保全・保護	1	2	3	4	5	6	⇒
(13)	上水道の整備や水質の維持	1	2	3	4	5	6	⇒

右ページに続きます →



		現在の満足度						理由 (ご意見があれば、各分野の欄にご記入ください) ↓
		1 満足	2 まあ満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	6 わからない	
→左ページから続きます ((1)～(26)のすべてに お答えください)								
(14)	ごみの収集・処理とリサイクルの推進	1	2	3	4	5	6	⇒
(15)	学校教育の充実	1	2	3	4	5	6	⇒
(16)	生涯学習機会の充実	1	2	3	4	5	6	⇒
(17)	市民スポーツの振興	1	2	3	4	5	6	⇒
(18)	市民文化活動の充実	1	2	3	4	5	6	⇒
(19)	高齢者や障がい者の福祉対策	1	2	3	4	5	6	⇒
(20)	少子化対策(子育て支援など)	1	2	3	4	5	6	⇒
(21)	健康づくりや医療の充実	1	2	3	4	5	6	⇒
(22)	地域のコミュニティ活動の充実	1	2	3	4	5	6	⇒
(23)	男女共同参画の推進(女性活躍など)	1	2	3	4	5	6	⇒
(24)	消防・防災・防犯・交通安全などの充実	1	2	3	4	5	6	⇒
(25)	他の地域や世界の人々との交流活動	1	2	3	4	5	6	⇒
(26)	情報化の推進(インターネット活用など)	1	2	3	4	5	6	⇒

■問6 上の(1)～(26)の中で、これからのまちづくりでは、特にどのような分野の施策を進めることが重要だと思いますか。(1)～(26)の中から5つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--	--	--	--

■問7 これまで下松市は人口増加を続けてきましたが、今後は、山口県全体や国と同様に減少が見込まれます。これに対し、どのように対応していくべきだと思いますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。

1. さらに人口を増加させるための施策を積極的に実施すべき。
2. 少なくとも現状の人口を維持できるよう、既存の施策を充実させ、住民の生活環境の向上などに力を入れるべき。
3. 人口の減少を前提として、効率的な都市形成、行政運営などに努めるべき。
4. その他 ( \_\_\_\_\_ )

■問8 公共施設の老朽化により、維持管理のコストが増大することが予想されますが、市内の公共施設について、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。

1. 必要性の高い施設は整備し、必要性が低くなった施設は廃止するなどの選別を進める。
2. 老朽化した施設の建替えを順次行い、施設の数が増やさない。
3. 今ある施設をできるだけ長く使い、活用するように努める。
4. 施設の民間譲渡などにより、公共施設の数減らしていく。
5. 公共施設は必要なので、市民の負担が増えてもさらに整備充実を進める。
6. わからない。

■ 選んだ理由及び具体的な施設があれば教えてください。

■問9 将来訪れることが予想される少子化への対策として、市内で結婚・出産・子育てがしやすいまちにするために、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

1. 結婚を希望する男女の出会いなどの支援
2. 子育てに関する相談や情報提供の充実
3. 若い世帯、子育て世帯への経済的支援の充実（医療費など）
4. 安心して妊娠や出産ができる環境づくりなど母子保健施策の充実
5. 保育園や児童の家などの子育て支援施設の適切な確保と運営支援
6. 仕事と子育てを両立できる働き方の見直し推進（制度や意識など）
7. 子育てサークルの活動支援など地域による子育て機能の強化
8. 地域社会や家庭での子育てに関する意識の高揚・啓発
9. 安全な道路や良好な公園など安心して子育てができる生活環境の整備
10. 学校等の教育環境の整備・内容充実
11. その他 ( \_\_\_\_\_ )

<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------

■問 10 高齢化社会におけるまちづくりで、どのようなことが特に重要となると思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--

1. 介護保険制度の健全で円滑な運営とその体制の充実
2. 居宅サービスや施設整備など介護サービスの充実
3. 経済的支援の充実（医療費など）
4. 要介護状態になることを防ぐ介護予防の推進
5. 認知症高齢者に対する保健福祉サービスの提供
6. 高齢者の生活を地域全体で支える「地域包括ケア」の強化
7. 見守りや防犯など高齢者が安心して暮らせる社会づくり
8. 成年後見制度など高齢者の権利を守る仕組みの有効活用
9. 道路や各種施設のバリアフリー化など高齢者が活動しやすい都市環境づくり
10. 高齢者の社会参加などによる生きがいのづくりの推進
11. 高齢になる前からの健康づくりの推進
12. その他（\_\_\_\_\_）

■問 11 行政や市民、民間事業者などの防災対策として、特にどのようなことを急ぐべきだと思いますか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--	--

1. 市民の防災意識の向上と防災知識の普及啓発
2. 消防団や自主防災組織などの育成強化
3. 防災訓練の充実と参加の促進
4. 防災パトロールや災害危険箇所の点検、対策
5. 避難路、避難場所の確保と整備
6. 建築物や公共土木施設、ライフライン施設等の耐震化
7. 水路、ため池、堰などの農林施設の整備
8. 災害情報の収集・伝達体制の確立
9. 高齢者や障がい者など災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策の確立
10. 非常時の食料や燃料、災害救助物資等の確保
11. 災害ボランティアの育成と受入体制整備
12. 火災予防対策や企業等における災害予防計画の整備
13. 河川の改修や津波対策などの水防対策の強化
14. 災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制の整備
15. 災害時の広域的な相互応援協力、関係機関との連携体制の確立
16. その他（\_\_\_\_\_）

■問 12 下松市の活力を維持し、より高めていくために、市内の産業をどのような方向で育てていくべきだと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を□の中に記入してください。

--	--

1. 市内のものづくり主要企業がさらに力を発揮できるよう支援する。
2. 地域の中小企業の経営支援などにより地場産業の力を強化する。
3. 新たな企業の誘致などを積極的に行う。
4. 農業・商業・工業など産業間、企業間の連携を促進し、新しい製品や価値を産み出す。
5. 県内外の高等教育機関などとの連携も含め、新技術・新商品の研究開発を促進する。
6. 産業に関わる人材育成を積極的に行う。
7. 商業施設など人が集まる機能を強化し、市内消費を拡大させる。
8. 農林業、水産業の分野で新しい可能性を追求する。
9. 観光による集客に力を入れ、観光消費の増大や交流人口の拡大を目指す。
10. 新しいサービス・技術を活用した産業展開を促進する。
11. その他 ( \_\_\_\_\_ )

■問 13 市の南北に位置する笠戸島や米川地区は、豊かな自然に恵まれています。この環境を有効に利用するために特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中からそれぞれ1つずつ選んで番号を□の中に記入してください。

(1) **笠戸島** ----->

--

1. 観光PRや既存施設の充実・連携などで、広域的な集客力を向上させる。
2. 笠戸ひらめ・とらふぐや笠戸島レモンなどを活かし、特産品の開発を進める。
3. 島内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を図る。
4. 笠戸島へ訪れやすい公共交通を整備する。
5. その他 ( \_\_\_\_\_ )

(2) **米川** ----->

--

1. 農林業の活性化に努め、特徴ある農林産物を産み出し、経済的な活力の創出を目指す。
2. 農地付空家などの提供により、山と水に囲まれた自然豊かな居住地域として人を呼び込む。
3. 休耕農地や米川ゆずなどを活かし、自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みを作る。
4. 地区内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を図る。
5. 米川へ訪れやすい公共交通を整備する。
6. その他 ( \_\_\_\_\_ )

■問 14 あなたは、次のような活動に現在の程度参加していますか。また、今後どの程度参加したいと思いますか。次の(1)～(6)について、それぞれの選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

( (1)から(6)のすべてにお答えください )

	(現在)		(今後)
(1) 自治会、隣近所などの活動	<input type="text"/>	.....	<input type="text"/>
(2) 子ども会、PTA、婦人会、老人会などの活動	<input type="text"/>	.....	<input type="text"/>
(3) 教養、趣味、スポーツなどのサークル活動	<input type="text"/>	.....	<input type="text"/>
(4) まちづくり団体や地域おこしなどの地域活動	<input type="text"/>	.....	<input type="text"/>
(5) 福祉、環境、防災、災害復興支援などの活動	<input type="text"/>	.....	<input type="text"/>
(6) 人権、国際交流などの活動	<input type="text"/>	.....	<input type="text"/>

**<現在の参加程度> 選択肢**

1. 自ら機会を作って積極的に参加している
2. 機会があればできるだけ参加している
3. ある程度は参加している
4. あまり参加していない
5. 全く参加していない

**<今後の参加希望> 選択肢**

1. 自ら機会を作って積極的に参加したい
2. 機会があればできるだけ参加したい
3. ある程度は参加したい
4. あまり参加したくない
5. 参加するつもりはない

■問 15 地域のまちづくりは、市民と行政（市や県など）が一緒に考え協力し、役割を分担しあって進めること（＝「協働」）が重要となります。あなたは、より参加しやすい「協働」のしくみを地域で作っていくために、何が重要だと思いますか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

1. 行政が持っている情報を市民に積極的に公開、提供すること
2. 市民や市民活動団体などの意見や意向、アイデアなどを行政がよく聞くこと
3. 自治会、子ども会やNPO（民間非営利組織）など自主的な地域活動組織を育てること
4. 道路や公園の清掃や管理など、できることを市民が自主的に行うこと
5. 環境パトロールやリサイクルなどに市民が組織的に関わり取り組むこと
6. 地域の福祉などのボランティア活動への参加を増やし盛り上げること
7. 生涯学習や文化・スポーツなどのイベントを市民と行政が一緒に行うこと
8. 地域でのまちづくりの活動のリーダーとなる人を育てること
9. 市民自身がまちづくりを学び、行動する意識や力を高めること
10. 行政の事業や計画などに市民が参加する機会を増やすこと
11. 行政がまちづくりの施策を企画立案する能力を高め、市民に示すこと
12. その他（ \_\_\_\_\_ ）

■問 16 市民生活に重要な都市基盤である「道路」について、今後の整備をどのような方向に進めるべきだと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を□の中に記入してください。

--	--

1. 市の東西方向の幹線道路の充実
2. 市の南北方向の幹線道路の充実
3. 団地内や集落内の道路の充実
4. 幹線道路と離れた住宅地などを接続する道路の充実
5. 歩道や自転車道といった、誰もが安全に利用しやすい道路の充実
6. 信号機、ガードレール、カーブミラーなど交通安全施設の充実
7. 交差点や道路改良など、自動車の流れを良くする施策の充実
8. 点字ブロックの整備や段差をなくすなど、高齢者や障がい者にやさしい道路環境整備
9. バス路線や駅前広場など公共交通の利用促進につながる駐車場や駐輪場の充実
10. 現在ある道路の維持管理の推進
11. その他 ( \_\_\_\_\_ )

■問 17 バスや鉄道などの公共交通機関について、その確保や整備のためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を□の中に記入してください。

--	--

1. バスや鉄道の事業者の経営を公共的に支援するなどにより、公共交通サービスの維持、向上を進める。
2. 乗り継ぎしやすい運行ダイヤの設定や車両、停留所の改善など、乗りたくなる魅力ある交通サービスの提供を促進する。
3. 自家用車利用の制限や、バス・鉄道利用の助成など、積極的に公共交通の利用者を増やす施策を進める。
4. バスが走りやすい道路環境整備や、バス路線周辺に各種施設を集積するなど、公共交通を重視したまちづくりを進める。
5. 駅や駅前広場を公共交通の拠点とし、バスターミナルなどの機能を強化する。
6. 大規模商業施設を公共交通の拠点とし、バスターミナルなどの機能を強化する。
7. バスや鉄道に代わる公共交通の新しいしくみを検討する。
8. 公共交通機関の確保や整備などは現状で十分だ。
9. その他 ( \_\_\_\_\_ )



■問 18 今後の人口減少や少子高齢化の進展の中で、都市としての下松市での生活やその環境を考えた場合、特に心配なことはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--

1. 市街地が空洞化し、市の魅力やにぎわいが低下する。
2. 身近なお店や病院などの生活施設が、利用者の減少等によりなくなっていく。
3. バス等の本数や路線が削減され、公共交通による移動が不便になる。
4. 空き家や空き地の増加により、防災・防犯面や生活環境が悪化する。
5. 地域のコミュニティが衰退し、自治会活動や祭などの担い手がなくなる。
6. 福祉の担い手の減少やサービスの効率低下で高齢者などが暮らしにくくなる。
7. 税収の減少などにより、行政サービスの質が低下する。
8. 特に心配することはない。
9. その他 ( \_\_\_\_\_ )

■問 19 人口減少時代にも効率的な都市づくりを進めるため、下松市では次のような方向性で検討を進めています。これについてあなたはどう思いますか。(1)～(3)について、選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

((1) から (3) のすべてにお答えください)

- (1) 市街地の拡大は抑制し、駅周辺、中央線、末武大通線沿いなどに人が集まる施設を集約し、コンパクトな都市づくりを進める。 . . .
- (2) 空き家や空き店舗などの有効活用や適切な除却などの対策を進め、土地の有効利用を進める。 . . .
- (3) 隣接する周南市や光市などと連携した都市づくりにより、公共施設の集約や相互利用など、広域的な効率の向上を進める。 . . .




<p><u>選択肢</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 賛成できる</li> <li>2. まあ賛成できる</li> <li>3. 賛成できない</li> <li>4. わからない</li> </ol>
---



■問 20 都市計画マスタープランの策定から 10 年近くが経ちますが、この間に、下松市の都市としての現状はどのように改善されたと感じますか。次の項目ごとに、それぞれの改善の程度を 1～6 の中から 1 つずつ選び、番号を○で囲んでください。

((1)～(18)のすべてにお答えください)

改善の程度⇒

	1 良くなった	2 まあ良くなった	3 変わらない	4 やや悪くなった	5 悪くなった	6 わからない
(1) 歩行者や自転車が安全に走行できる道 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(2) 自動車が快適に利用できる道 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(3) 鉄道やバスなどの公共交通の利用しやすさ . . . . .	1	2	3	4	5	6
(4) 自然災害などに対する防災体制 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(5) 地震や風水害に対する安全 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(6) まちの特性に応じた計画的な土地利用 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(7) 公園や緑地、水辺などの自然環境の充実度 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(8) 身近なお店や病院などの生活施設の充実度 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(9) 下水道、ごみ・し尿処理などの生活環境施設 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(10) 下松駅周辺の拠点としての魅力やにぎわい . . . . .	1	2	3	4	5	6
(11) 大型商業施設を拠点としての魅力やにぎわい . . . . .	1	2	3	4	5	6
(12) 様々な産業の集積とまちの活力 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(13) 地域の自然や歴史・文化の継承 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(14) 良好なまちなみ景観の保全・形成 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(15) 道路・公園や公共施設のバリアフリー化 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(16) 高齢者が安心して暮らせる住宅や福祉サービス . . . . .	1	2	3	4	5	6
(17) 生涯学習、文化活動、コミュニティ活動の場 . . . . .	1	2	3	4	5	6
(18) 下松駅周辺の公共交通の拠点としての利便性 . . . . .	1	2	3	4	5	6

■問 21 上の(1)～(18)の中で、下松市が今後さらに魅力ある都市となるためには、特にどのような分野の改善が重要だと思いますか。(1)～(18)の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--	--



■問 22 あなたは、今後も下松市に住み続けたいと思いますか。次の中から 1つ選んで番号を口の中に記入してください。

- 1. いつまでも住み続けたい
- 2. できれば住み続けたい
- 3. どちらともいえない

- 4. できれば他へ移りたい
- 5. 住みたくない

■問 22-1【問 22 で 1、2 とお答えの方へ】

住み続けたいと思う主な理由はどのようなことですか。次の中から 2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

- 1. 買物や通院など日常生活に便利
- 2. 通勤や通学に便利
- 3. 公園や緑地が多く環境が良い
- 4. 防災面で安心できる
- 5. 子育て支援や高齢者福祉の環境が充実
- 6. 身近に働く場がある
- 7. 文化やスポーツを楽しめる場が豊富
- 8. 生活に伴う費用が安い
- 9. 親しい人間関係がある
- 10. 生まれ育ったまちだから
- 11. その他  
( \_\_\_\_\_ )

■問 22-2【問 22 で 4、5 とお答えの方へ】

他へ移りたい（住みたくない）と思う主な理由はどのようなことですか。次の中から 2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

- 1. 買物や通院など日常生活が不便
- 2. 通勤や通学が不便
- 3. 公園や緑地が少ない
- 4. 防災の面で不安
- 5. 子育て支援や高齢者福祉の環境が不十分
- 6. 魅力的な職場や学ぶ場がない
- 7. 文化やスポーツを楽しめる場が少ない
- 8. 生活に伴う費用に不満
- 9. 人間関係に不満
- 10. 他の都市へのあこがれがある
- 11. その他  
( \_\_\_\_\_ )

■問 23 あなたは、下松市に誇りや愛着を感じますか。次の中から 1つ選んで番号を口の中に記入してください。

- 1. 大いに感じる
- 2. 多少は感じる
- 3. どちらともいえない

- 4. あまり感じない
- 5. 全く感じない
- 6. わからない

■ お答えの主な理由を教えてください。





問2 下松市の良いところ(好きな点)、悪いところ(良くしたい点)は何ですか。次の中からそれぞれ3つずつ選んで番号を下の口の中に記入し、その良いまたは悪いと思う内容も簡単に記入してください。

- |             |                   |                       |
|-------------|-------------------|-----------------------|
| 1. 海や山の自然   | 7. まちの緑・公園        | 13. 環境へのやさしさ・エコ       |
| 2. 交通の便     | 8. 人情・人のつながり      | 14. 公共施設(図書館・体育館など)   |
| 3. 広さ(市の面積) | 9. 教育内容・学校環境      | 15. 店舗(大型店、レジャー施設を含む) |
| 4. 産業・働く場所  | 10. 安全(防災・防犯など)   | 16. 情報ネットワーク          |
| 5. まちのにぎわい  | 11. 安心(医療・福祉など)   | 17. その他               |
| 6. 歴史・文化    | 12. 清潔さ(ごみ・下水道など) |                       |

	番号	良いまたは悪いと思う内容
良いところ (好きな点)		
悪いところ (良くしたい点)		

問3 下松市全体を考えた場合、あなたは住みやすいまちだと思いますか。次の中から1つだけ選んで番号を口の中に記入してください。

- |            |            |          |  |
|------------|------------|----------|--|
| 1. 住みやすい   | 3. ふつう     | 5. 住みにくい |  |
| 2. まあ住みやすい | 4. やや住みにくい | 6. わからない |  |

問4 あなたは、下松市に誇りや愛着を感じますか。次の中から1つだけ選んで番号を口の中に記入してください。

- |            |              |             |  |
|------------|--------------|-------------|--|
| 1. とても感じる  | 3. どちらともいえない | 5. まったく感じない |  |
| 2. まあまあ感じる | 4. あまり感じない   | 6. わからない    |  |

問5 あなたは将来も下松市に住みたいと思いますか（市外に住んでいる人は、下松市を今住んでいる市と考えてください）。次の中から1つだけ選んで番号を口の中に記入してください。

1. 中学校・高校卒業後も、そのまま市内に住み続けたい。
2. 進学または就職で市外に出ても、その後ぜひ戻ってきたい。
3. 進学または就職で市外に出ても、もし必要があれば戻ってきてもよい。
4. 進学または就職で市外に出ても、その後戻りたいとは思わない。
5. まだわからない。

※「4」と答えた人は、その主な「理由」があれば記入してください。

問6 将来の下松市をより良いまちにしていいため、今、そして将来（将来下松市を離れても）あなた自身ができること、したいことはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで番号を下の口の中に記入し、具体的な考えがある場合は記入してください。

1. ふるさと納税などの制度等を利用し、郷土愛を持ち続ける。
2. SNSなどで下松の情報、魅力を発信、PRする。
3. 日本や世界で活躍し、下松の名を高める。
4. できるだけ地元で買物をしたり、施設を使う。
5. 地域のイベントなどに参加して盛り上げる。
6. ボランティアなど地域の活動に参加する。
7. 仲間を集めて一緒に地域に役立つ活動をする。
8. 下松に住む、下松で働く。
9. 下松で新しい事業を起こし、市の発展に貢献する。
10. 後輩の指導や子育てなどで人材を下松に残す。
11. 自分の意見を市役所などに言って改善を求める。
12. その他



番号	具体的な考えがあれば記入してください

問7 下松市をもっと住みやすいまちにしていくなために、都市づくり（土地の使い方や道路や公園、川など）についてはどんなことが必要ですか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--	--

1. 住宅や商店、工場など、それぞれを一定のエリアの中に集中させる。
2. 下松駅周辺や末武大通り沿いなどの市の中心に、いろいろな施設を集約する。
3. 歩道や自転車道、街路灯（防犯灯）の充実など、安全に利用しやすい道路にする。
4. 点字ブロックの設置や段差をなくすなど、人にやさしい道路にする。
5. バスや鉄道の運行をもっと利用しやすくし、利用者を増やす。
6. バスのターミナルや駅など、乗り継ぎ点となる施設を充実させる。
7. 人が集まり楽しく過ごせる魅力ある場所（商店や施設など）を増やす。
8. 気軽に使える身近な公園・広場を増やす。
9. スポーツや健康づくりができるような公園・施設を増やす。
10. 日よけとなる道路の並木の緑を増やす。
11. 森林や田畑などの緑の空間を守る。
12. 川や海岸をきれいにし、水辺で安らげるようにする。
13. まちの環境をきれいにするため、下水道などを充実させる。

問8 もし、あなたが下松市長になったとしたら、下松市をより良いまちにしていくなために、どのような取り組みをしますか。アイデアがあれば、自由に記入してください。（どんな内容でも構いません。）


質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

